

第41回 市政世論調査

(平成26年度)



グランドオープンした「いくとびあ食花」キラキラガーデンの様子

新 潟 市

< 目 次 >

I 調査概要	1
1. 調査の目的	3
2. 調査の項目	3
3. 調査の設計	3
4. 集計・分析にあたって	3
5. 回収結果	4
6. 区（行政区）の範囲	4
7. 回答者の特性	6
8. 回答者の特性（地区別集計）	8
II 調査結果	13
1. 災害への備えについて	15
（1）災害対策	15
（2）災害用の食料品・飲料水の備蓄	18
（3）その他災害用の備蓄品	21
（4）市が災害用に物資を備蓄していることの認知度	24
（5）地震に備えて家屋内で行っている安全対策	26
（6）地域の防災訓練への参加状況	29
（7）地域の防災訓練へ参加しない理由	32
（8）災害情報（訓練放送）を受け取ったかどうか	35
（9）災害情報（訓練放送）を受け取った情報伝達手段	37
（10）今後実施したい災害対策	40
2. 消費生活について	43
（1）消費生活センターの認知度	43
（2）どのような消費者問題に関心があるか	46
（3）食品の安全性についての不安	49
（4）環境にやさしい買い物をしているか	53
（5）購入した商品・サービスからの被害や不安	56
（6）購入した商品・サービスからの被害や不安をだれに相談したか	62
（7）消費生活の不安・被害解消のためにどのような対策が必要か	66
（8）消費生活の不安・被害解消のためにどのような啓発活動が必要か	70

(9)	消費生活の安定・向上のために市にどのような取り組みを期待するか	79
(10)	特殊詐欺への対応	83
(11)	高齢者の消費者被害への対応	86
3.	市政情報の入手方法について	90
(1)	市政情報の取得満足度	90
(2)	市政情報の入手先	93
(3)	市に関するどんな情報が知りたいか	111
(4)	「市報にいがた」の入手方法	117
(5)	「市報にいがた」の発行頻度の希望	120
4.	市政全般と区政について	123
(1)	新潟市として良くなっているもの	123
(2)	新潟市として今後もっと力を入れてほしいもの	127
(3)	区として良くなっているもの	131
(4)	区として今後もっと力を入れてほしいもの	136
5.	市の取り組みに対する感想	141

Ⅲ	調査票様式	163
---	-------	-----

I 調查概要

1. 調査の目的

この調査は、市民生活の現状、市民の市政に対する要望、意識、関心度などを把握し、今後の市政運営の基礎資料を得る目的で実施する。

2. 調査の項目

- | | | |
|-------------------|----------|----------|
| (1) 対象者属性 | 本質問 7 問 | 補助質問 1 問 |
| (2) 災害への備えについて | 本質問 10 問 | |
| (3) 消費生活について | 本質問 11 問 | |
| (4) 市政情報の入手方法について | 本質問 5 問 | |
| (5) 市政全般と区政について | 本質問 1 問 | |
| (6) 市の取り組みについて | 本質問 1 問 | |

3. 調査の設計

- (1) 調査地域：新潟市全域
- (2) 調査対象：平成 26 年 6 月末現在の住民基本台帳に登録されている 20 歳以上の市民
- (3) 標本数：4,000 人
- (4) 抽出方法：層化二段系統抽出法（電子計算機マスターファイルからの等間隔抽出）
- (5) 調査方法：郵送法（調査票の配付、回収とも）
- (6) 調査期間：平成 26 年 7 月 18 日～8 月 4 日

4. 集計・分析にあたって

- (1) 図表中の「n」とは回答者総数（または該当者質問での該当者数）のことで、100%が何人の回答に相当するかを示す比率算出の基数である。
- (2) 数値（%）は単位未満を四捨五入してあるので、総数と内訳の計が一致しないこともある。
- (3) 本文及び図表中、意味をそこなわない範囲で簡略化した選択肢がある。

5. 回収結果

(1) 区（行政区）について

新潟市は平成19年4月の政令指定都市移行にともない8つの区（行政区）を設置している。

今回の調査では、対象者の居住地を8つの「区（行政区）」（次頁区分図参照）に分け、集計・分析を行った。

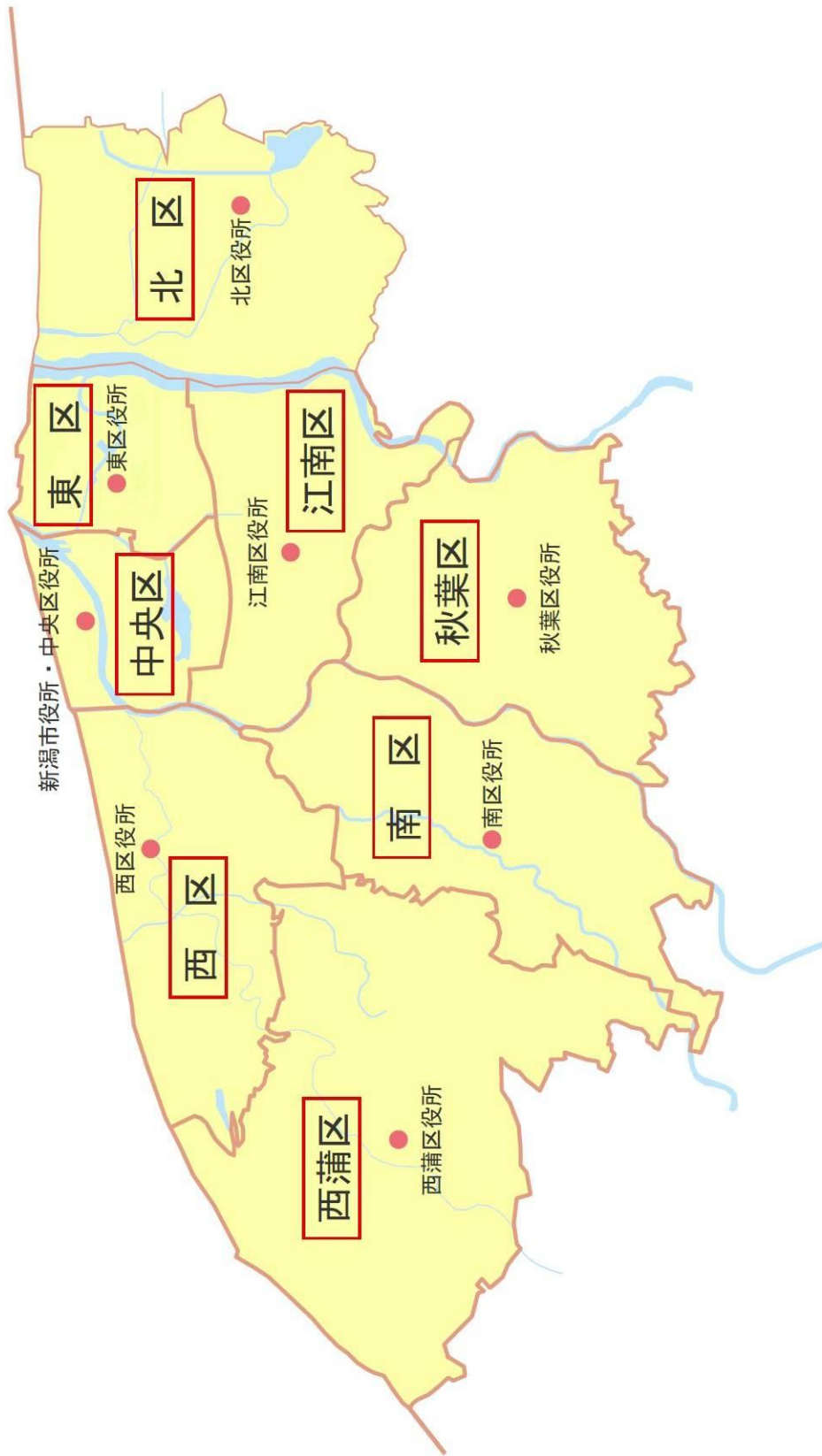
(2) 回収結果

	母集団 (人)	母集団 構成比	標本数 (人)	有効 回収数	有効 回収率
市全体	661,503	100.0%	4,000	2094	52.4%
北区	62,612	9.5%	378	181	47.9%
東区	113,941	17.2%	689	367	53.3%
中央区	146,560	22.2%	886	469	52.9%
江南区	56,510	8.5%	342	179	52.3%
秋葉区	64,254	9.7%	389	206	53.0%
南区	38,543	5.8%	233	103	44.2%
西区	128,993	19.5%	780	429	55.0%
西蒲区	50,090	7.6%	303	142	46.9%
区名無回答				18	

6. 区（行政区）の範囲

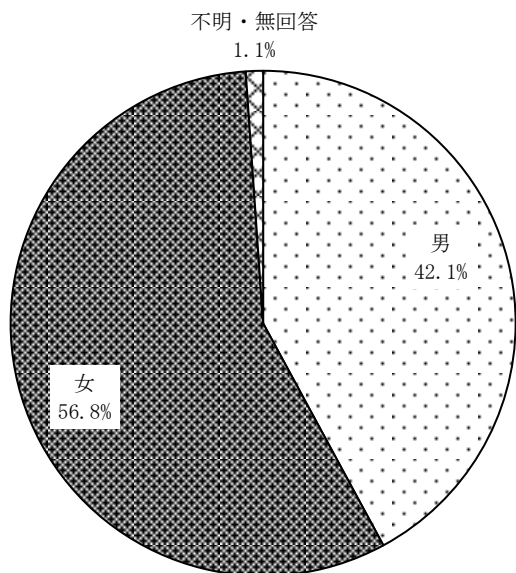
次頁区分図参照。

<区分图>

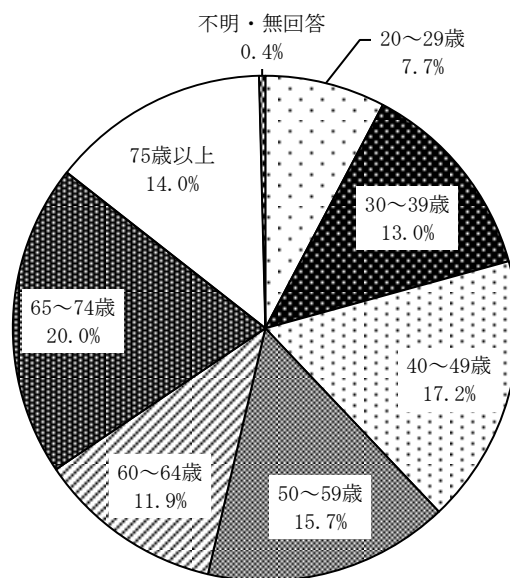


7. 回答者の特性

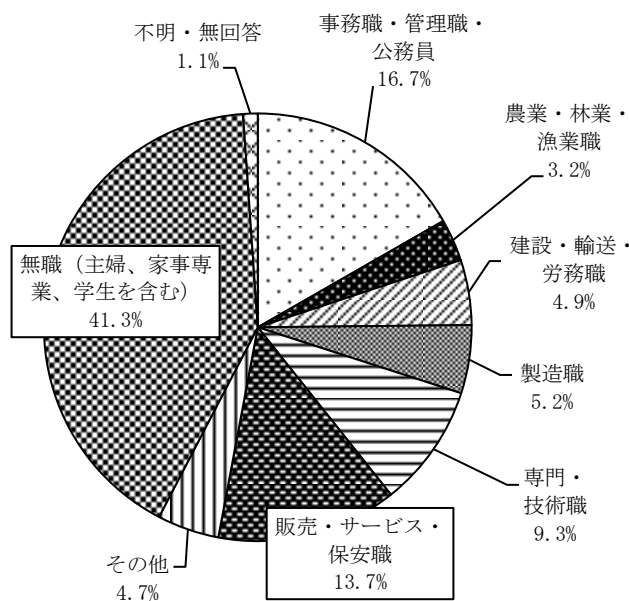
◆性別



◆年齢別

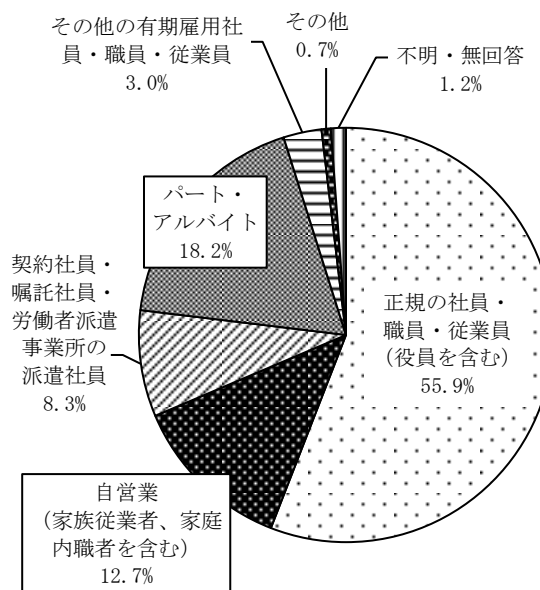


◆職業別

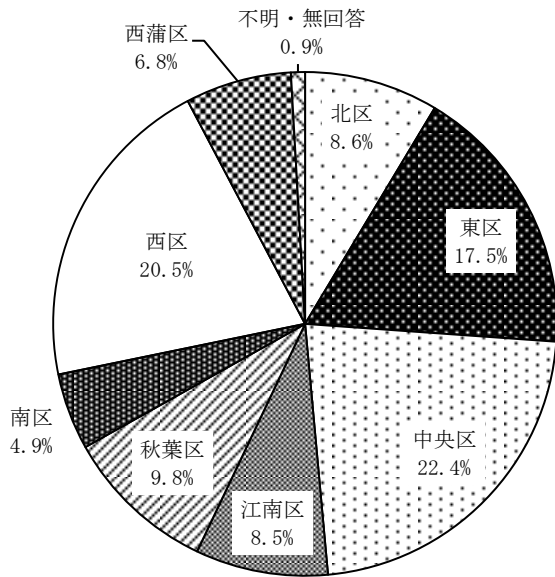


◆雇用形態別

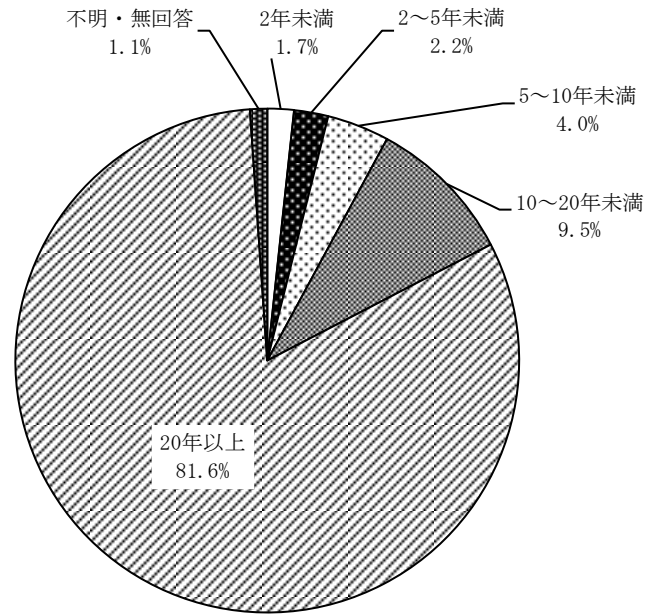
※職業別で「その他」「無職」「不明・無回答」を除く



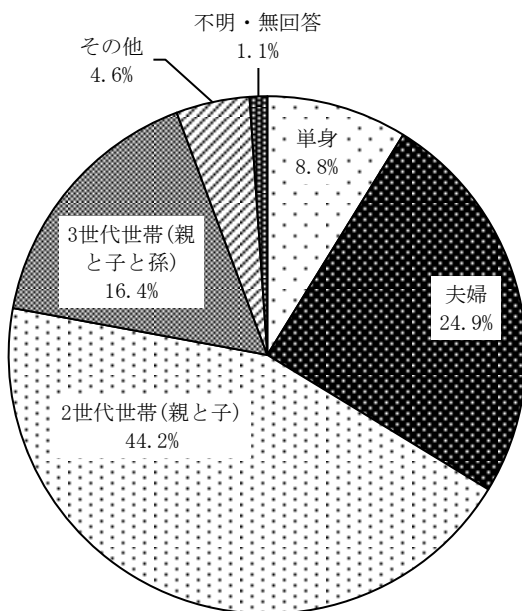
◆地区別



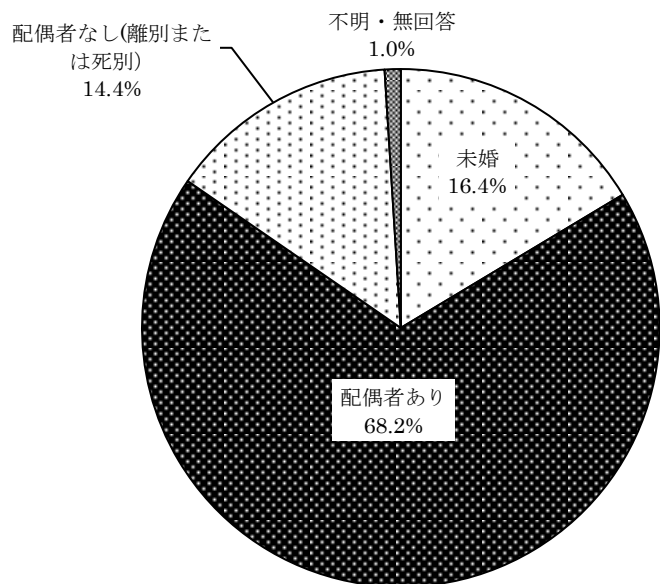
◆居住年数別



◆世帯構成別

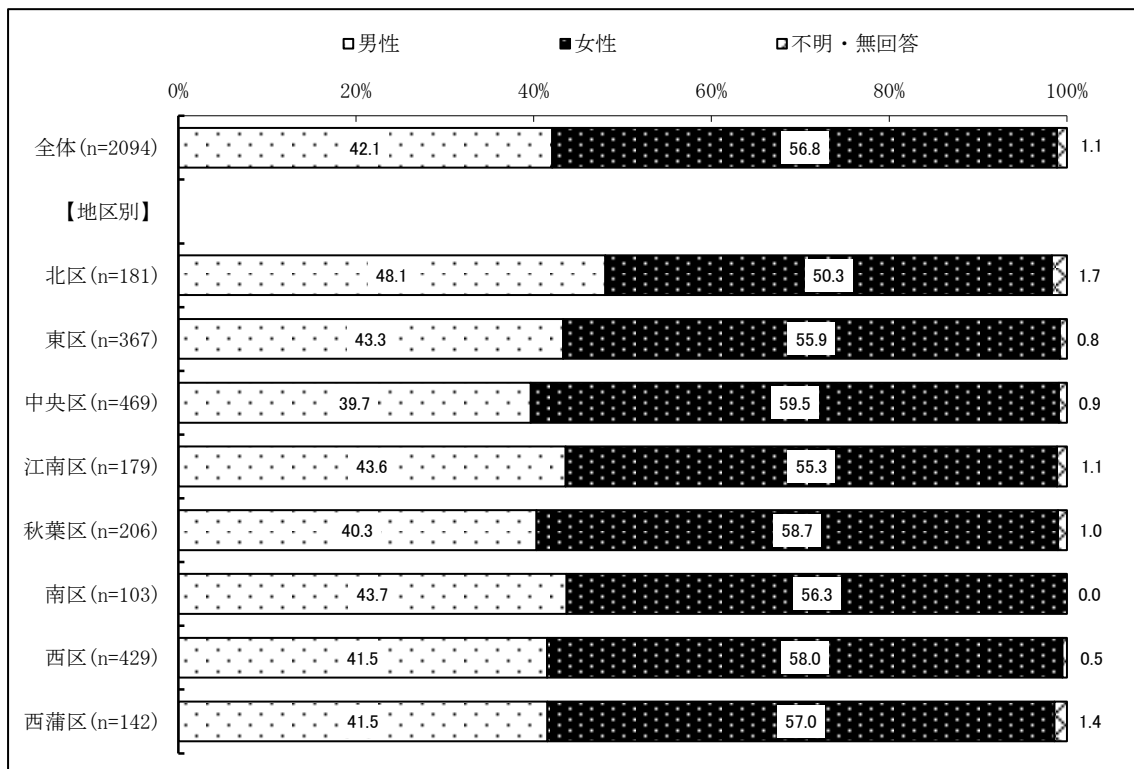


◆婚姻状況別

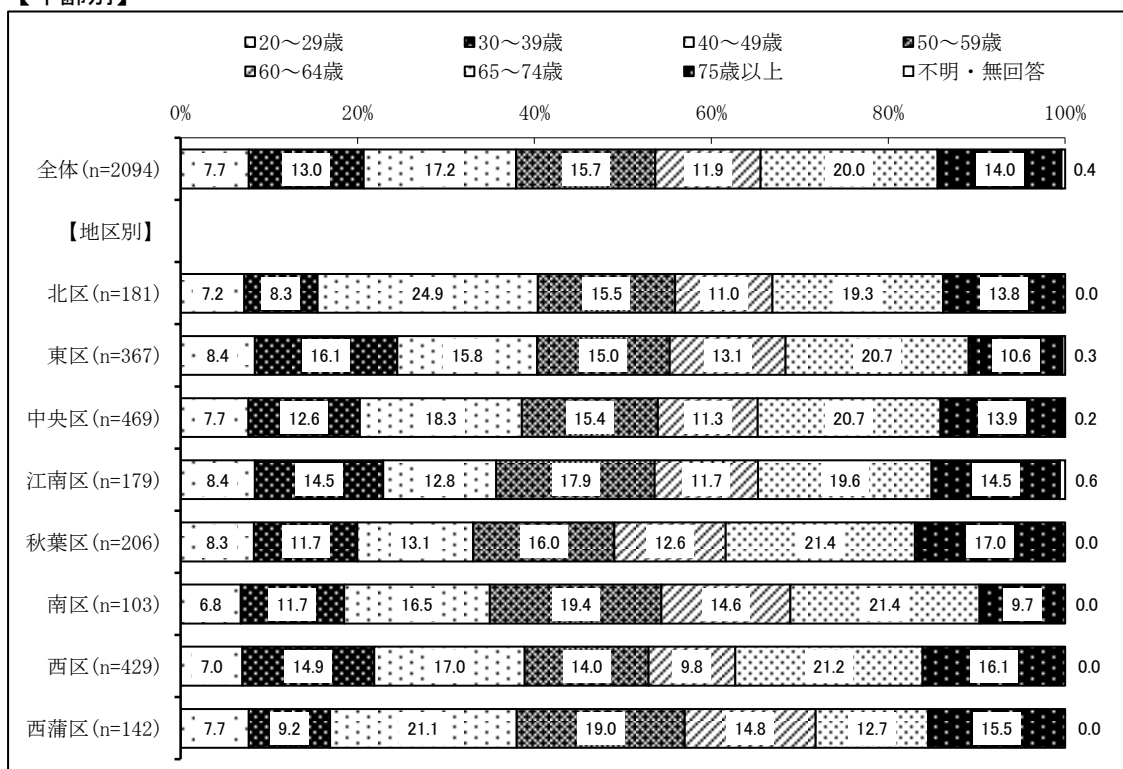


8. 回答者の特性（地区別集計）

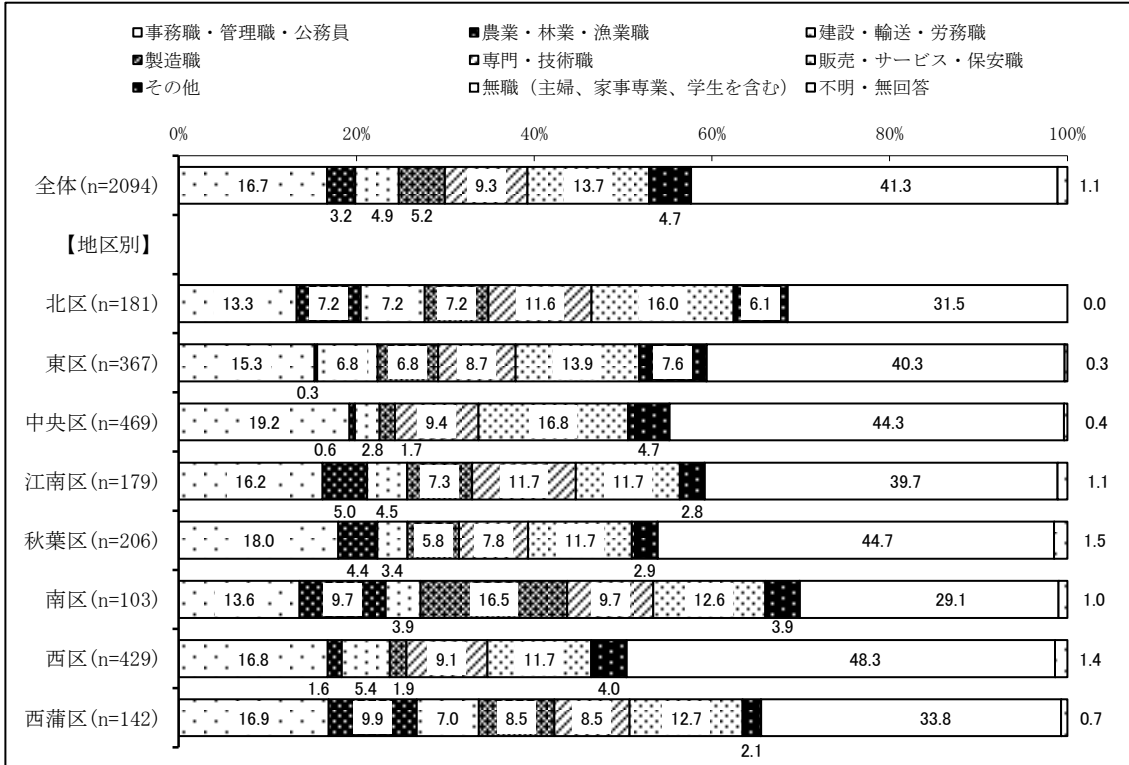
【性別】



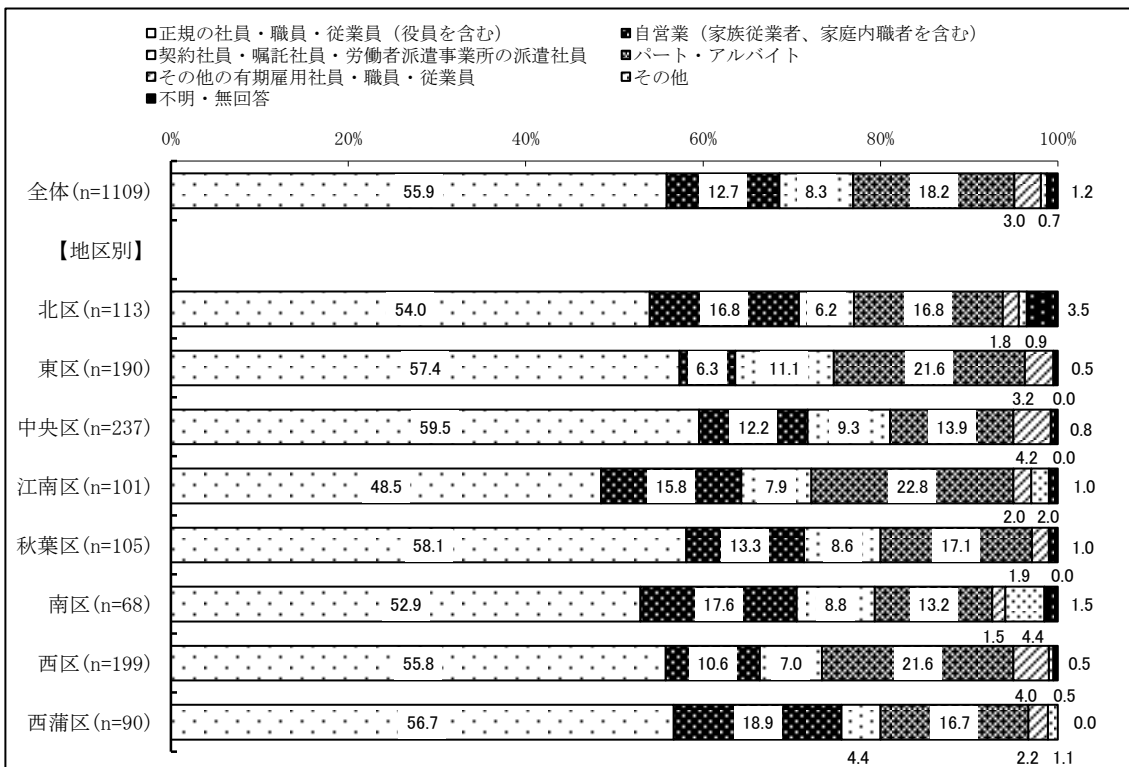
【年齢別】



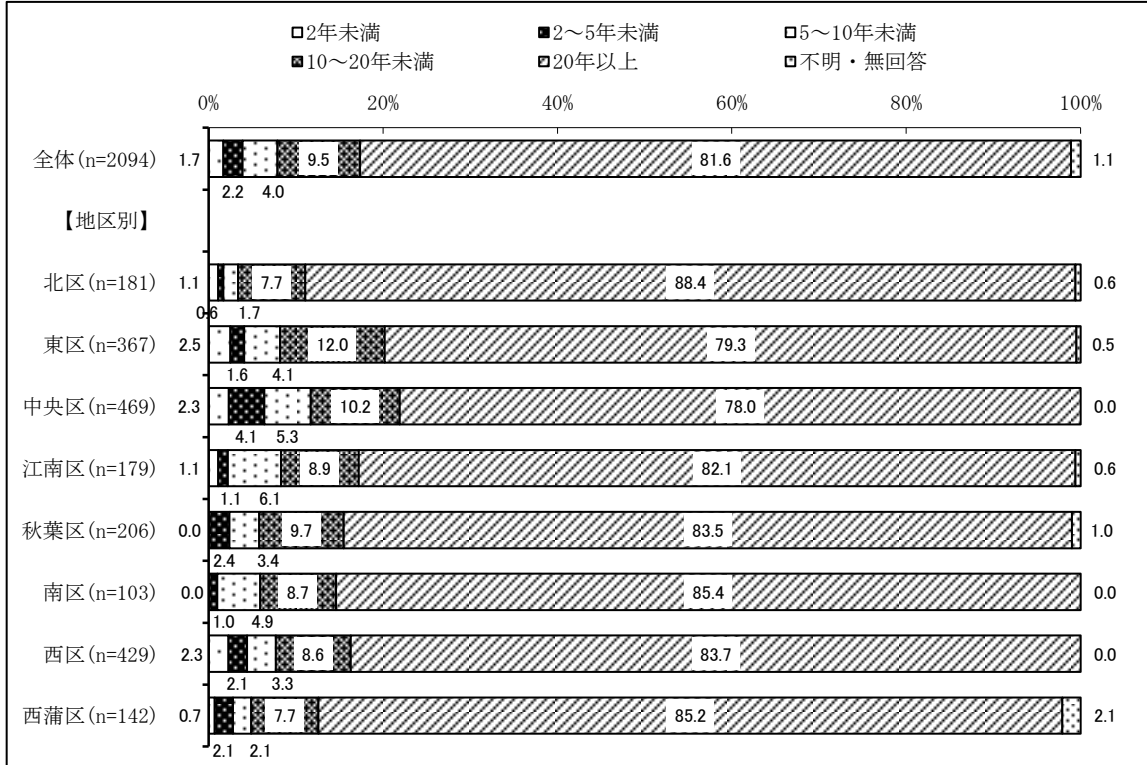
【職業別】



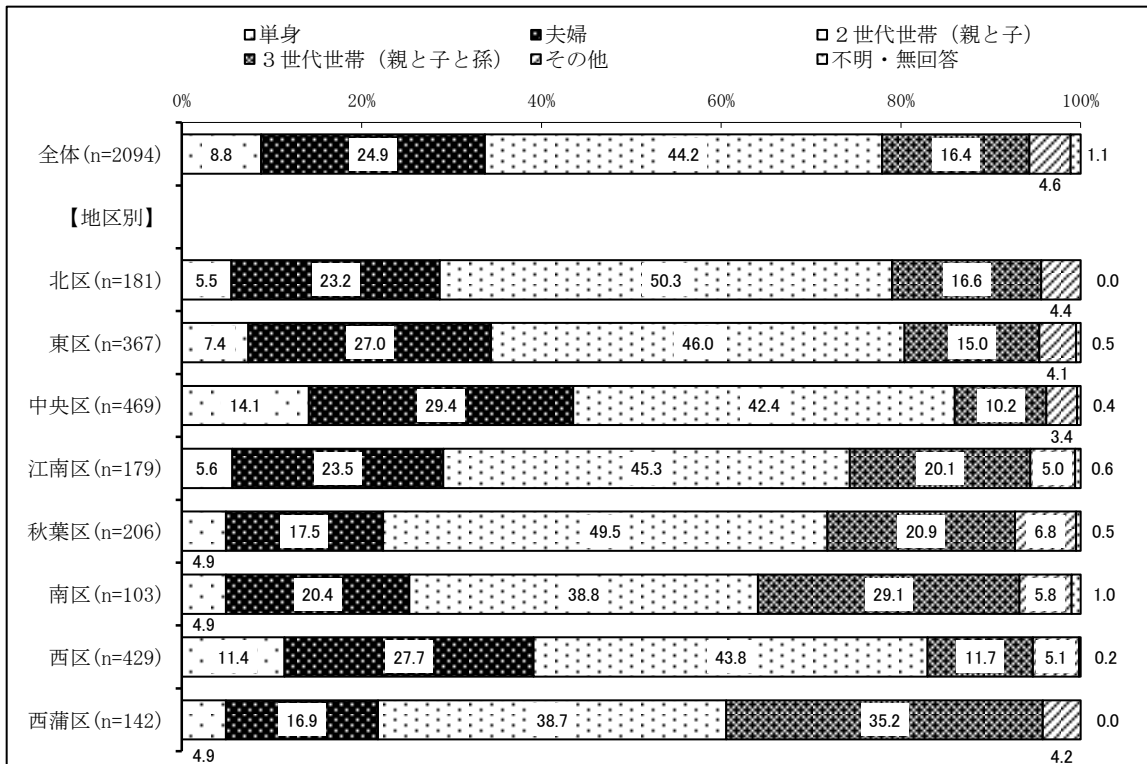
【雇用形態別】 (職業別で「その他」「無職」「不明・無回答」を除く)



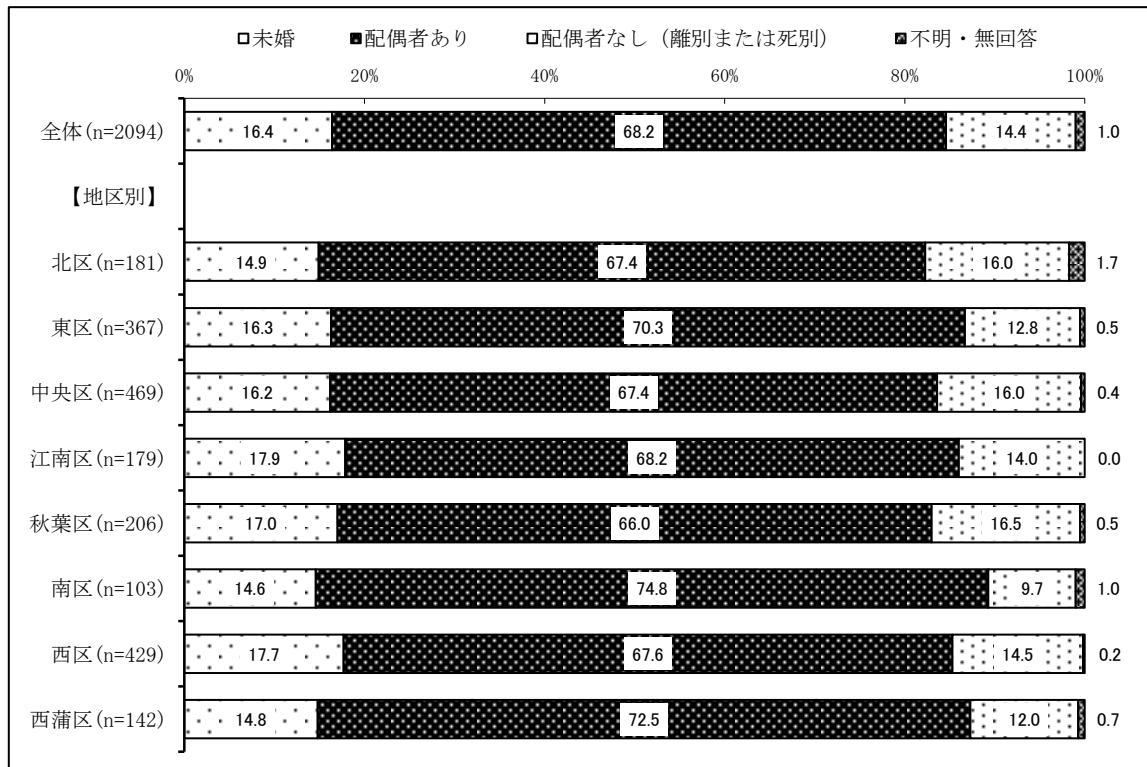
【居住年数別】



【世帯構成別】



【婚姻状況別】

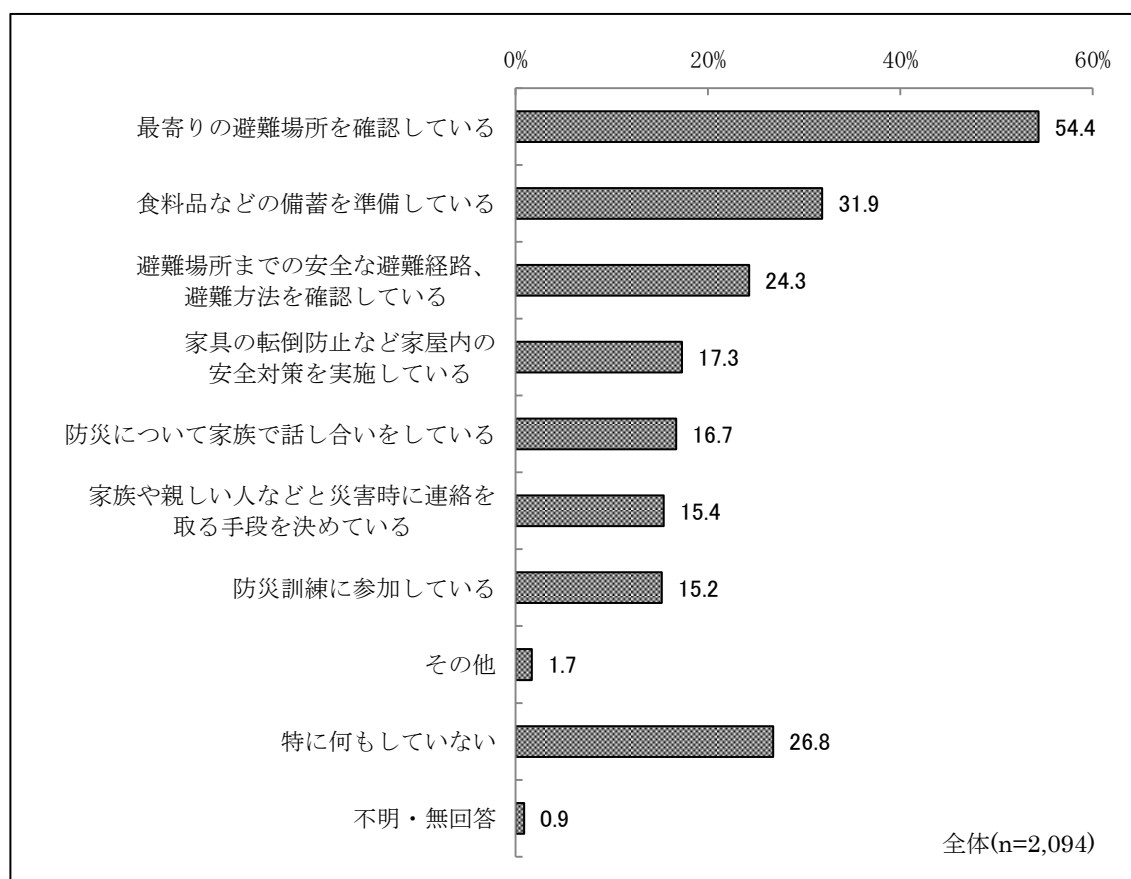


II 調查結果

1. 災害への備えについて

(1) 災害対策

問8 あなたが日ごろから災害に備えていることは何ですか。
(〇はいくつでも)



「最寄りの避難場所を確認している」が最も多い

【全体結果】

災害に備えて最も行われている対策は、「最寄りの避難場所を確認している」(54.4%)で5割を超えている。次いで「食料品などの備蓄を準備している」(31.9%)、「避難場所までの安全な避難経路、避難方法を確認している」(24.3%)と続いている。一方で、「特に何もしていない」も26.8%となっている。

【属性別結果】（図 1-1 参照）

①地区別

全体結果で最も割合の高かった「最寄りの避難場所を確認している」については、北区（59.7%）の割合が最も高く、西蒲区（45.1%）の割合が最も低くなっている。

「食料品などの備蓄を準備している」の割合は中央区（37.3%）、「避難場所までの安全な避難経路、避難方法を確認している」の割合は西区（27.3%）で高くなっている。

②性別

「避難場所までの安全な避難経路、避難方法を確認している」の割合は、女性（21.5%）よりも男性（28.3%）の方が高くなっている。

③年齢別

「最寄りの避難場所を確認している」の割合は、65～74歳（62.5%）と60～64歳（60.6%）で高く、「避難場所までの安全な避難経路、避難方法を確認している」の割合は、65～74歳（39.6%）で高くなっている。

図 1-1 災害に備えて行っていること（地区別／性別／年齢別） 1/2

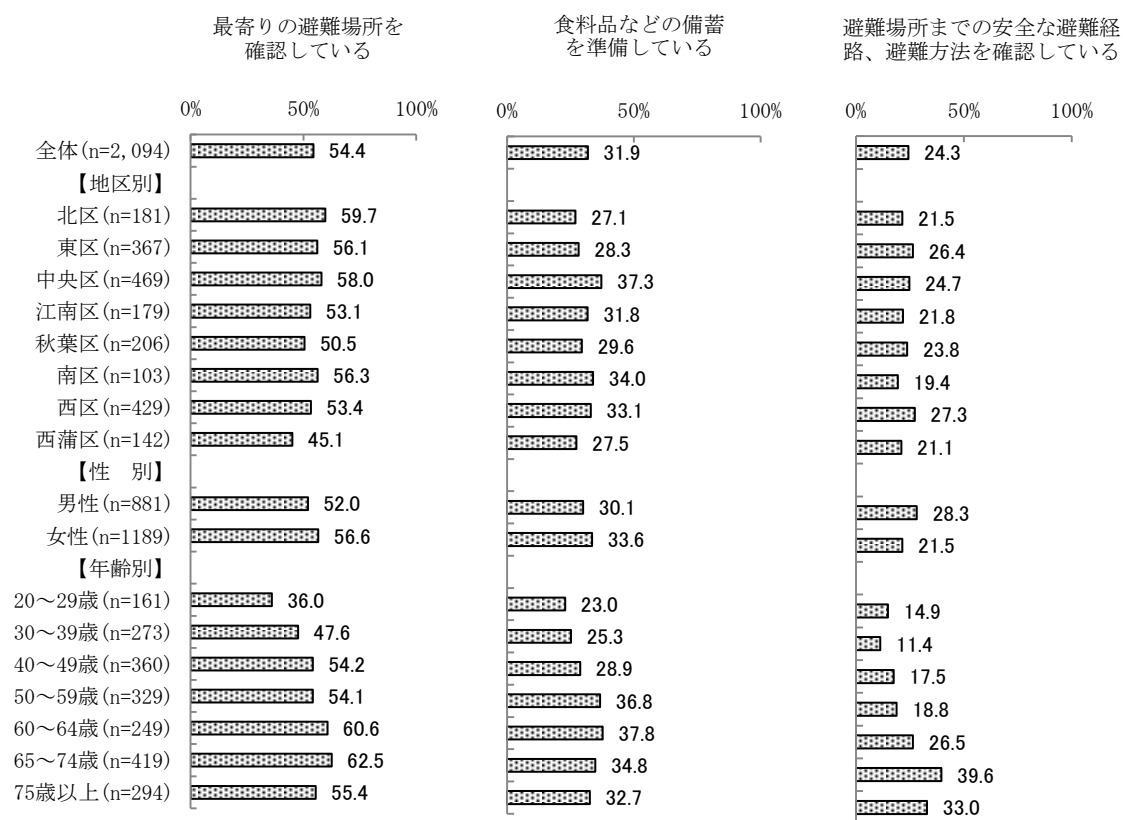
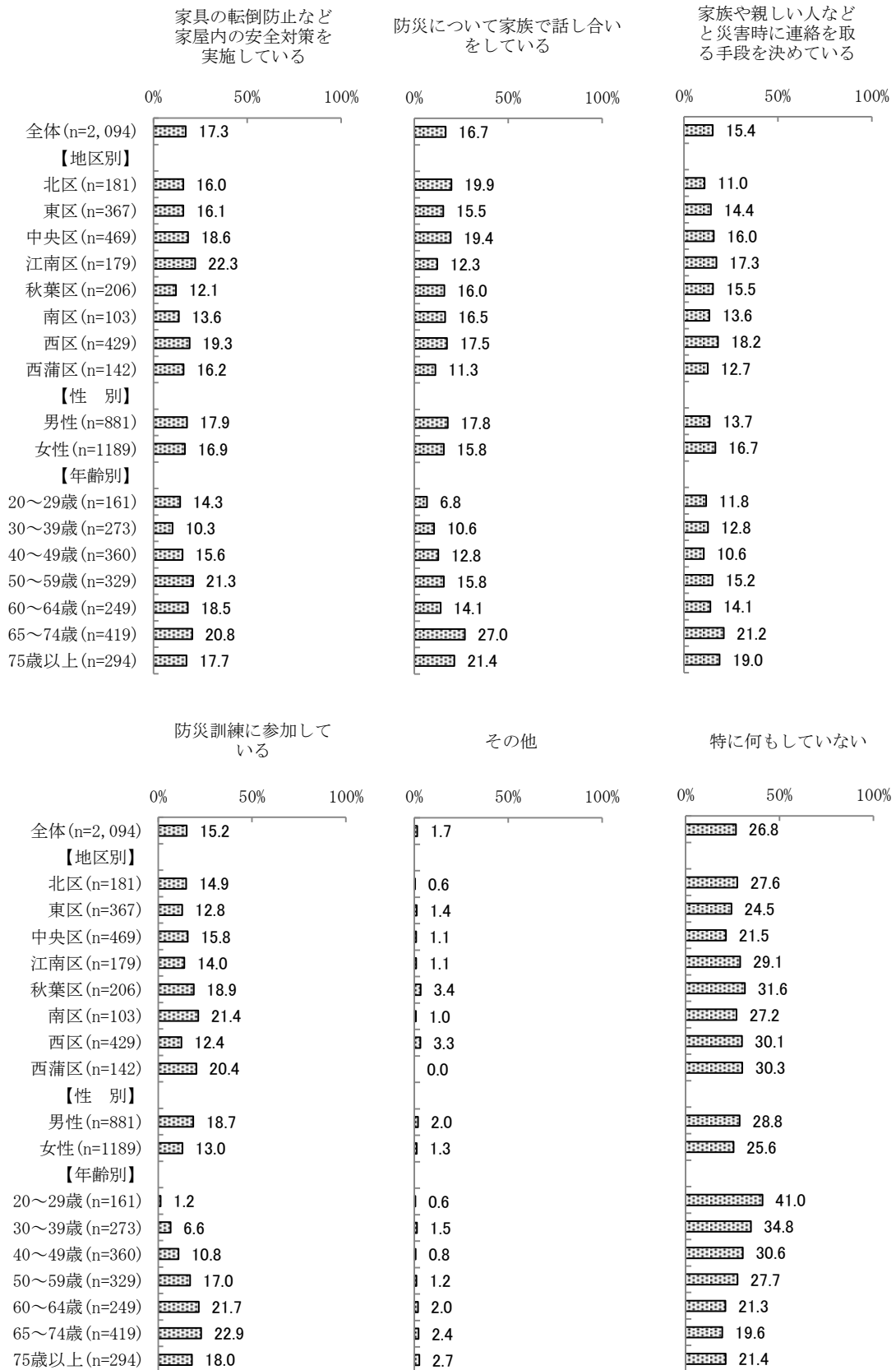
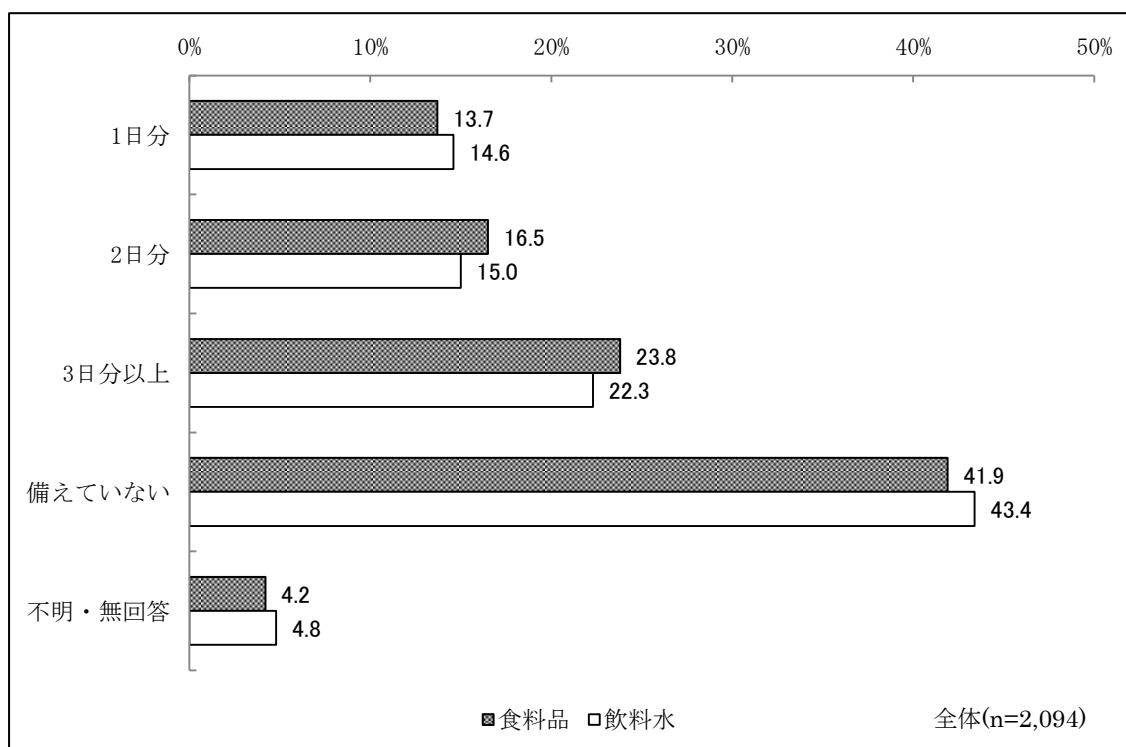


図 1-1 災害に備えて行っていること（地区別／性別／年齢別） 2/2



(2) 災害用の食料品・飲料水の備蓄

問9 災害用の備蓄として、食料品・飲料水（1～3リットル/日）は最低限3日分必要と言われていますが、あなたの家庭では何日分備えていますか。
（〇はそれぞれ1つずつ）



食料品、飲料水とも「備えていない」が最も多い

【全体結果】

食料品、飲料水いずれの備蓄も同様の傾向で、「備えていない」（それぞれ 41.9%、43.4%）の割合が最も高く、「3日分以上」（同 23.8%、22.3%）、「2日分」（16.5%、15.0%）と続いている。

【属性別結果】（図 1-2 参照）

①地区別

「3日分以上」の割合が高いのは、食料品では南区（27.2%）、飲料水では中央区（25.4%）となっている。

②性別

食料品、飲料水とも「3日以上」は、男性（それぞれ 24.6%、22.8%）が女性（同 23.0%、21.9%）をやや上回っている。

③年齢別

「3日以上」の割合は、食料品、飲料水とも65～74歳が、それぞれ31.3%、32.2%と最も高くなっている。

図 1-2-1 災害用の食料品の備蓄量（地区別／性別／年齢別）

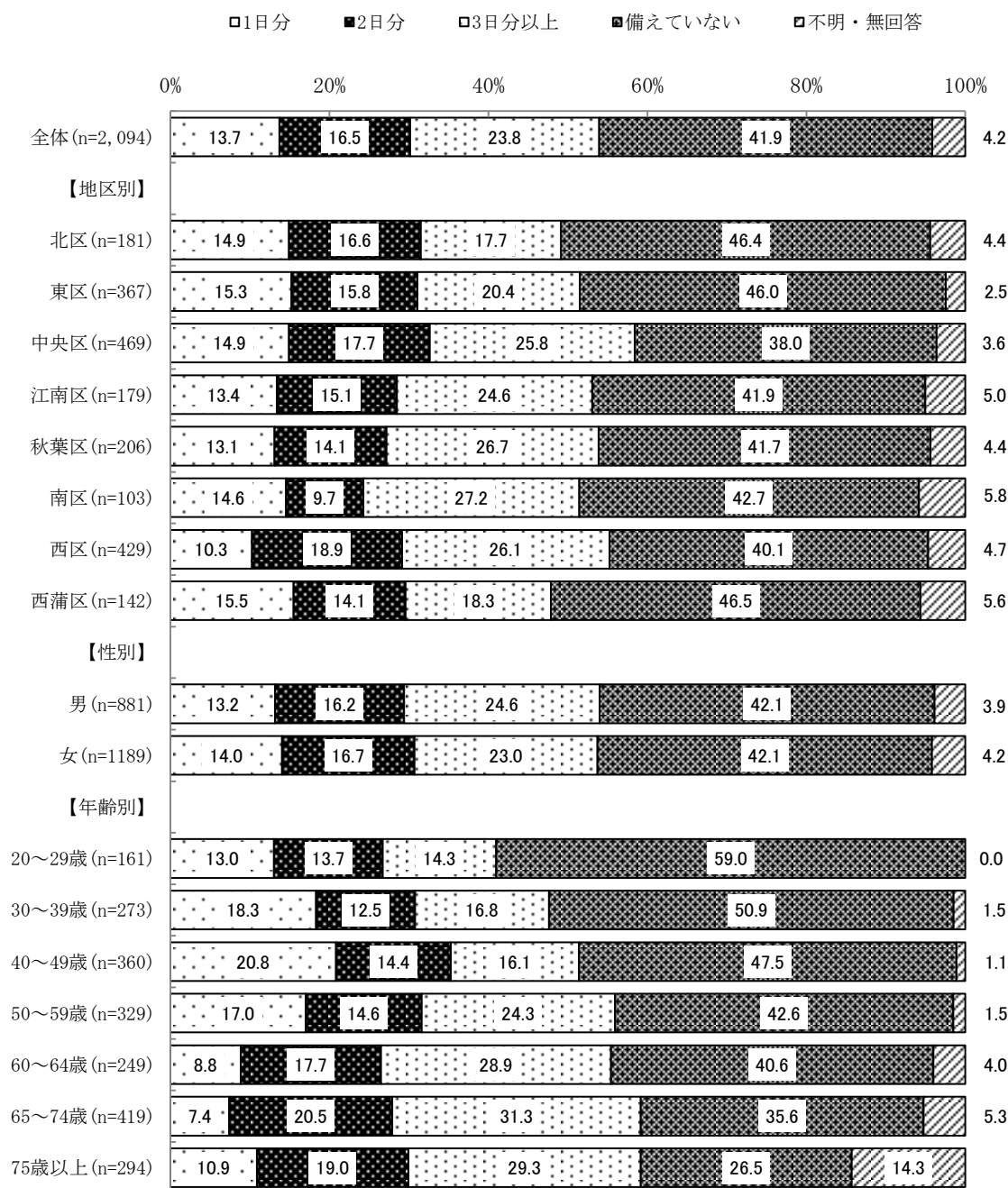
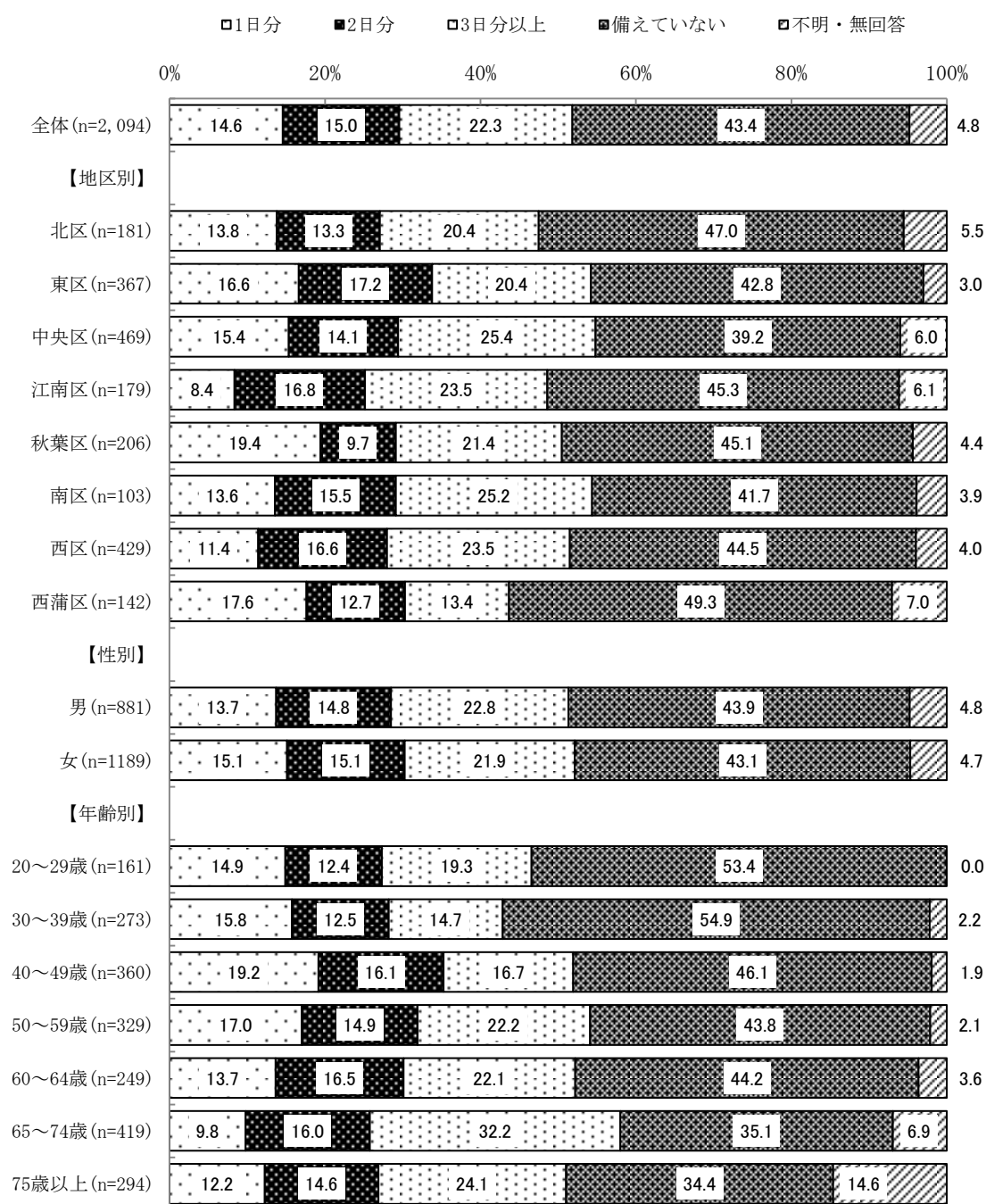
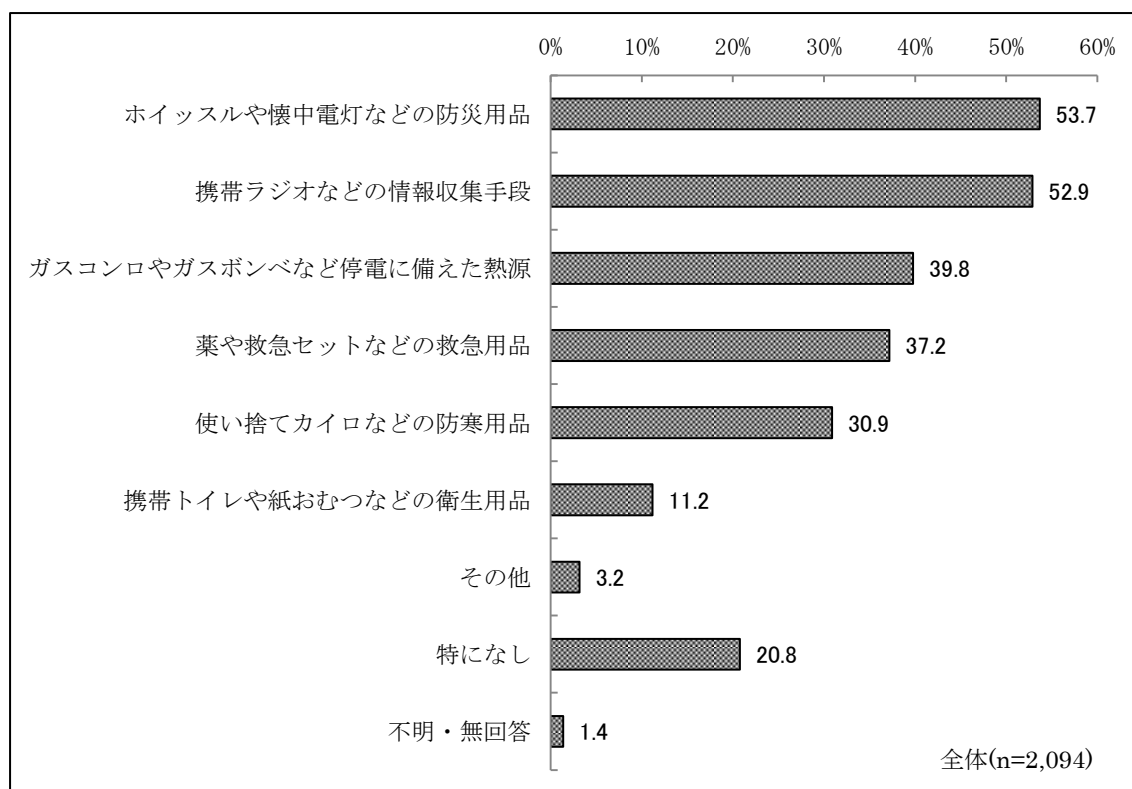


図 1-2-2 災害用の飲料水の備蓄量（地区別／性別／年齢別）



(3) その他災害用の備蓄品

問10 災害用の備蓄として、食料品・飲料水以外で、あなたの家庭で備えているものがありますか。
(○はいくつでも)



家庭での備蓄は「防災用品」「情報収集手段」が多い

【全体結果】

災害用の備蓄品としては、「ホイッスルや懐中電灯などの防災用品」(53.7%)、「携帯ラジオなどの情報収集手段」(52.9%)の割合が高く、それぞれ5割を超えている。また、「ガスコンロやボンベなど停電に備えた熱源」(39.8%)、「薬や救急セットなどの救急用品」(37.2%)、「使い捨てカイロなどの防寒用品」(30.9%)が3割以上となっている。

【属性別結果】(図1-3参照)

①地区別

「ホイッスルや懐中電灯などの防災用品」については、西区(57.3%)が最も高い。「携帯ラジオなどの情報収集手段」では、江南区(59.8%)、秋葉区(59.2%)が高い割合となっている。

また、「ガスコンロやボンベなど停電に備えた熱源」は、江南区（51.4%）が唯一5割を超える高い割合となっている。

②性別

「使い捨てカイロなどの防寒用品」の割合は、男性（24.2%）を女性（36.0%）が大きく上回っている。

③年齢別

「ガスコンロやボンベなど停電に備えた熱源」については、20～29歳が19.3%であるのに対し、60～64歳（50.6%）、50～59歳（47.7%）、65～74歳（45.3%）が高い割合となっている。

図 1-3 災害用として備えているもの（地区別／性別／年齢別） 1/2

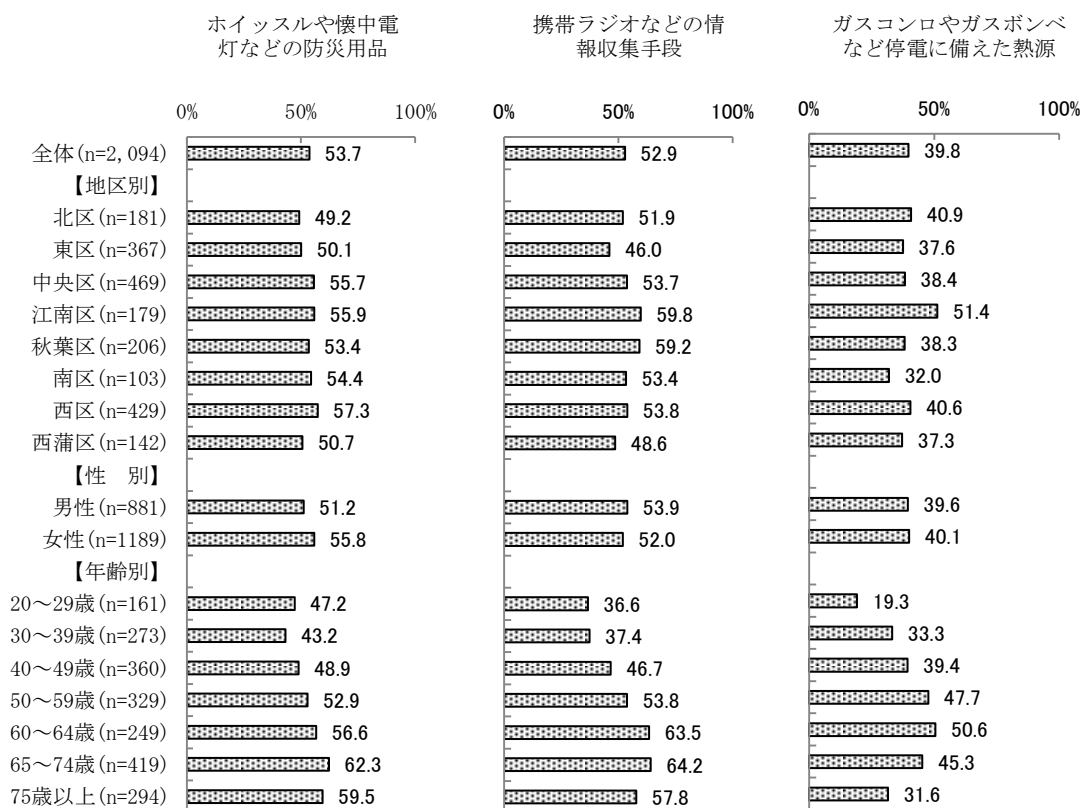
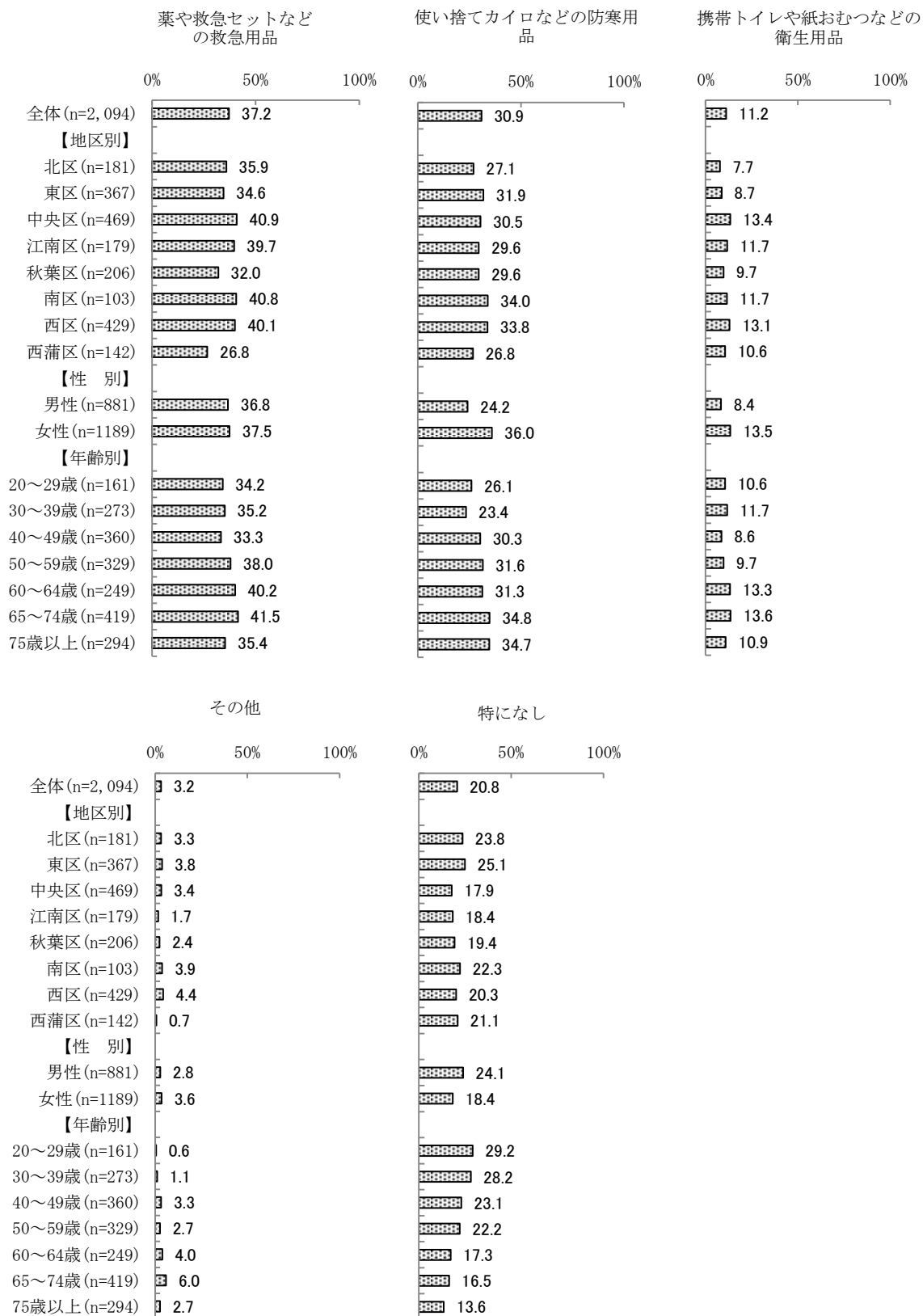
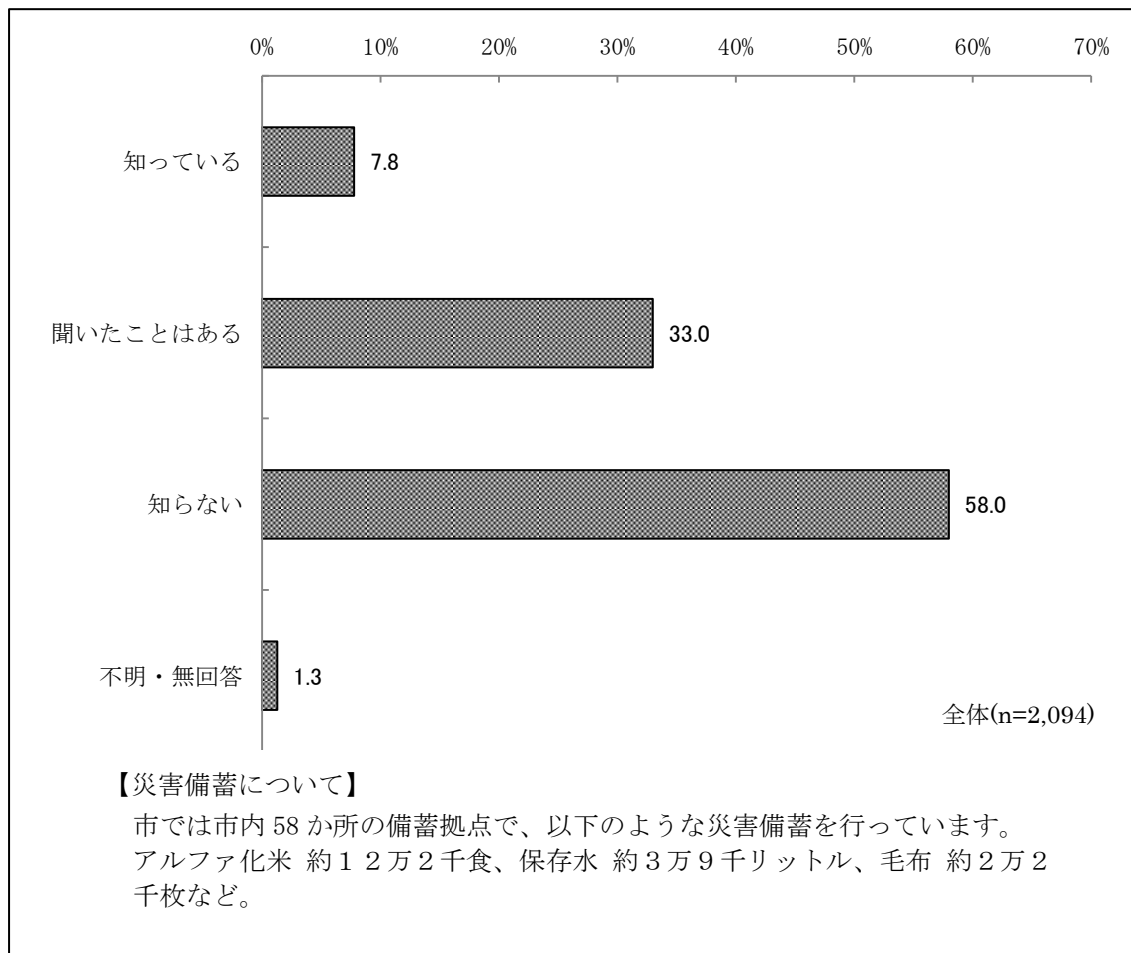


図 1-3 災害用として備えているもの（地区別／性別／年齢別） 2/2



(4) 市が災害用に物資を備蓄していることの認知度

問 1 1 あなたは、市が備蓄している物資の種類について知っていますか。
(○は1つだけ)



4 割が災害用備蓄物資を認知している

【全体結果】

市が備蓄している物資の種類については、「知っている」が 7.8%、「聞いたことはある」が 33.0%となっており、4 割が備蓄を認知している。

一方で、「知らない」が 58.0%となっている。

【属性別結果】(図 1-4 参照)

①地区別

「知っている」は西蒲区 (10.6%)、江南区 (10.1%) で高くなっている。「知っている」と「聞いたことはある」を合わせた認知度では、江南区が最も高い割合となっている。

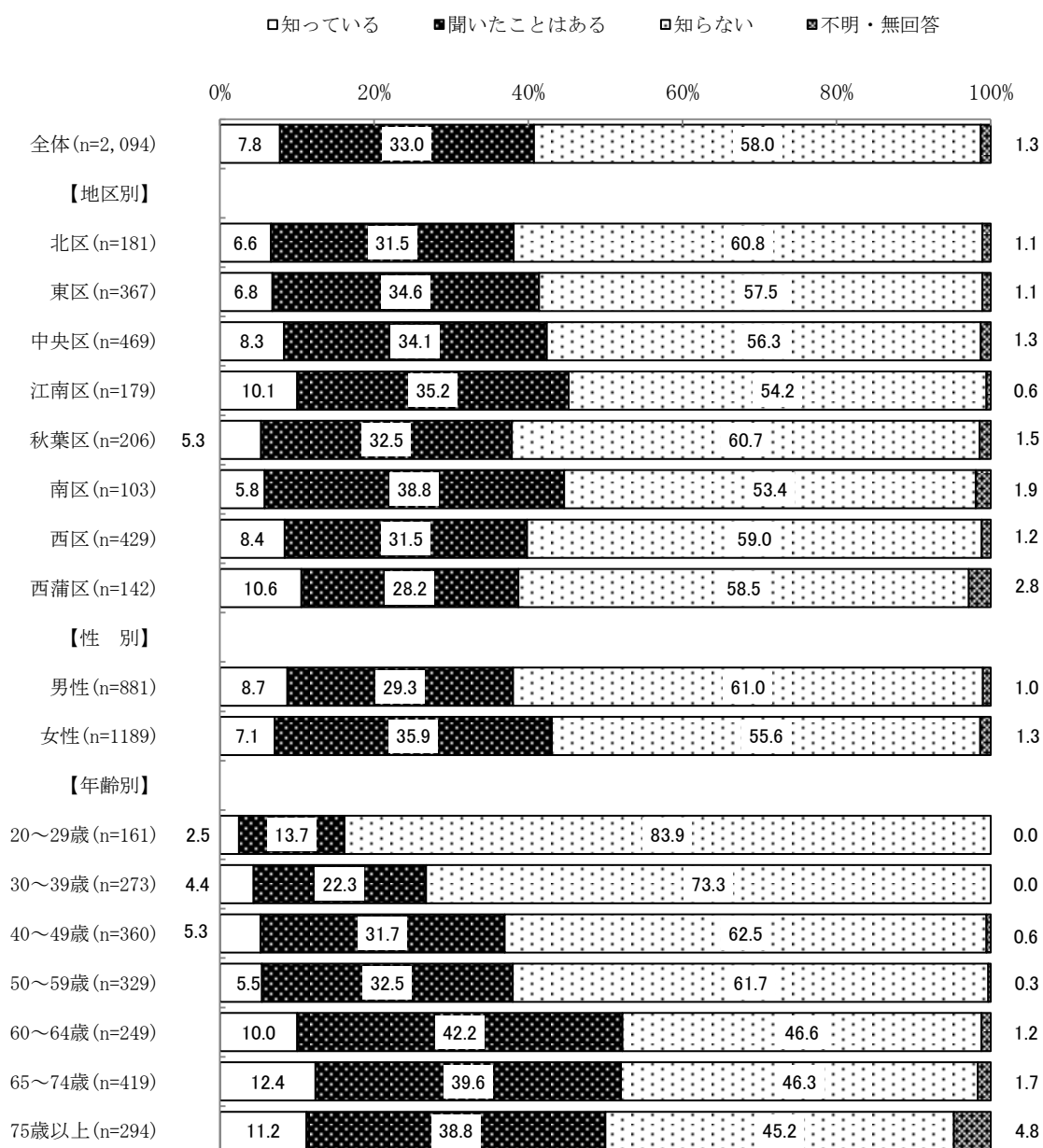
②性別

「知っている」では、男性（8.7%）が女性（7.1%）を上回っているが、「知っている」と「聞いたことはある」を合わせた割合では、逆に女性の方が高くなっている。

③年齢別

60～64歳（10.0%）、65～74歳（12.4%）、75歳以上（11.2%）はいずれも「知っている」が1割を超えており、それ以下の世代のおよそ2倍となっている。

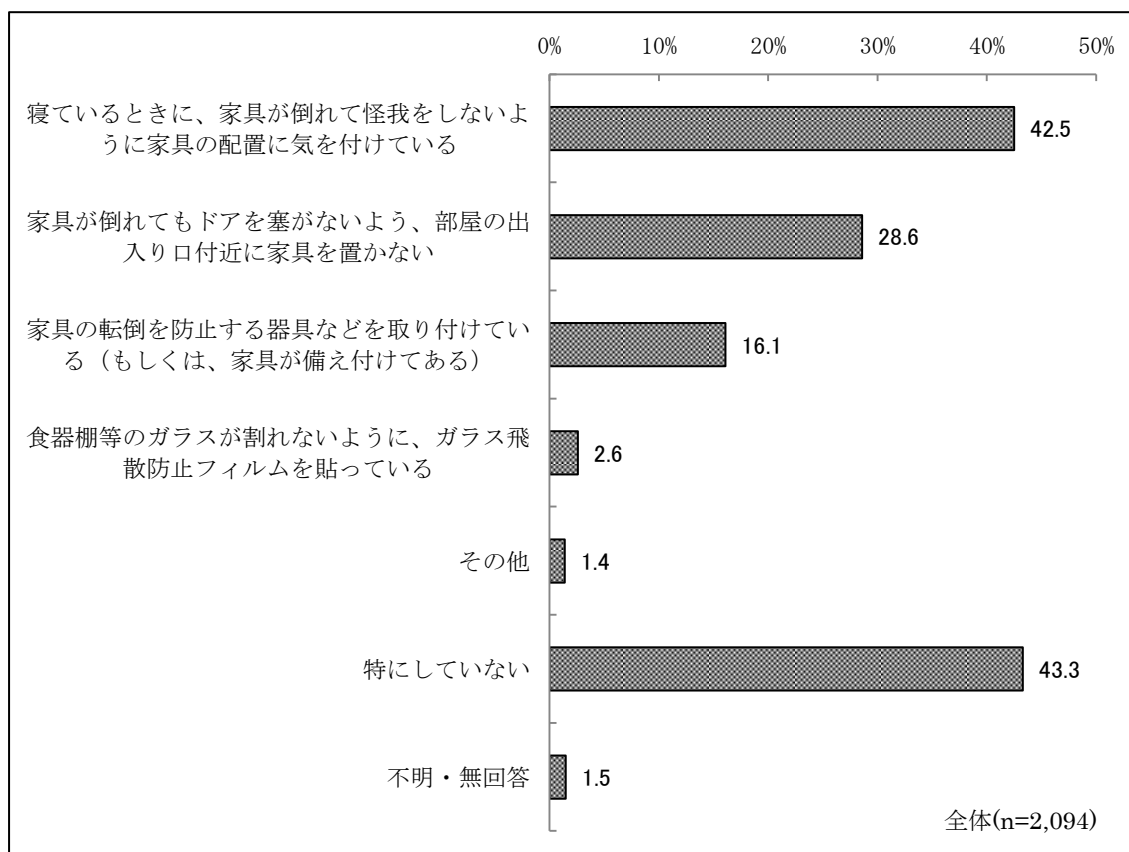
図 1-4 市の災害用物資備蓄の認知状況（地区別／性別／年齢別）



(5) 地震に備えて家屋内で行っている安全対策

問12 地震による家屋内の安全対策について、あなたが実施していることがあれば、教えてください。

(○はいくつでも)



「家具の配置に気を付けている」が対策の1位

【全体結果】

安全対策としては、「寝ているときに、家具が倒れて怪我をしないように家具の配置に気を付けている」(42.5%)、「家具が倒れてもドアを塞がないよう、部屋の出入り口付近に家具を置かない」(28.6%)の割合が高くなっている。一方で、「特にしていない」(43.3%)が最も高くなっている。

【属性別結果】（図 1-5 参照）

①地区別

全体結果で最も割合の高かった「寝ているときに、家具が倒れて怪我をしないように家具の配置に気を付けている」の割合は、西区（47.8%）が最も高く、西蒲区（33.8%）が最も低くなっている。

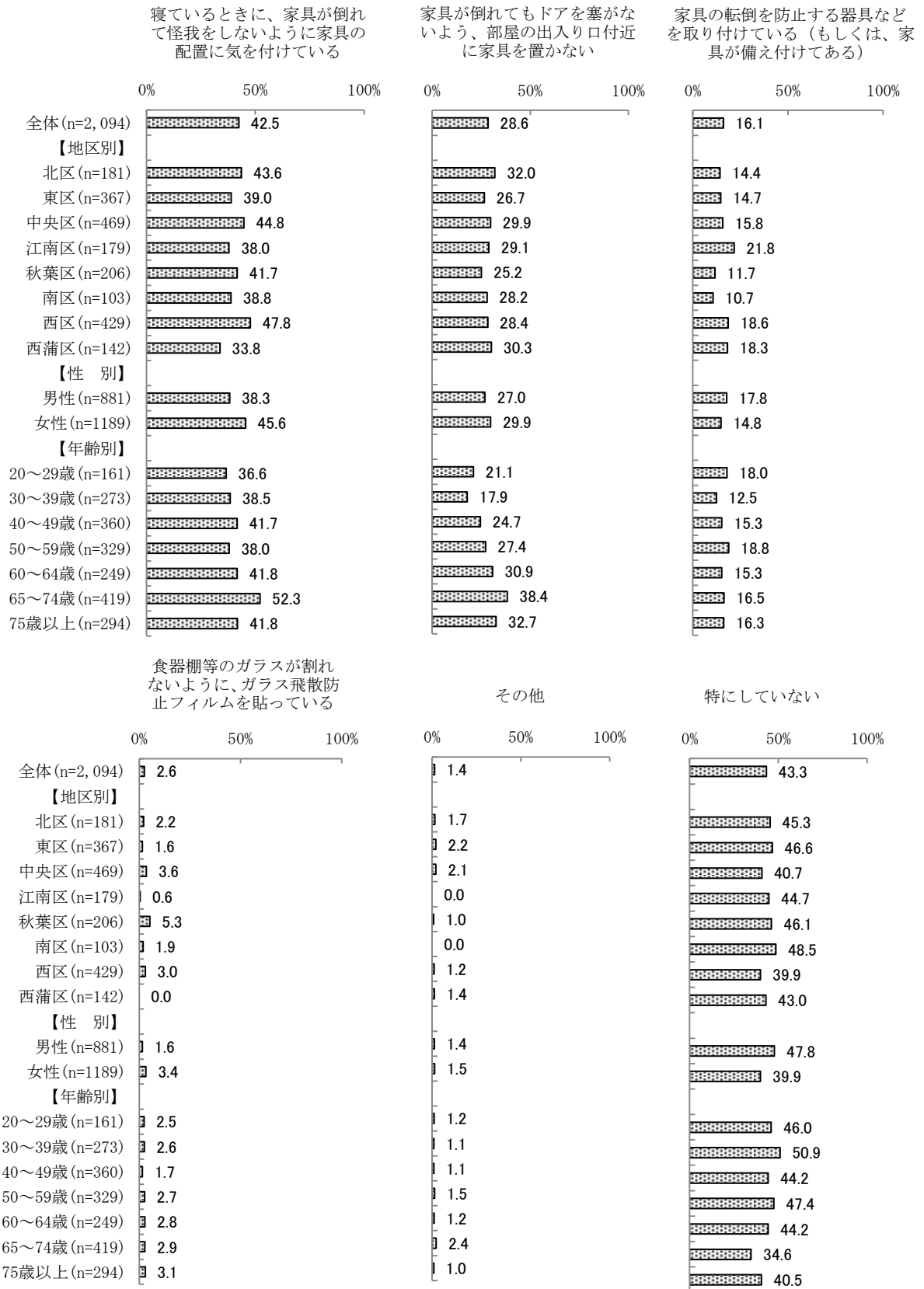
②性別

全般的に女性が男性に比べてより安全対策を講じている傾向がみられ、「特にしていない」では、男性（47.8%）が女性（39.9%）を上回っていることにも表れている。

③年齢別

「寝ているときに、家具が倒れて怪我をしないように家具の配置に気を付けている」、「家具が倒れてもドアを塞がないよう、部屋の出入り口付近に家具を置かない」では、65～74歳がそれぞれ 52.3%、38.4%でいずれも最も高い割合となっている。

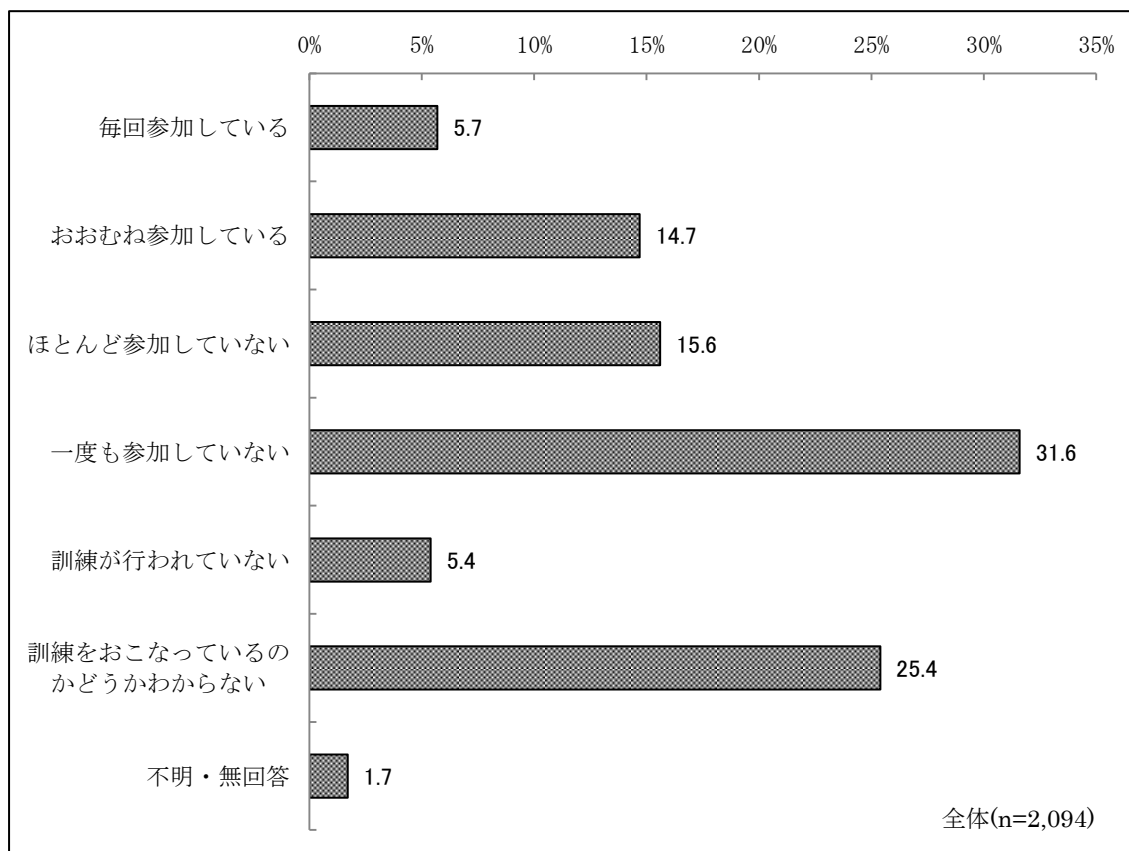
図 1-5 地震に備えて家屋内で行っている安全対策（地区別／性別／年齢別）



(6) 地域の防災訓練への参加状況

問13 あなたは地域の防災訓練に参加したことがありますか。

(○は1つだけ)



「一度も参加していない」が最も多い

【全体結果】

「毎回参加している」(5.7%)、「おおむね参加している」(14.7%)の合計は2割を超えている。一方、「一度も参加していない」(31.6%)、「訓練をおこなっているのかどうかわからない」(25.4%)が高い割合となっている。

【属性別結果】(図1-6参照)

①地区別

「毎回参加している」では西蒲区(8.5%)が高い割合となっており、「おおむね参加している」では南区(26.2%)が目立って高い割合となっている。

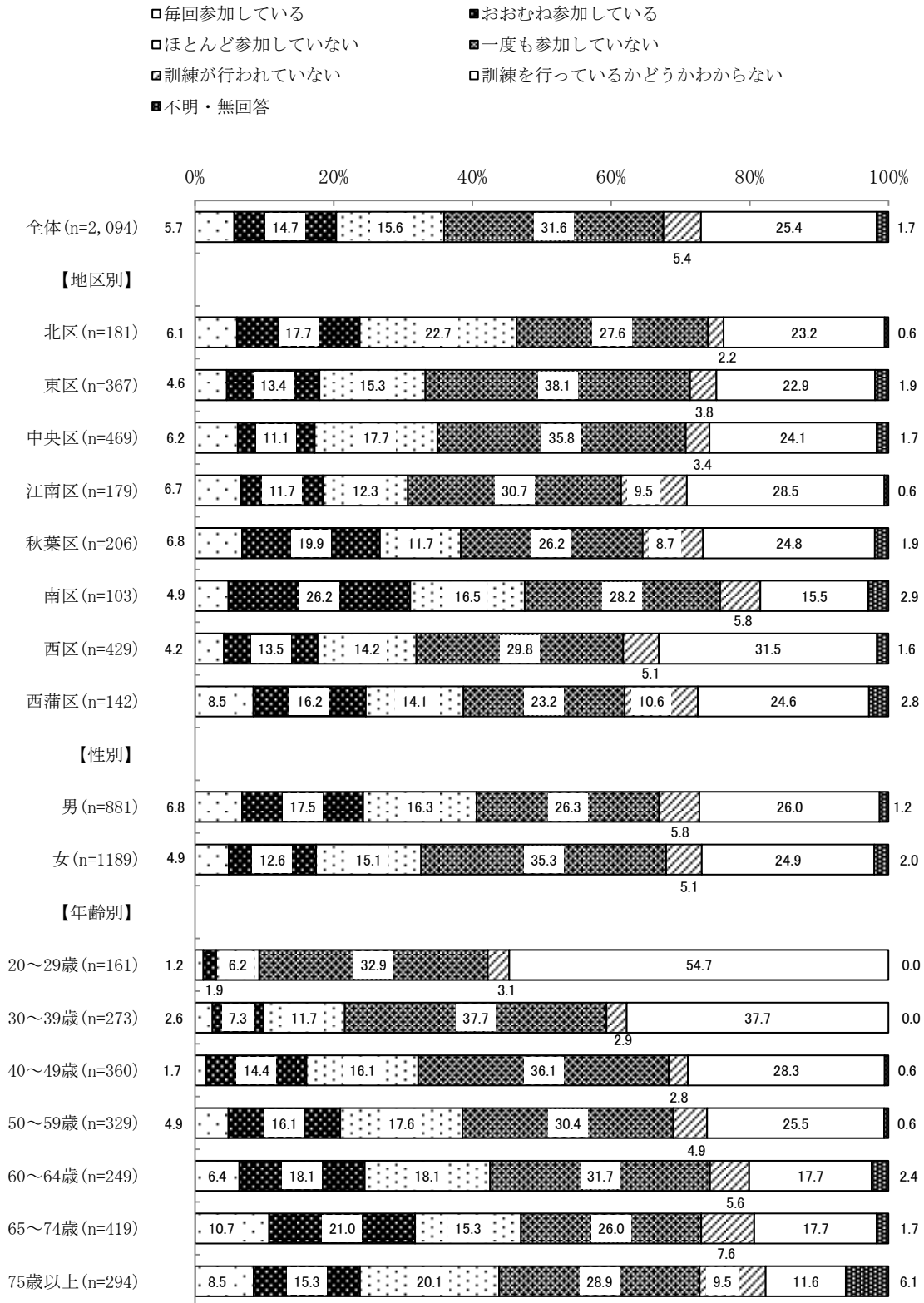
②性別

「毎回参加している」、「おおむね参加している」で男性はそれぞれ6.8%、17.5%と、女性の4.9%、12.6%を上回っている。「一度も参加していない」については、女性(35.3%)が男性(26.3%)より高い割合となっている。

③年齢別

「毎回参加している」では、65～74歳(10.7%)が唯一1割を超えている。同年代は「おおむね参加している」においても21.0%と、最も高い割合となっている。

図 1-6 地域の防災訓練への参加状況（地区別／性別／年齢別）



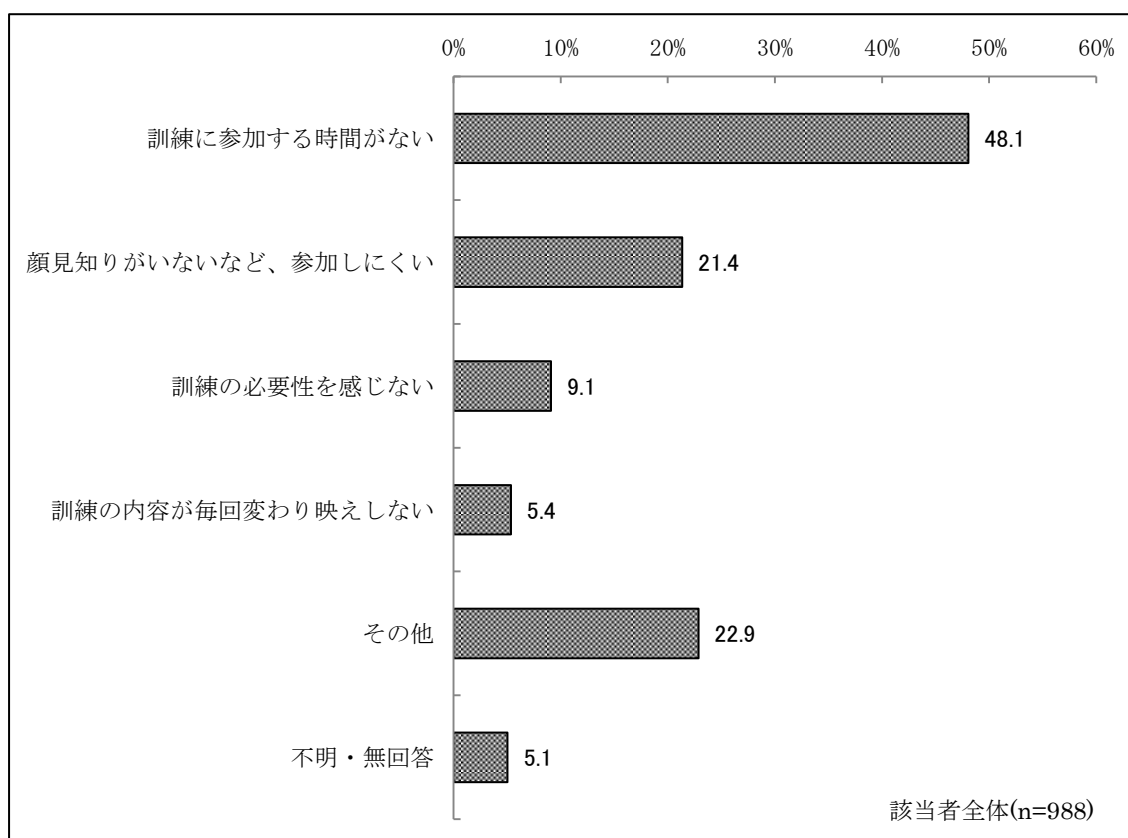
(7) 地域の防災訓練へ参加しない理由

(問13で「参加していない」と回答した方への該当質問))

問14 地域の防災訓練に参加していないと答えた方にお聞きします。

あなたが、地域の防災訓練に参加しない理由はどれですか。

(〇はいくつでも)



参加しない理由は「訓練に参加する時間がない」が最多

【全体結果】

防災訓練に参加できない最大の理由は「訓練に参加する時間がない」(48.1%)となっており、「顔見知りがないなど、参加しにくい」(21.4%)がそれに続いている。

【属性別結果】 図1-7 参照

①地区別

「訓練に参加する時間がない」については、北区(54.9%)が最も高い割合となっており、西蒲区(52.8%)、東区(52.0%)がそれに続き5割を超えている。

②性別

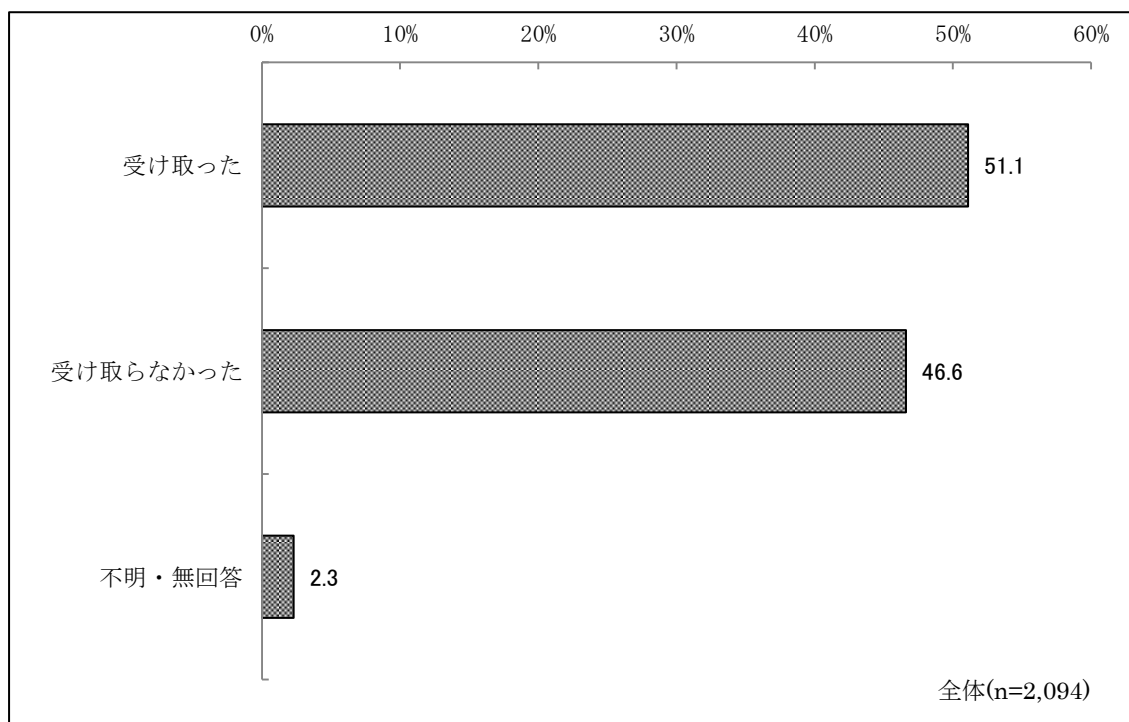
「訓練に参加する時間がない」で男性（54.3%）が女性（44.5%）より割合が高い。「顔見知りがないなど、参加しにくい」では、女性（24.2%）の方が、男性（17.0%）より割合が高い。

③年齢別

「訓練に参加する時間がない」では、30～39歳（63.7%）、40～49歳（64.9%）、50～59歳（65.2%）がいずれも6割を超えている。「顔見知りがないなど、参加しにくい」については、30～39歳（28.1%）が最も高い割合となっている。

(8) 災害情報（訓練放送）を受け取ったかどうか

問15 新潟市では6月16日13:03に、災害時にどういった伝達手段で災害情報を受け取れるか、市民の皆さまにご確認いただくため、情報伝達訓練を実施し、緊急速報メールや同報無線、緊急告知FMラジオなどで一斉に訓練放送しました。あなたは6月16日に災害情報（訓練放送）を受け取りましたか。
(○は1つだけ)



災害情報（訓練放送）を「受け取った」が5割以上

【全体結果】

災害情報（訓練放送）を「受け取った」（51.1%）が「受け取らなかった」（46.6%）を上回った。

【属性別結果】（図1-8参照）

①地区別

「受け取った」については、中央区（56.1%）が最も高い割合となっており、以下、西区（52.9%）、南区（52.4%）と続いている。西蒲区は最も低く、41.5%となっている。

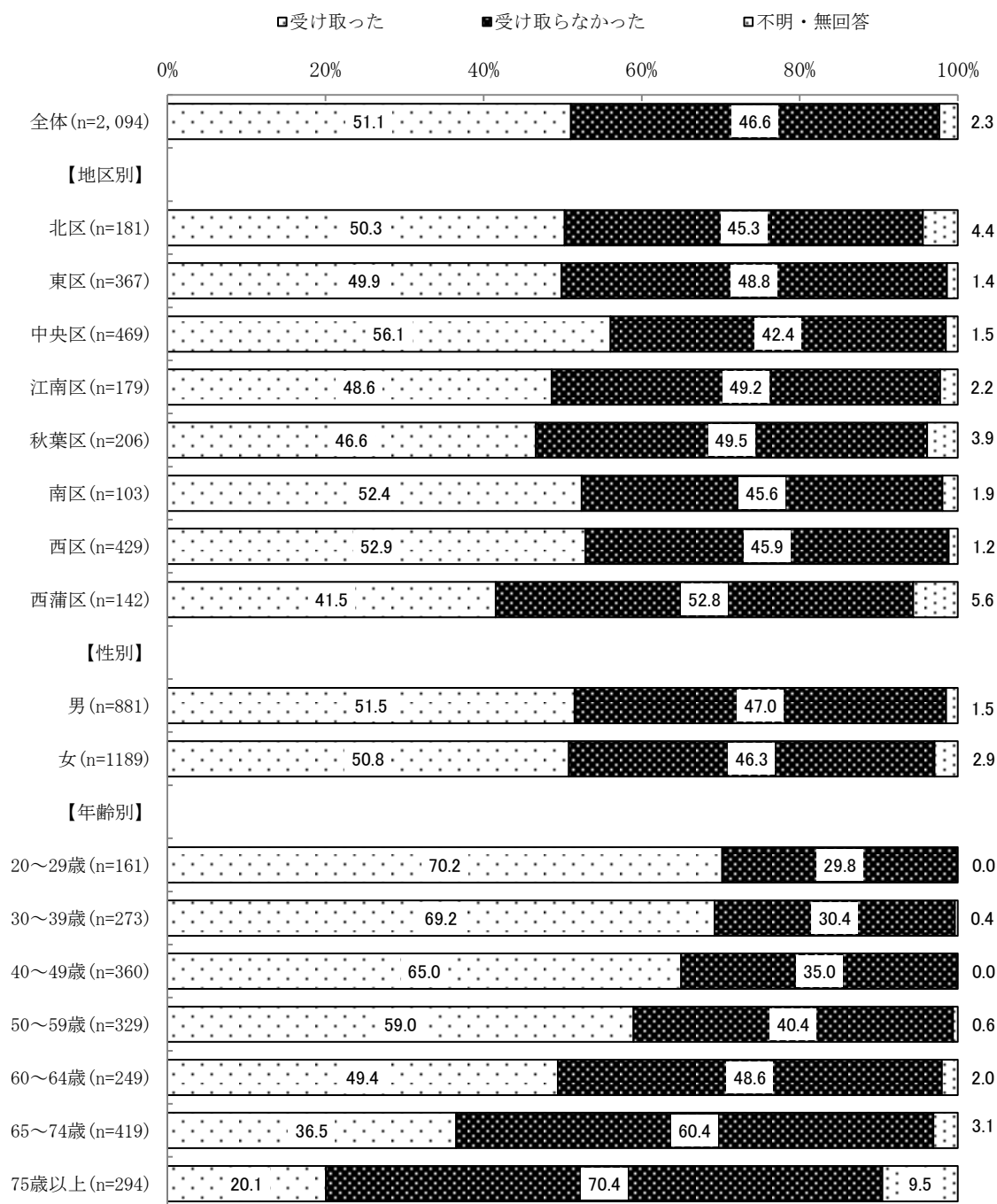
②性別

「受け取った」については、男性（51.5%）が女性（50.8%）をやや上回っている。

③年齢別

世代が若くなるにつれ「受け取った」の割合が高くなる傾向が明確で、20～29歳では70.2%、30～39歳では69.2%となっている。

図 1-8 災害情報（訓練放送）を受け取ったかどうか（地区別／性別／年齢別）



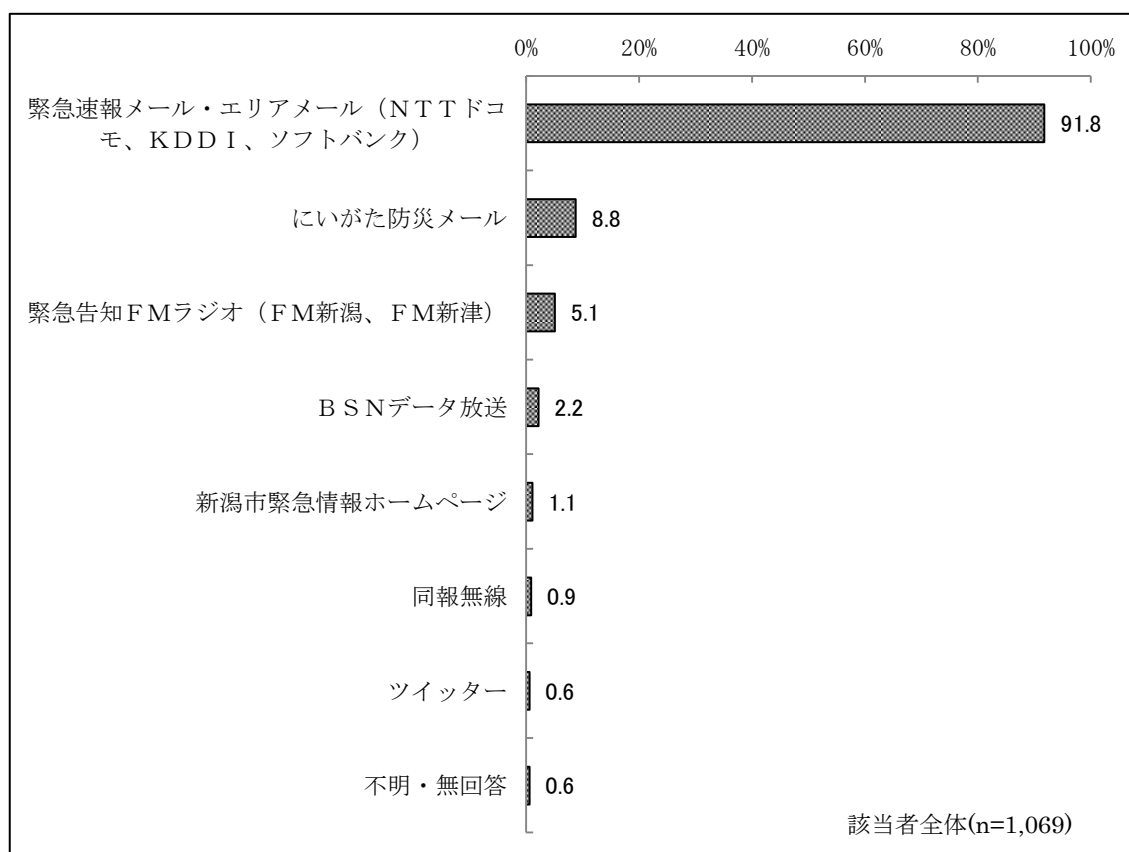
(9) 災害情報（訓練放送）を受け取った情報伝達手段

（問13で「受け取った」と回答した方への該当質問）

問16 災害情報（訓練放送）を受け取ったと答えた方にお聞きします。

あなたが、災害情報（訓練放送）を受け取った情報伝達手段は何でしたか。

（〇はいくつでも）



「緊急速報メール・エリアメール」が圧倒的多数

【全体結果】

災害情報（訓練放送）を受け取った情報伝達手段としては、「緊急速報メール・エリアメール」(91.8%)が圧倒的で、次いで「にいがた防災メール」(8.8%)、「緊急告知 FM ラジオ」(5.1%)となっている。

【属性別結果】(図 1-9 参照)

①地区別

「緊急速報メール・エリアメール」については秋葉区(95.8%)が最も高い割合で、次いで東区(94.5%)、中央区(94.3%)となっている。

「にいがた防災メール」は南区(18.5%)、「緊急告知 FM ラジオ」は西蒲区(11.9%)で、

割合が高い。

②性別

「緊急速報メール・エリアメール」、「にいがた防災メール」いずれも、女性（それぞれ92.1、9.9%）が男性（同91.6%、7.5%）をやや上回っている。

③年齢別

「緊急速報メール・エリアメール」については、75歳以上（62.7%）は他の年代を大きく下回っている。一方で、「にいがた防災メール」、「緊急告知FMラジオ」、「BSN データ放送」では、それぞれ13.6%、11.9%、11.9%で、他の年代と比べて割合が高い。

図 1-9 災害情報（訓練放送）を受け取った情報伝達手段（地区別／性別／年齢別） 1/2

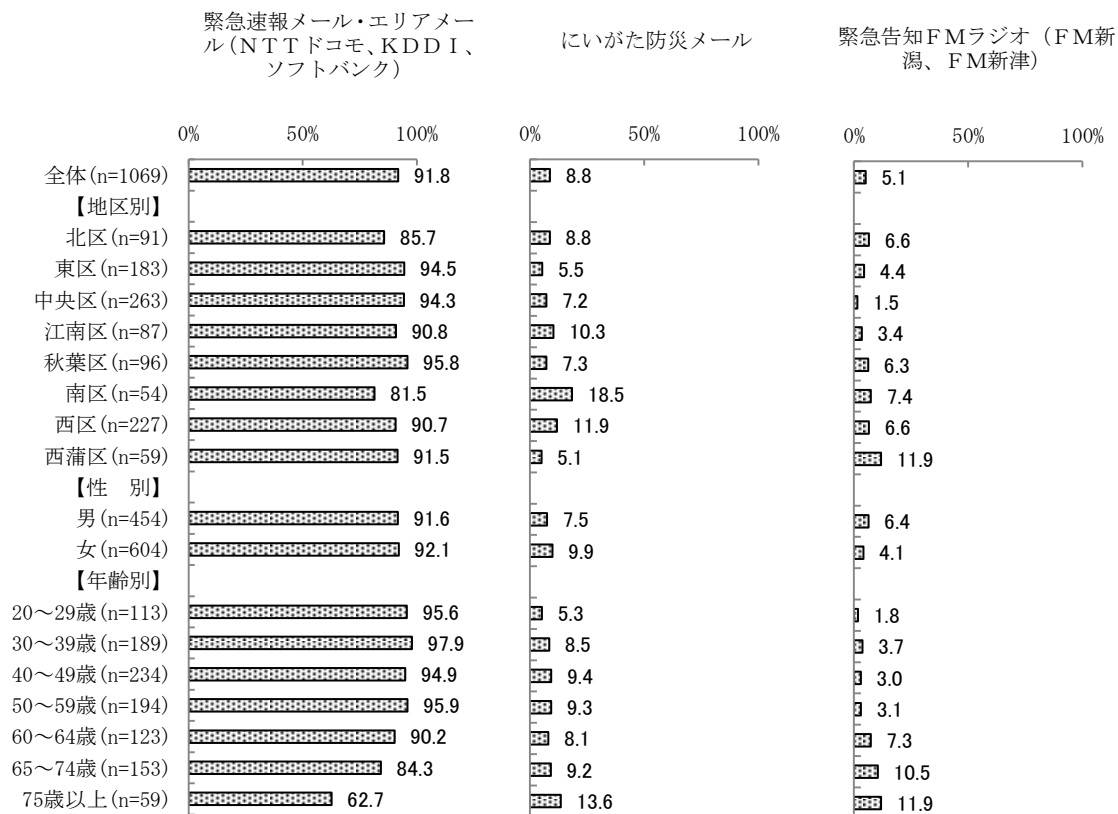
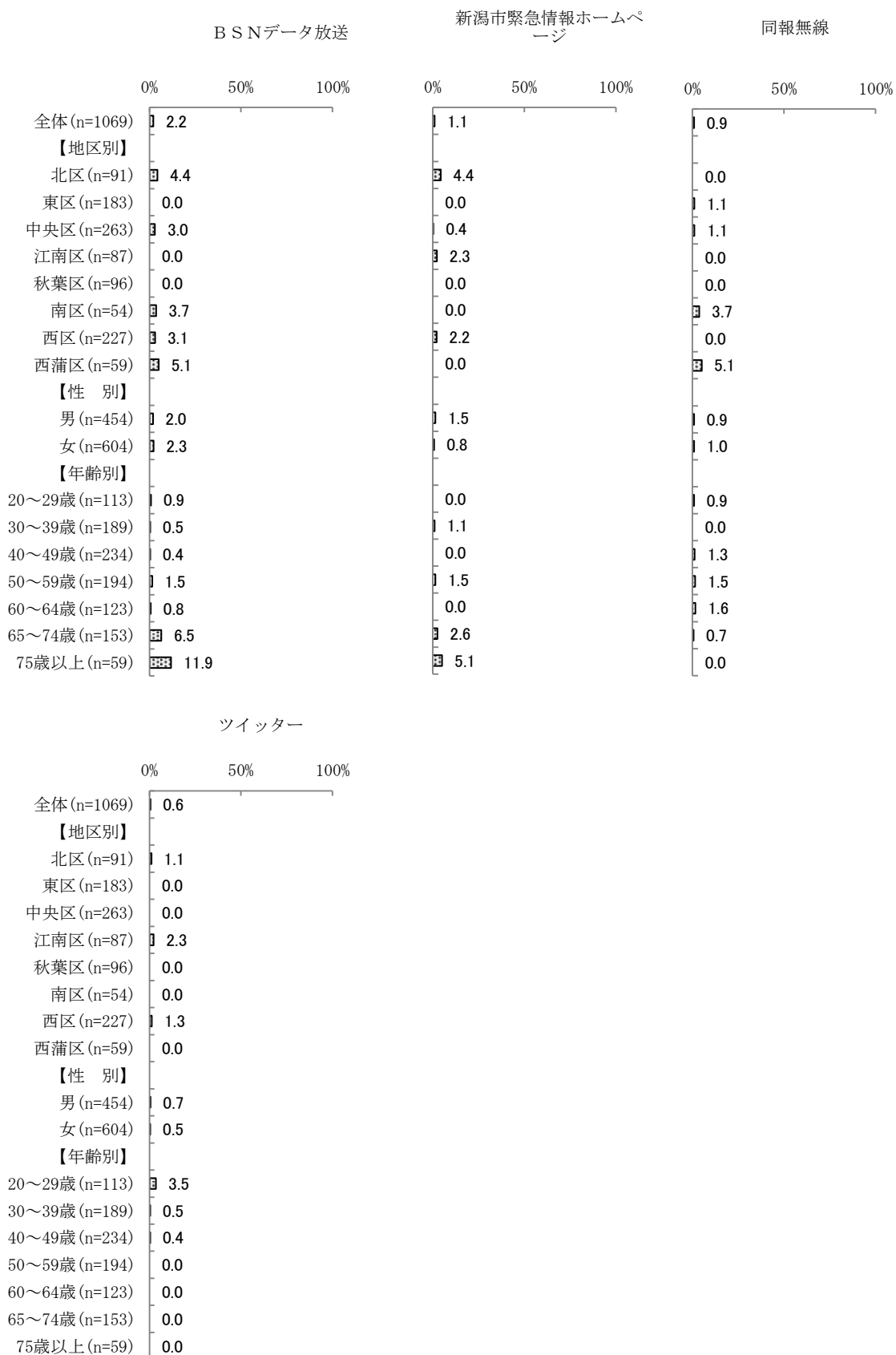
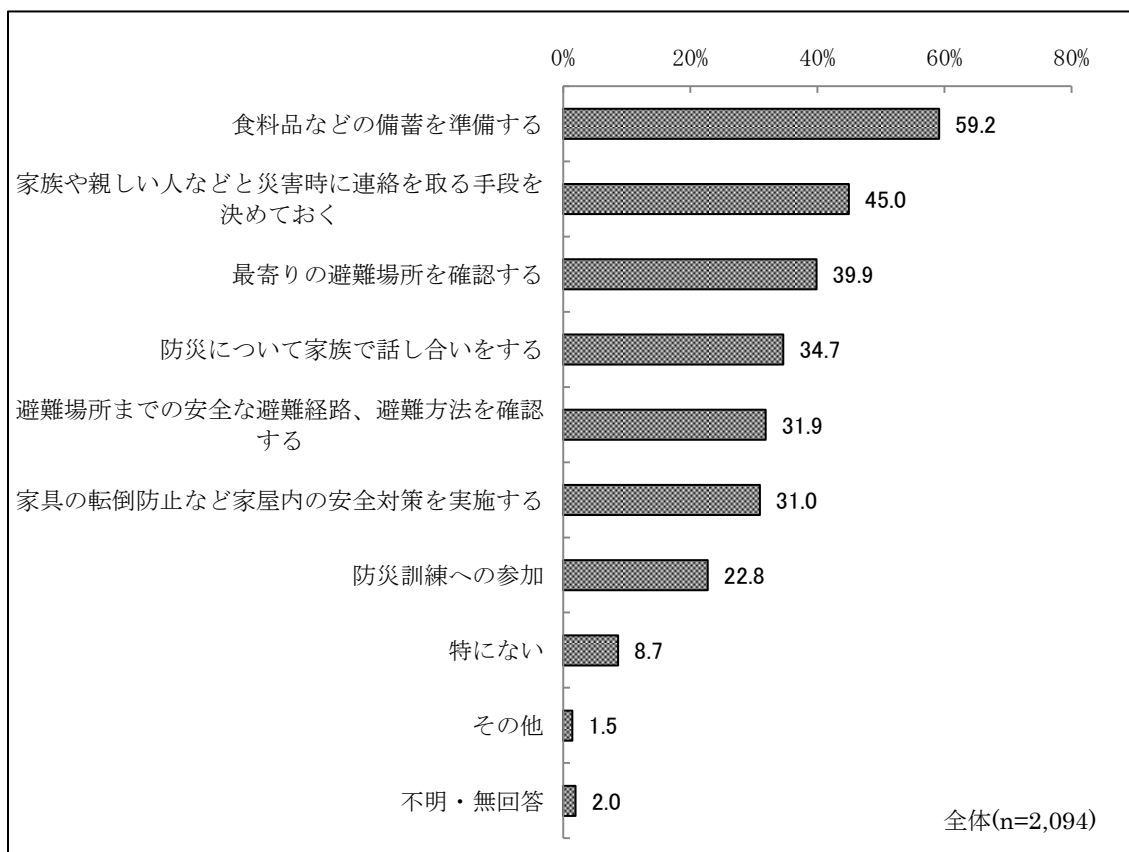


図 1-9 災害情報（訓練放送）を受け取った情報伝達手段（地区別／性別／年齢別） 2/2



(10) 今後実施したい災害対策

問17 あなたが今後、災害への備えについて実施していきたいと思うことはありますか。
(〇はいくつでも)



—— 実施したい災害対策は「食料品などの備蓄を準備する」が最多 ——

【全体結果】

今後実施したい災害対策は、「食料品などの備蓄を準備する」(59.2%)が最も高い割合となっており、「家族や親しい人などと災害時に連絡を取る手段を決めておく」(45.0%)、「最寄りの避難場所を確認する」(39.9%)と続いている。

【属性別結果】(図1-10参照)

①地区別

「食料品などの備蓄を準備する」については、江南区(62.6%)が最も割合が高く、次いで東区(61.9%)、西区(61.8%)となっている。「家族や親しい人などと災害時に連絡を取る手段を決めておく」では、西蒲区(50.0%)が最も割合が高い。

②性別

ほぼ全ての項目で女性が男性を上回っている一方、「特にない」では、男性（12.5%）が女性（5.7%）を上回っている。

③年齢別

全体結果で最も割合の高かった「食料品などの備蓄を準備する」では、40～49歳（69.2%）、30～29歳（67.4%）、20～29歳（65.8%）が、50代以上の世代より高い割合となっている。

図 1-10 今後実施したい災害対策（地区別／性別／年齢別） 1/2

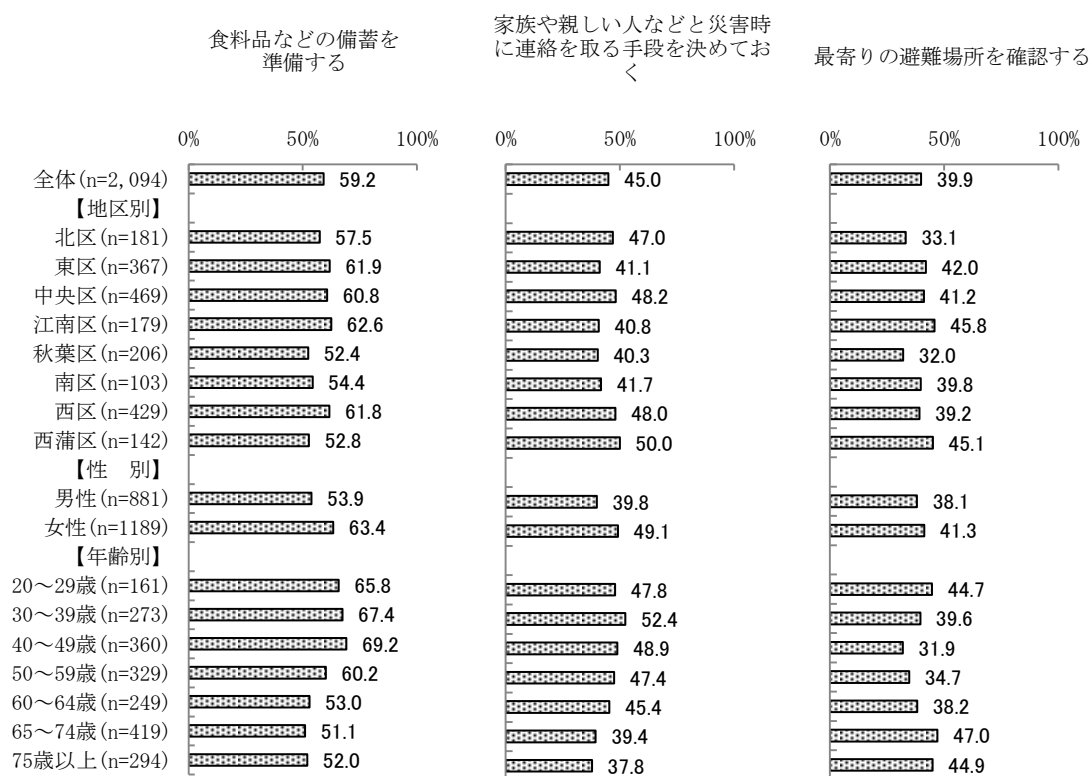
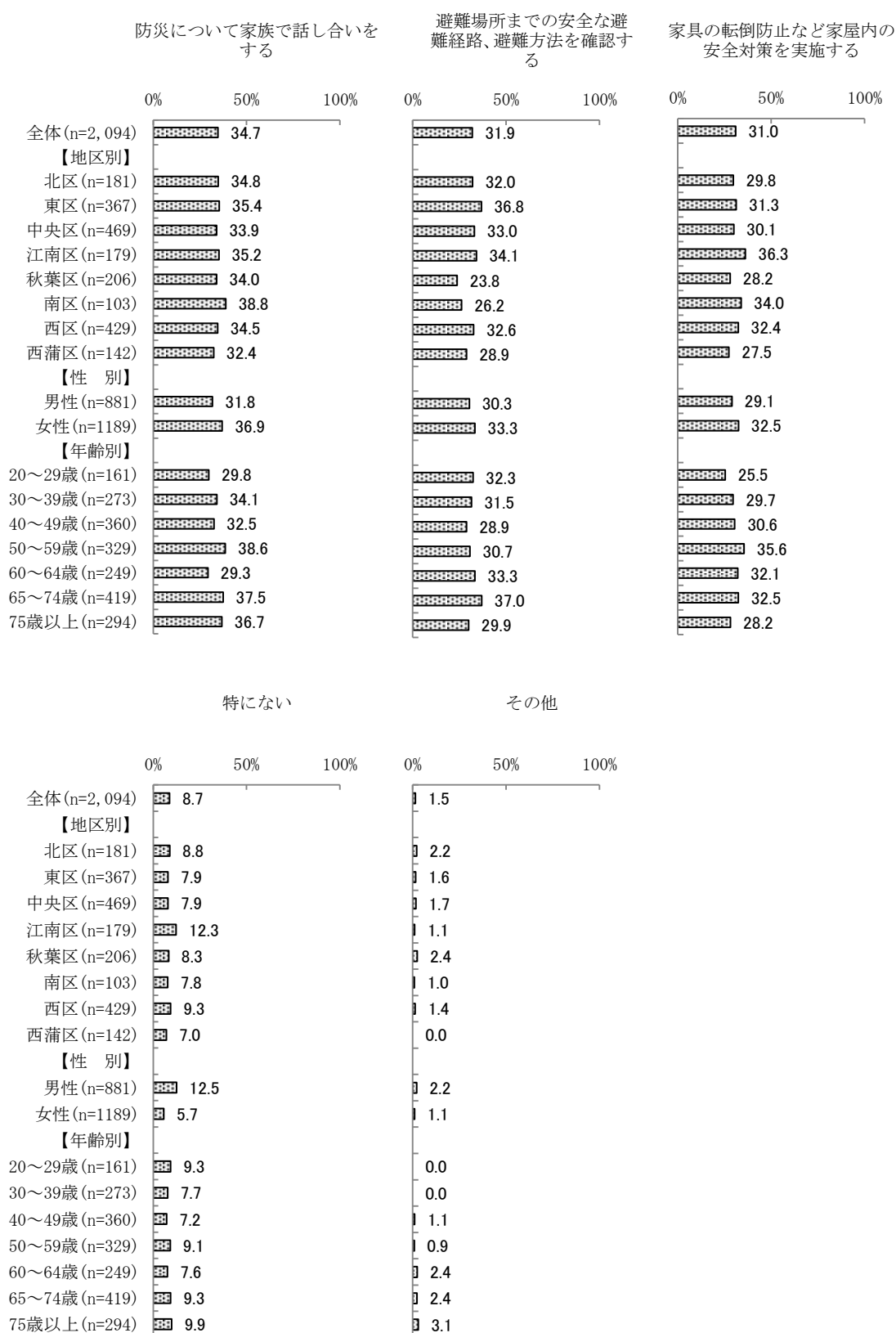


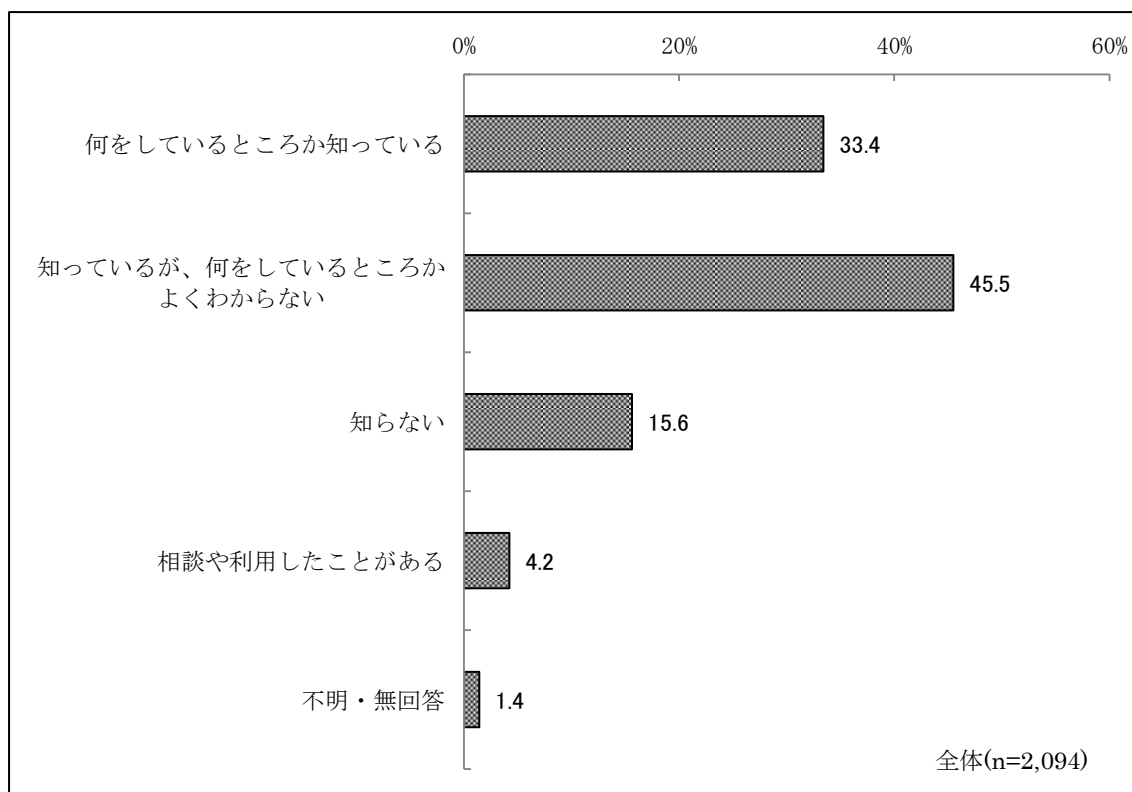
図 1-10 今後実施したい災害対策（地区別／性別／年齢別） 2/2



2. 消費生活について

(1) 消費生活センターの認知度

問18 あなたは、消費生活センターを知っていますか。
(○は1つだけ)



消費生活センターの知名度は8割以上

【全体結果】

消費生活センターについては、「何をしているところか知っている」(33.4%)、「知っているが、何をしているところかよくわからない」(45.5%)、「相談や利用したことがある」(4.2%)を合わせると、知名度は8割を超える。「知らない」は15.6%にとどまっている。

【属性別結果】(図2-1参照)

①地区別

「何をしているところか知っている」の割合が最も高いのは中央区(36.7%)で、次いで西区(35.9%)、秋葉区(33.5%)となっている。「知らない」は、南区(21.4%)、江南区(20.1%)で2割を超えている。

②性別

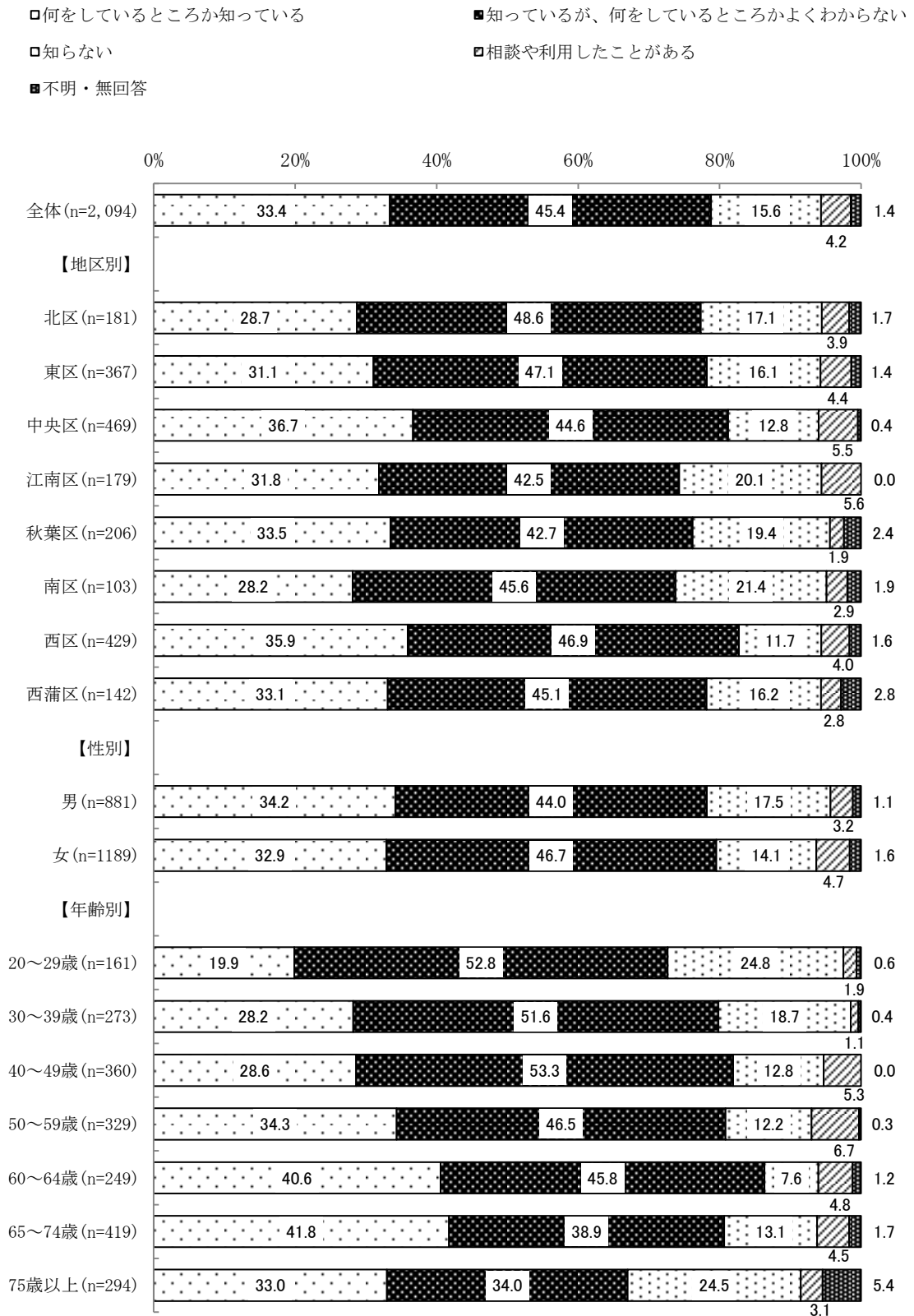
「何をしているところか知っている」については、男性（34.2%）が女性（32.9%）上回っているが、「知らない」の割合でも、男性17.5%に対して女性は14.1%となっている。

③年齢別

「何をしているところか知っている」の割合は、65～74歳（41.8%）が最も高く、60～64歳（40.6%）が続き、いずれも4割を超えている。一方、20～29歳では19.9%にとどまっている。

「知らない」では、20～29歳（24.8%）、75歳以上（24.5%）が高い割合となっている。

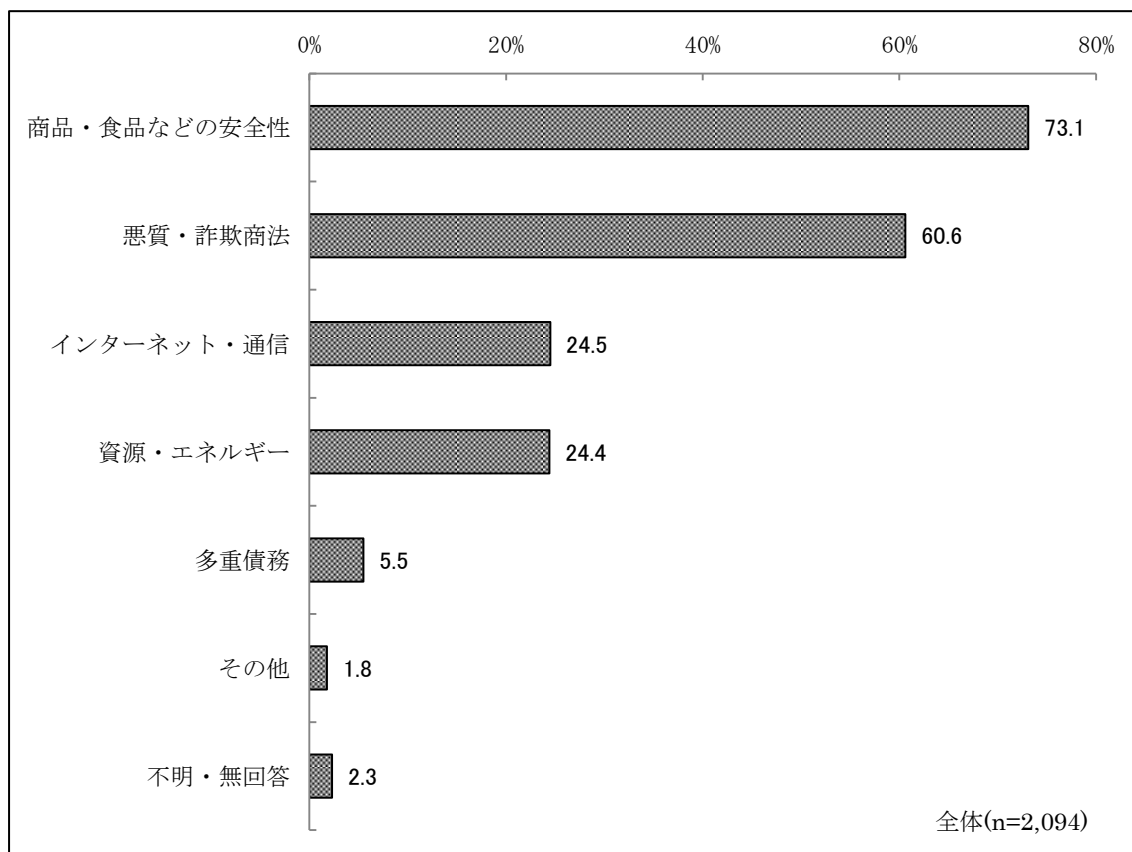
図 2-1 消費生活センターの認知度（地区別／性別／年齢別）



(2) どのような消費者問題に関心があるか

問19 あなたは、どのような消費者問題に関心がありますか。

(○はいくつでも)



—— 「商品・食品などの安全性」、「悪質・詐欺商法」への関心が高い ——

【全体結果】

「商品・食品などの安全性」(73.1%)、「悪質・詐欺商法」(60.6%)への関心が突出して高くなっている。

【属性別結果】(図2-2参照)

①地区別

「商品・食品などの安全性」に関しては、江南区(79.9%)で最も割合が高く、次いで中央区(76.8%)となっている。「悪質・詐欺商法」については、秋葉区(66.0%)、東区(65.7%)で高い割合となっている。

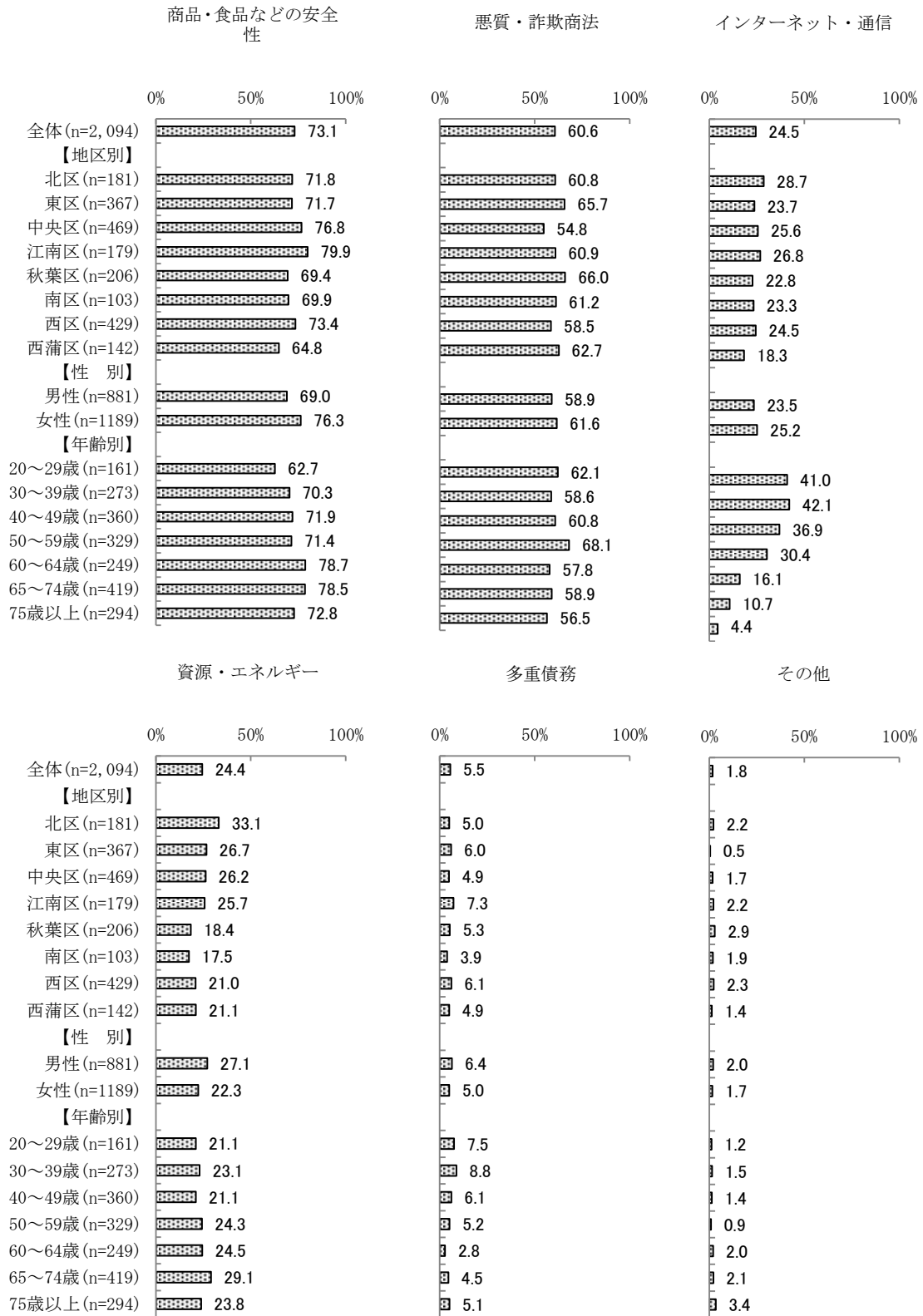
②性別

「商品・食品などの安全性」では、女性（76.3%）の割合が男性（69.0%）よりも高くなっている。「資源・エネルギー」については、男性 27.1%に対して女性 22.3%で、男性の割合が高い。

③年齢別

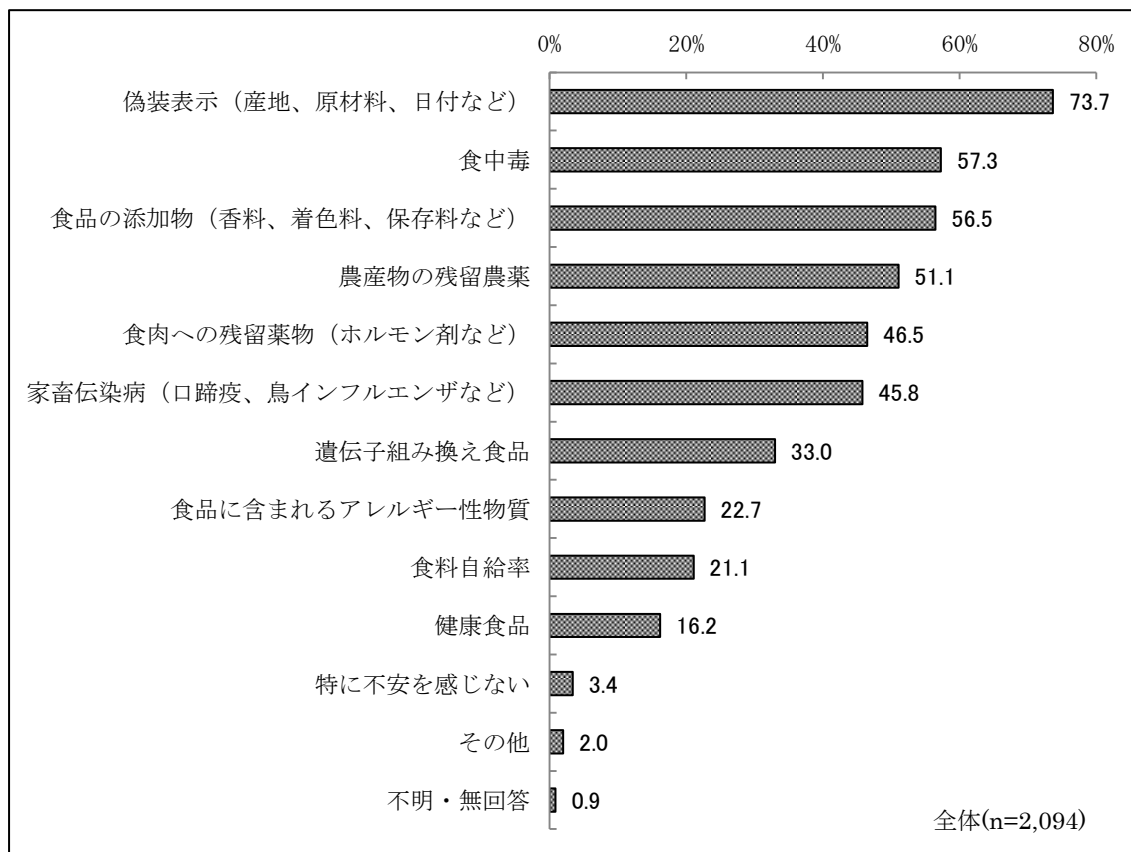
「商品・食品などの安全性」に関しては、60～64 歳（78.7%）、65～74 歳（78.5%）が高い割合となっている。「インターネット・通信」では、20～29 歳（41.0%）、30～39 歳（42.1%）といった若い世代で割合が高い。

図 2-2 どのような消費者問題に関心があるか（地区別/性別/年齢別）



(3) 食品の安全性についての不安

問20 あなたは食品の安全性について、どんなことに不安を感じますか。
(○はいくつでも)



「偽装表示 (産地、原材料、日付など)」への不安が大きい

【全体結果】

食品の安全性について最も不安が大きいのは、「偽装表示 (産地、原材料、日付など)」(73.7%) となっている。「食中毒」(57.3%)、「食品添加物 (香料、着色料、保存料など)」(56.5%)、「農産物の残留農薬」(51.1%)も5割を超えている。

【属性別結果】(図2-3参照)

①地区別

「偽装表示 (産地、原材料、日付など)」については、地区によってそれほど大きな差はないが、江南区(77.1%)で最も割合が高くなっている。

「食品添加物 (香料、着色料、保存料など)」でも江南区での割合が63.1%で最も高く、「食中毒」では南区(64.1%)の割合が高い。

②性別

性別差が大きいのは「食品添加物（香料、着色料、保存料など）」で、男性 48.6%に対して、女性は 62.7%となっている。

③年齢別

全体結果で最も割合の高かった「偽装表示（産地、原材料、日付など）」では、50～59歳（80.2%）の割合が最も高く、20～29歳（64.0%）で最も低くなっている。

「食中毒」では、75歳以上（64.3%）、20～29歳（64.0%）で、割合が高くなっている。

図 2-3 食品の安全性についての不安（地区別/性別/年齢別） 1/2

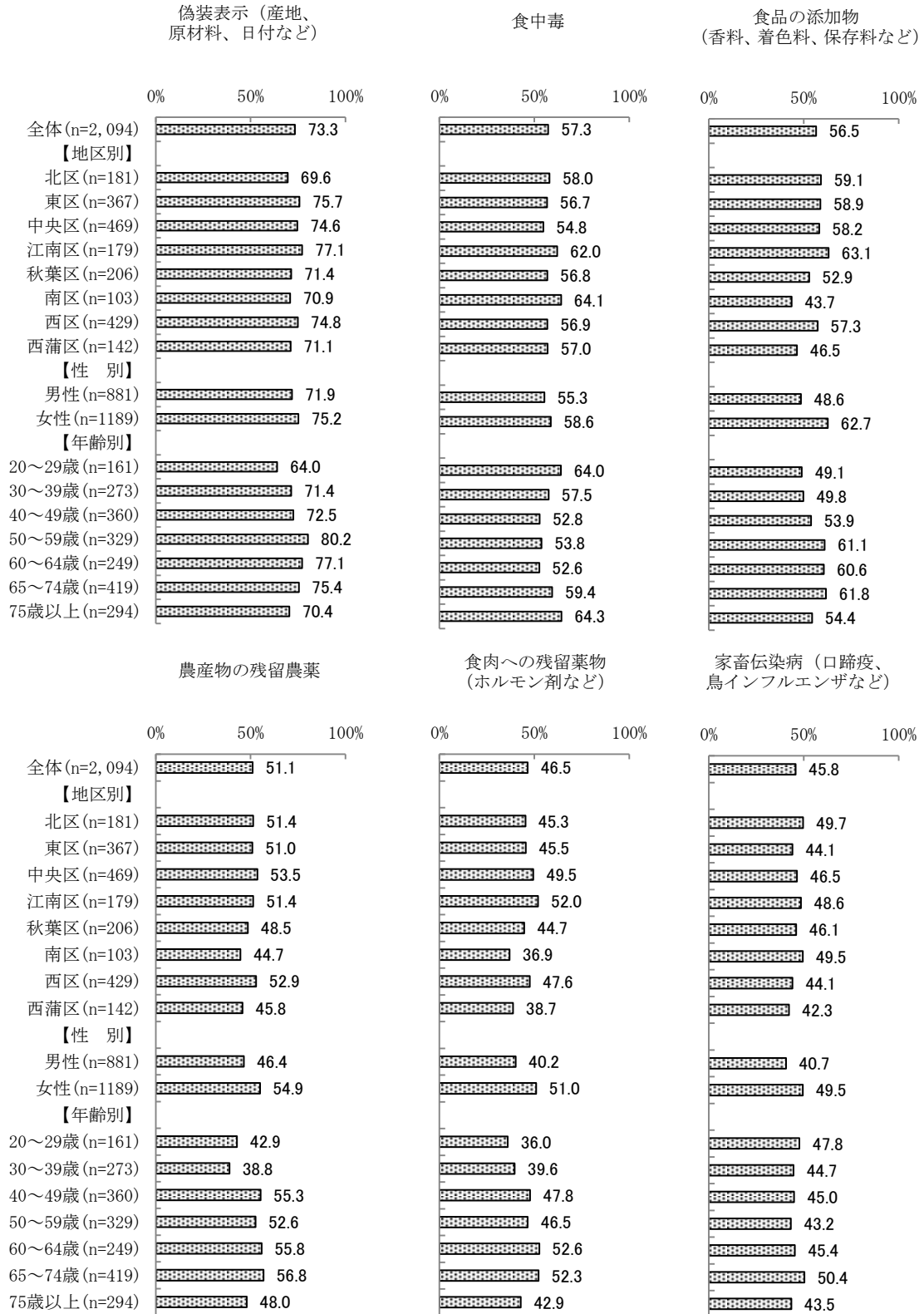
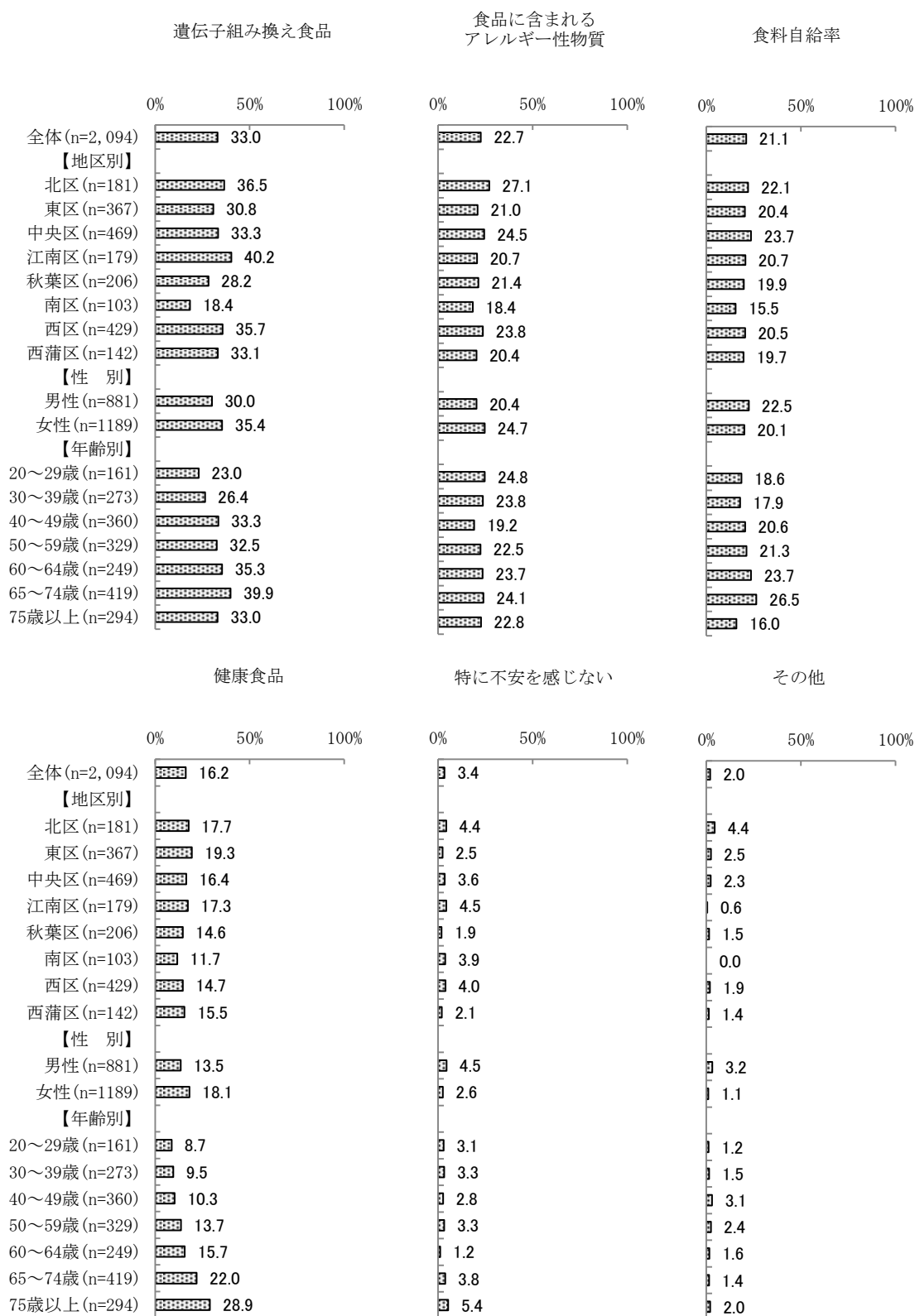


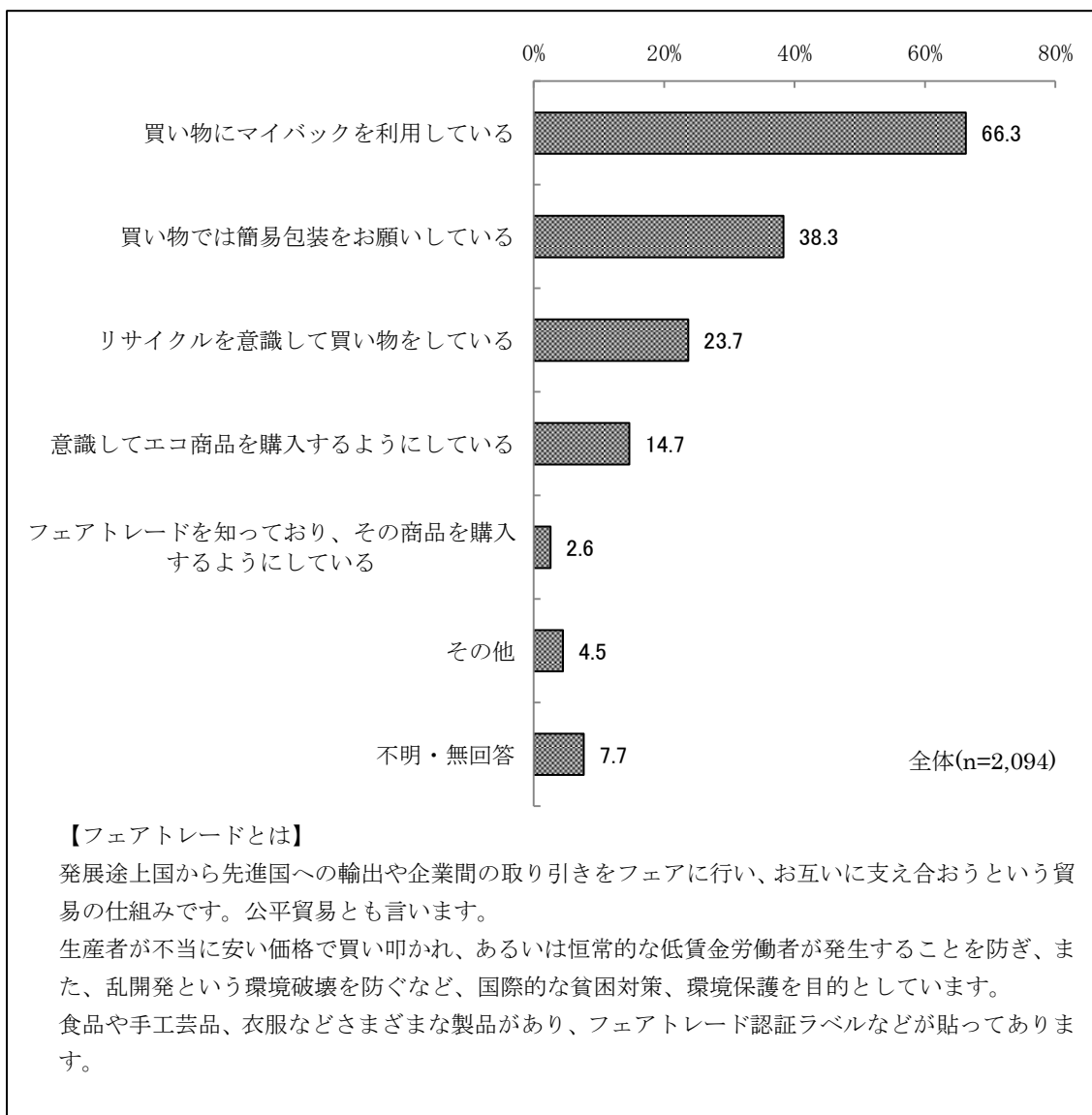
図 2-3 食品の安全性についての不安（地区別/性別/年齢別） 2/2



(4) 環境にやさしい買い物をしているか

問21 あなたは環境にやさしい買い物をしていますか。

(○はいくつでも)



「買い物にマイバッグを利用している」が6割以上

【全体結果】

「買い物にマイバッグを利用している」(66.3%)が、最も割合が高く、6割を超える。次いで、「買い物では簡易包装をお願いしている」(38.3%)で、4割弱となっている。

一方、「フェアトレードを知っており、その商品を購入するようにしている」は2.6%と低くなっている。

【属性別結果】（図 2-4 参照）

①地区別

「買い物にマイバッグを利用している」は、中央区（72.5%）で最も高くなっており、江南区（69.8%）、西区（69.0%）が続いている。最も低いのは秋葉区（54.9%）となっている。

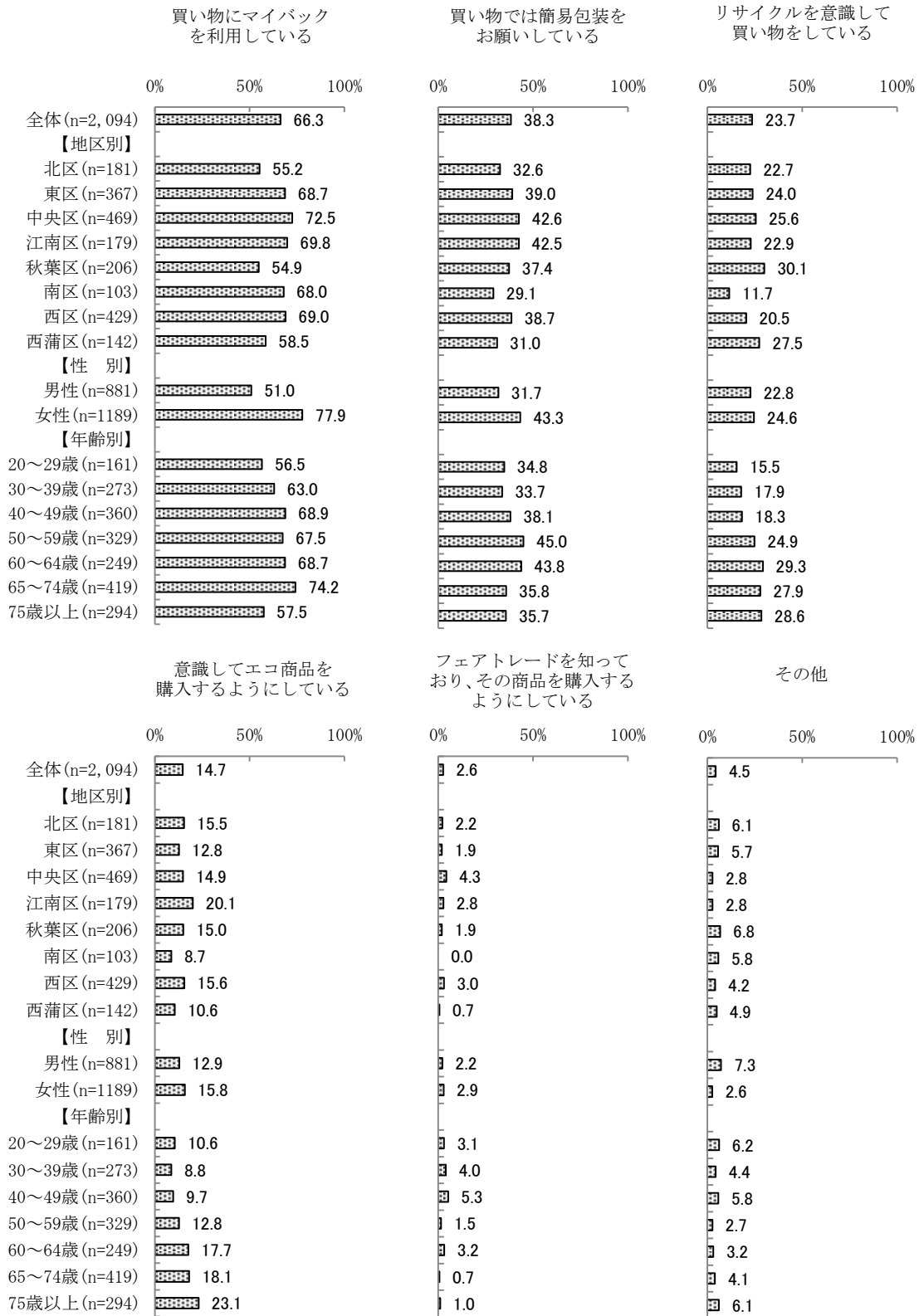
②性別

ほぼ全ての項目で女性の割合が高くなっている。特に「買い物にマイバッグを利用している」では、男性 51.0%に対し、女性は 77.9%となっている。

③年齢

「買い物にマイバッグを利用している」では 65～74 歳（74.2%）の割合が最も高く、「買い物では簡易包装をお願いしている」では 50～59 歳（45.0%）が最も高くなっている。

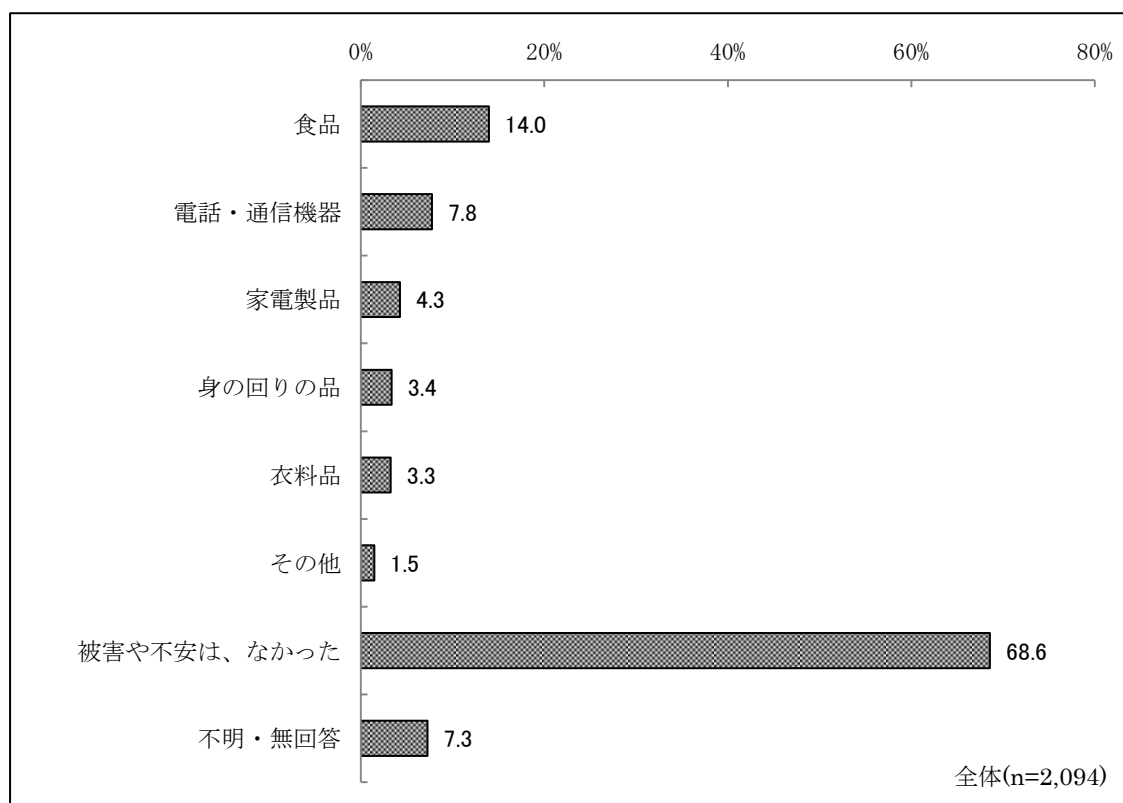
図 2-4 環境にやさしい買い物をしているか（地区別/性別/年齢別）



(5) 購入した商品・サービスからの被害や不安

問22 あなたが最近1年間に購入した商品や利用したサービスについて、経済的または身体的な被害を受けたことや、何らかの不安を感じたことがありますか。
「商品」と「サービス」別に教えてください。
(○はいくつでも)

A. 商品



7割弱が「被害や不安は、なかった」と回答

【全体結果】

「被害や不安は、なかった」(68.6%)が7割弱で、最も割合が高くなっている。被害や不安を感じたことでは、「食品」(14.0%)で1割を超え、次いで「電話・通信機器」(7.8%)となっている。

【属性別結果】(図2-5-1参照)

①地区別

「食品」については、西区(16.8%)で割合が最も高く、次いで西蒲区(15.5%)、中央区(14.9%)と続く。南区(7.8%)で割合が最も低い。「電話・通信機器」では、西蒲区(12.0%)で割合が最も高く、南区(2.9%)で割合が最も低い。

②性別

性別による大きな差は見られない。

③年齢別

30～39歳で、「食品」(18.3%)と答えた割合が、他の年代と比べて高くなっている。

図 2-5-1 購入した商品からの被害や不安 (地区別/性別/年齢別) 1/2

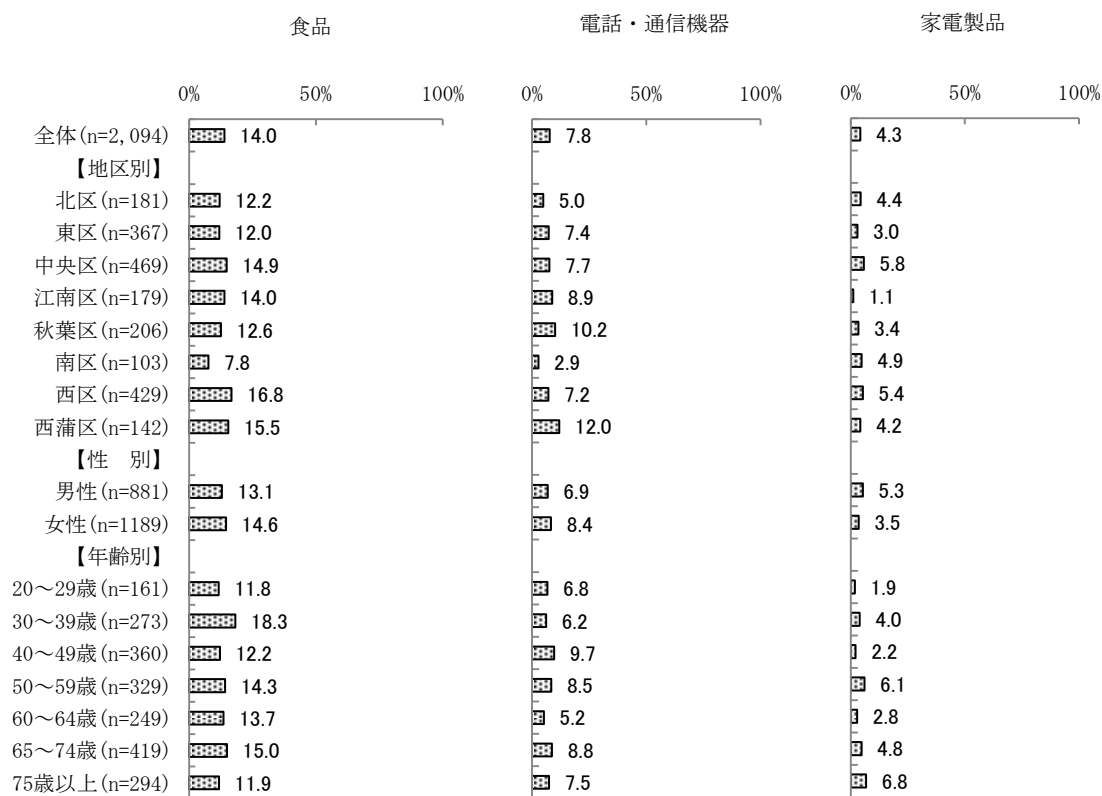
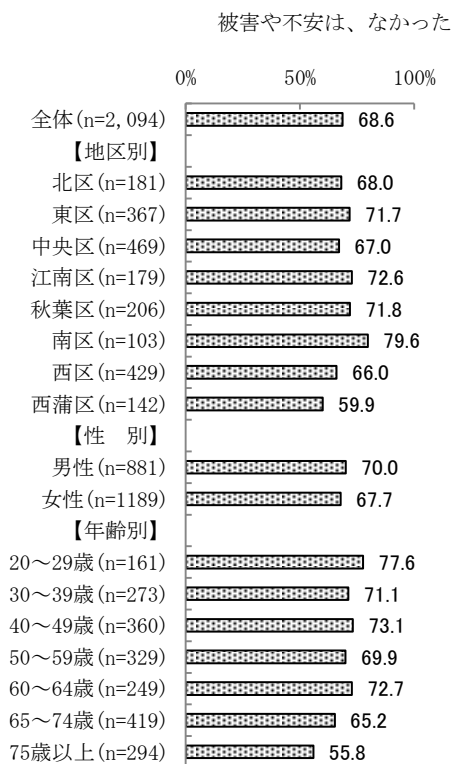
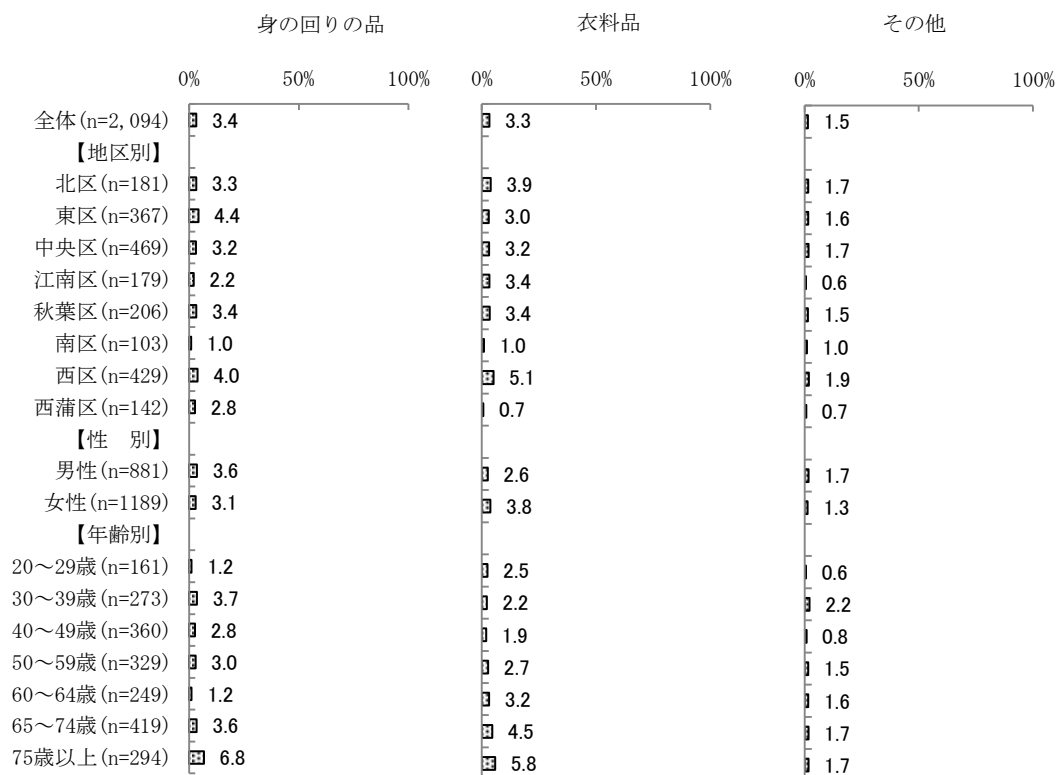
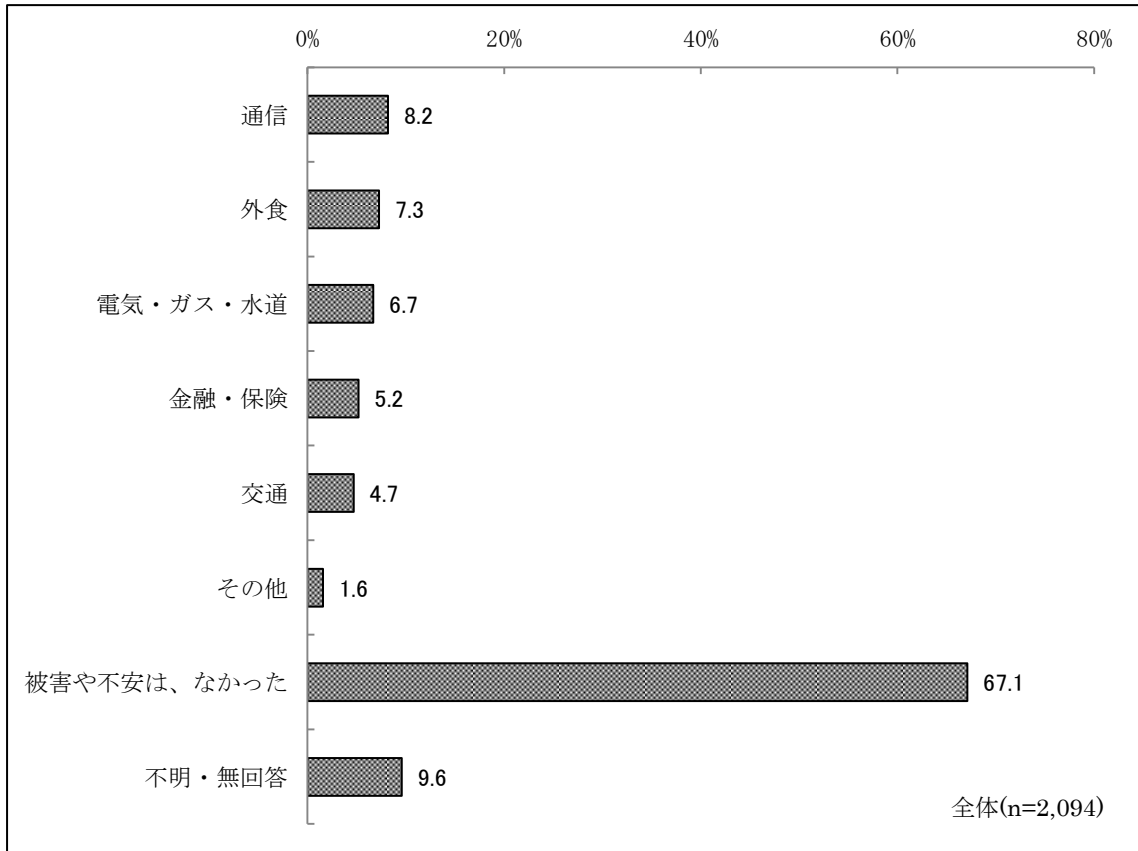


図 2-5-1 購入した商品からの被害や不安（地区別/性別/年齢別） 2/2



B. サービス



7割弱が「被害や不安は、なかった」と回答

【全体結果】

「被害や不安は、なかった」(67.1%)が7割弱で、最も割合が高い。被害や不安を感じたことでは、「通信」で8.2%、次いで「外食」(7.3%)、「電気・ガス・水道」(6.7%)と続いている。

【属性別結果】(図 2-5-2 参照)

①地区別

「通信」では、北区、中央区がともに9.4%で最も高い割合となっており、江南区(5.0%)が最も低い。「外食」では、西区(11.0%)が唯一1割を超えている。

②性別

性別による差はほとんど見られない。

③年齢別

「通信」では、40～49歳(12.2%)、50～59歳(10.9%)でそれぞれ1割を超えた。

図 2-5-2 購入したサービスからの被害や不安（地区別/性別/年齢別） 1/2

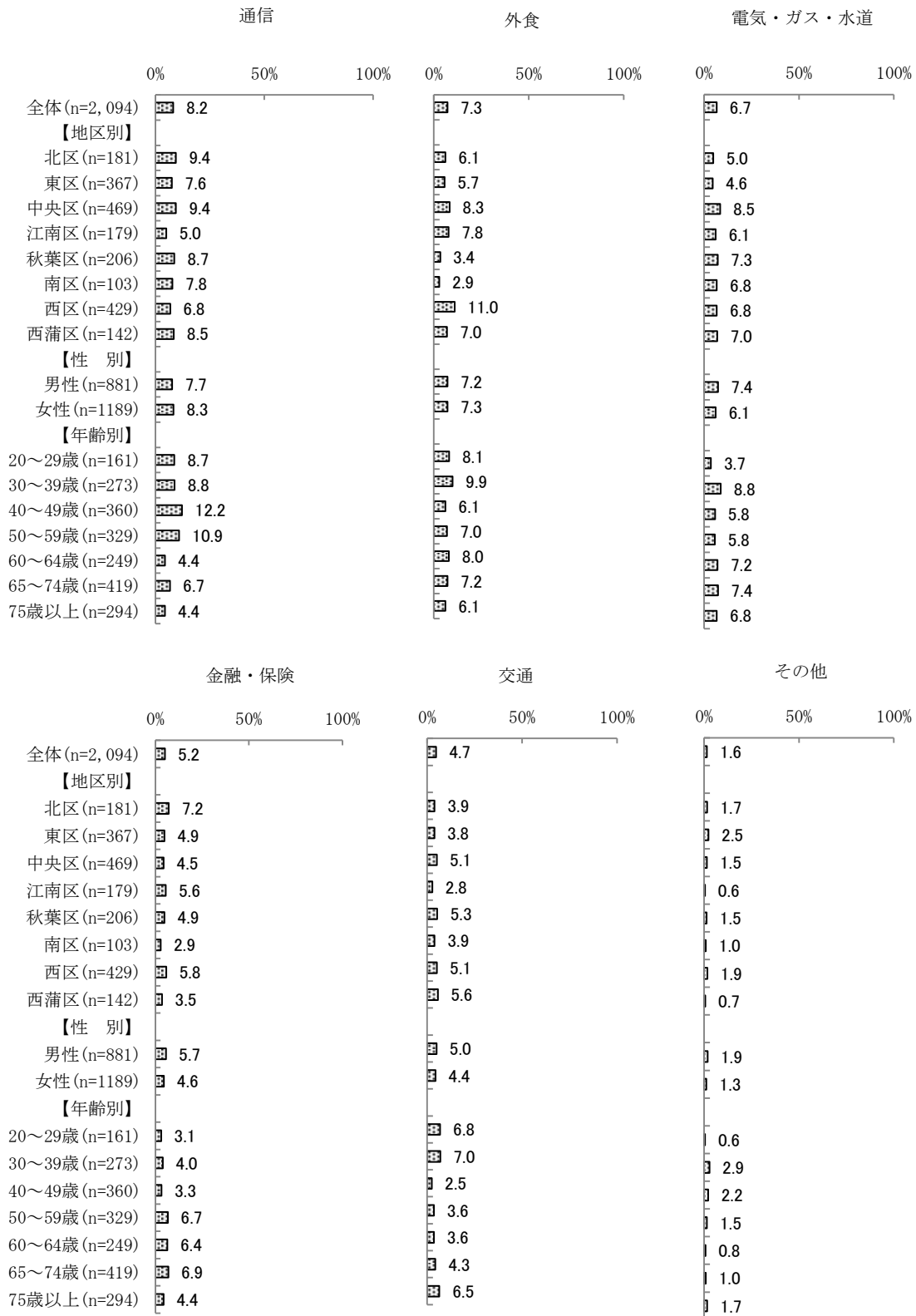
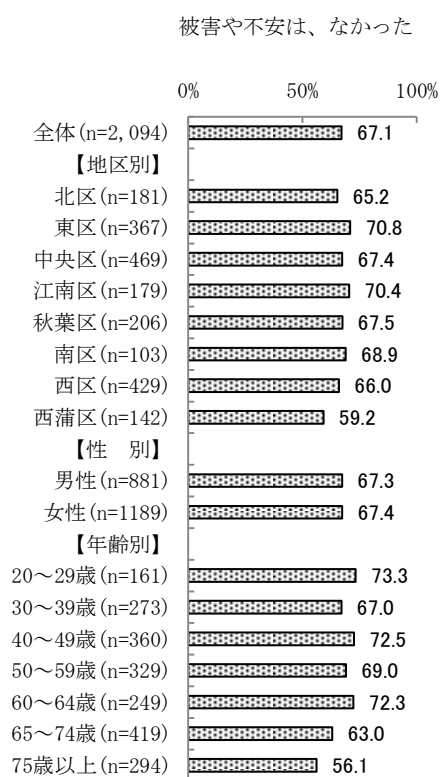


図 2-5-2 購入したサービスからの被害や不安（地区別/性別/年齢別） 2/2



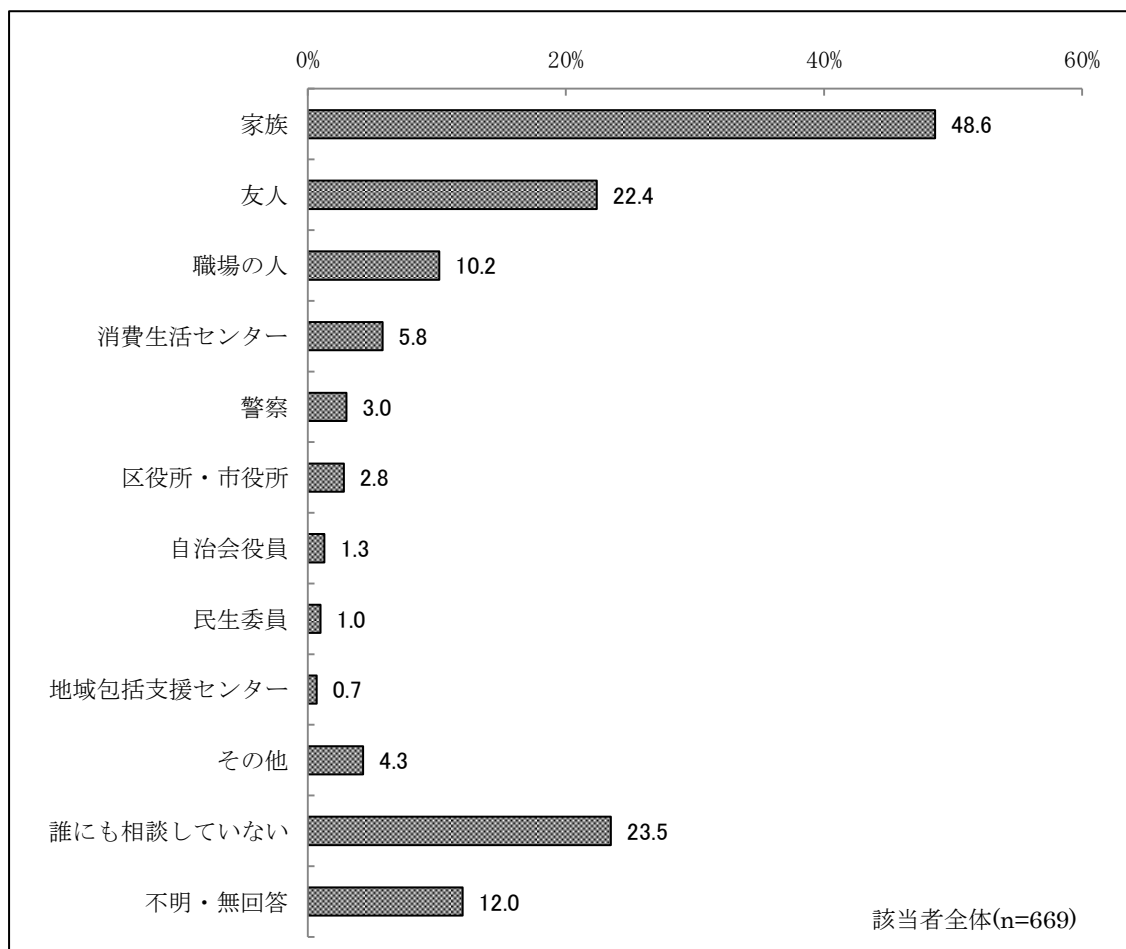
(6) 購入した商品・サービスからの被害や不安をだれに相談したか

(問22で「被害や不安があった」と答えた方への該当質問)

問23 商品や利用したサービスについて、経済的または身体的な被害を受けたことや、何らかの不安を感じたことがあると答えた方にお聞きします。

商品やサービスで被害を受けたり、不安を感じたとき、だれに相談しましたか。

(○はいくつでも)



相談相手は「家族」が最多

【全体結果】

購入した商品・サービスからの被害や不安の相談相手は、「家族」(48.6%)の割合が最も高く、次いで「友人」(22.4%)、職場の人(10.2%)となっている。

「誰にも相談していない」(23.5%)の割合も高い。

【属性別結果】（図 2-6 参照）

①地区別

「家族」については、西蒲区（60.9%）の割合が最も高く、江南区（58.3%）が続く。「友人」は江南区で 33.3%と最多になっている。西蒲区（21.7%）と北区（19.6%）では「職場の人」に相談する割合が高い。

「誰にも相談していない」では、南区（44.8%）で割合が最も高い。

②性別

「家族」、「友人」は男性（各 36.9%、17.5%）と比べて、女性（各 57.1%、26.1%）で割合が高い。

「誰にも相談していない」は、女性の 17.3%に比べて男性は 32.8%と高くなっている。

③年齢別

「家族」では、65～74 歳（33.1%）で、他の年齢と比べて、割合が低くなっている。「誰にも相談していない」は、50～59 歳（32.4%）で、他の年齢と比べて、割合が高い。

図 2-6 購入した商品・サービスからの被害や不安をだれに相談したか
 (地区別/性別/年齢別) 1/2

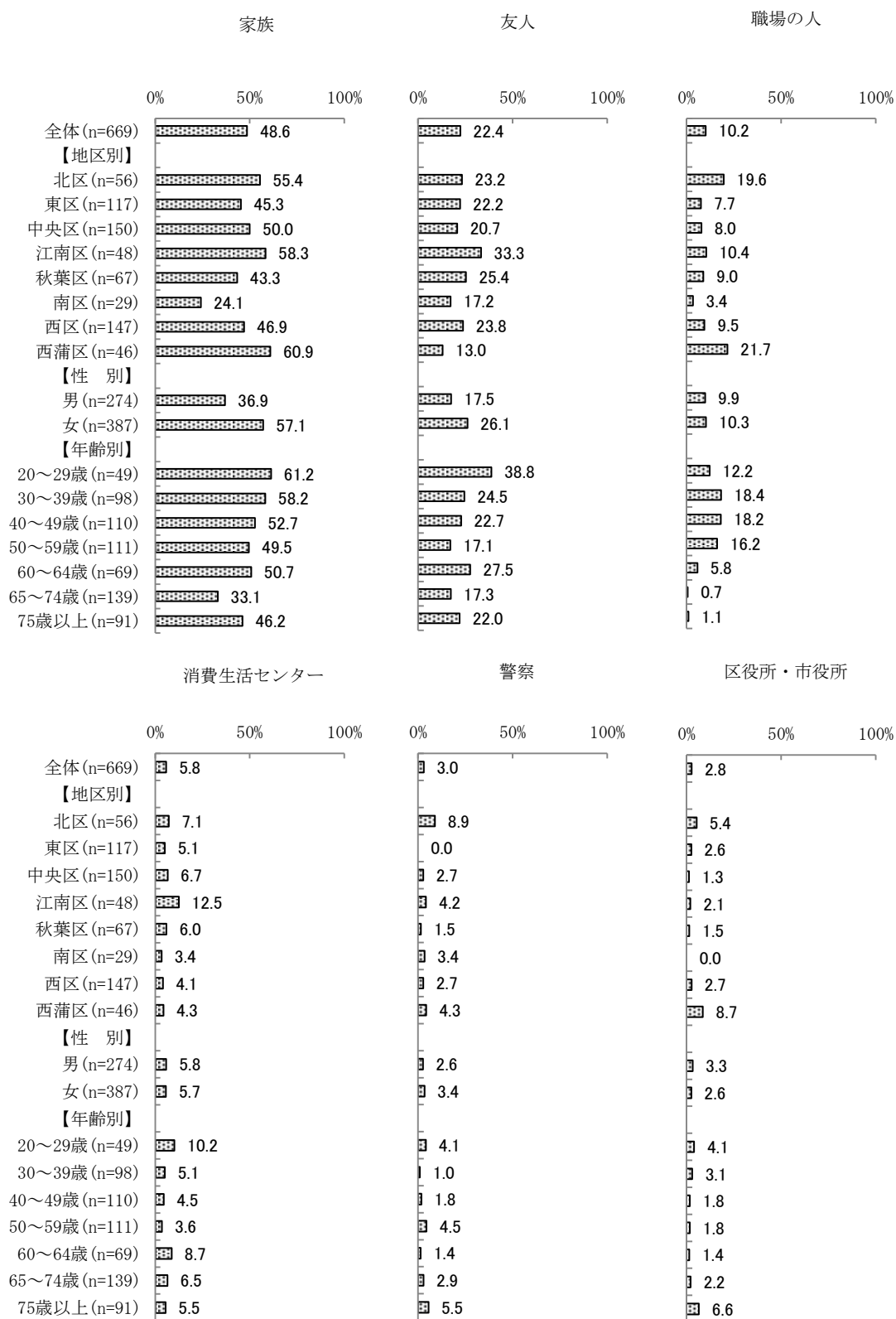
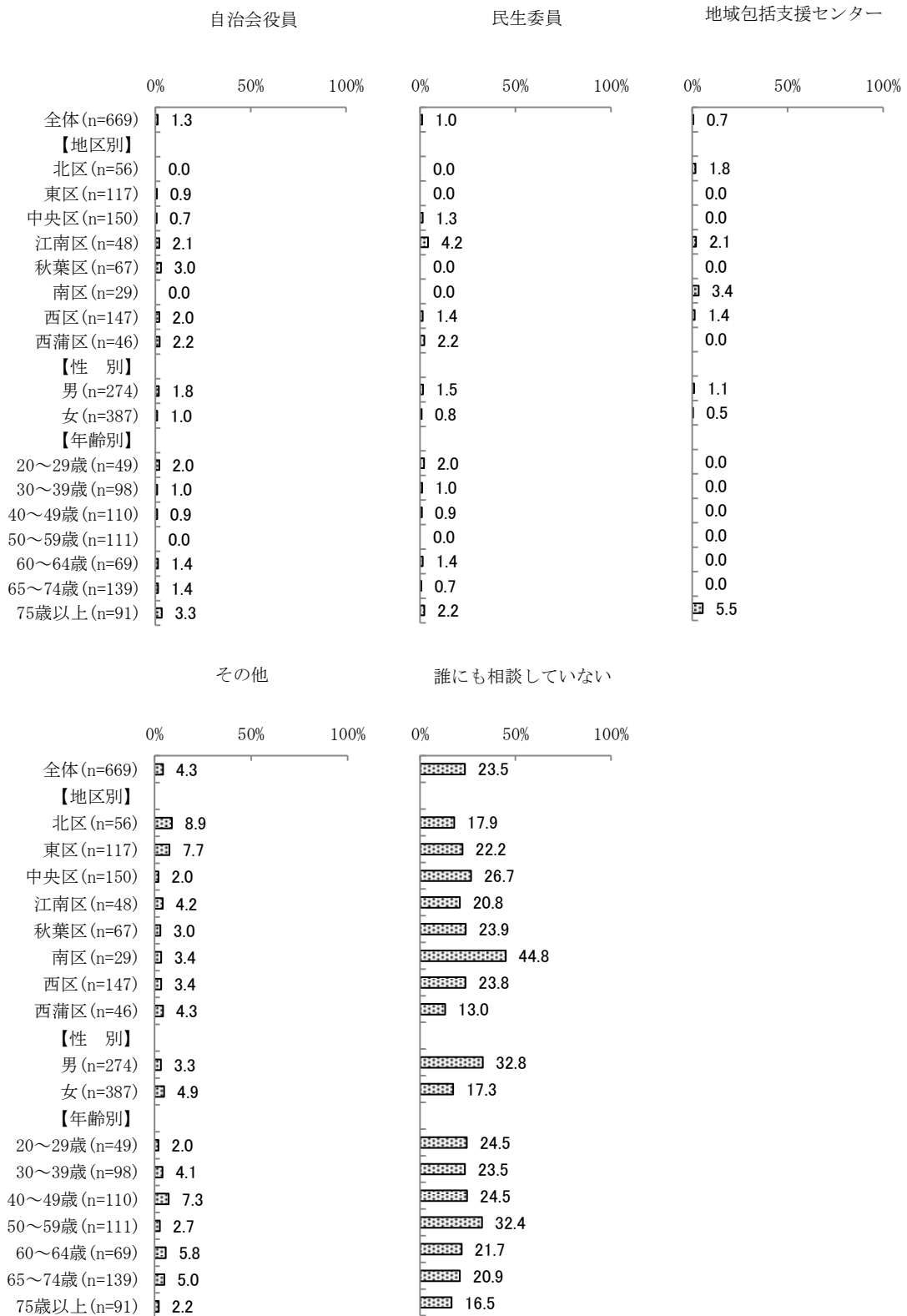
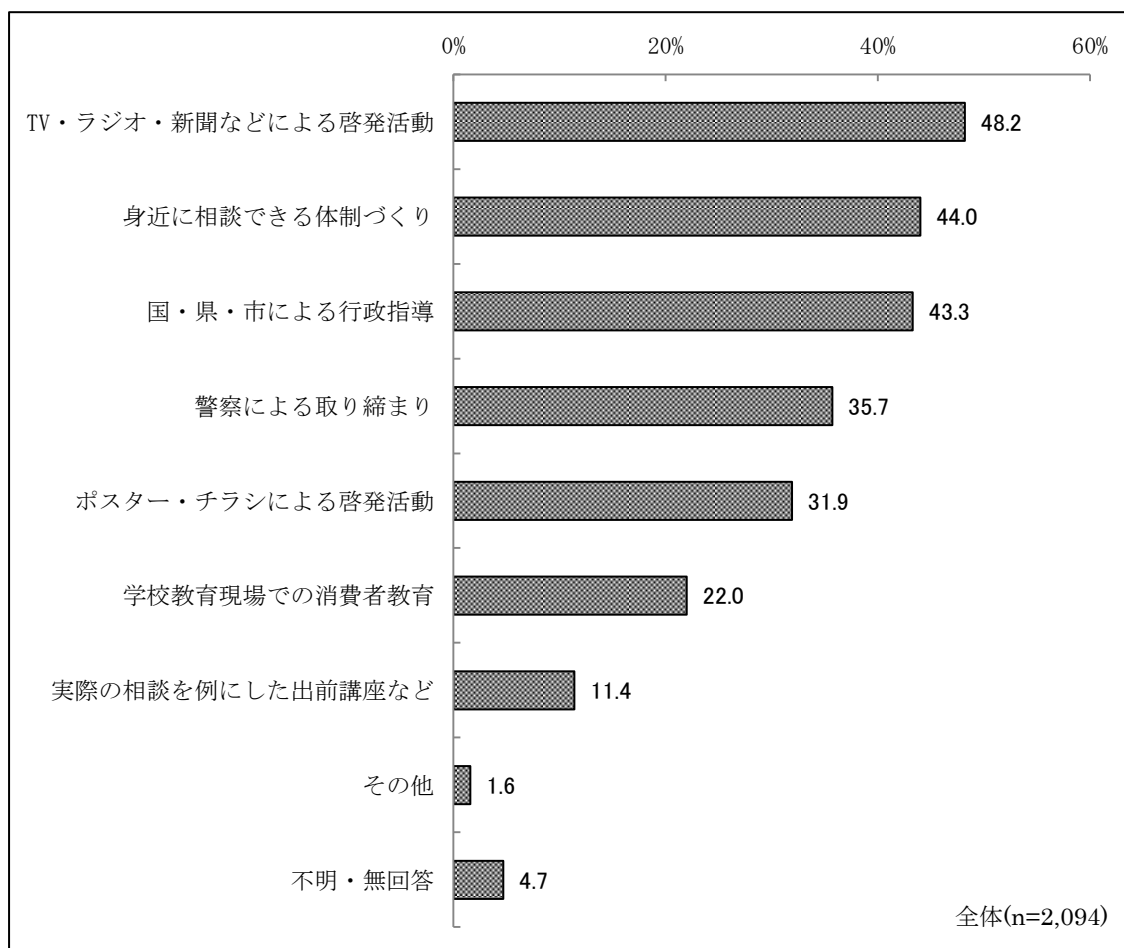


図 2-6 購入した商品・サービスからの被害や不安をだれに相談したか
(地区別/性別/年齢別) 2/2



(7) 消費生活の不安・被害解消のためにどのような対策が必要か

問24 あなたは、消費生活の不安や被害解消のために、どのような対策が必要だと思いますか。
(○はいくつでも)



「TV・ラジオ・新聞などによる啓発活動」が約5割

【全体結果】

消費生活の不安・被害解消のための対策としては、「TV・ラジオ・新聞などによる啓発活動」(48.2%)、「身近に相談できる体制づくり」(44.0%)、「国・県・市による行政指導」(43.3%)がいずれも4割を超え、高い割合となっている。

【属性別結果】(図2-7参照)

①地区別

「TV・ラジオ・新聞などによる啓発活動」は東区(52.3%)で最も割合が高く、次いで江南区(52.0%)となっている。「身近に相談できる体制づくり」については、北区で48.6%、

西区で48.0%と高くなっており、南区では35.0%にとどまっている。

②性別

「TV・ラジオ・新聞などによる啓発活動」は男女差はほとんどない。「身近に相談できる体制づくり」では、男性（39.5%）より女性（47.2%）で割合が高い。「国・県・市による行政指導」では、女性（38.8%）より男性（49.1%）で割合が高い。

③年齢別

「TV・ラジオ・新聞などによる啓発活動」は、65～74歳（52.3%）、60～64歳（51.0%）、40～49歳（50.6%）で5割を超えている。30～39歳は38.1%と他の年齢と比べ、割合が低くなっている。

「身近に相談できる体制づくり」では、年齢が高いほど、割合が低い傾向がある。

図 2-7 消費生活の不安・被害解消のためにどのような対策が必要か
 (地区別/性別/年齢別) 1/2

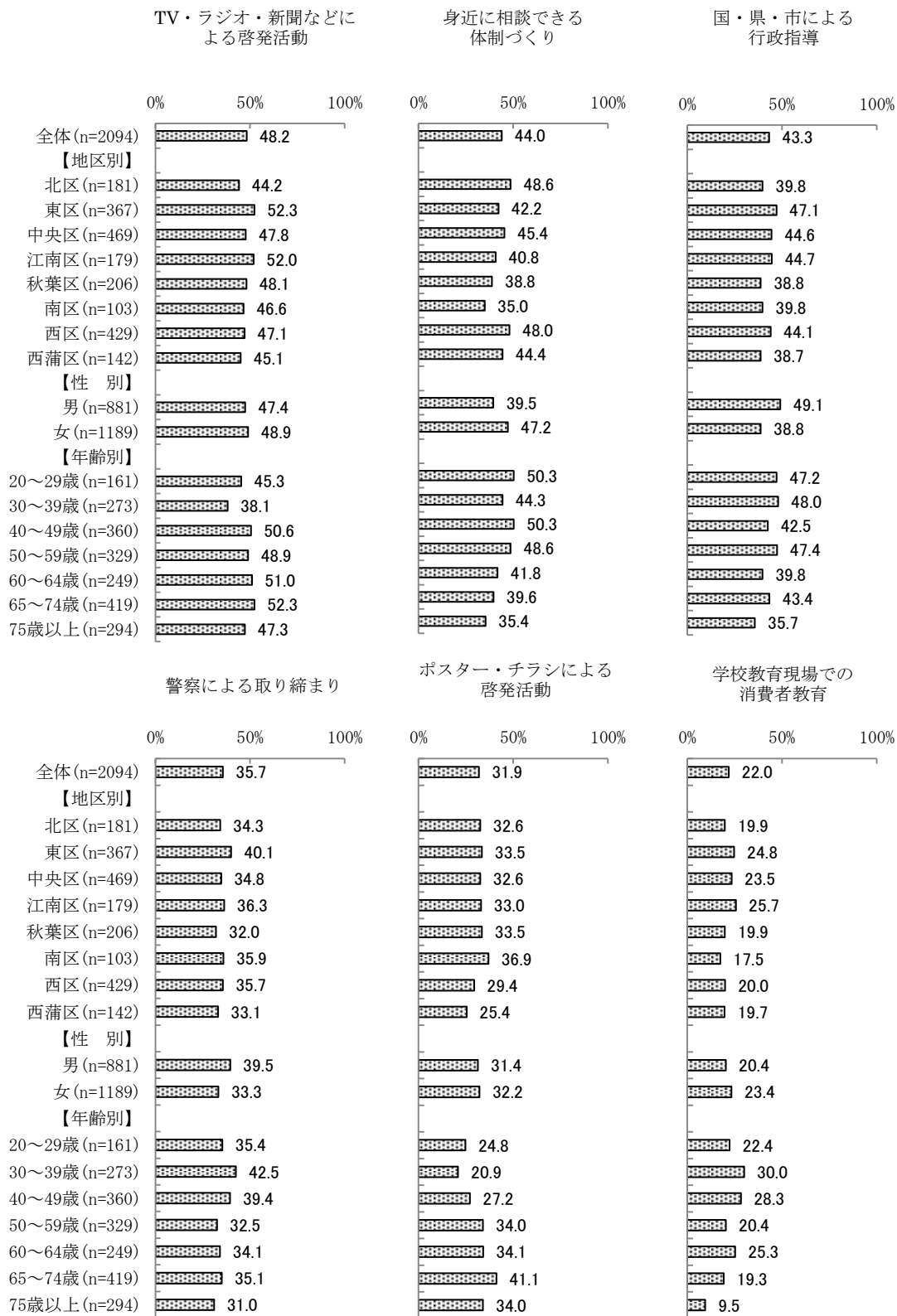
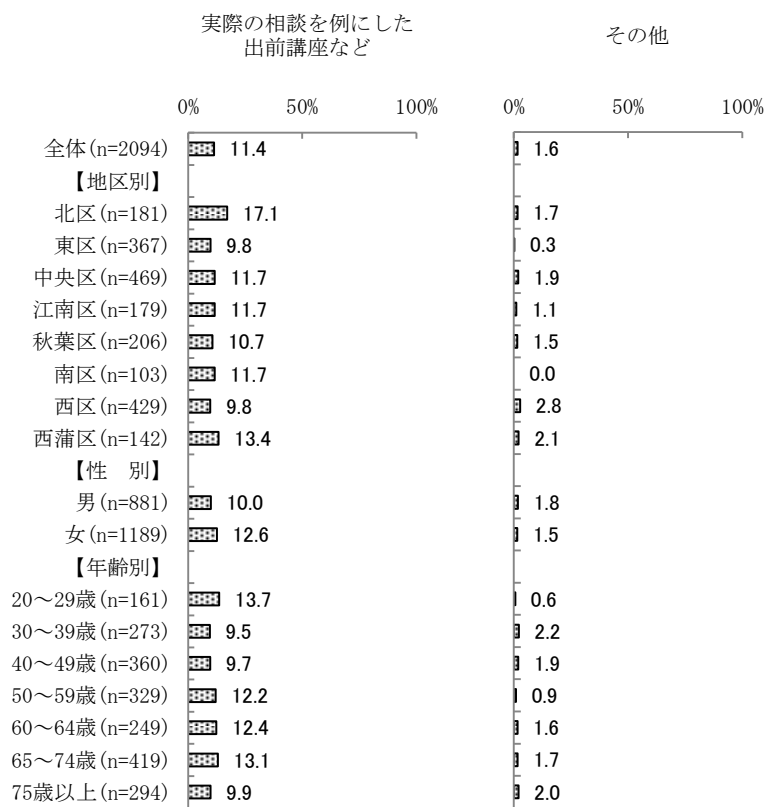


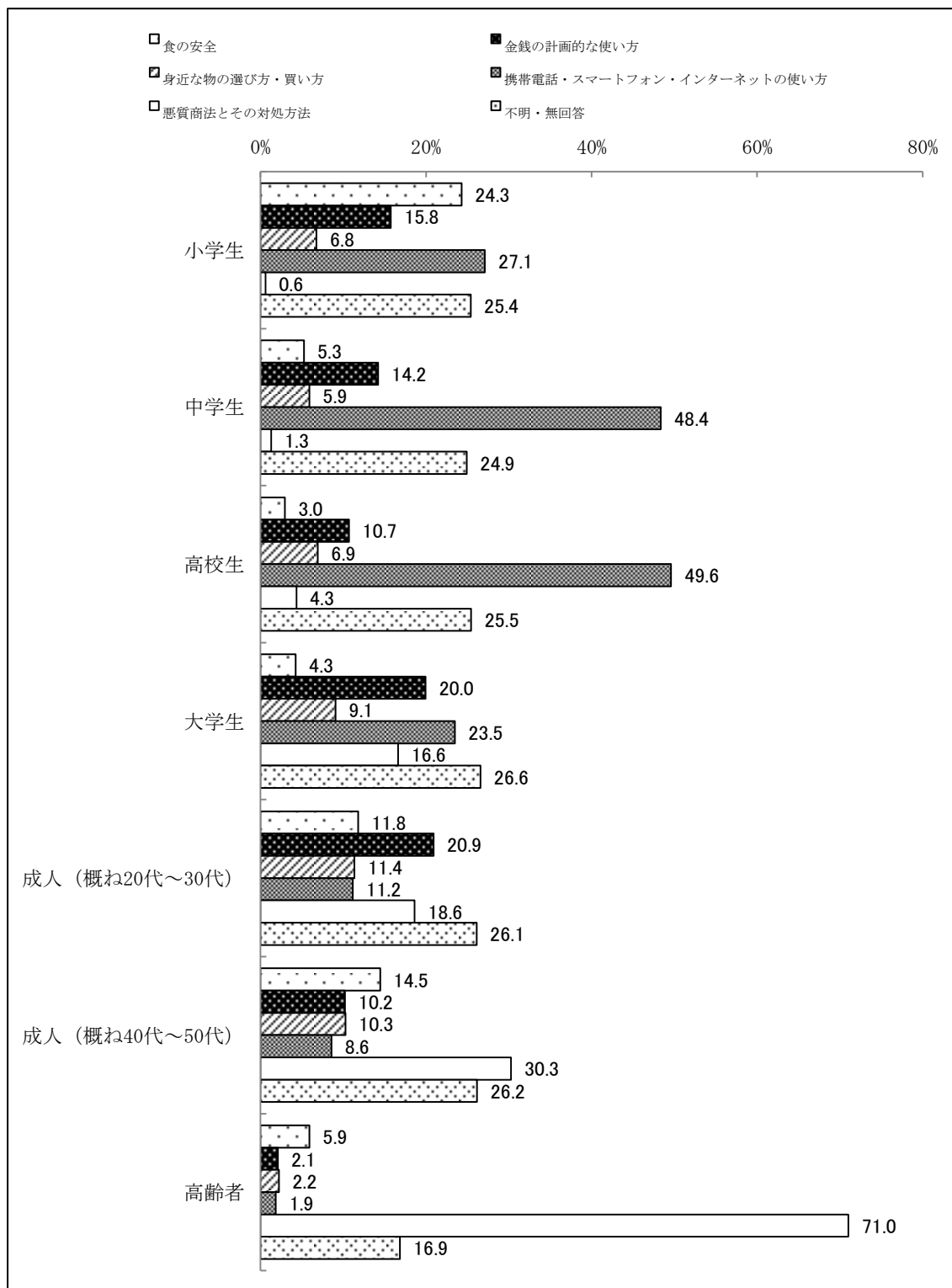
図 2-7 消費生活の不安・被害解消のためにどのような対策が必要か
 (地区別/性別/年齢別) 2/2



(8) 消費生活の不安・被害解消のためにどのような啓発活動が必要か

問25 あなたは、消費生活の不安や被害解消のために、年代別にどのような啓発活動が必要だと思いますか。

(○はそれぞれ1つずつ)



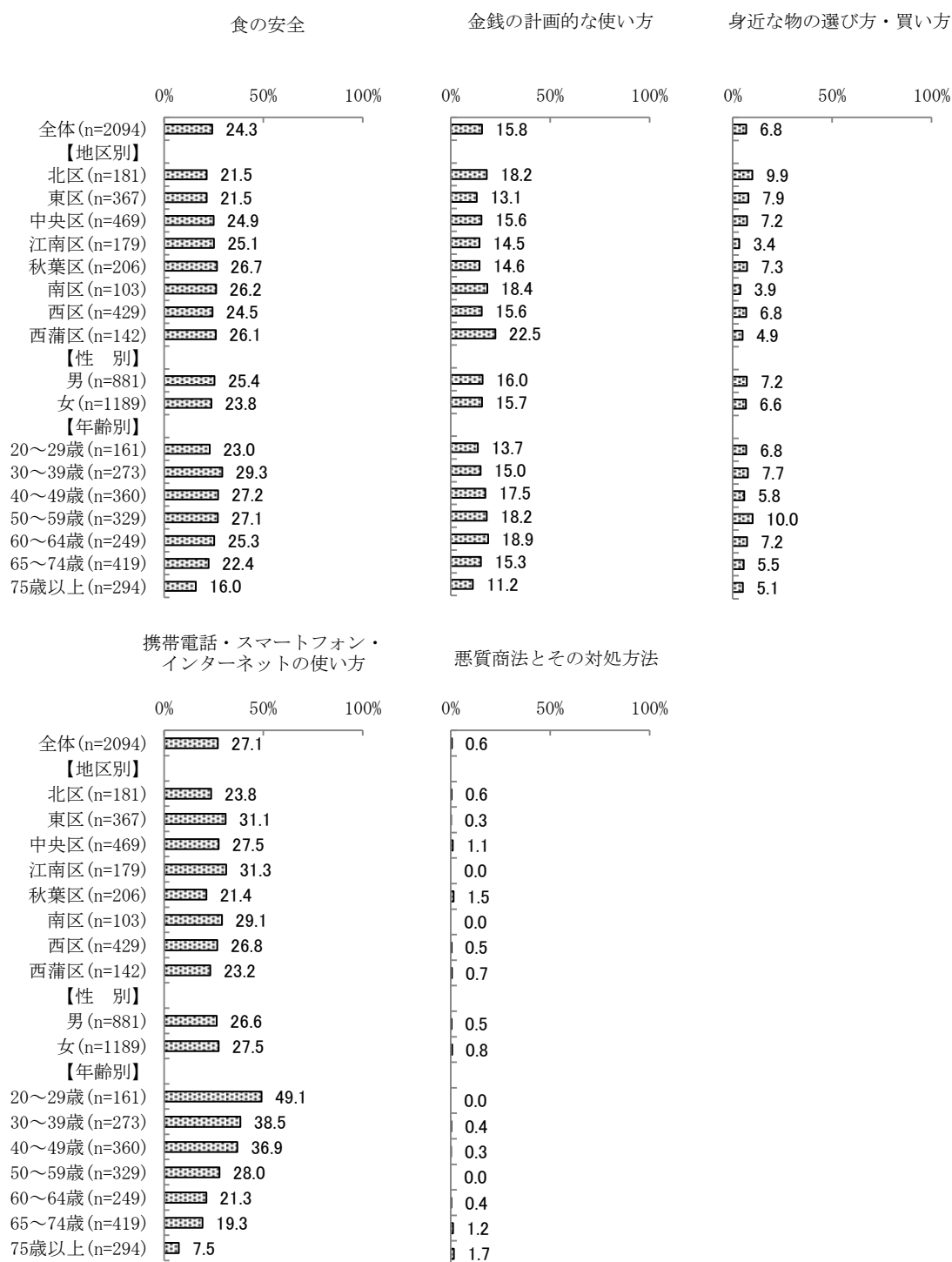
【全体結果】

消費生活の不安・被害解消のための啓発活動として、中学生、高校生への「携帯電話・スマートフォン・インターネットの使い方」（それぞれ 48.4%、49.6%）、及び高齢者への「悪質商法とその対処方法」（71.0%）の割合が高くなっている。

【属性別結果】

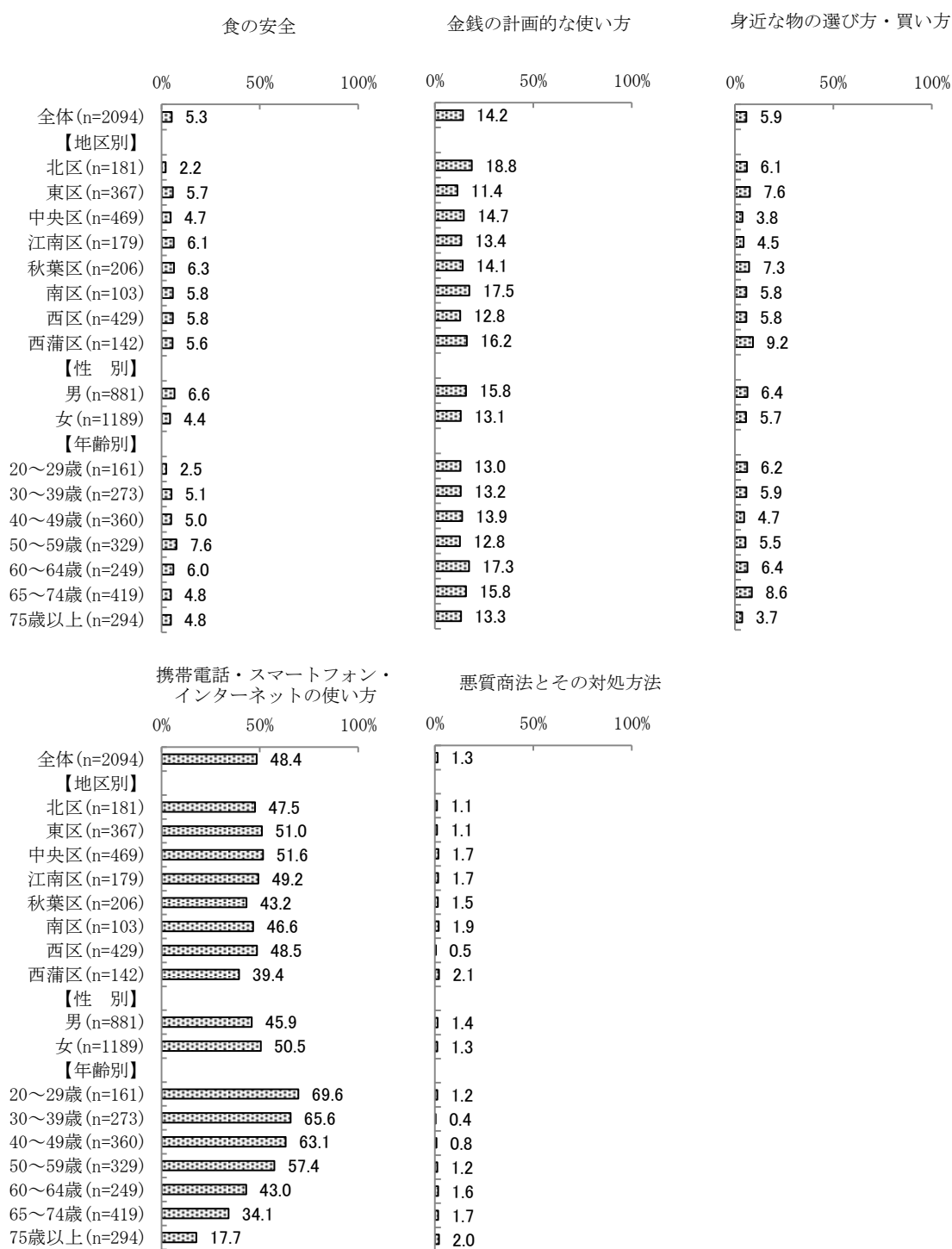
次ページ以降に、図 2-8 とともに、消費生活の不安・被害解消のための啓発活動に関して、地区別・性別・年齢別の集計結果をまとめた。

図 2-8 消費生活の不安・被害解消のためにどのような啓発活動が必要か ①小学生



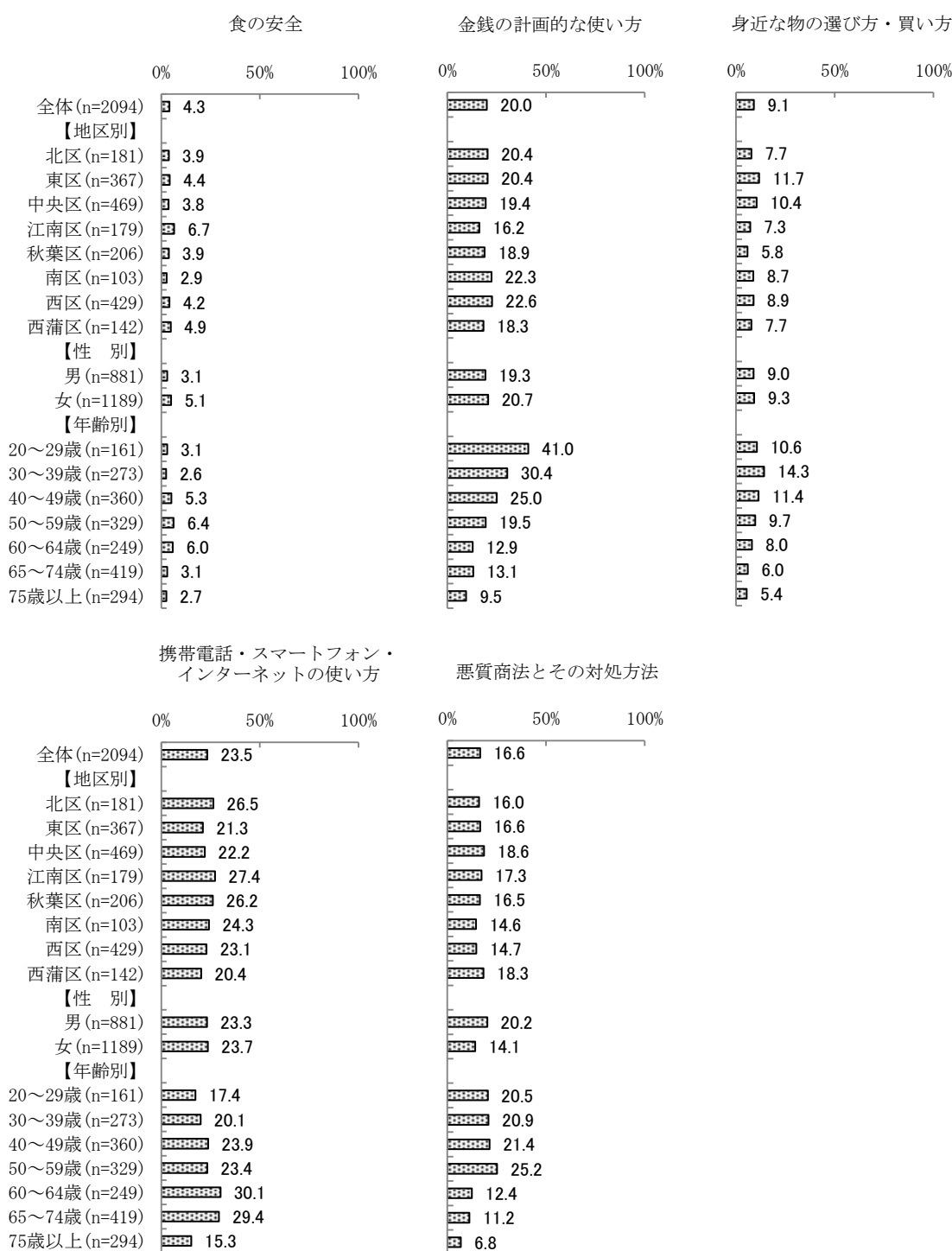
「食の安全」(24.3%)と「携帯電話・スマートフォン・インターネットの使い方」(27.1%)が比較的高い割合となっている。年齢別では、その両者に関して、年齢が高くなるほど割合が低くなる傾向がある。地区別、性別では大きな差異はない。

図 2-8 消費生活の不安・被害解消のためにどのような啓発活動が必要か ②中学生



全体では「携帯電話・スマートフォン・インターネットの使い方」で最も割合が高くなっている。「携帯電話・スマートフォン・インターネットの使い方」を年齢別で見ると、年齢高いほど割合が低くなっている。20～29歳で69.6%と最も割合が高く、75歳以上では17.7%と最も割合が低い。

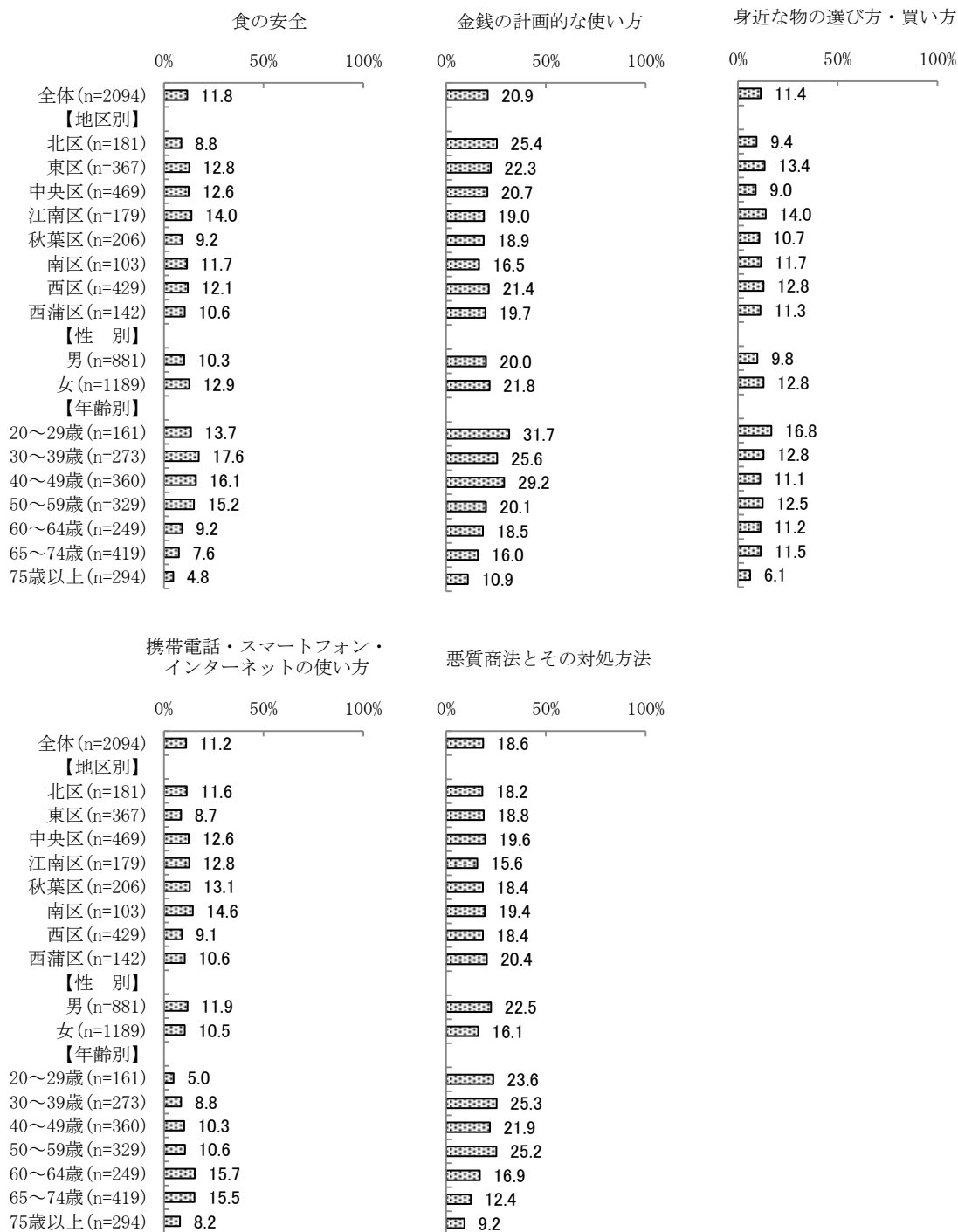
図 2-8 消費生活の不安・被害解消のためにどのような啓発活動が必要か ④大学生



全体では、「携帯電話・スマートフォン・インターネットの使い方」(23.5%)が最も高い割合となっている。次いで「金銭の計画的な使い方」(20.0%)が続く。「金銭の計画的な使い方」を年齢別で見ると、年齢が高いほど割合が低い傾向があり、20～29歳では41.0%で最も割合が高く、75歳以上では9.5%で最も割合が低くなっている。

図 2-8 消費生活の不安・被害解消のためにどのような啓発活動が必要か

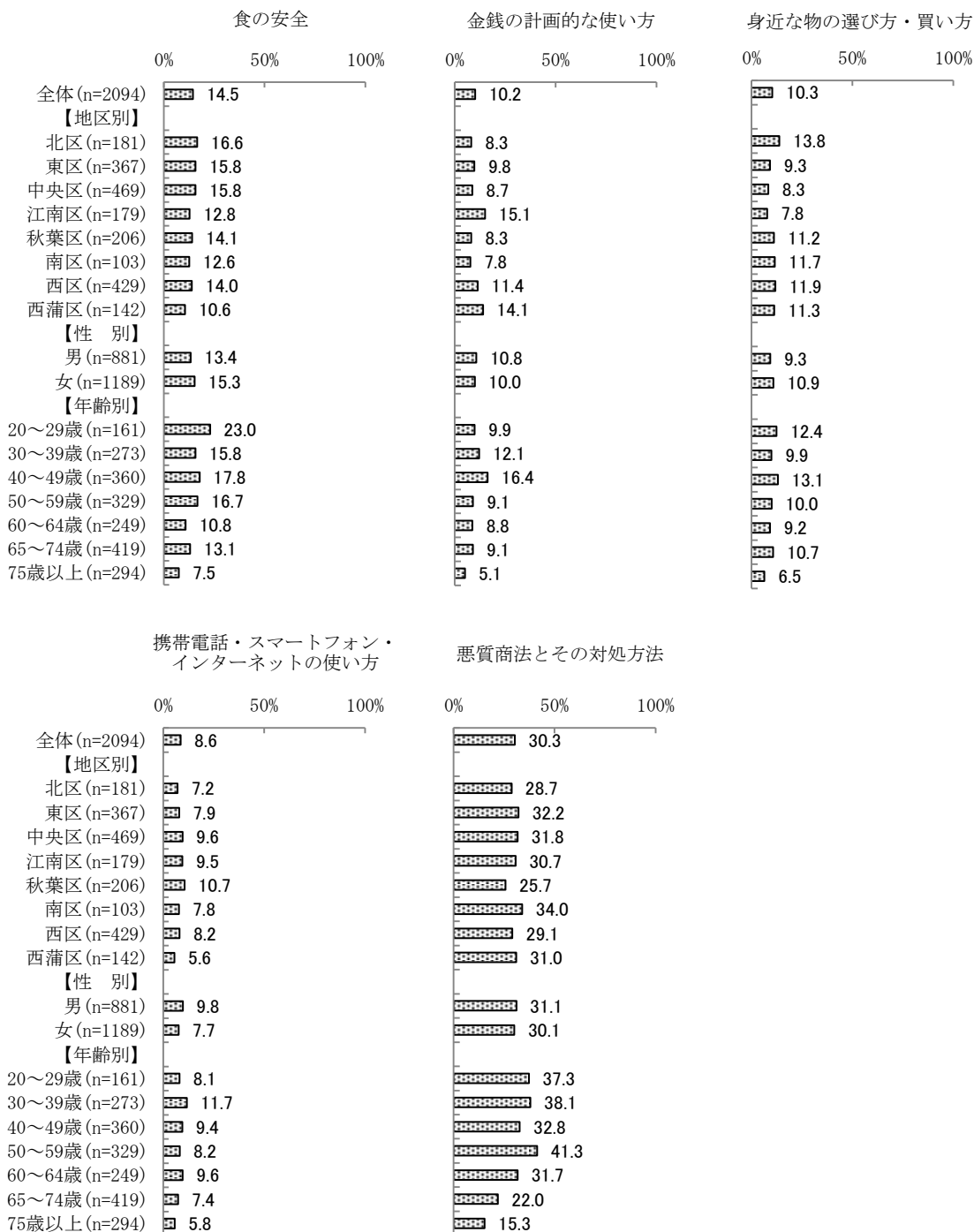
(⑤成人 (概ね 20代~30代))



「金銭の計画的な使い方」(20.9%)と「悪質商法とその対処方法」(18.6%)が高い割合となっている。「金銭の計画的な使い方」では、20~29歳が31.7%であるのに対し、75歳以上で10.9%にとどまっている。

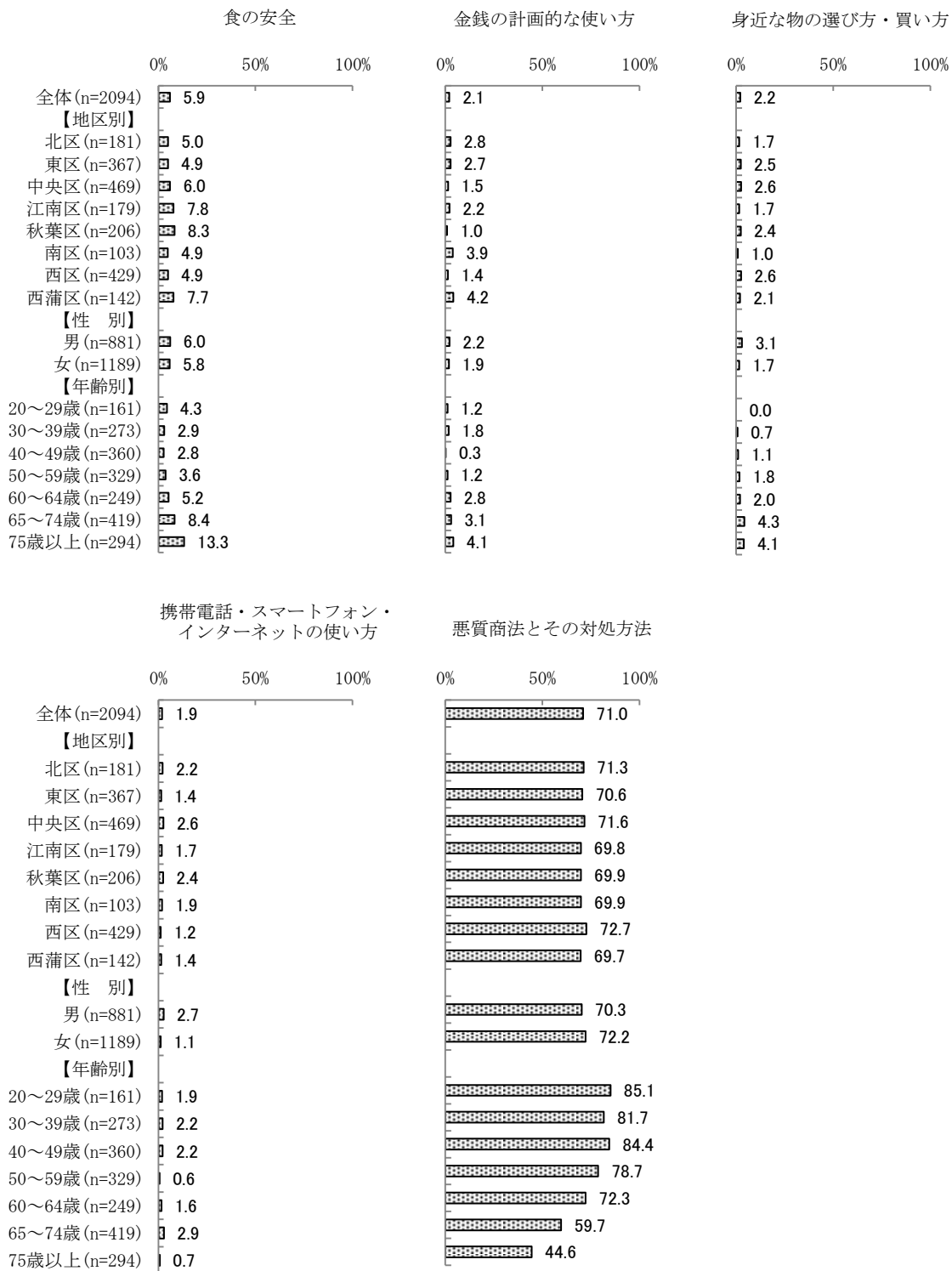
図 2-8 消費生活の不安・被害解消のためにどのような啓発活動が必要か

⑥成人（概ね 40 代～50 代）



「悪質商法とその対処方法」(30.3%)が高い割合となっている。年齢別で見ると、50～59歳(41.3%)で最も割合が高く、75歳以上(15.3%)で最も割合が低い。「食の安全」(14.5%)を年齢別で見ると、20～29歳(23.0%)で、他の年齢と比べて、割合が高い。

図 2-8 消費生活の不安・被害解消のためにどのような啓発活動が必要か ⑦高齢者

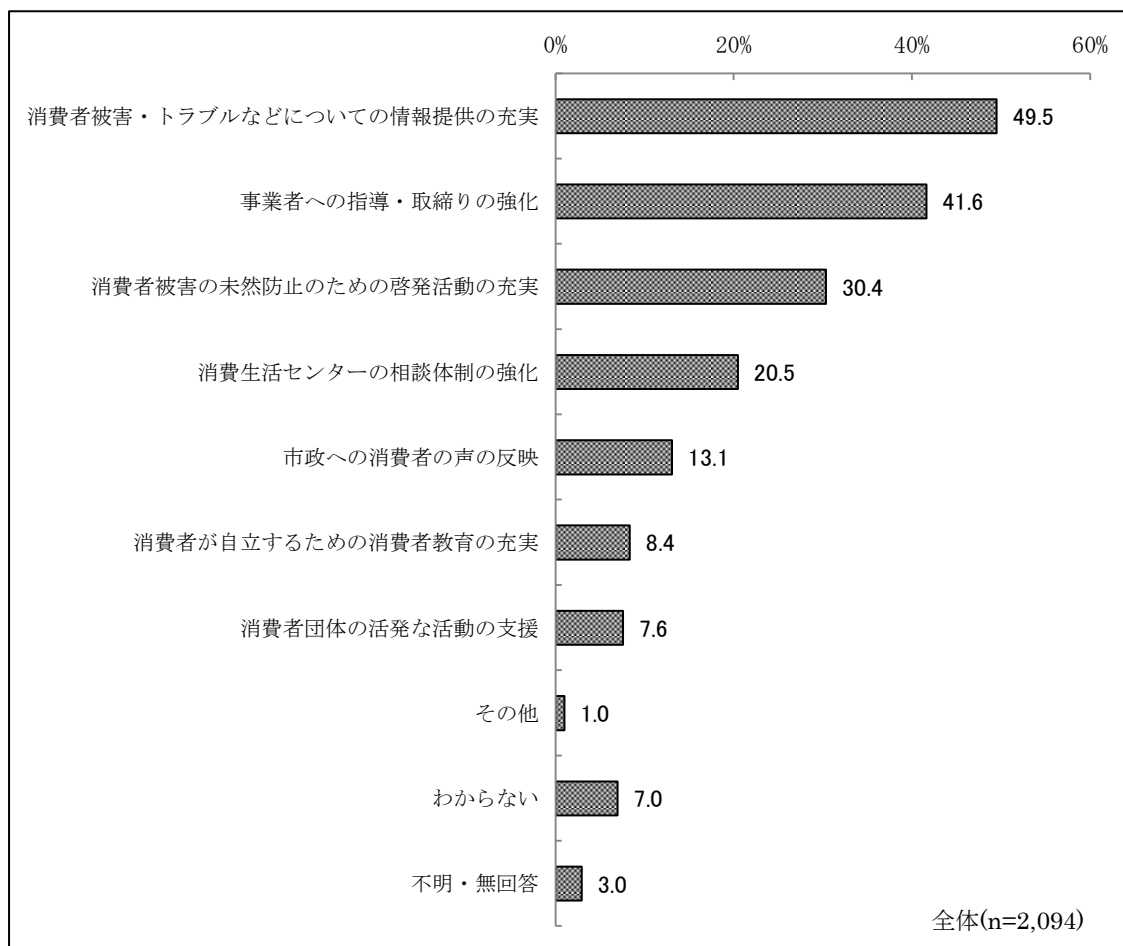


「悪質商法とその対処方法」(71.0%)が圧倒的に高い割合となっている。年齢別で見ると、年齢が高いほど割合が低い傾向がある。20～29歳(85.1%)で最も割合が高く、75歳以上(44.6%)で、最も割合が低くなっている。

(9) 消費生活の安定・向上のために市にどのような取り組みを期待するか

問26 あなたは、消費生活の安定や向上のために、市にどのような取り組みを期待していますか。

(○は2つまで)



—— 「消費者被害・トラブルなどについての情報提供の充実」への期待が高い ——

【全体結果】

消費生活の安定・向上のための取り組みについては、「消費者被害・トラブルなどについての情報提供の充実」(49.5%)が最も高い割合となっている。次いで「事業者への指導・取締りの強化」(41.6%)、「消費者被害の未然防止のための啓発活動の充実」(30.4%)と続いている。

【属性別結果】(図2-9参照)

①地区別

「消費者被害・トラブルなどについての情報提供の充実」については、中央区(52.7%)、

東区（51.0%）、江南区（50.8%）で5割を超えている。西蒲区は38.7%で最も低くなっている。

②性別

「事業者への指導・取締りの強化」では、女性（39.4%）と比べて、男性（45.2%）で割合が高い。

③年齢別

「消費者被害・トラブルなどについての情報提供の充実」では、40～49歳（55.6%）で割合が最も高く、次いで50～59歳（55.0%）、30～39歳（54.6%）と続き、いずれも5割を超えている。75歳以上では38.8%で最も割合が低くなっている。

図 2-9 消費生活の安定・向上のために市にどのような取り組みを期待するか

(地区別/性別/年齢別) 1/2

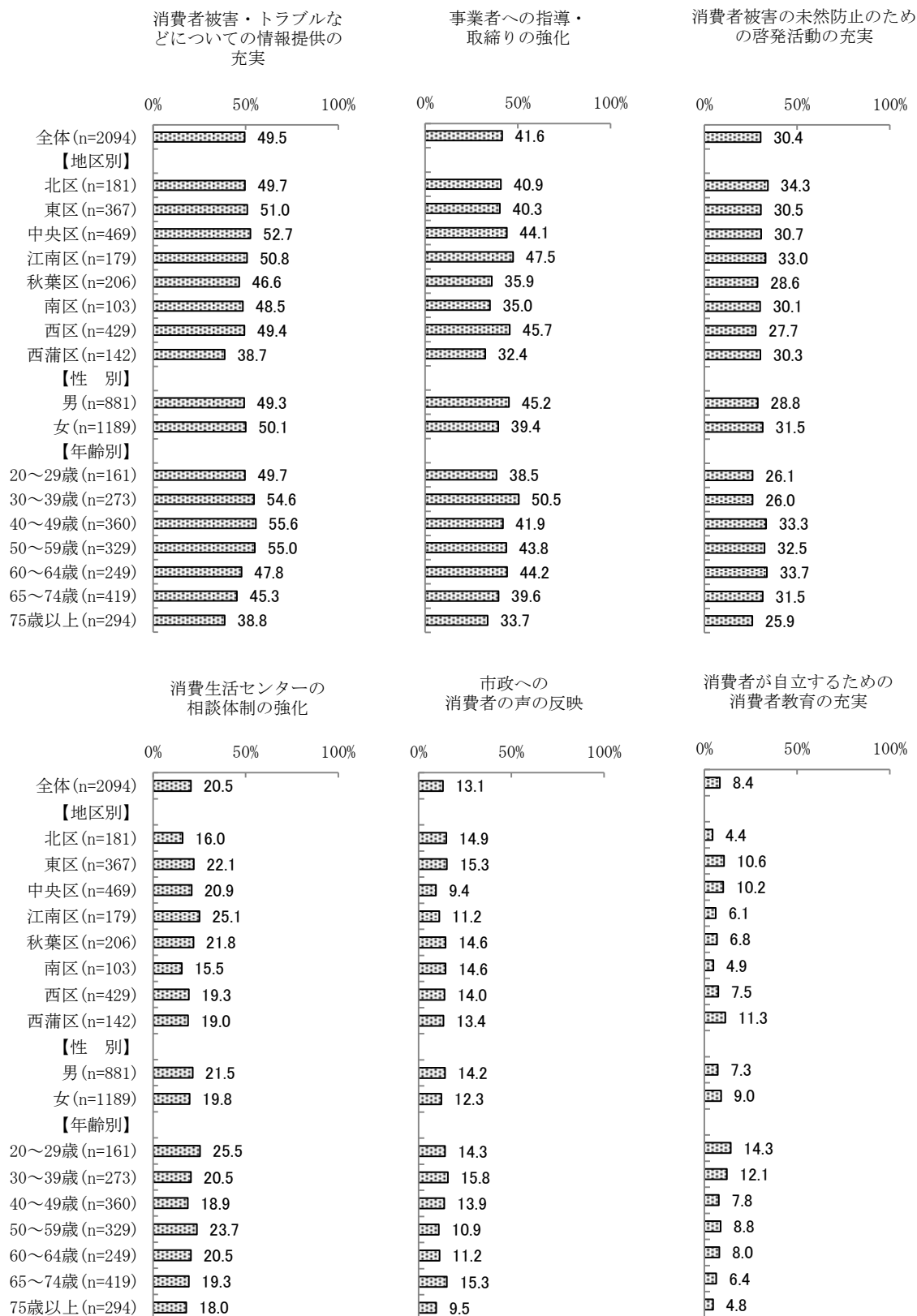
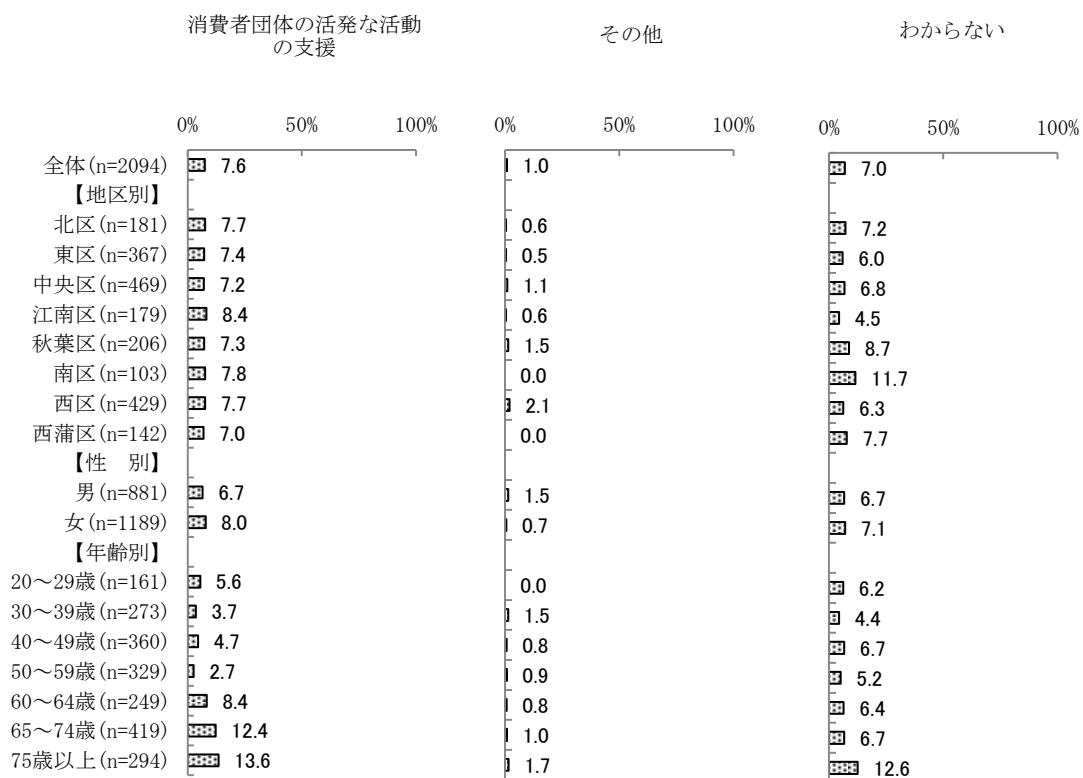
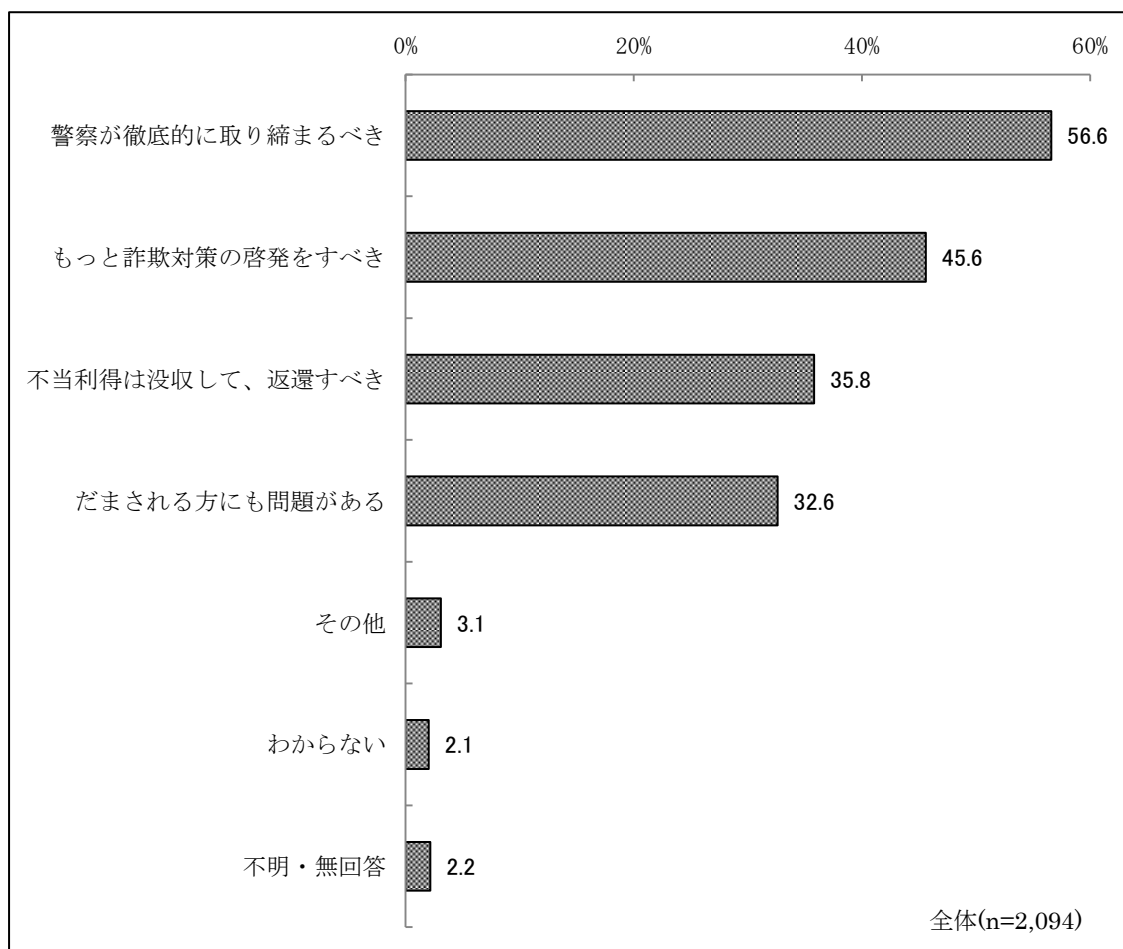


図 2-9 消費生活の安定・向上のために市にどのような取り組みを期待するか
 (地区別/性別/年齢別) 2/2



(10) 特殊詐欺への対応

問27 全国的に「特殊詐欺」と言われている問題が起きています。
なかでも、オレオレ詐欺や投資詐欺、不当請求・架空請求など悪質な詐欺の相談が多く寄せられています。あなたは、こうした悪質な詐欺について、どのように感じますか、あるいはどのような対応が必要だと思いますか。
(○は2つまで)



——— 特殊詐欺への対応は「警察が徹底的に取り締まるべき」が最多 ———

【全体結果】

「警察が徹底的に取り締まるべき」(56.6%)が5割を超え、最も高い割合となっている。次いで、「もっと詐欺対策の啓発をすべき」(45.6%)と続く。

【属性別結果】(図2-10参照)

①地区別

「警察が徹底的に取り締まるべき」については、江南区(61.5%)が最も高い割合で、

次いで北区（60.8%）となっており、いずれも6割を超えている。南区は41.7%で、他の地区と比べて、割合が低い。また、「だまされる方にも問題がある」（32.6%）では、南区（42.7%）で、他の地区と比べて、割合が高い。

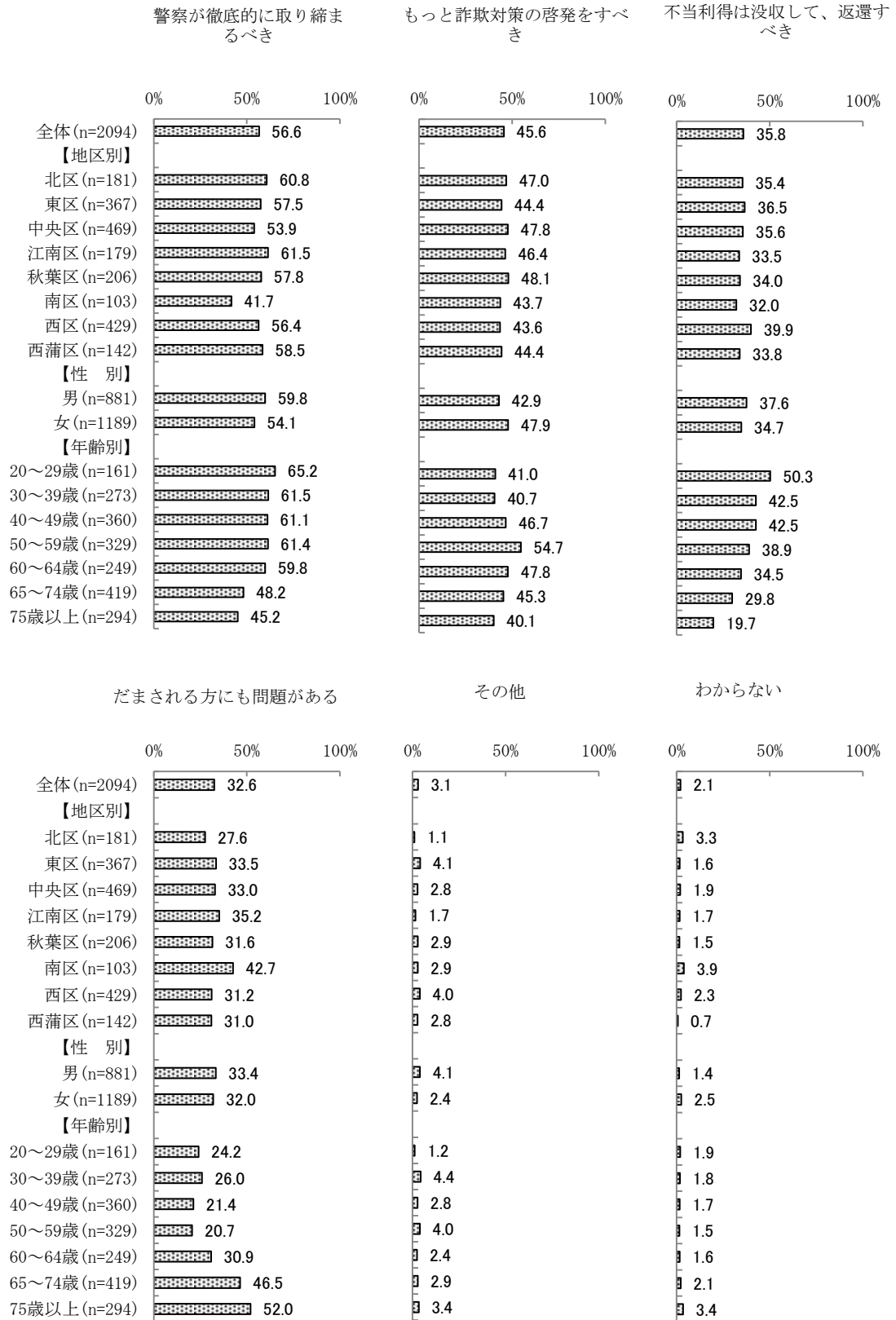
②性別

「警察が徹底的に取り締まるべき」、「不当利得は没収して、返還すべき」、「だまされる方にも問題がある」の割合は男性の方が高く、「もっと詐欺対策の啓発をすべき」では女性の方が高くなっている。

③年齢別

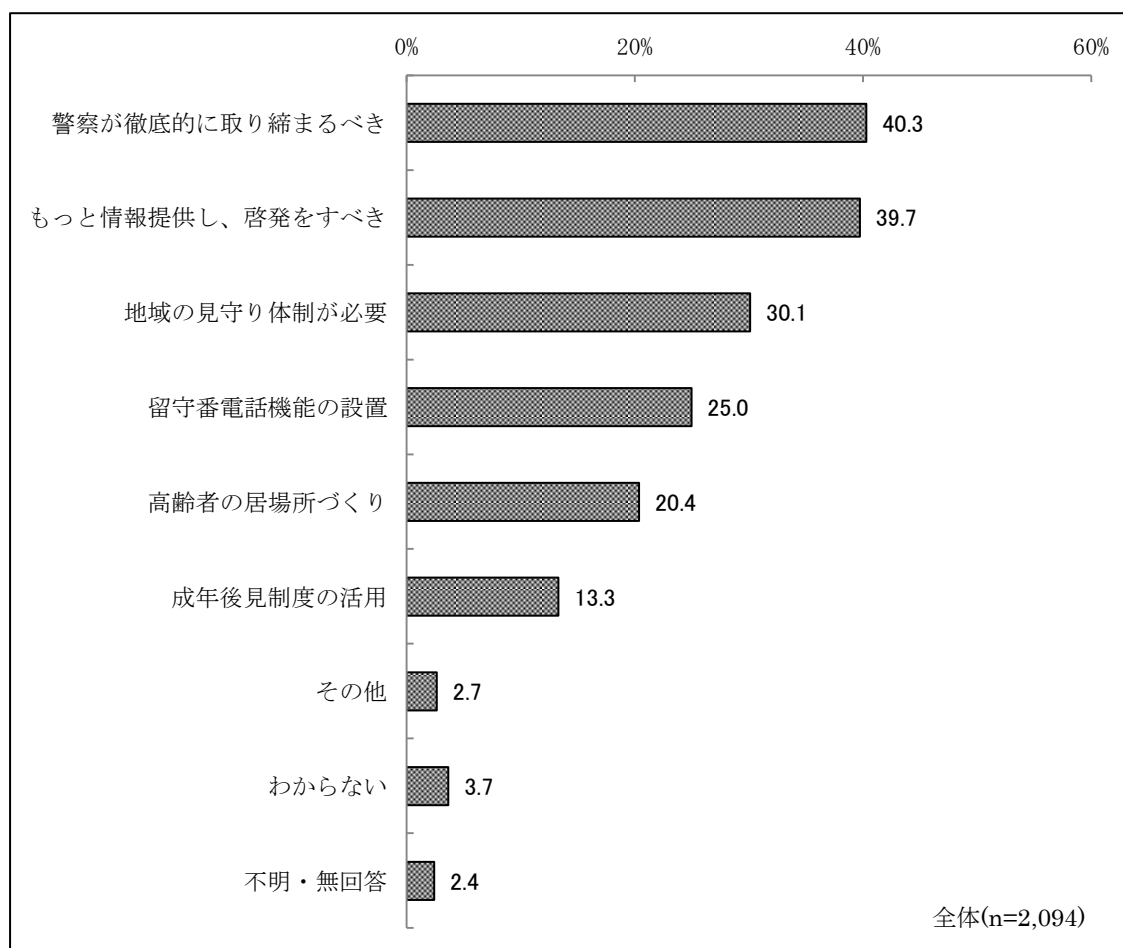
「警察が徹底的に取り締まるべき」、「不当利得は没収して、返還すべき」では、年齢が高いほど、割合が低い傾向がある。逆に「だまされる方にも問題がある」では、年齢が高いほど、割合が高い傾向がある。「もっと詐欺対策の啓発をすべき」では、50～59歳（54.7%）で、他の年齢と比べて、割合が高い。

図 2-10 特殊詐欺への対応（地区別/性別/年齢別）



(11) 高齢者の消費者被害への対応

問28 全国的に高齢者が消費者被害に遭うことが多くなっています。
あなたは、高齢者の被害について、どのように感じますか、あるいはどのような対応が必要だと思いますか。
(○は2つまで)



—— 「警察による取り締まり」「情報提供での啓発活動」が約4割 ——

【全体結果】

高齢者の消費者被害への対応としては、「警察が徹底的に取り締まるべき」(40.3%)が最も高い割合となっている。「もっと情報提供し、啓発をすべき」(39.7%)、「地域の見守り体制が必要」(30.1%)が3割を超えている。

【属性別結果】(図2-11参照)

①地区別

「警察が徹底的に取り締まるべき」については、北区(45.9%)で最も割合が高い。

南区では 28.2%で、他の地域と比べ、割合が低くなっている。

②性別

「警察が徹底的に取り締まるべき」では、女性（34.6%）より男性（48.2%）で割合が高い。

③年齢別

「地域の見守り体制が必要」では、20代～40代で3割を超えるが、50代以上で3割に満たない。「高齢者の居場所づくり」（20.4%）では、20～29歳（32.9%）が高い割合である一方、75歳以上（16.3%）は最も割合が低くなっている。

図 2-11 高齢者の消費者被害への対応（地区別/性別/年齢別） 1/2

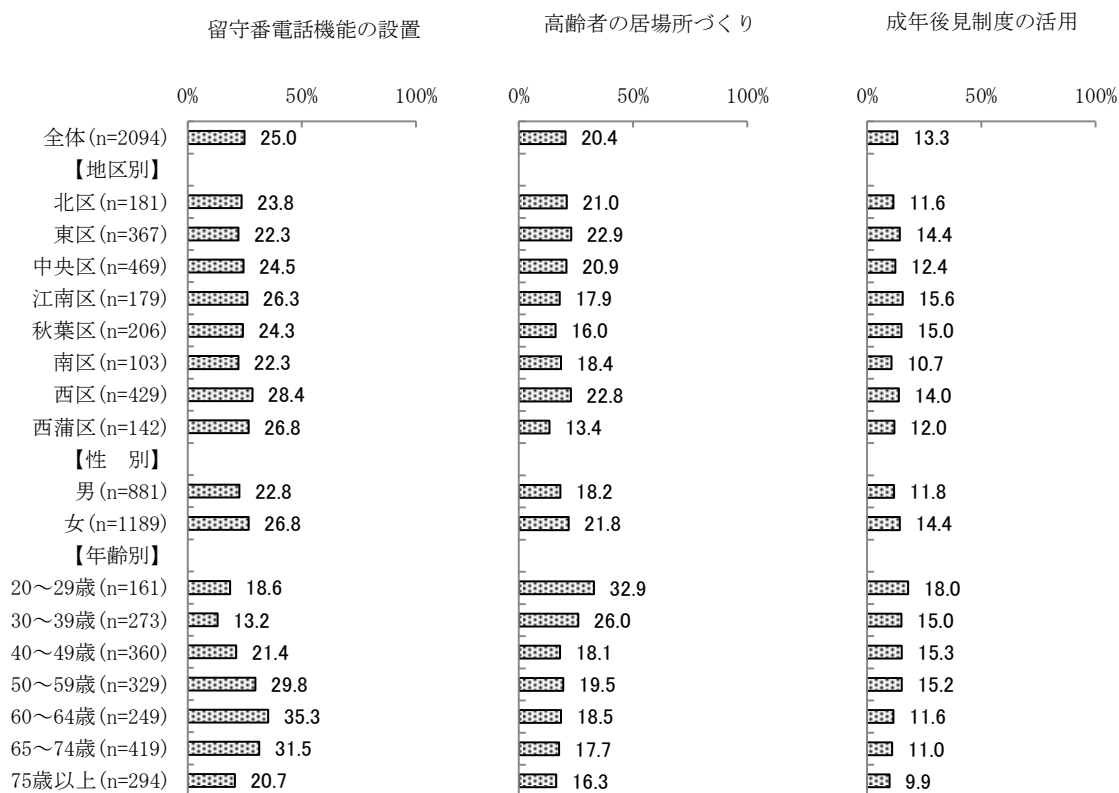
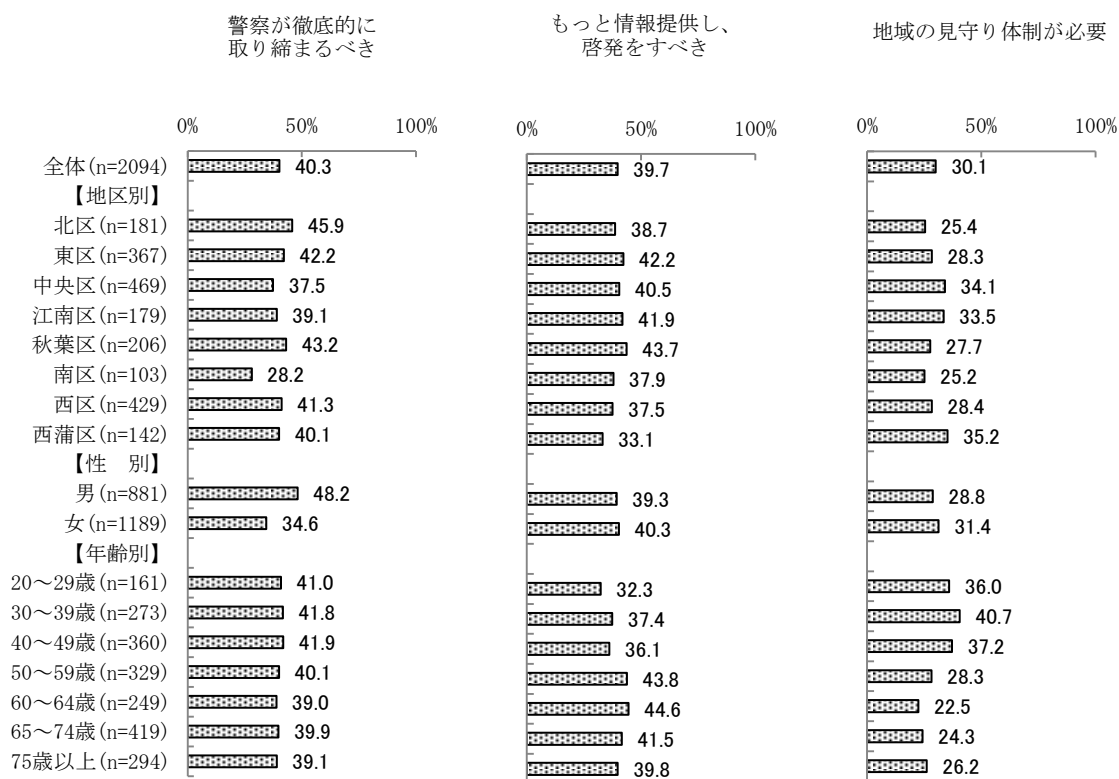
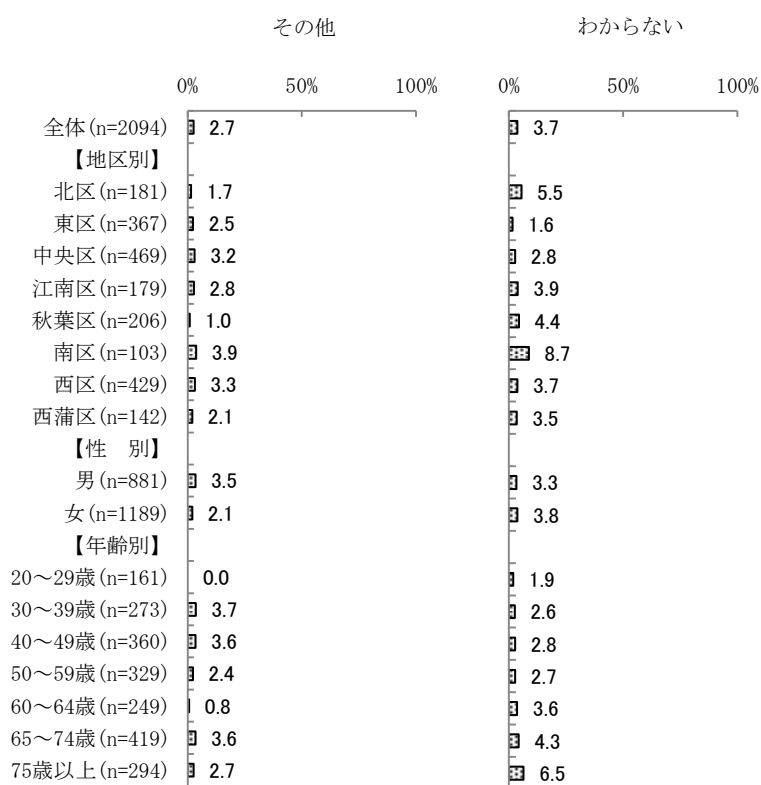


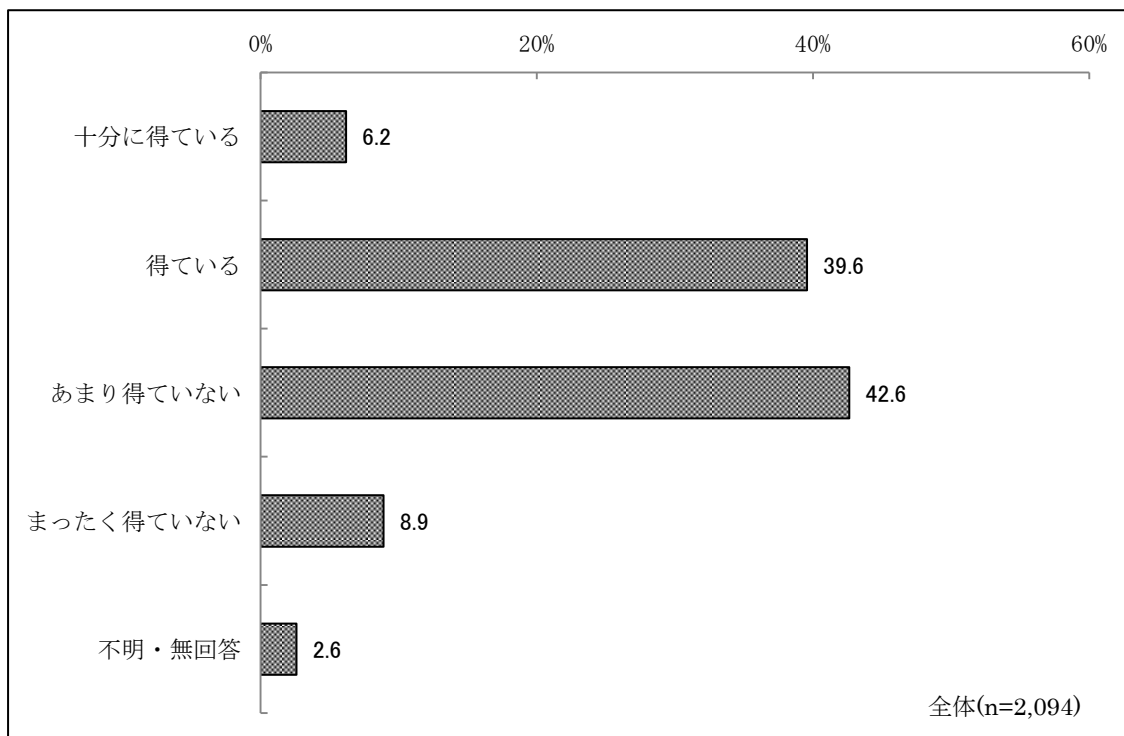
図 2-11 高齢者の消費者被害への対応（地区別/性別/年齢別） 2/2



3. 市政情報の入手方法について

(1) 市政情報の取得満足度

問29 あなたは、新潟市の市政や暮らし、イベントなどに関する市政情報を十分に得ていますか。
(○は1つだけ)



——— 市政情報を「十分に得ている」、「得ている」で4割以上 ———

【全体結果】

市政情報に関しては、「十分に得ている」(6.2%)、「得ている」(39.6%)を合わせて45%を超えている。一方、「あまり得ていない」(42.6%)、「まったく得ていない」(8.9%)を合わせると5割を超える。

【属性別結果】(図3-1参照)

①地区別

「十分に得ている」と「得ている」を合わせた割合が最も高いのは江南区(50.9%)、最も低いのは西蒲区(38.7%)となっている。

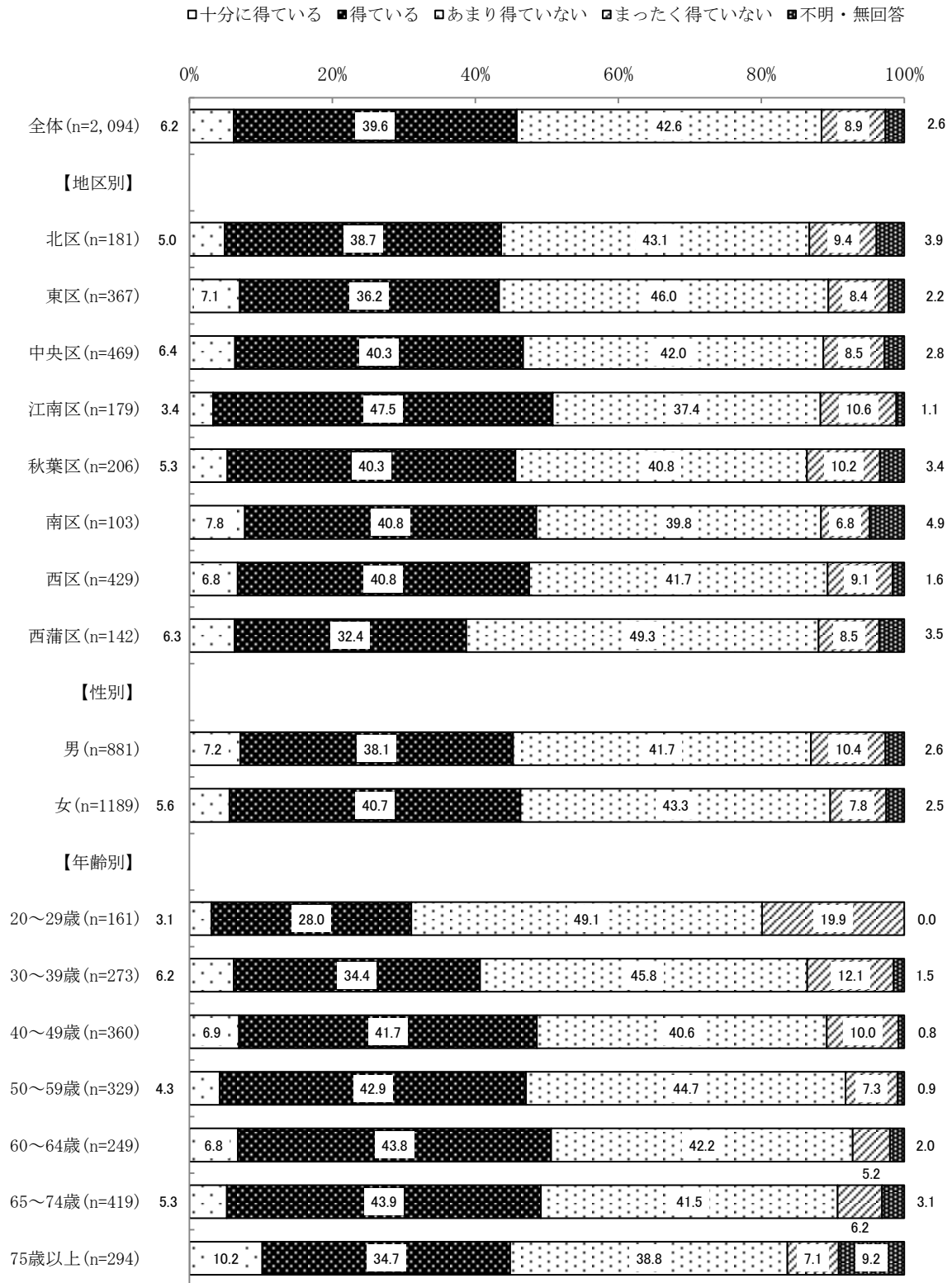
②性別

性別による差はほとんど見られない。

③年齢別

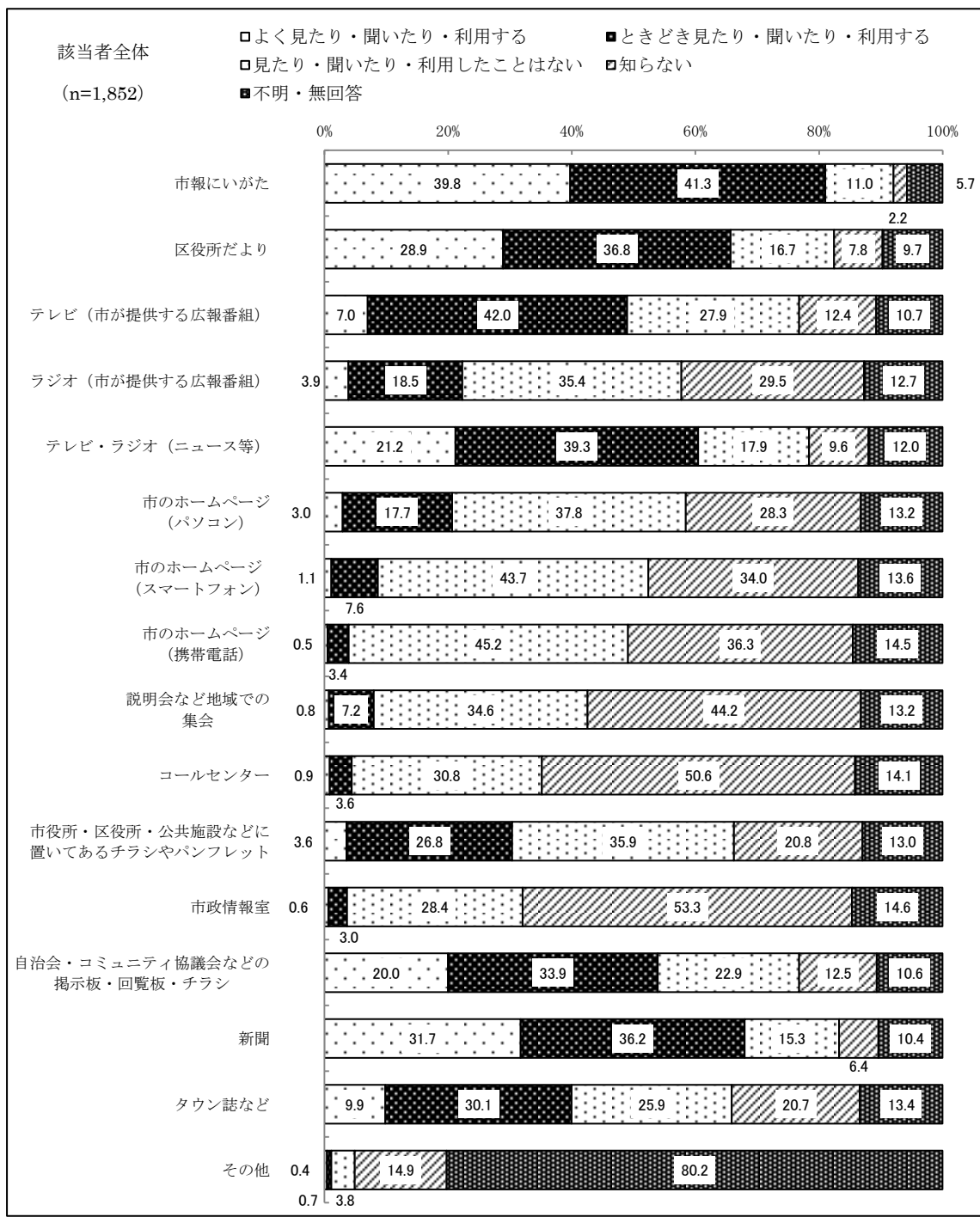
「十分に得ている」と「得ている」を合わせた割合が最も高いのは60～64歳（50.6%）、最も低いのは20代（31.1%）となっている。

図 3-1 市政情報の取得満足度（地区別/性別/年齢別）



(2) 市政情報の入手先

(問29で「1」「2」「3」(得ている、あまり得ていない)と回答した方への該当質問)
 問30 市政情報を得ている、あまり得ていないと答えた方にお聞きします。
 あなたは、新潟市が発信する市政情報を何から入手していますか。
 それぞれの項目ごとに番号を1つ選んで、その番号に○をつけてください。
 (○はそれぞれ1つずつ)



【全体結果】

市政情報の入手先として、『よく見たり・聞いたり・利用する』の割合が最も高いのは「市報にいがた」(39.8%)で、以下、「新聞」(31.7%)、「区役所だより」(28.9%)、「テレビ・ラジオ(ニュース等)」(21.2%)の順となっている。

『ときどき見たり・聞いたり・利用する』については、「テレビ(市が提供する広報番組)」(42.0%)、「市報にいがた」(41.3%)、「テレビ・ラジオ(ニュース等)」(39.3%)の順で割合が高くなっている。

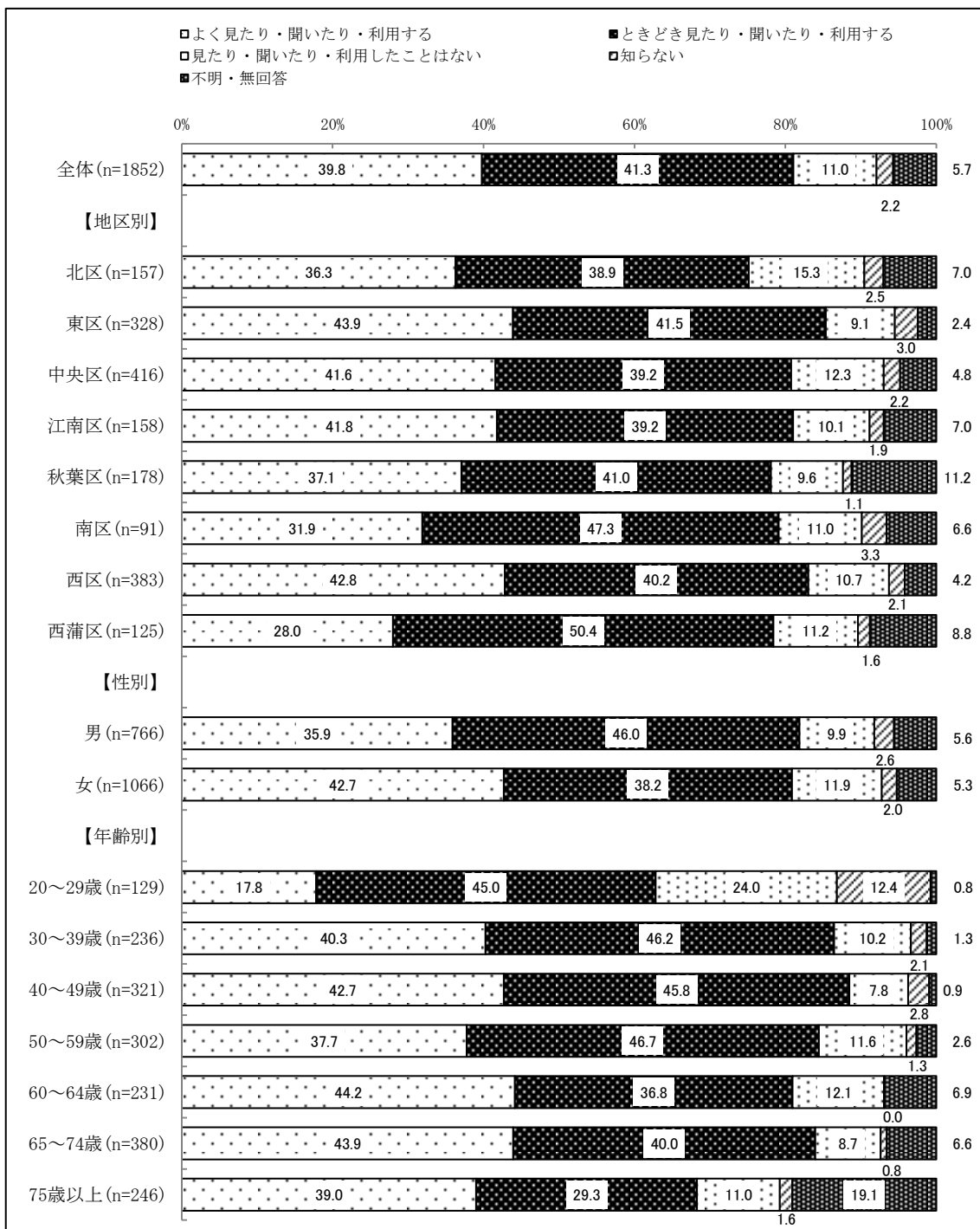
一方、『見たり・聞いたり・利用したことはない』の割合が高いのは、「市のホームページ(携帯電話)」(45.2%)、「市のホームページ(スマートフォン)」(43.7%)、「市のホームページ(パソコン)」(37.8%)の順となっている。

『知らない』の割合が最も高いのは、「市政情報室」(53.3%)で、「コールセンター」(50.6%)、「説明会など地域での集会」(44.2%)、「市のホームページ(携帯電話)」(36.3%)と続いている。

【属性別結果】

次ページ以降に市政情報の入手先ごとの地区別・性別・年齢別の集計結果をまとめた。

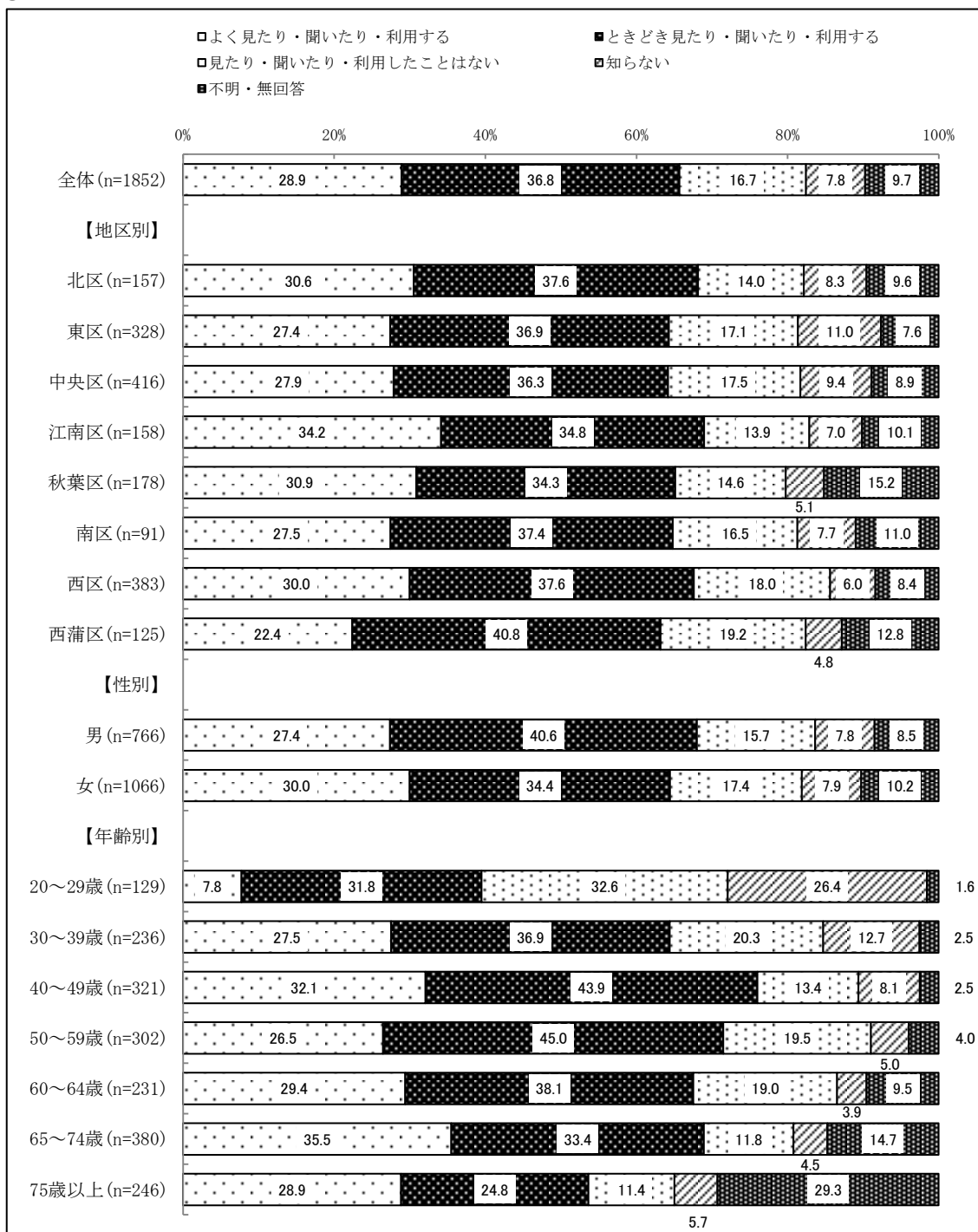
①市報にいがた



「よく見たり・聞いたり・利用する」と「ときどき見たり・聞いたり・利用する」を合わせた割合は、地区別では東区(85.4%)で最も高くなっている。年齢別では、40代(88.5%)で最も高く、20～29歳(62.8%)、75歳以上(68.3%)で割合が低い。

一方、「見たり・聞いたり・利用したことはない」と「知らない」を合わせた割合は、地区別では北区(17.8%)、年齢別では20代(36.4%)で最も高くなっている。

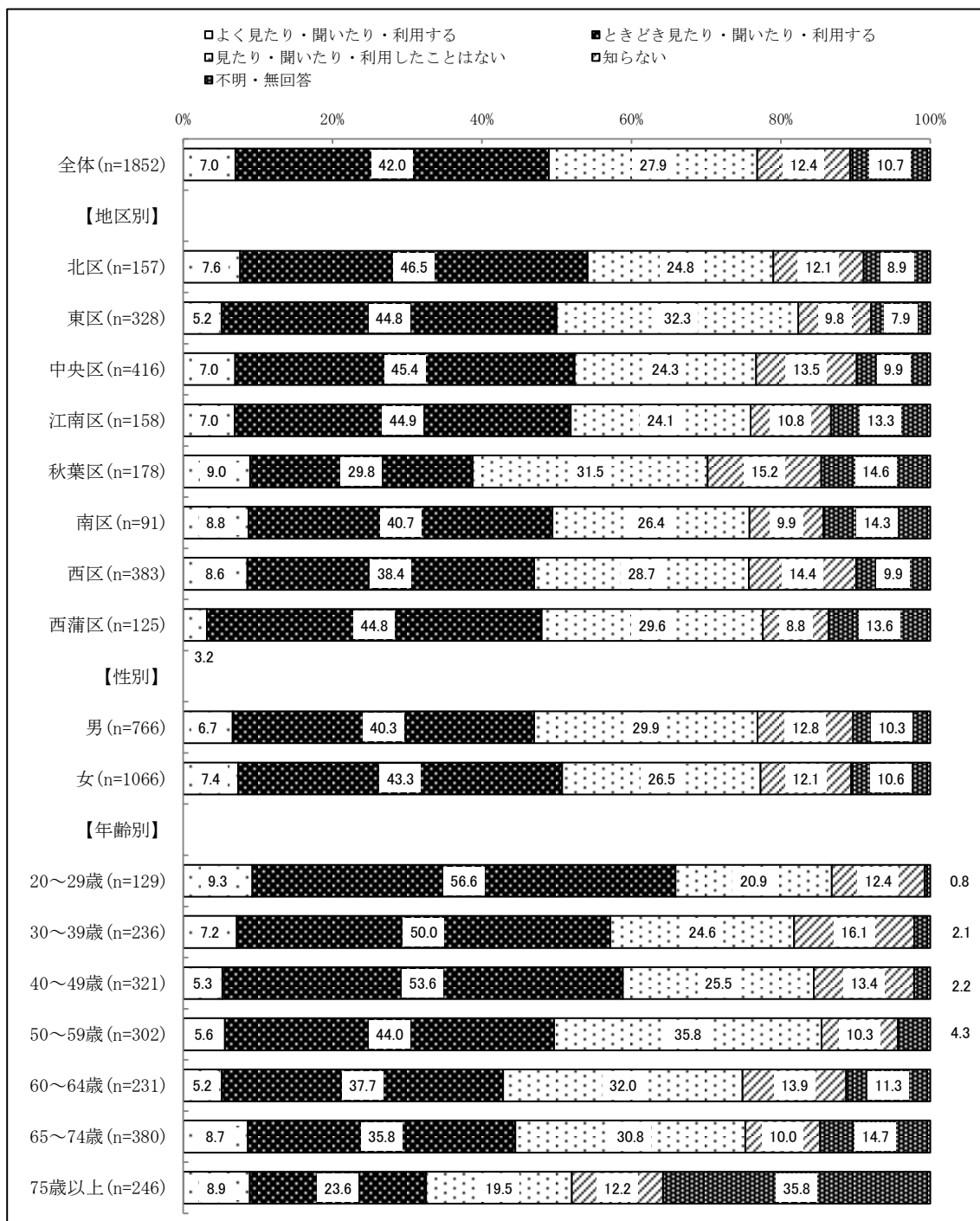
②区役所だより



「よく見たり・聞いたり・利用する」と「ときどき見たり・聞いたり・利用する」を合わせた割合は、地区別では江南区（69.0%）で最も高くなっている。性別では男性がやや高く、年齢別では、40代（76.0%）が最も高い。

一方、「見たり・聞いたり・利用したことはない」と「知らない」を合わせた割合は、地区別では東区（28.0%）、年齢別では20代（58.9%）で最も高くなっている。

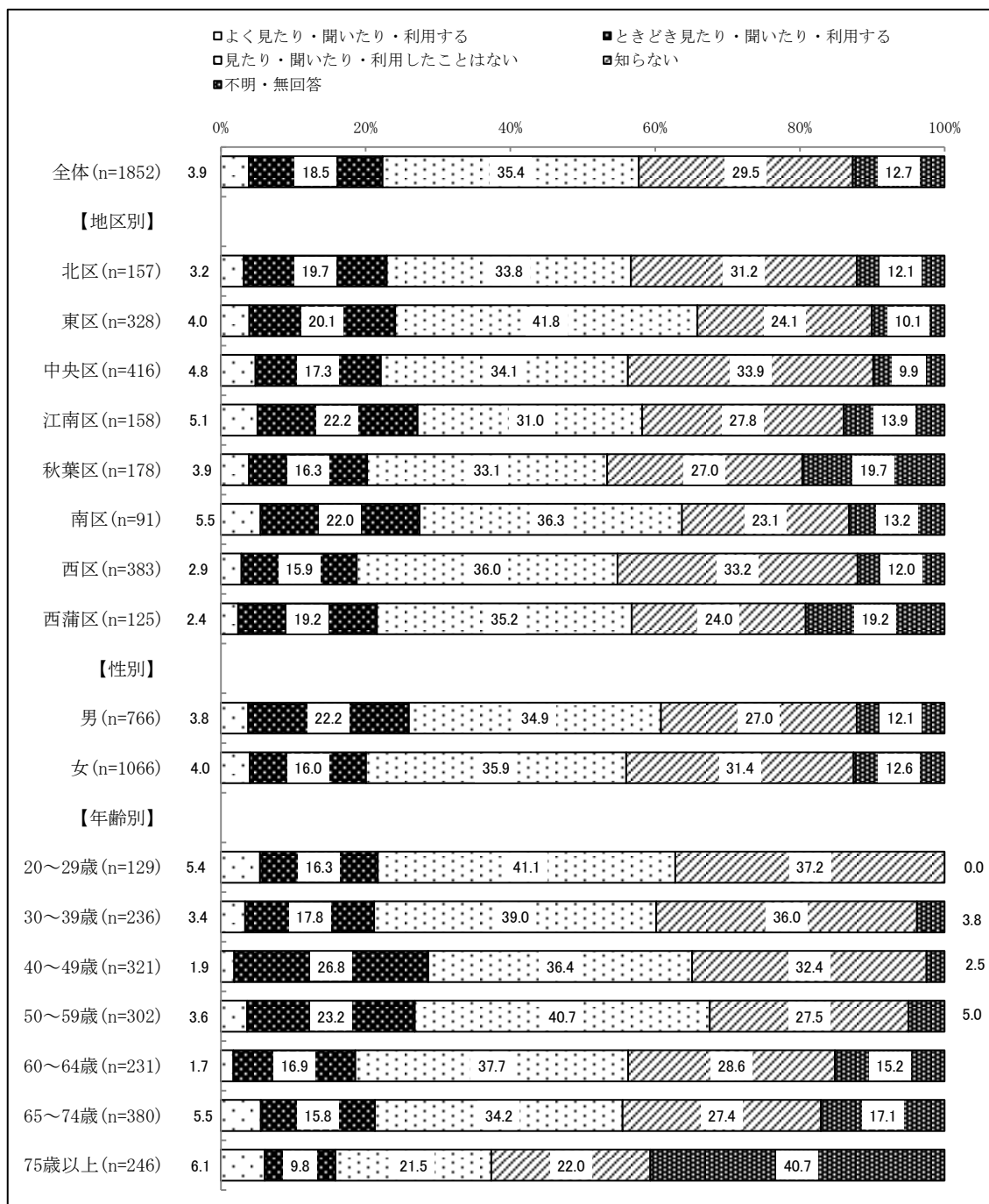
③テレビ（市が提供する広報番組）



「よく見たり・聞いたり・利用する」と「ときどき見たり・聞いたり・利用する」を合わせた割合は、地区別では北区（54.1%）で最も高くなっている。性別では女性で高く、年齢別では、20代（65.9%）で最も高い。

一方、「見たり・聞いたり・利用したことはない」と「知らない」を合わせた割合は、地区別では秋葉区（46.6%）、年齢別では50代（46.0%）で最も高くなっている。

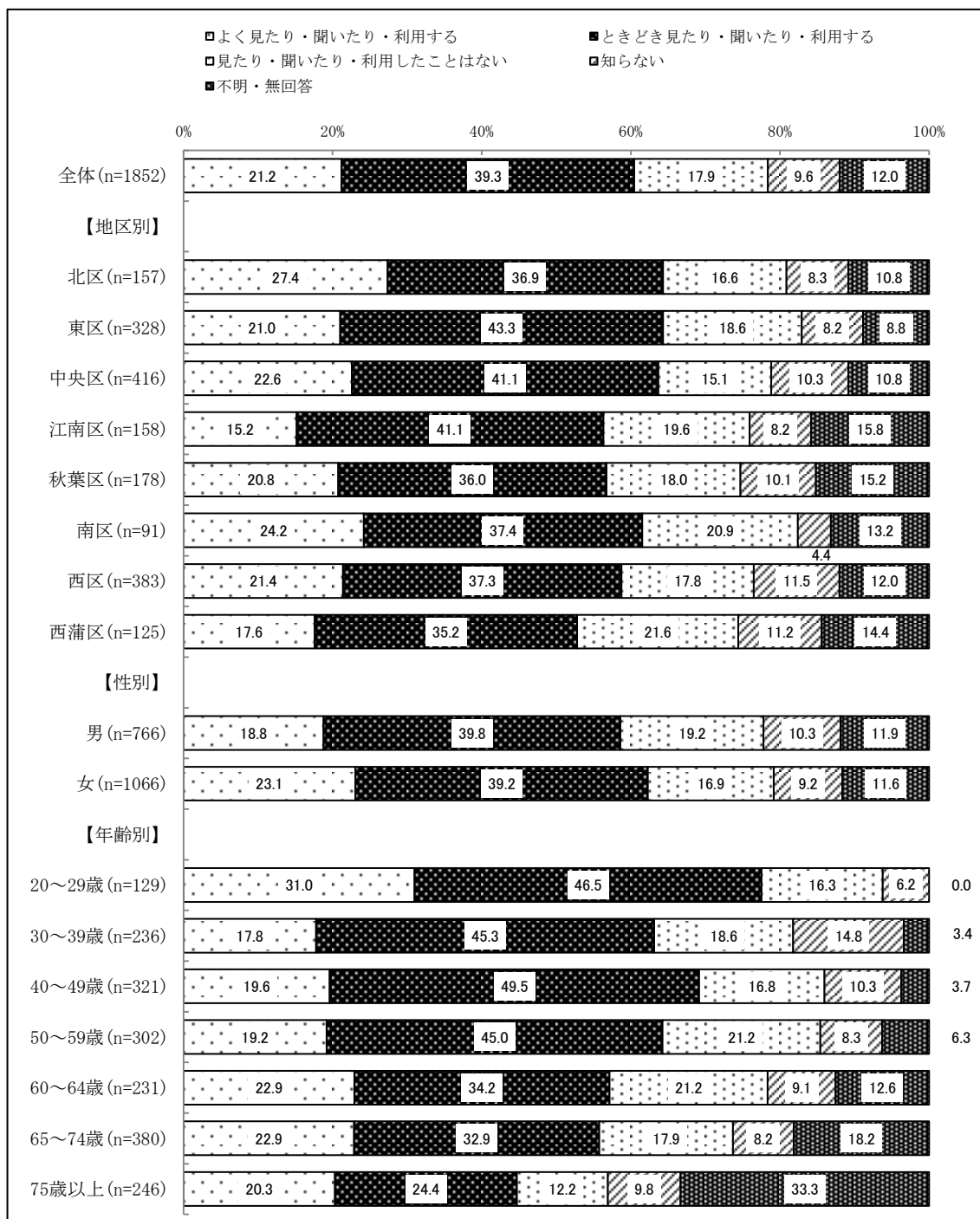
④ラジオ（市が提供する広報番組）



「よく見たり・聞いたり・利用する」と「ときどき見たり・聞いたり・利用する」を合わせた割合は、地区別では南区（27.5%）で最も高くなっている。性別では男性が高く、年齢別では、40代（28.7%）が最も高い。

一方、「見たり・聞いたり・利用したことはない」と「知らない」を合わせた割合は、6割を超えている属性が多く、地区別では西区（69.2%）、年齢別では20代（78.3%）で最も高くなっている。

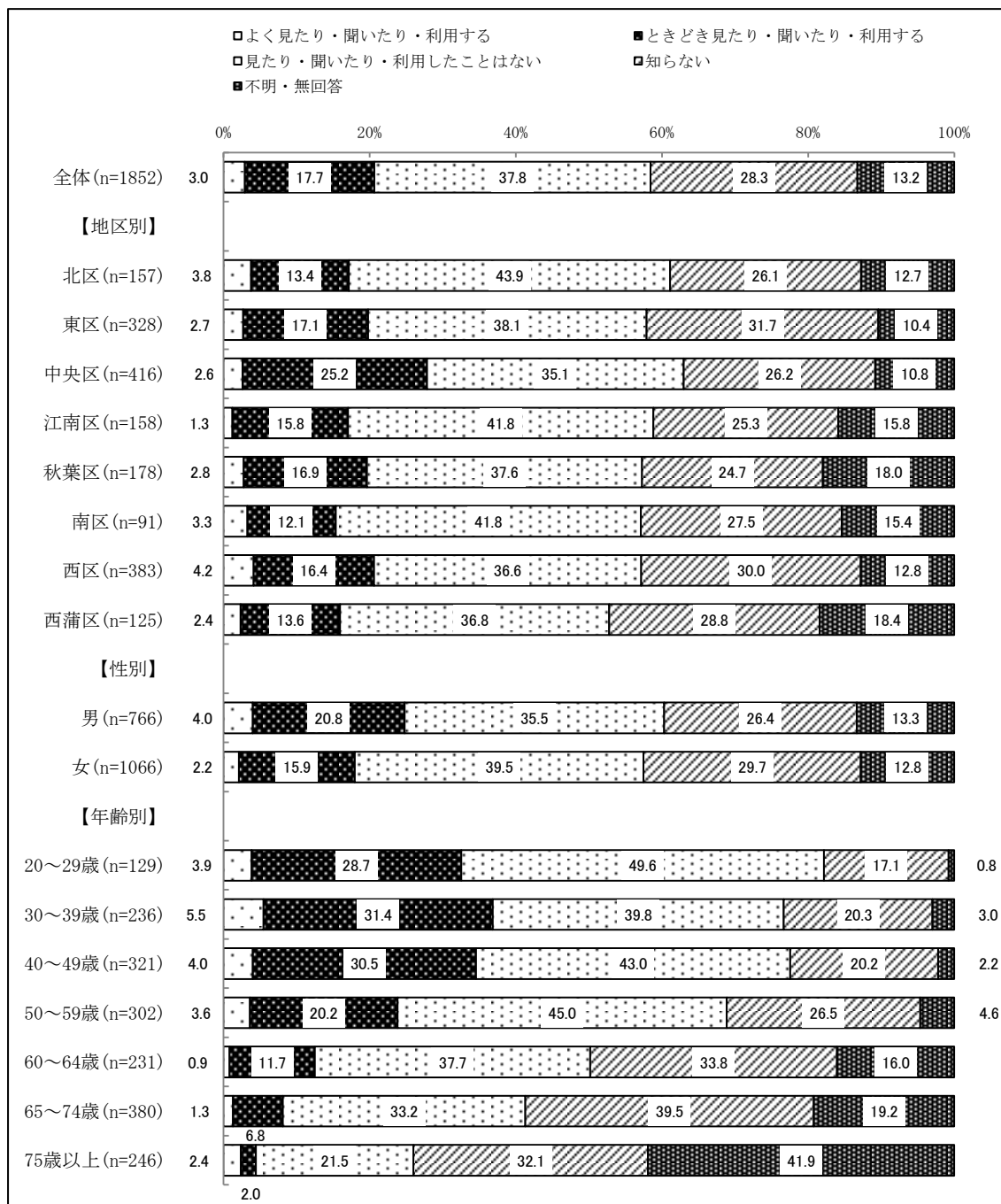
⑤テレビ・ラジオ（ニュース等）



「よく見たり・聞いたり・利用する」と「ときどき見たり・聞いたり・利用する」を合わせた割合は、地区別では北区、東区（いずれも 64.3%）で最も高くなっている。性別では女性で高く、年齢別では、20代（77.5%）で最も高い。

一方、「見たり・聞いたり・利用したことはない」と「知らない」を合わせた割合は、地区別では西蒲区（32.8%）、年齢別では30代（33.5%）で最も高くなっている。

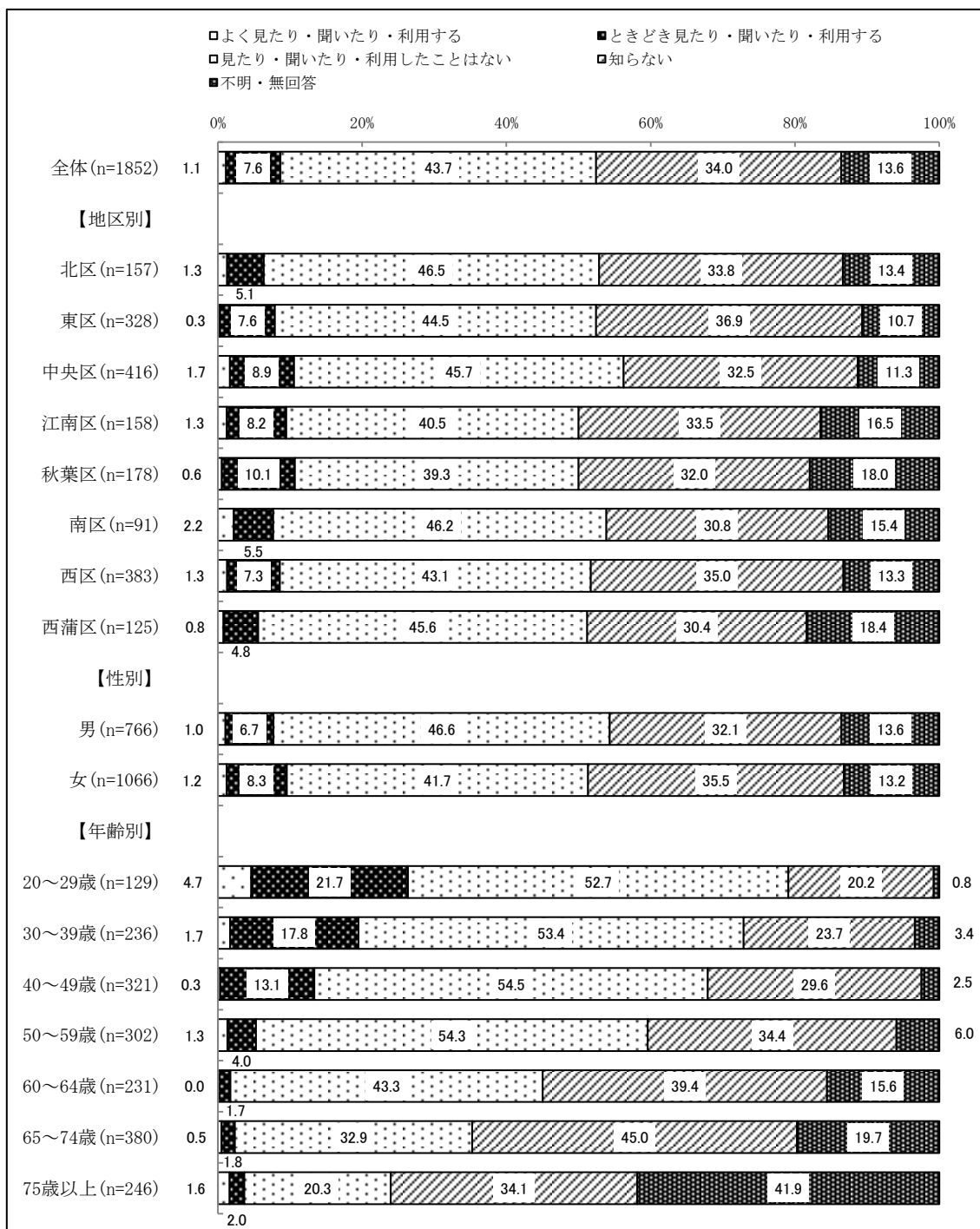
⑥市のホームページ（パソコン）



「よく見たり・聞いたり・利用する」と「ときどき見たり・聞いたり・利用する」を合わせた割合は、地区別では中央区（27.9%）で最も割合が高い。性別では、女性（18.0%）より男性（24.8%）で割合が高い。年齢別では50代（23.8%）で2割を超え、20代（32.6%）、30代（36.9%）、40代（34.6%）では3割以上となっている。

一方、「見たり・聞いたり・利用したことはない」と「知らない」を合わせた割合は、地区別では北区（70.1%）、年齢別では65～74歳（72.6%）で最も高くなっている。

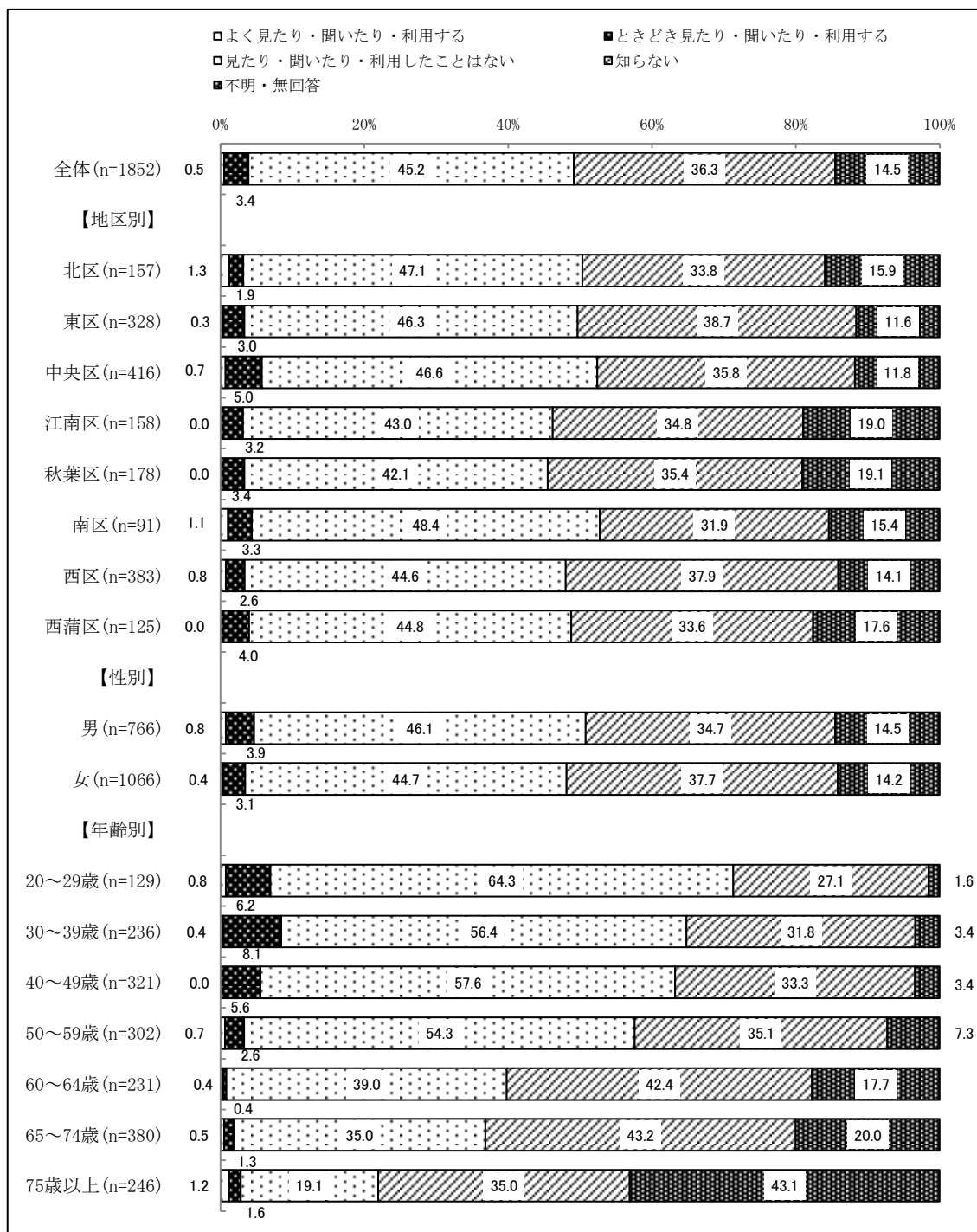
⑦市のホームページ（スマートフォン）



「よく見たり・聞いたり・利用する」と「ときどき見たり・聞いたり・利用する」を合わせた割合は、年齢別では20代（26.4％・年齢別で最高）で2割を超えた。30代（19.5％）、40代（13.4％）で1割を超えている。

一方、「見たり・聞いたり・利用したことはない」と「知らない」を合わせた割合は、地区別では東区（81.4％）、年齢別では50代（88.7％）で最も高くなっている。

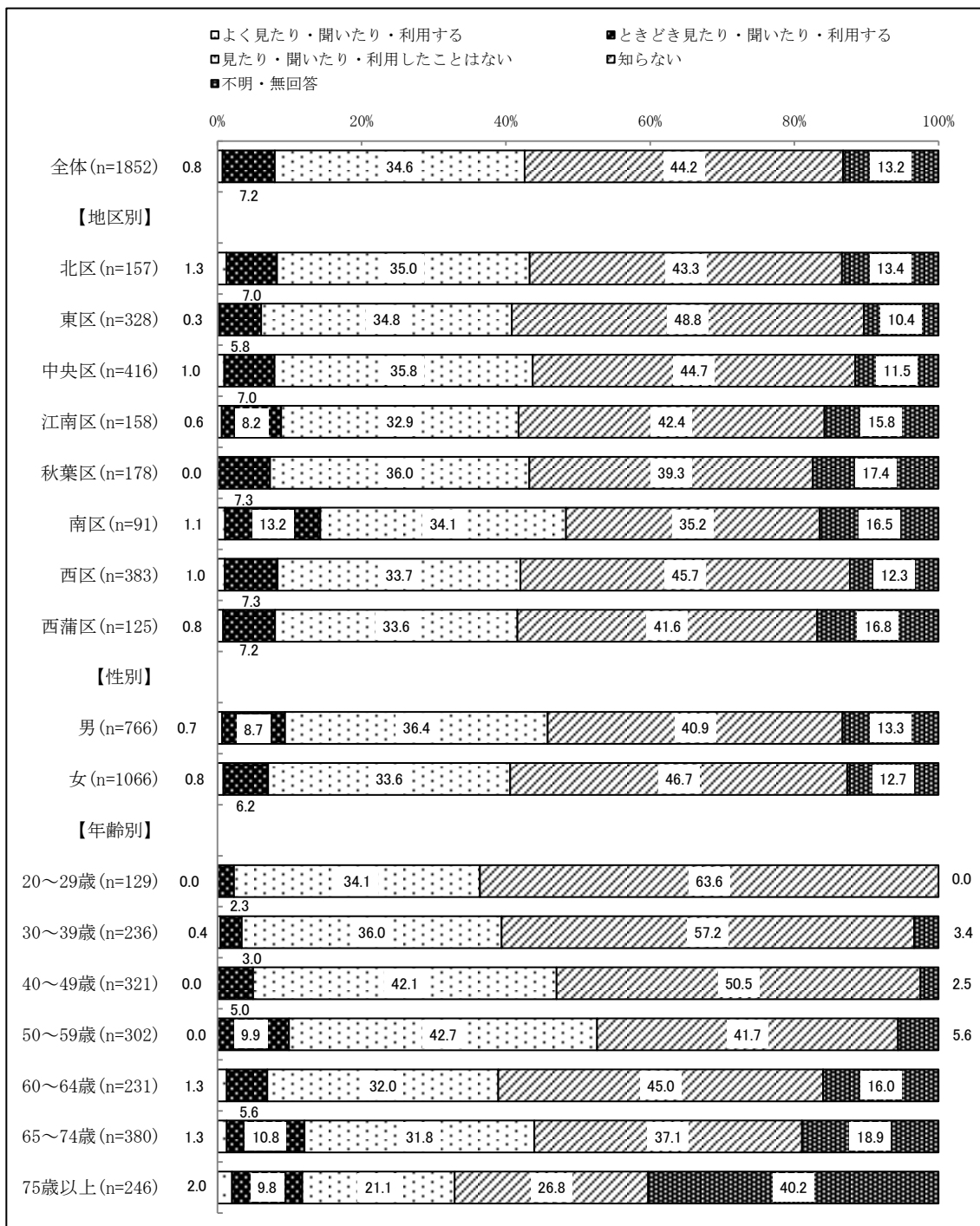
⑧市のホームページ（携帯電話）



「よく見たり・聞いたり・利用する」と「ときどき見たり・聞いたり・利用する」を合わせた割合は、地区別では中央区（5.8%）、年齢別では30代（8.5%）で最も高くなっている。性別ではあまり差が見られない。

一方、「見たり・聞いたり・利用したことはない」と「知らない」を合わせた割合は、地区別では東区（85.1%）、年齢別では20代（91.5%）で最も高くなっている。

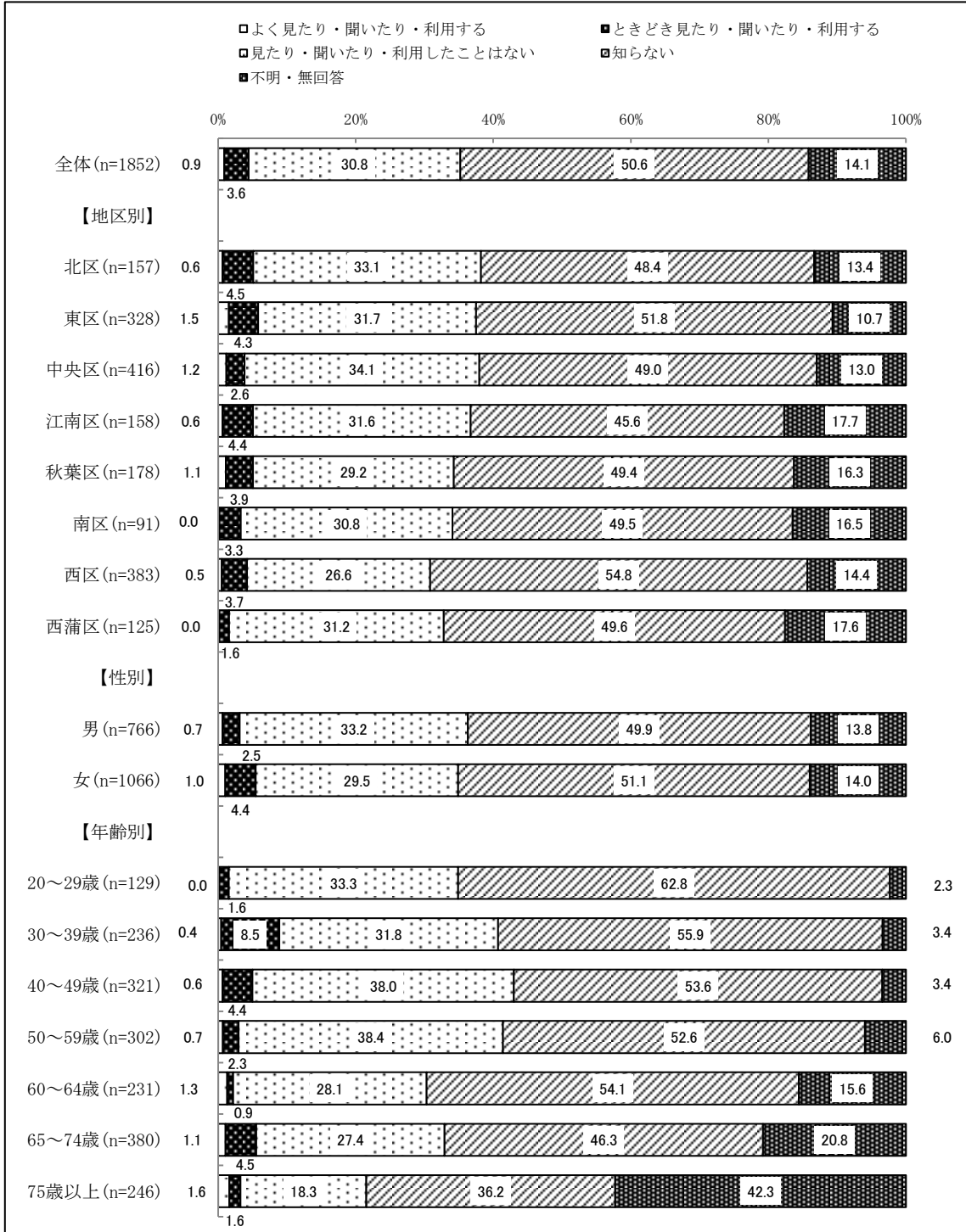
⑨説明会など地域での集会



「よく見たり・聞いたり・利用する」と「ときどき見たり・聞いたり・利用する」を合わせた割合は、地区別では南区（14.3%）で最も高い。年齢別では65～74歳（12.1%）、75歳以上（11.8%）で、他の年齢と比べて、割合が高い。性別による差はほとんどない。

一方、「見たり・聞いたり・利用したことはない」と「知らない」を合わせた割合は、地区別では東区（83.5%）、年齢別では20代（97.7%）で最も高くなっている。

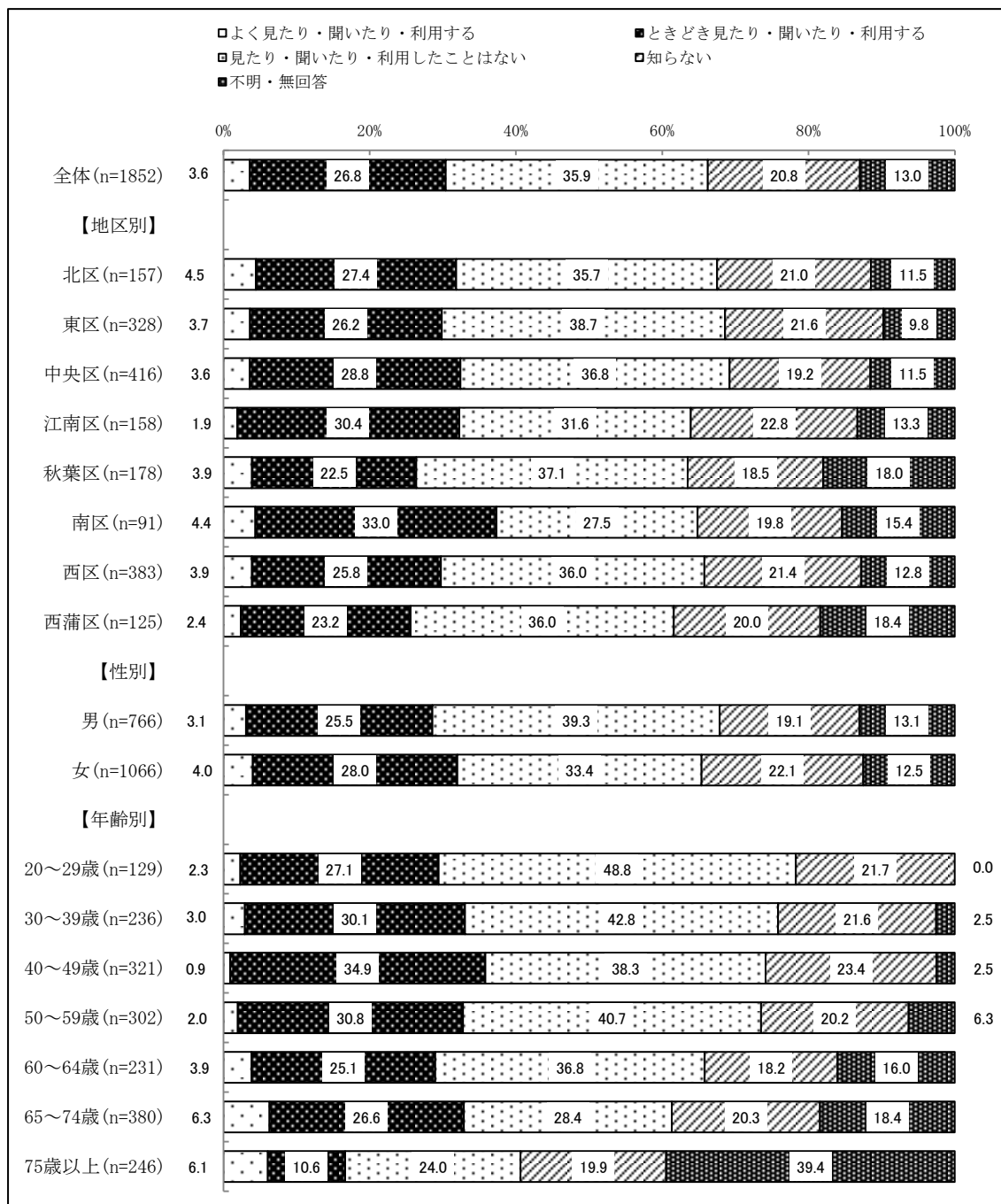
⑩コールセンター



「よく見たり・聞いたり・利用する」と「ときどき見たり・聞いたり・利用する」を合わせた割合は、年齢別では、30代（8.9%）で最も高くなっている。

一方、「見たり・聞いたり・利用したことはない」と「知らない」を合わせた割合は、年齢別では20代（96.1%）で、最も割合が高い。

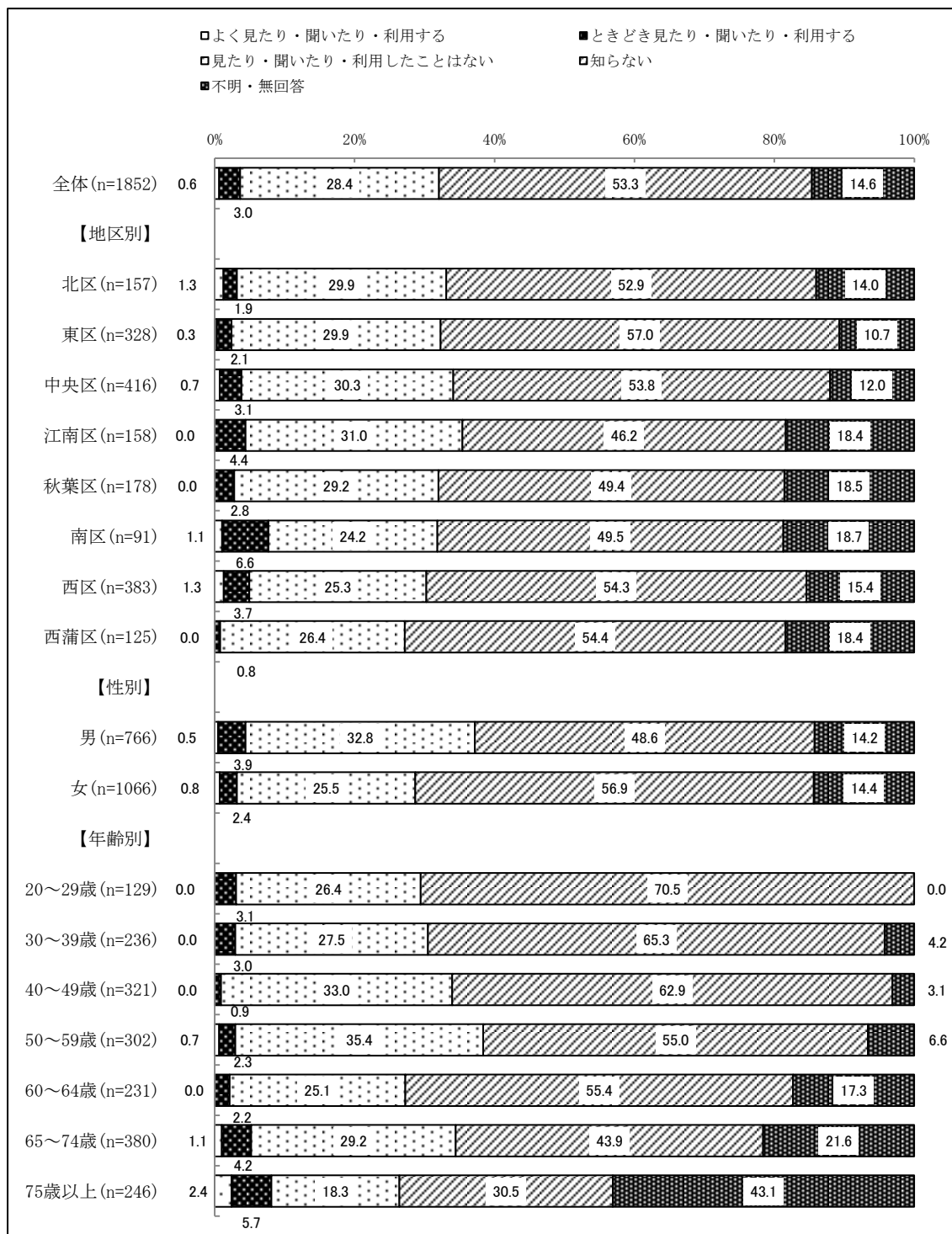
⑪市役所・区役所・公共施設などに置いてあるチラシやパンフレット



「よく見たり・聞いたり・利用する」と「ときどき見たり・聞いたり・利用する」を合わせた割合は、地区別では南区 (37.4%)、年齢別では 40 代 (35.8%) が最も高くなっており、性別では、男性 (28.6%) より女性 (32.0%) で割合が高い。

一方、「見たり・聞いたり・利用したことはない」と「知らない」を合わせた割合は、地区別では東区 (60.4%)、年齢別では 20 代 (70.5%) で最も高くなっている。

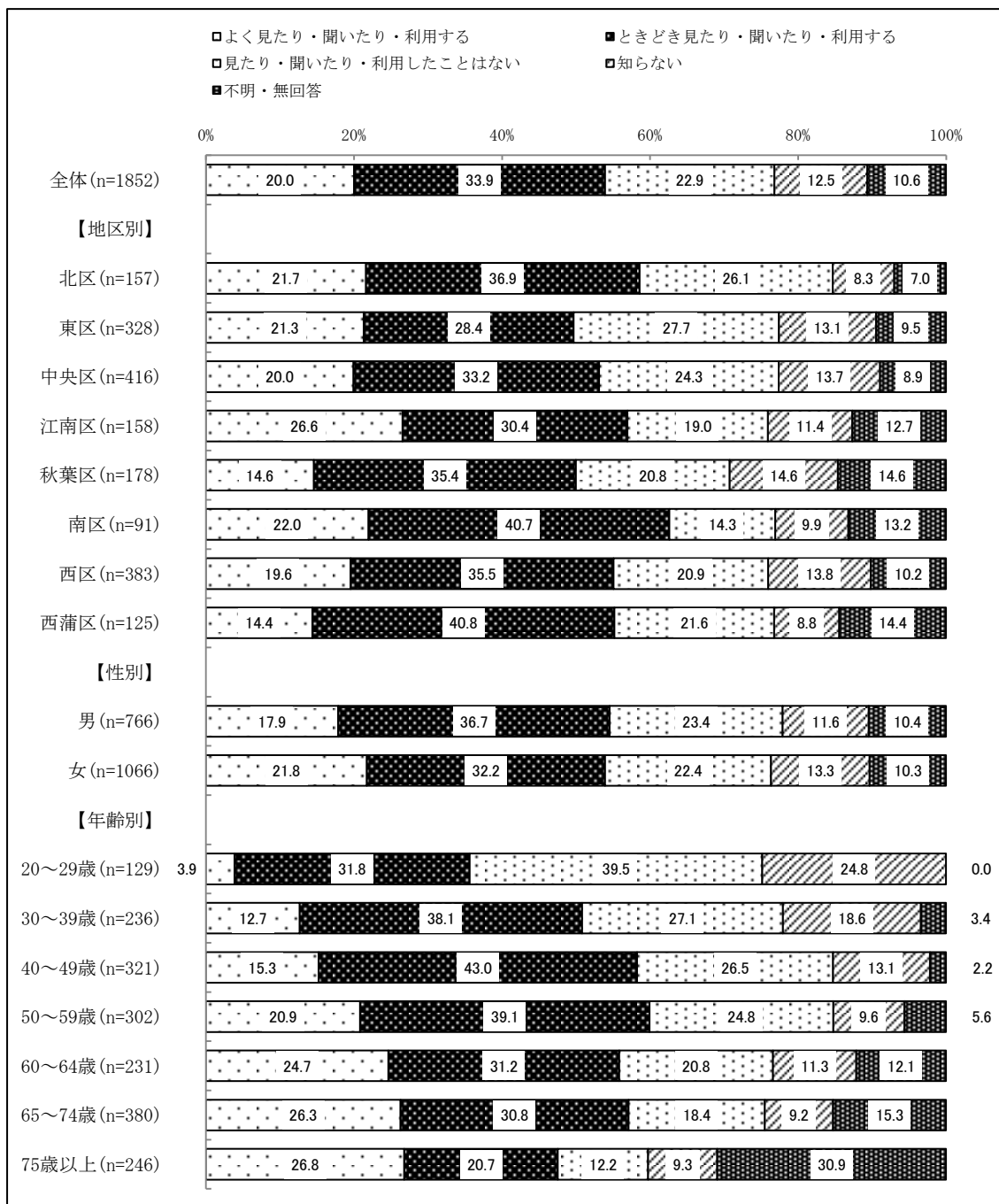
⑫市政情報室



「よく見たり・聞いたり・利用する」と「ときどき見たり・聞いたり・利用する」を合わせた割合は、地区別では南区（7.7%）、年齢別では75歳以上（8.1%）で割合が高い。

一方、「見たり・聞いたり・利用したことはない」と「知らない」を合わせた割合は、地区別では東区（86.9%）、年齢別では20代（96.9%）で最も高くなっている。

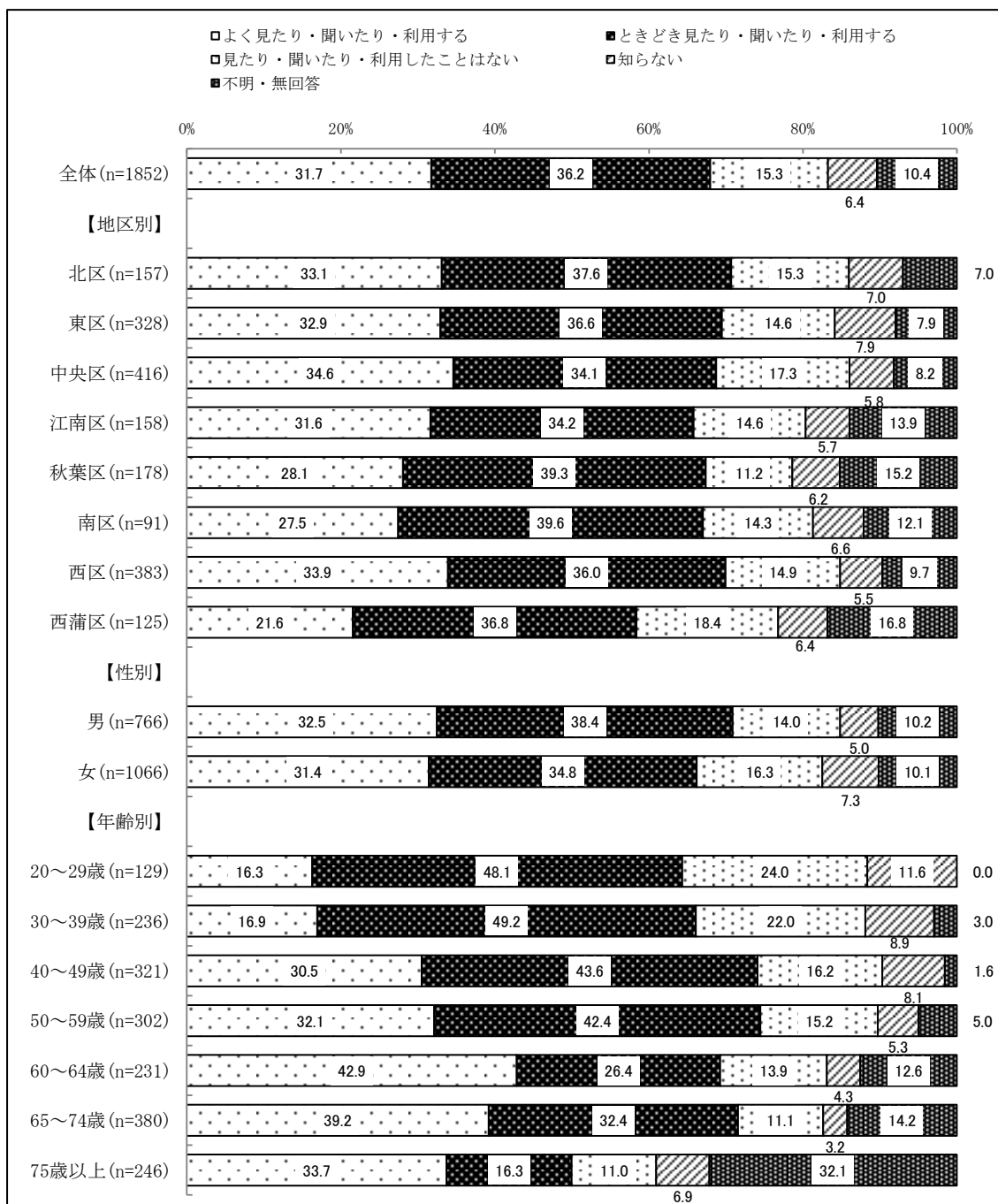
⑬自治会・コミュニティ協議会などの掲示板・回覧板・チラシ



「よく見たり・聞いたり・利用する」と「ときどき見たり・聞いたり・利用する」を合わせた割合は、地区別では南区（62.6%）、年齢別では50代（59.9%）が最も高くなっており、性別による差はほとんどない。

一方、「見たり・聞いたり・利用したことはない」と「知らない」を合わせた割合は、地区別では東区（40.9%）、年齢別では20代（64.3%）で最も高くなっている。

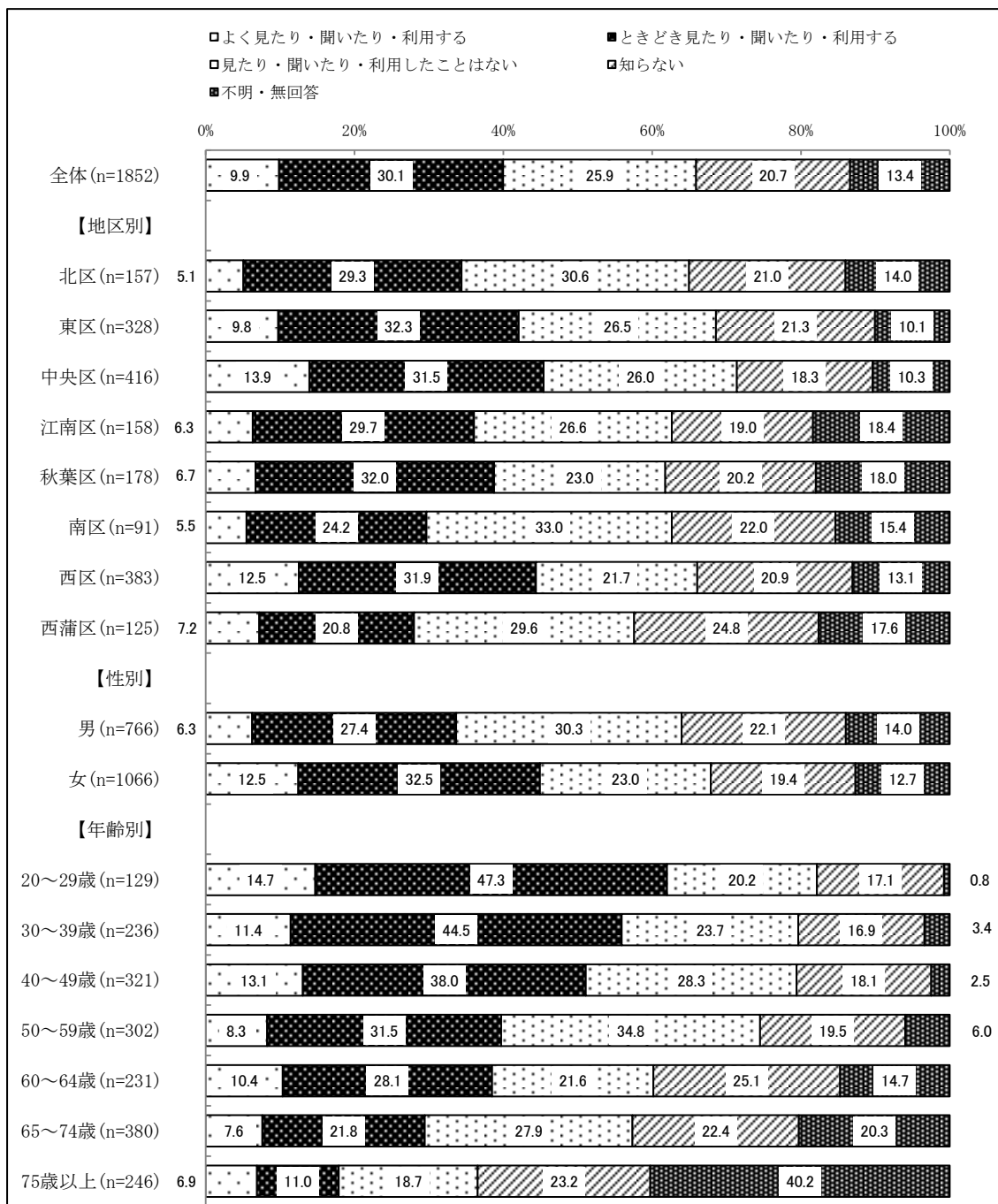
⑭新聞



「よく見たり・聞いたり・利用する」と「ときどき見たり・聞いたり・利用する」を合わせた割合は、地区別では北区（70.7%）で最も高くなっている。性別では男性がやや高く、年齢別では50代（74.5%）が最も高い。

一方、「見たり・聞いたり・利用したことはない」と「知らない」を合わせた割合は、地区別では西蒲区（24.8%）、年齢別では20代（35.7%）で最も高くなっている。

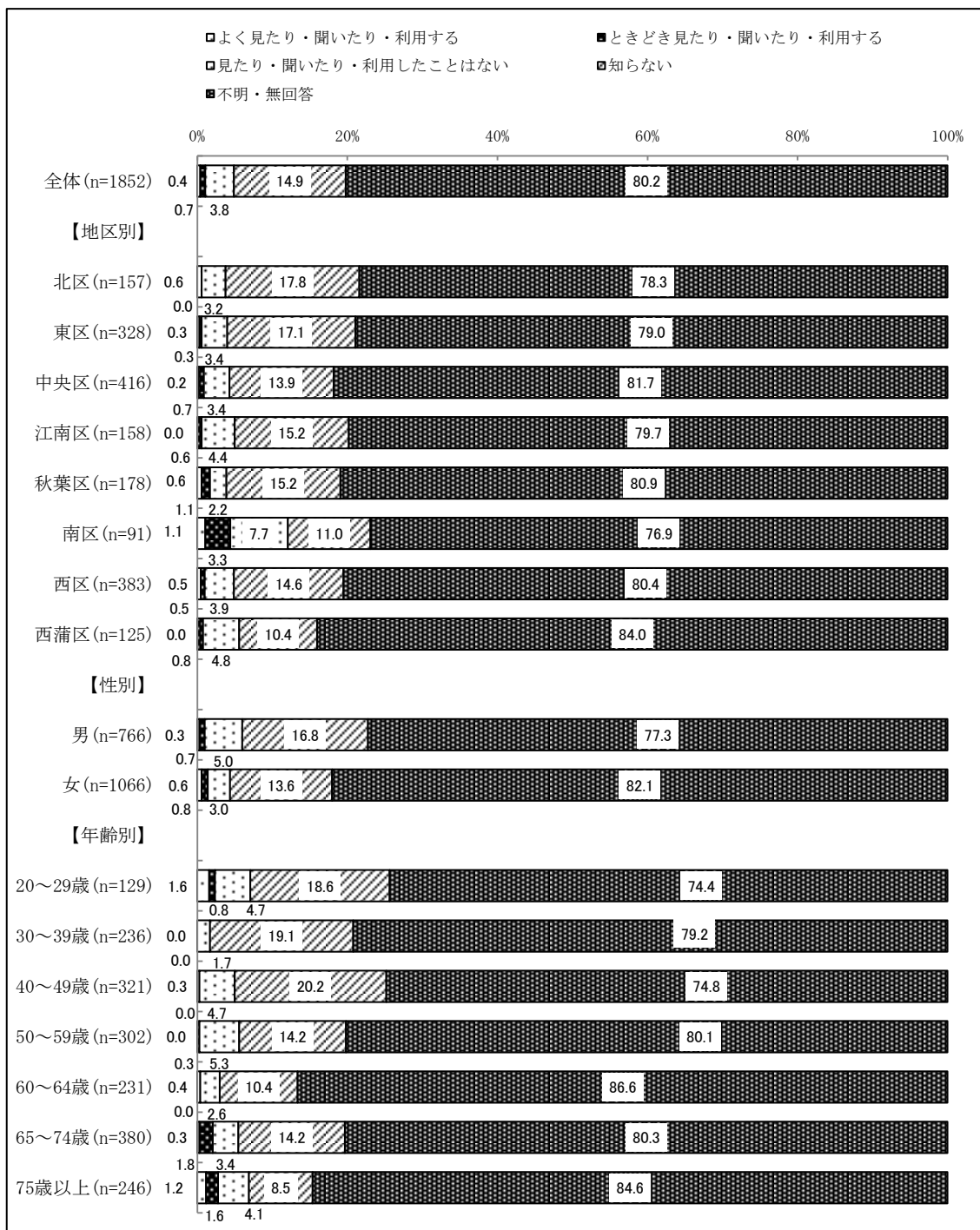
⑮タウン誌など



「よく見たり・聞いたり・利用する」と「ときどき見たり・聞いたり・利用する」を合わせた割合は、地区別では中央区 (45.4%) で最も高くなっている。性別では男性 (33.7%) に比べて女性 (44.9%) で高く、年齢別では20代 (62%) で最も高い。

一方、「見たり・聞いたり・利用したことはない」と「知らない」を合わせた割合は、地区別では南区 (54.9%)、年齢別では50代 (54.3%) で最も高くなっている。

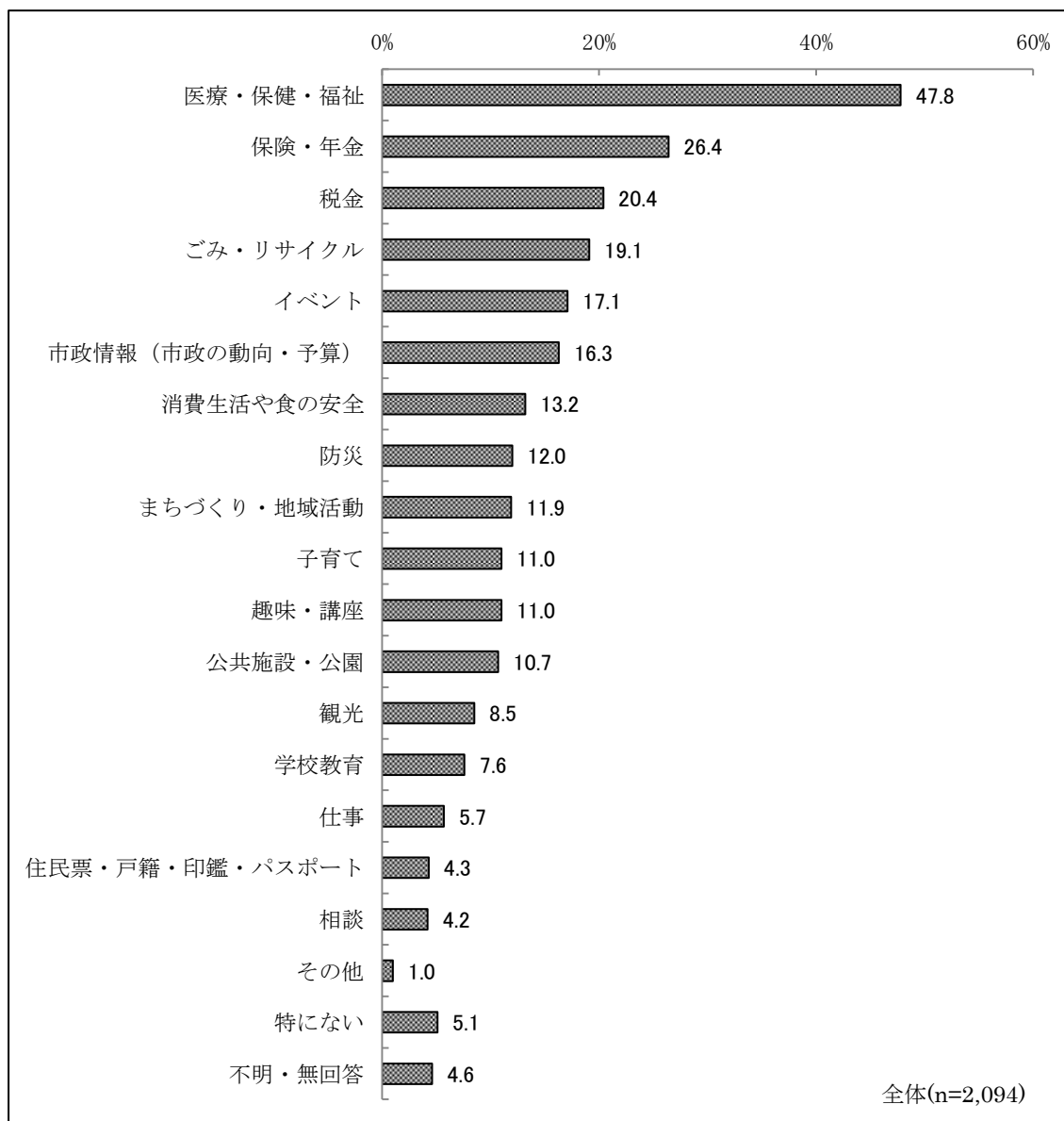
⑩その他



図のみの掲載とする。

(3) 市に関するどんな情報が知りたいか

問3 1 あなたは、市に関するどの分野の情報をより知りたいですか。
(○は3つまで)



市に関して知りたい情報は「医療・保健・福祉」が最多

【全体結果】

市に関して知りたい情報としては、「医療・保健・福祉」(47.8%)の割合が最も高く5割弱となっている。次いで、「保険・年金」(26.4%)、「税金」(20.4%)が2割を超えている。

【属性別結果】（図 3-2 参照）

①地区別

全体結果で最も割合の高かった「医療・保健・福祉」については、江南区（52.0％）の割合が最も高く、南区（36.9％）が最も低くなっている。「保険・年金」については、北区（34.3％）で、最も割合が高い。

②性別

「医療・保健・福祉」については、男性（43.1％）に比べて女性（51.2％）で割合が高い。

③年齢別

「医療・保健・福祉」では、年齢が高いほど、割合が高い傾向がある。20～29 歳（33.5％）で最も低く、75 歳以上（56.1％）で最も割合が高い。「保険・年金」については、40 代以下では 2 割に満たない。

図 3-2 市に関するどんな情報が知りたいか（地区別/性別/年齢別） 1/4

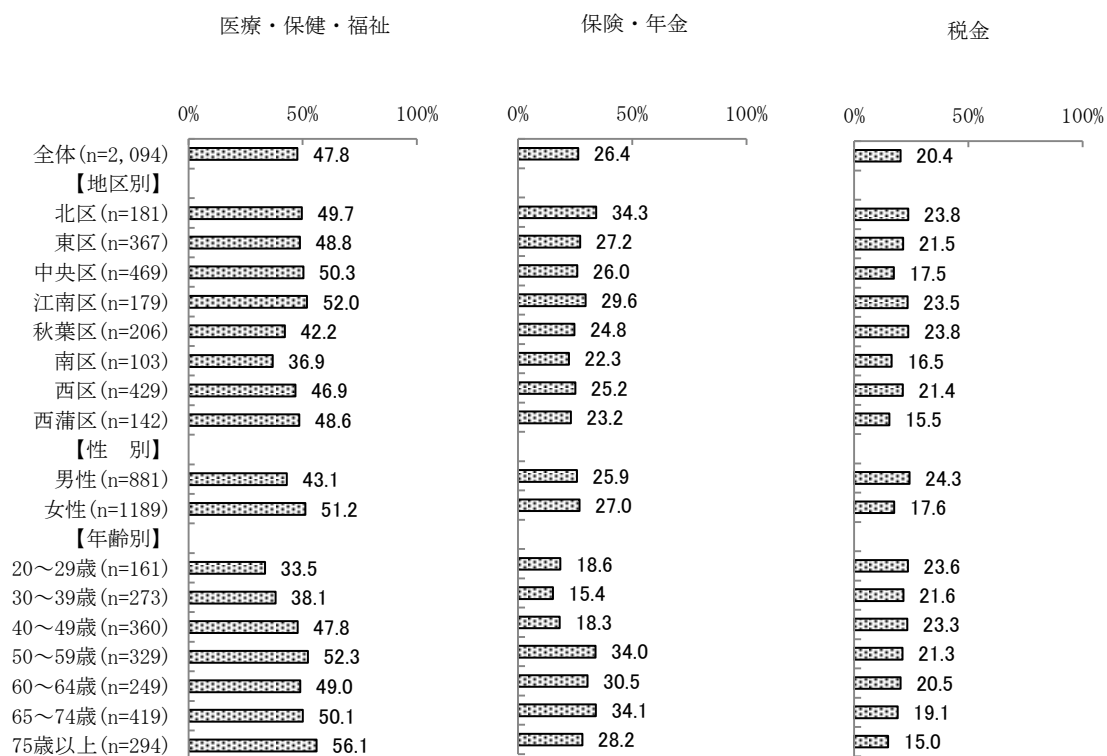


図 3-2 市に関するどんな情報が知りたいか（地区別/性別/年齢別） 2/4

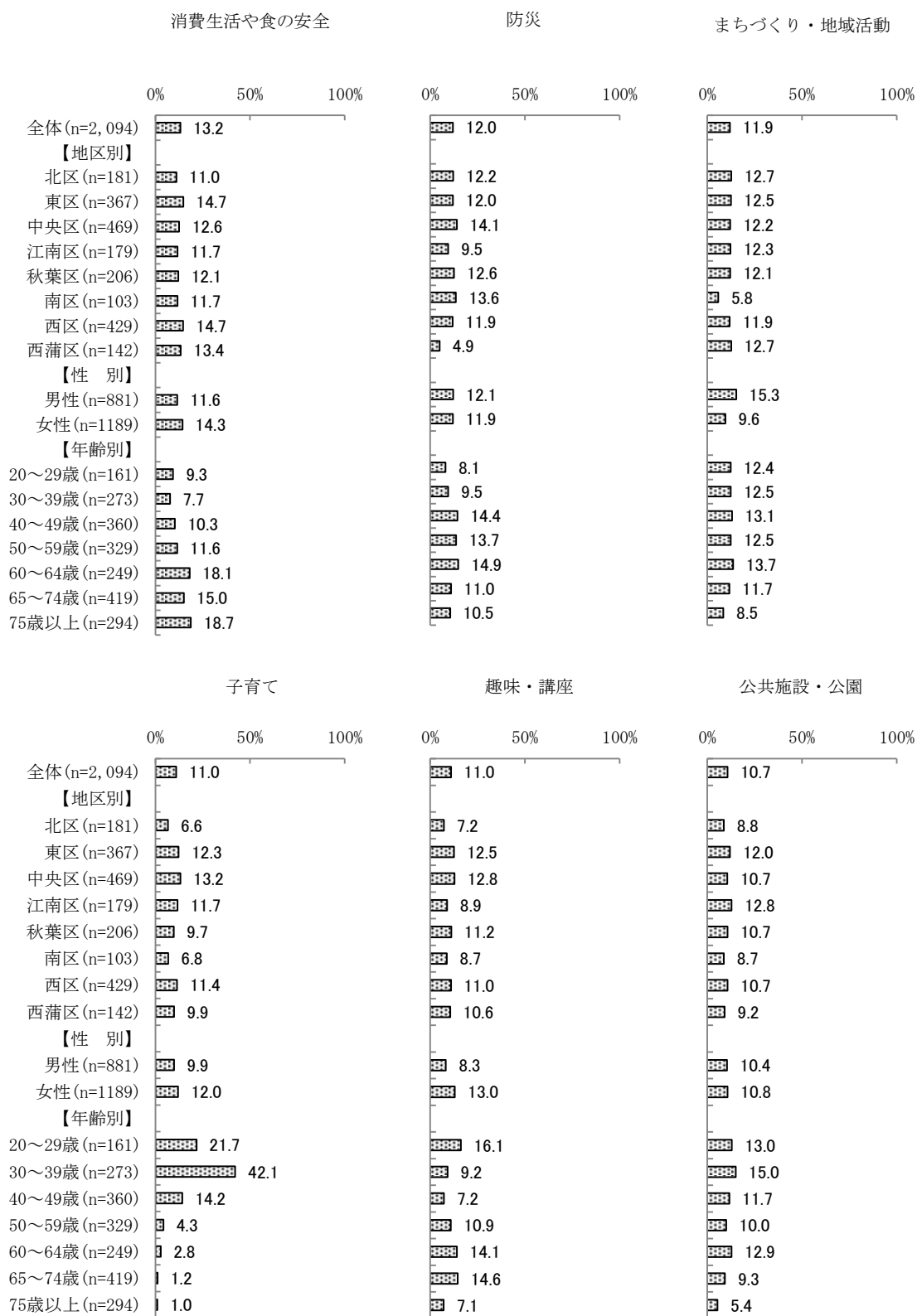


図 3-2 市に関するどんな情報が知りたいか（地区別/性別/年齢別） 3/4

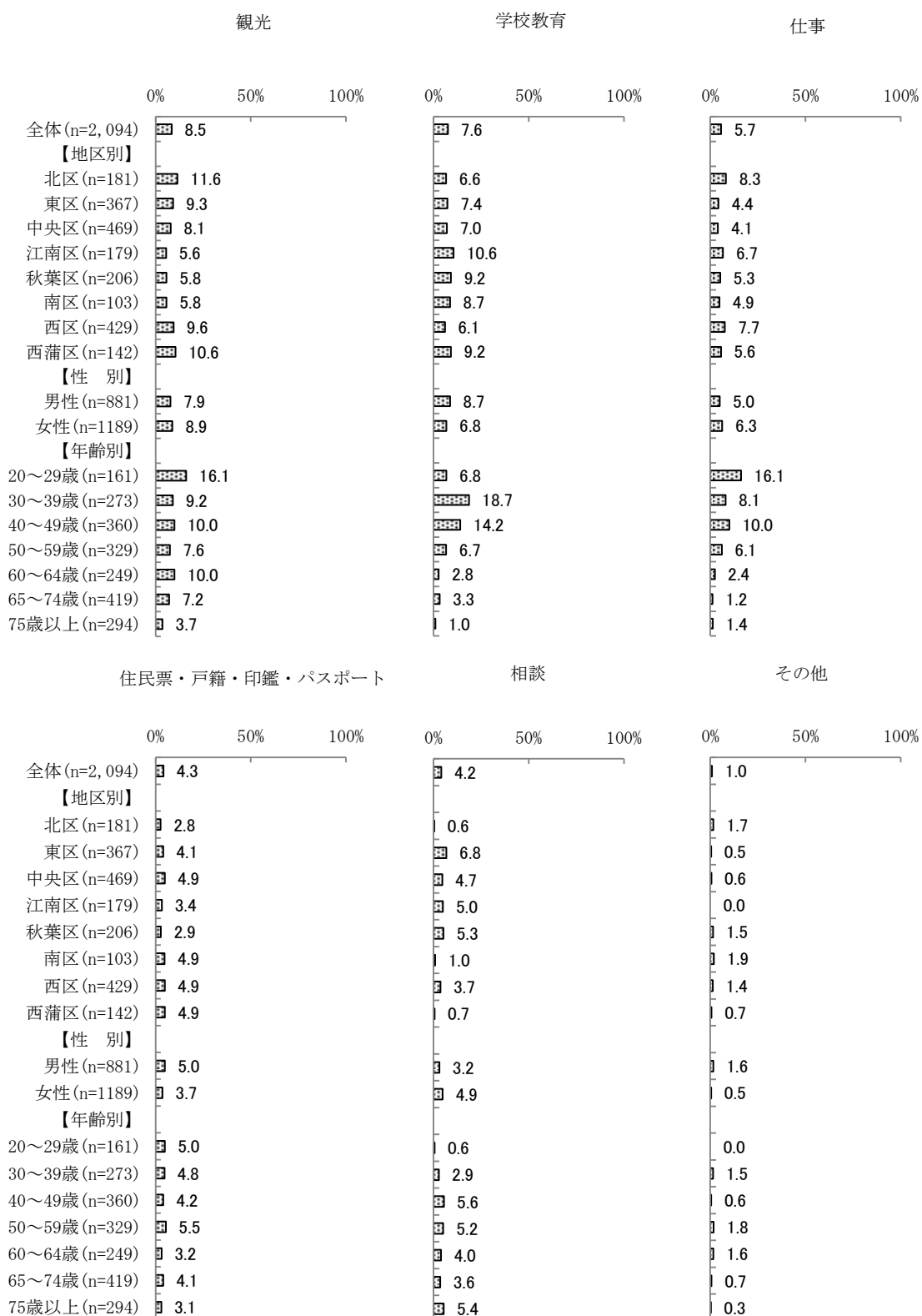
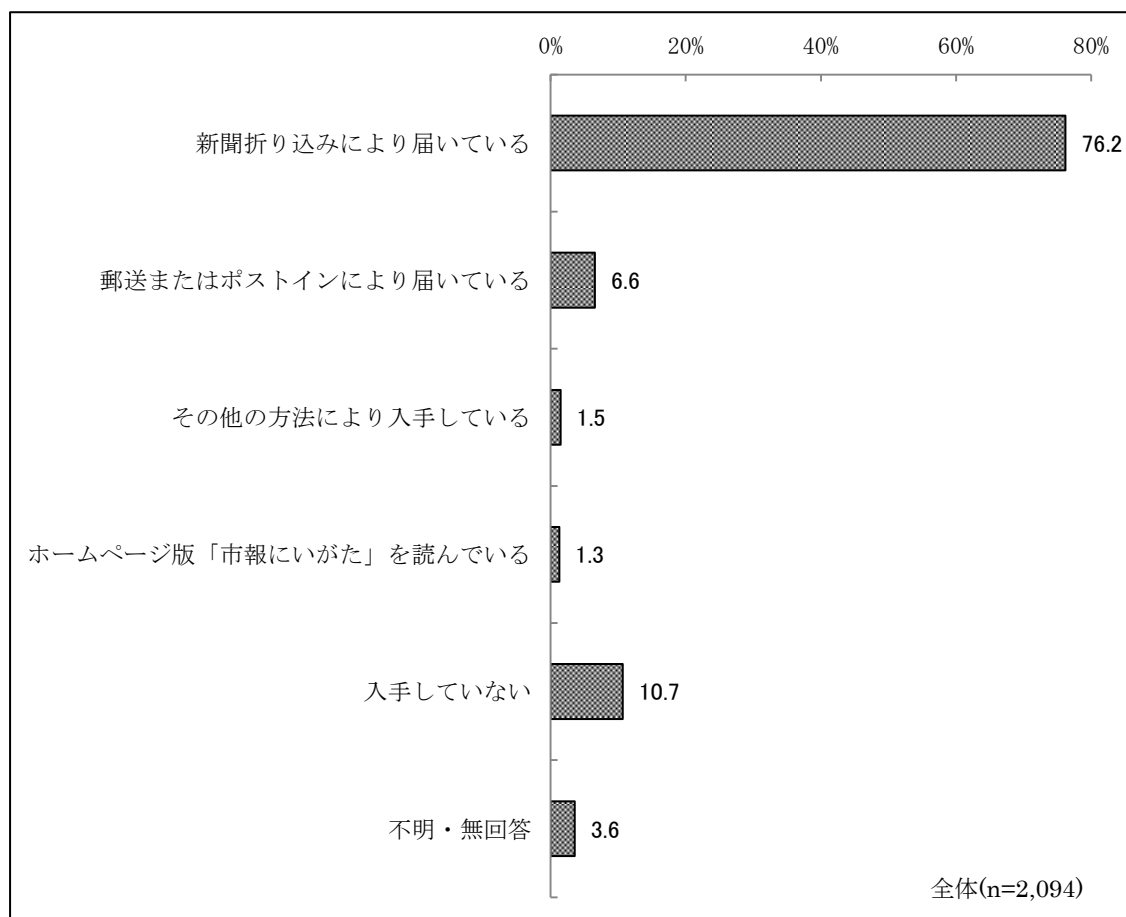


図 3-2 市に関するどんな情報が知りたいか（地区別/性別/年齢別） 4/4



(4) 「市報にいがた」の入手方法

問32 新潟市では、市の広報紙「市報にいがた」を新聞折り込みにより市内の各世帯に配布するとともに、新聞未購読世帯には、お申込みにより個別に郵送またはポストインによりお届けしています。
あなたはどの方法で「市報にいがた」を入手していますか。
(○は1つだけ)



「市報にいがた」の入手方法は「新聞折り込み」が最も多い

【全体結果】

「市報にいがた」の入手方法としては、「新聞折り込みにより届いている」(76.2%)が突出して高い割合になっている。一方、「入手していない」は10.7%となっている。

【属性別結果】(図3-3参照)

①地区別

「新聞折り込みにより届いている」の割合が最も高いのは秋葉区(80.1%)で、最も低いのは北区(71.8%)となっている。

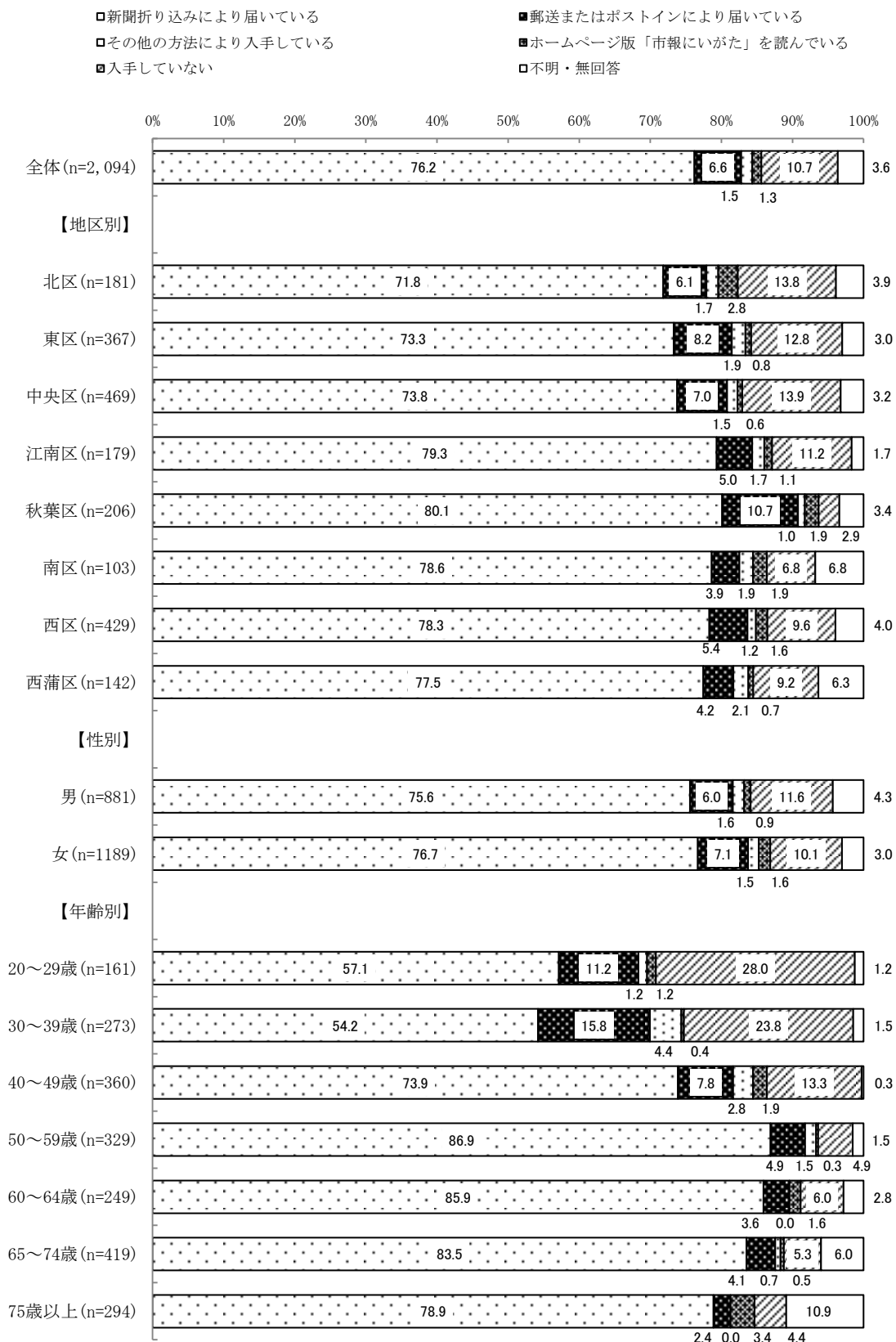
②性別

性別による差はほとんどない。

③年齢別

「新聞折り込みにより届いている」では、50代（86.9%）、60～64歳（85.9%）、65～74歳（83.5%）で、8割を超えた。20代（57.1%）、30代（54.2%）では、6割に満たなかった。

図 3-3 「市報にいがた」の入手方法（地区別/性別/年齢別）

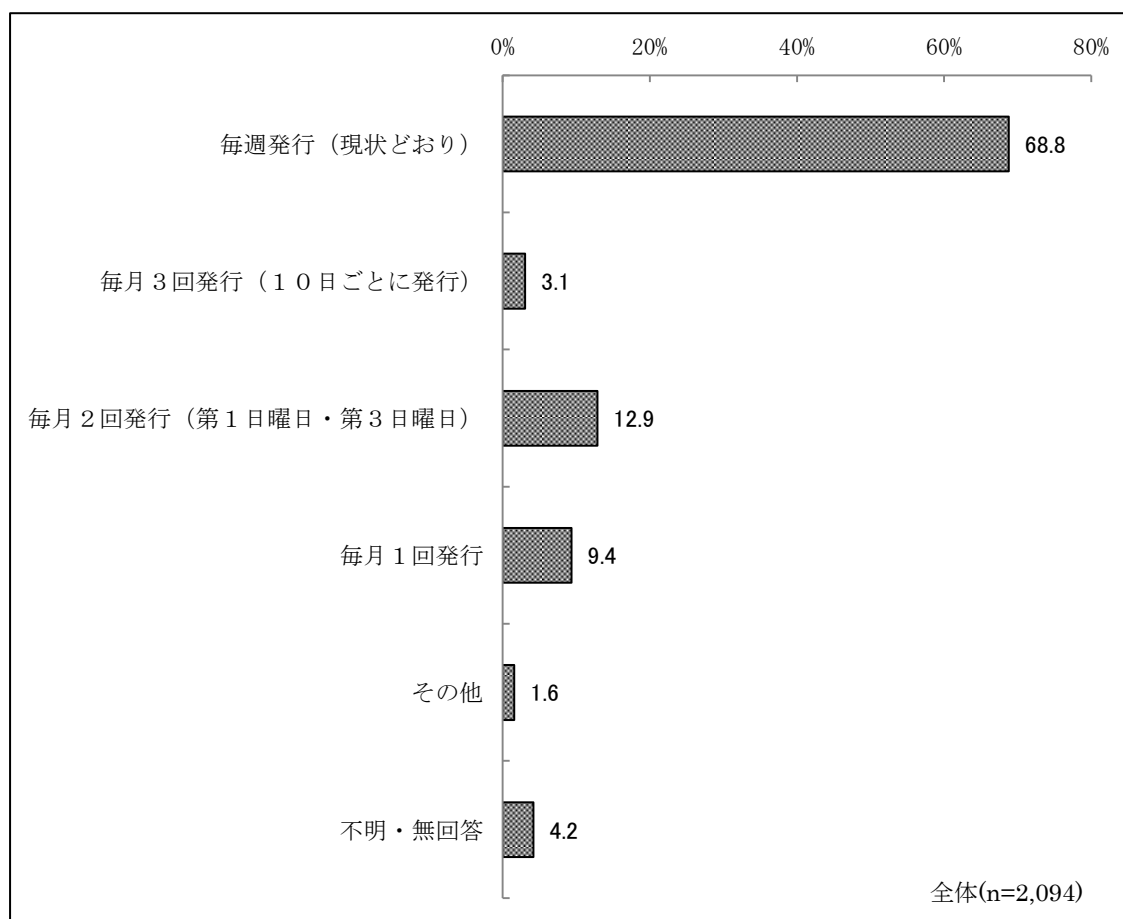


(5) 「市報にいがた」の発行頻度の希望

問33 新潟市では現在「市報にいがた」を毎週発行していますが、今後、どのような頻度での発行が適当だと思いますか。

(1か月あたりのページ数・情報量は変わらないものとします。)

(○は1つだけ)



「市報にいがた」の発行頻度の希望は現状維持が多数

【全体結果】

「市報にいがた」の発行頻度の希望は、「毎週発行 (現状どおり)」が最も高い割合で、約7割となっている。次いで「毎月2回発行 (第1日曜日・第3日曜日)」が12.9%。

【属性別結果】 (図3-4参照)

①地区別

「毎週発行 (現状どおり)」については、江南区 (72.1%) が最も高い割合となっている。次いで、西区 (71.6%)、東区 (70.8%)、中央区 (70.6%) と、いずれも7割を超えている。

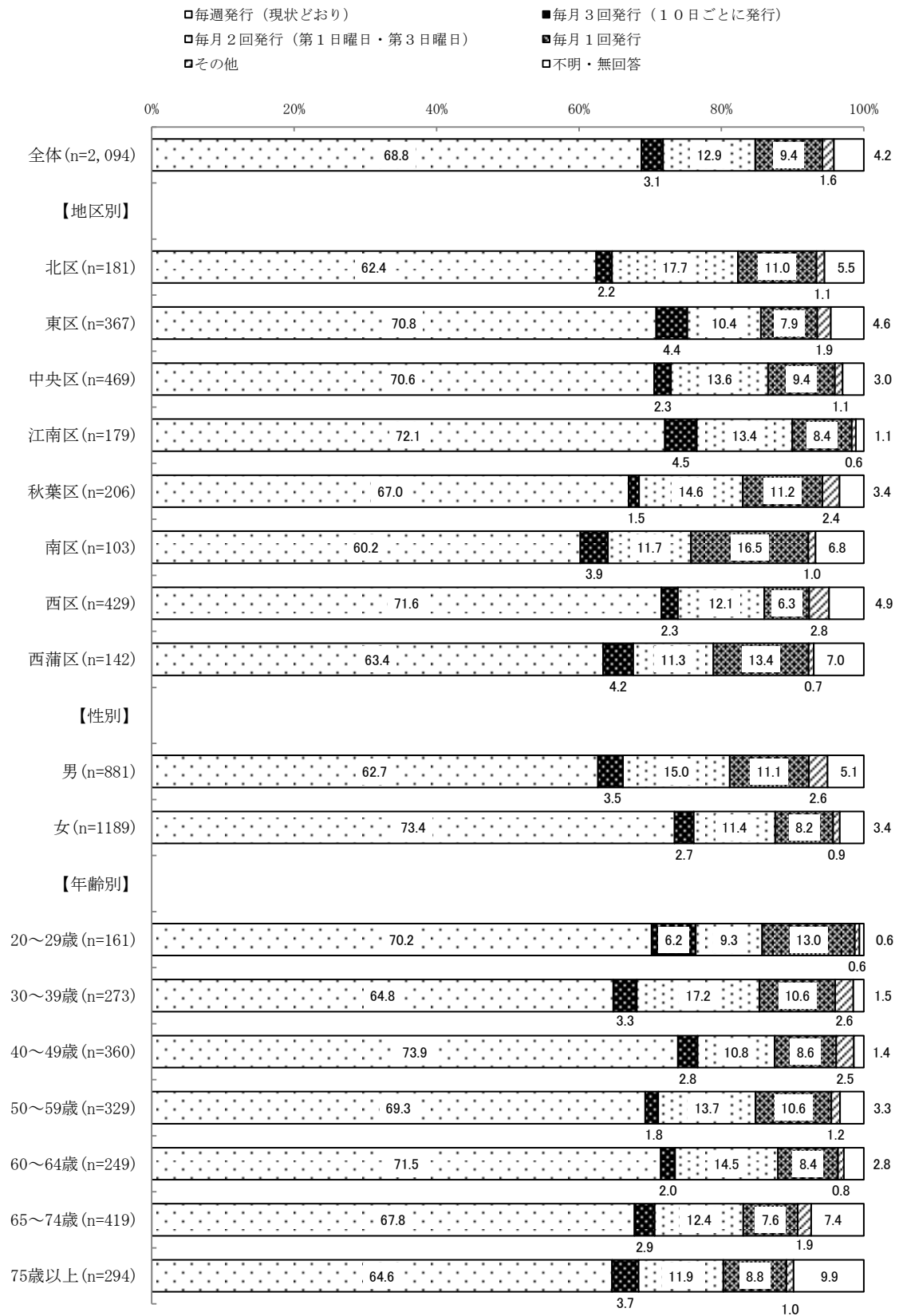
②性別

「毎週発行（現状どおり）」について、女性（73.4%）の割合が男性（62.7%）を上回っている。

③年齢別

「毎週発行（現状どおり）」について、40代（73.9%）で最も高い割合となっており、75歳以上（64.6%）で最も低くなっている。

図 3-4 「市報にいがた」の発行頻度の希望（地区別/性別/年齢別）



4. 市政全般と区政について

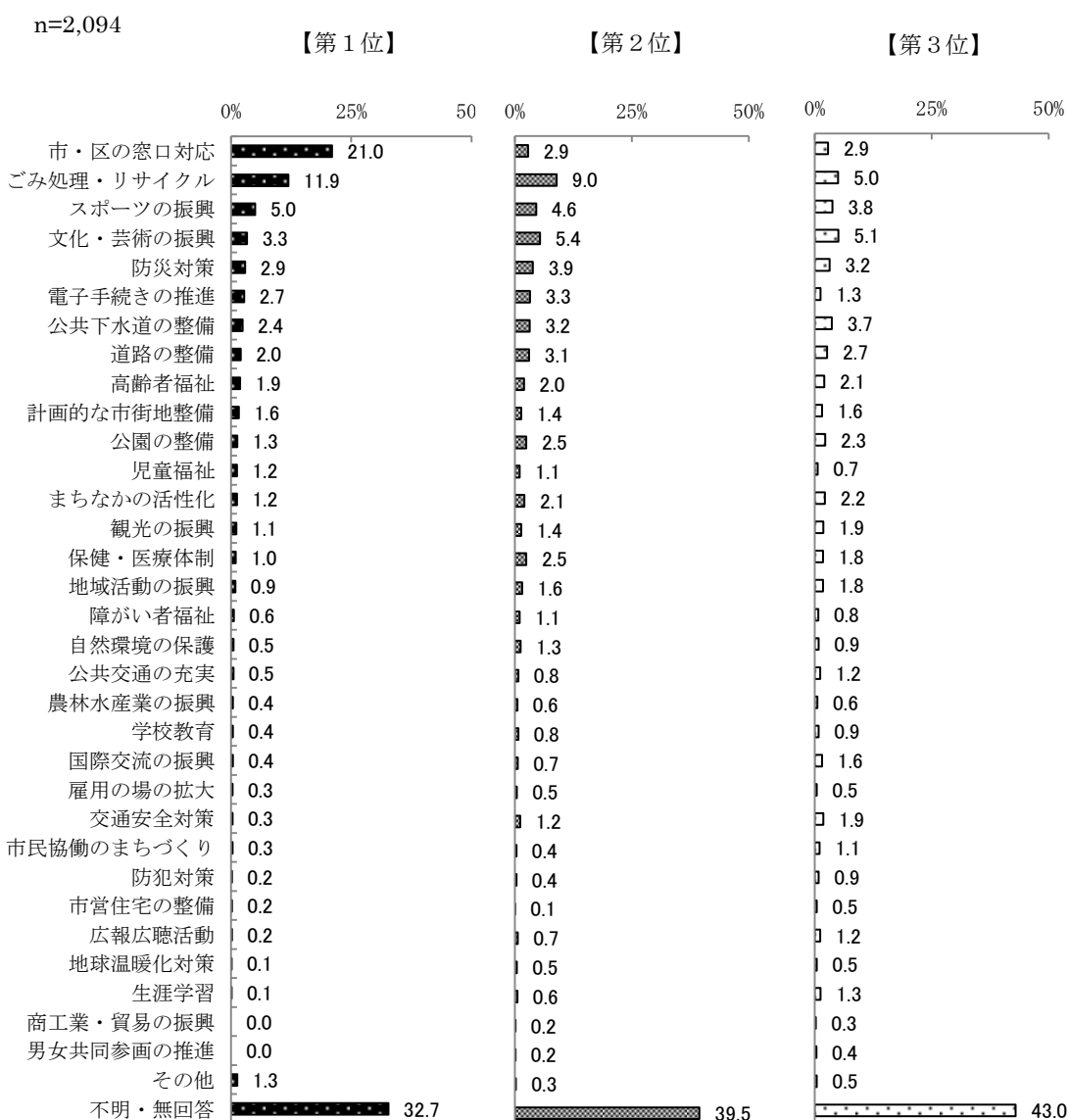
(1) 新潟市として良くなっているもの

問 34 新潟市は平成 19 年 4 月に政令市に移行したことにより、身近な行政サービスを行う 8 つの区役所を設置し、7 年が経過しました。

市役所とあなたがお住まいの区の区役所が行っている施策や事業で、以前に比べて

①「新潟市として良くなっているもの」

を次の中からそれぞれ 1 位～3 位までを選んで、下の回答欄に番号（1～33）をご記入ください。（それぞれの順位欄に番号数字を記入してください）



—— 新潟市として良くなっているものは「市・区の窓口対応」 ——

【全体結果】

【第1位回答】の割合は、「市・区の窓口対応」(21.0%)が最も高い。以下、「ごみ処理・リサイクル」(11.9%)、「スポーツの振興」(5.0%)と続いている。

【第2位回答】の割合は、「ごみ処理・リサイクル」(9.0%)が最も高い。以下、「文化・芸術の振興」(5.4%)、「スポーツの振興」(4.6%)と続いている。

【第3位回答】の割合は、「文化・芸術の振興」(5.1%)が最も高い。以下、「ごみ処理・リサイクル」(5.0%)、「スポーツの振興」(3.8%)と続いている。

なお、「不明・無回答」の割合は、第1位が32.7%、第2位が39.5%、第3位が43.0%で、いずれの【回答順位】においても、その割合は高い。

【第1位回答】に3ポイント、【第2位回答】に2ポイント、【第3位回答】に1ポイントを与え、『新潟市として良くなっているもの』の平均得点を算出した結果を次ページに掲載した。(図4-1参照)

平均得点が高いほど、「新潟市として良くなっている」との評価が高い施策・事業である。平均得点の算出式、算出例を以下に掲載した。

※1：平均得点の算出式

$$(\text{【第1位回答】} \times 3 + \text{【第2位回答】} \times 2 + \text{【第3位回答】} \times 1) \div n \text{ 数}$$

※2：平均得点の算出例（全体結果、「市・区の窓口対応」の場合）

$$(440 \times 3 + 60 \times 2 + 60 \times 1) \div 2,094 \approx 0.72$$

平均得点 = 0.72ポイント

【平均得点】をみると、「市・区の窓口対応」が0.72ポイントで最も高い。以下、「ごみ処理・リサイクル」が0.59ポイント、「スポーツの振興」が0.28ポイント、「文化・芸術の振興」が0.26ポイント、「防災対策」が0.19ポイントで続いている。なお、性別、年齢別平均得点の上位5つを次々頁に掲載した。(表4-1参照)

図 4-1 新潟市として良くなっているもの<平均得点> (全体)

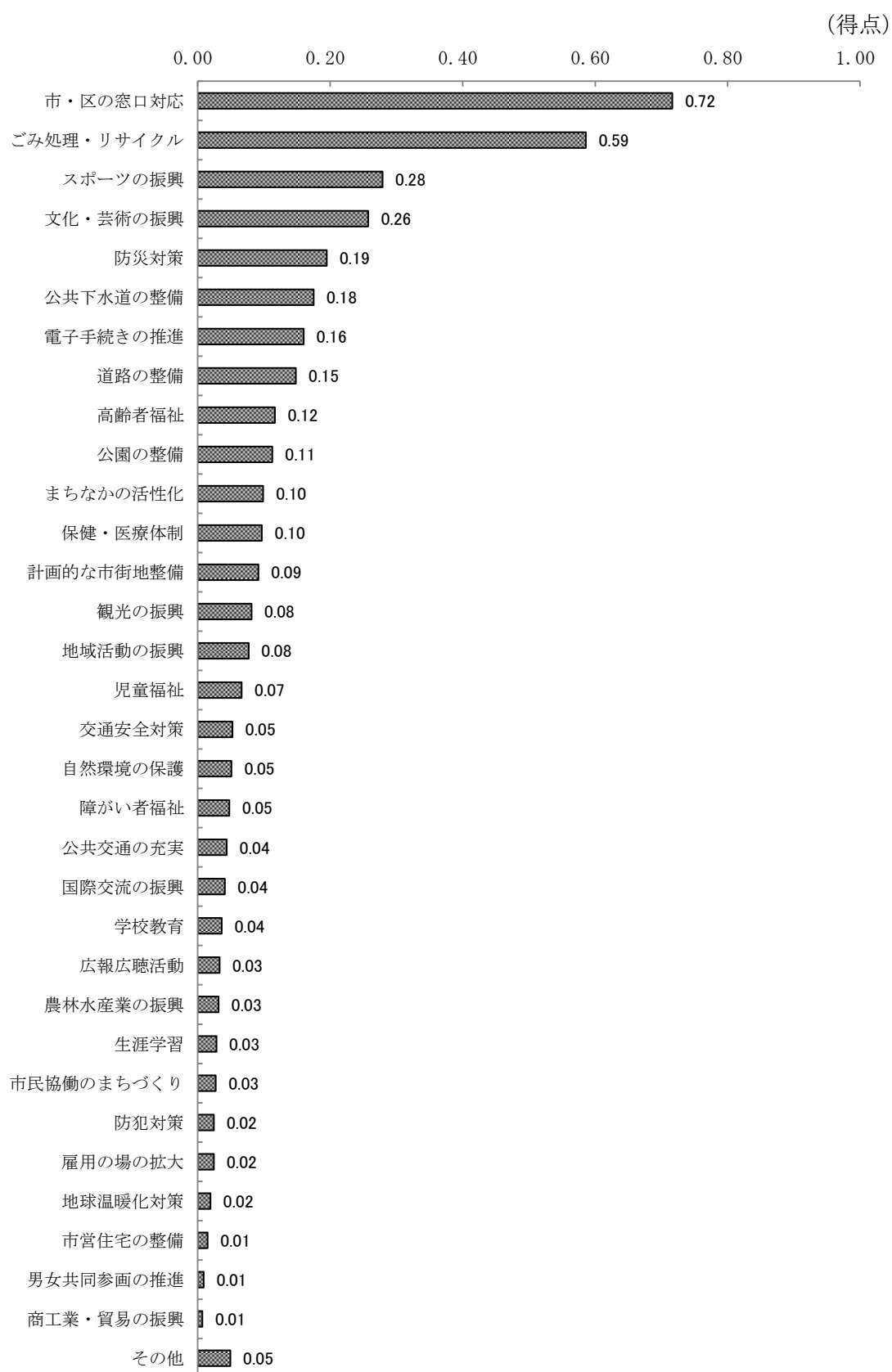


表 4-1 新潟市として良くなっているもの
 <性別、年齢別平均得点の上位5つ>

	男性	女性	20～29歳	30～39歳	40～49歳
1位	市・区の窓口対応 (0.76ポイント)	市・区の窓口対応 (0.69ポイント)	ごみ処理・リサイクル (0.43ポイント)	市・区の窓口対応 (0.68ポイント)	市・区の窓口対応 (0.64ポイント)
2位	ごみ処理・リサイクル (0.53ポイント)	ごみ処理・リサイクル (0.63ポイント)	市・区の窓口対応 (0.40ポイント)	ごみ処理・リサイクル (0.57ポイント)	ごみ処理・リサイクル (0.57ポイント)
3位	スポーツの振興 (0.33ポイント)	文化・芸術の振興 (0.26ポイント)	文化・芸術の振興 (0.35ポイント)	スポーツの振興 (0.44ポイント)	スポーツの振興 (0.35ポイント)
4位	文化・芸術の振興 (0.25ポイント)	スポーツの振興 (0.24ポイント)	スポーツの振興 (0.34ポイント)	文化・芸術の振興 (0.28ポイント)	文化・芸術の振興 (0.33ポイント)
5位	防災対策 (0.20ポイント)	防災対策 (0.20ポイント)	道路の整備 (0.30ポイント)	電子手続きの推進 (0.27ポイント)	防災対策 (0.26ポイント)

	50～59歳	60～64歳	65～74歳	75歳以上
1位	市・区の窓口対応 (0.65ポイント)	市・区の窓口対応 (0.91ポイント)	市・区の窓口対応 (0.93ポイント)	市・区の窓口対応 (0.63ポイント)
2位	ごみ処理・リサイクル (0.63ポイント)	ごみ処理・リサイクル (0.65ポイント)	ごみ処理・リサイクル (0.67ポイント)	ごみ処理・リサイクル (0.50ポイント)
3位	スポーツの振興 (0.35ポイント)	スポーツの振興 (0.27ポイント)	防災対策 (0.23ポイント)	高齢者福祉 (0.26ポイント)
4位	文化・芸術の振興 (0.32ポイント)	公共下水道の整備 (0.23ポイント)	文化・芸術の振興 (0.21ポイント)	公共下水道の整備 (0.18ポイント)
5位	電子手続きの推進 (0.22ポイント)	文化・芸術の振興 (0.22ポイント)	公共下水道の整備 (0.20ポイント)	道路の整備 (0.12ポイント)

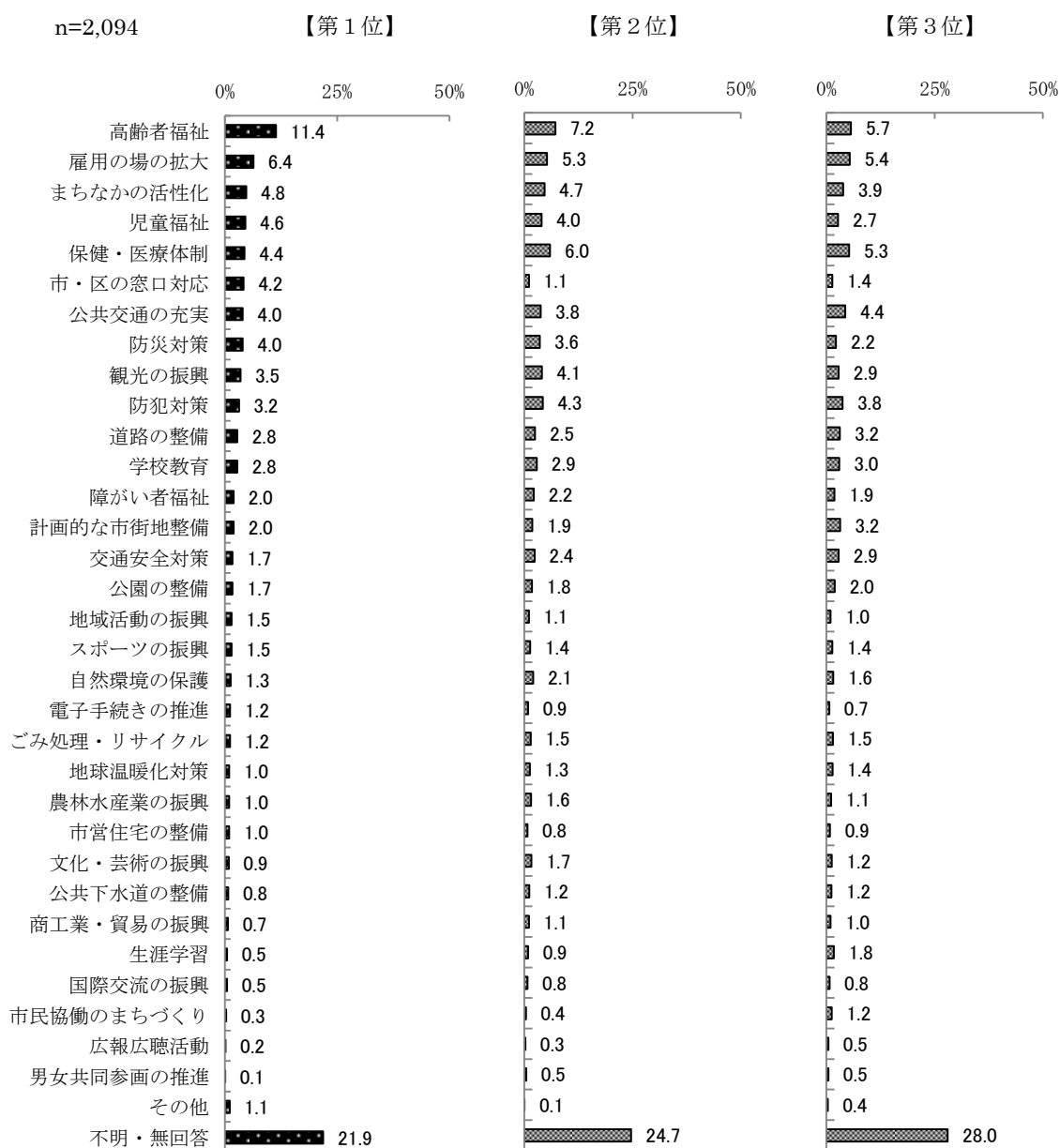
(2) 新潟市として今後もっと力を入れてほしいもの

問 34 新潟市は平成 19 年 4 月に政令市に移行したことにより、身近な行政サービスを行う 8 つの区役所を設置し、7 年が経過しました。

市役所とあなたがお住まいの区の区役所が行っている施策や事業で、以前に比べて

②「新潟市として今後もっと力を入れてほしいもの」

を次の中からそれぞれ 1 位～3 位までを選んで、下の回答欄に番号（1～33）をご記入ください。（それぞれの順位欄に番号数字を記入してください）



要望が最も高い施策・事業は「高齢者福祉」

【全体結果】

【第1位回答】の割合は、「高齢者福祉」(11.4%)が最も高い。以下、「雇用の場の拡大」(6.4%)、「まちなかの活性化」(4.8%)、「児童福祉」(4.6%)、「保健・医療体制」(4.4%)と続いている。

【第2位回答】の割合も、「高齢者福祉」(7.2%)が最も高い。以下、「保健・医療体制」(6.0%)、「雇用の場の拡大」(5.3%)、「まちなかの活性化」(4.7%)、「防犯対策」(4.3%)と続いている。

【第3位回答】の割合も、「高齢者福祉」(5.7%)が最も高い。以下、「雇用の場の拡大」(5.4%)、「保健・医療体制」(5.3%)、「公共交通の充実」(4.4%)、「まちなかの活性化」(3.9%)と続いている。

なお、「不明・無回答」の割合は、第1位が21.9%、第2位が24.7%、第3位が28.0%で、いずれの【回答順位】においても、その割合が高い。

前項(1)と同様に、【第1位回答】に3ポイント、【第2位回答】に2ポイント、【第3位回答】に1ポイントを与え、『新潟市として今後もっと力を入れてほしいもの』の平均得点を算出した結果を次ページに掲載した。(図4-2参照)

平均得点が高いほど、「新潟市として力を入れてほしい」との要望が高い施策・事業である。

【平均得点】をみると、「高齢者福祉」が0.54ポイントと最も高い。以下、「雇用の場の拡大」が0.35ポイント、「保健・医療体制」が0.31ポイント、「まちなかの活性化」が0.28、「児童福祉」が0.24ポイントで続いている。

なお、性別、年齢別平均得点の上位5つを次々頁に掲載した。(表4-2参照)

図 4-2 新潟市として今後もっと力を入れてほしいもの<平均得点> (全体)

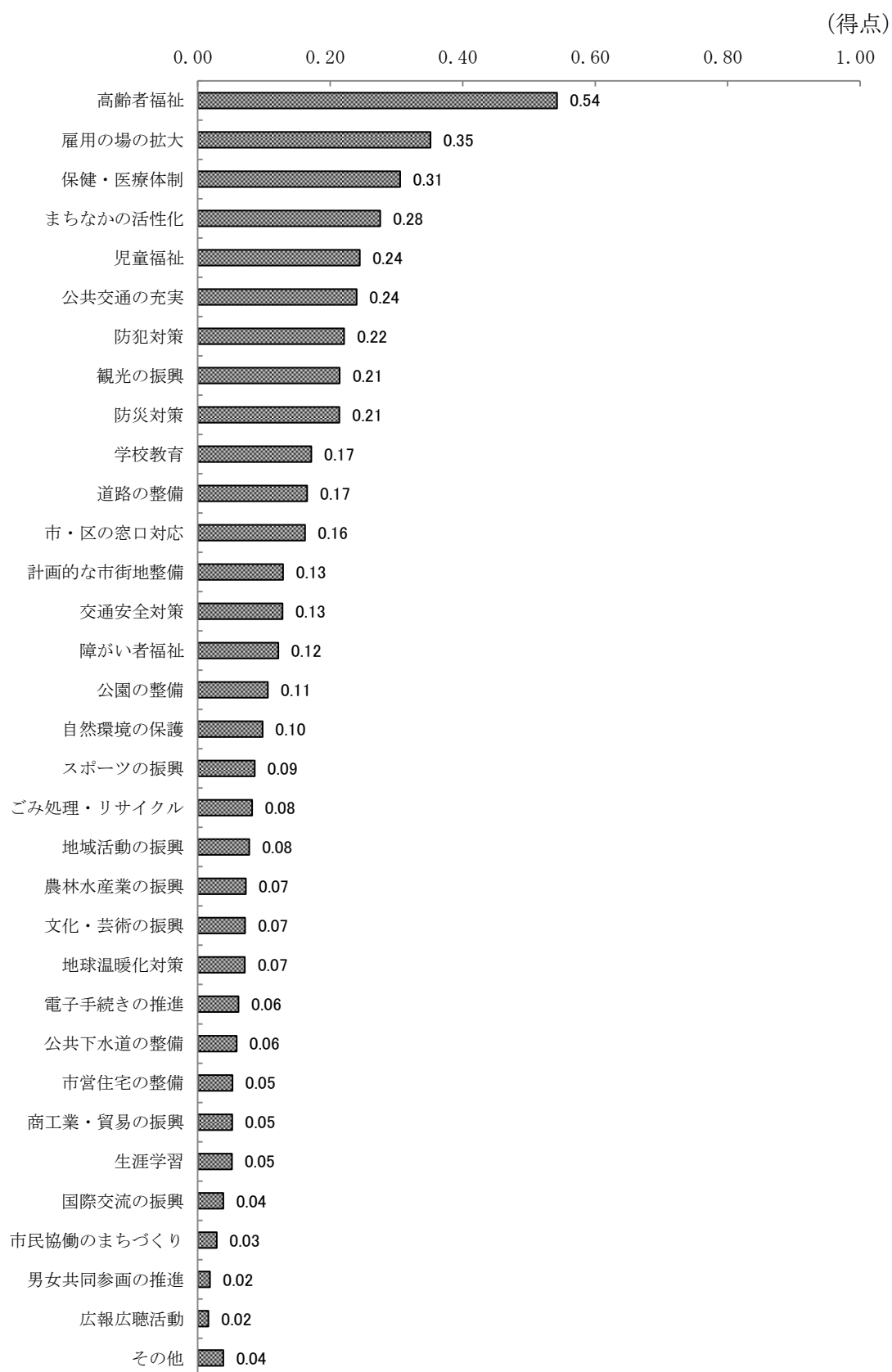


表 4-2 新潟市として今後もっと力を入れてほしいもの

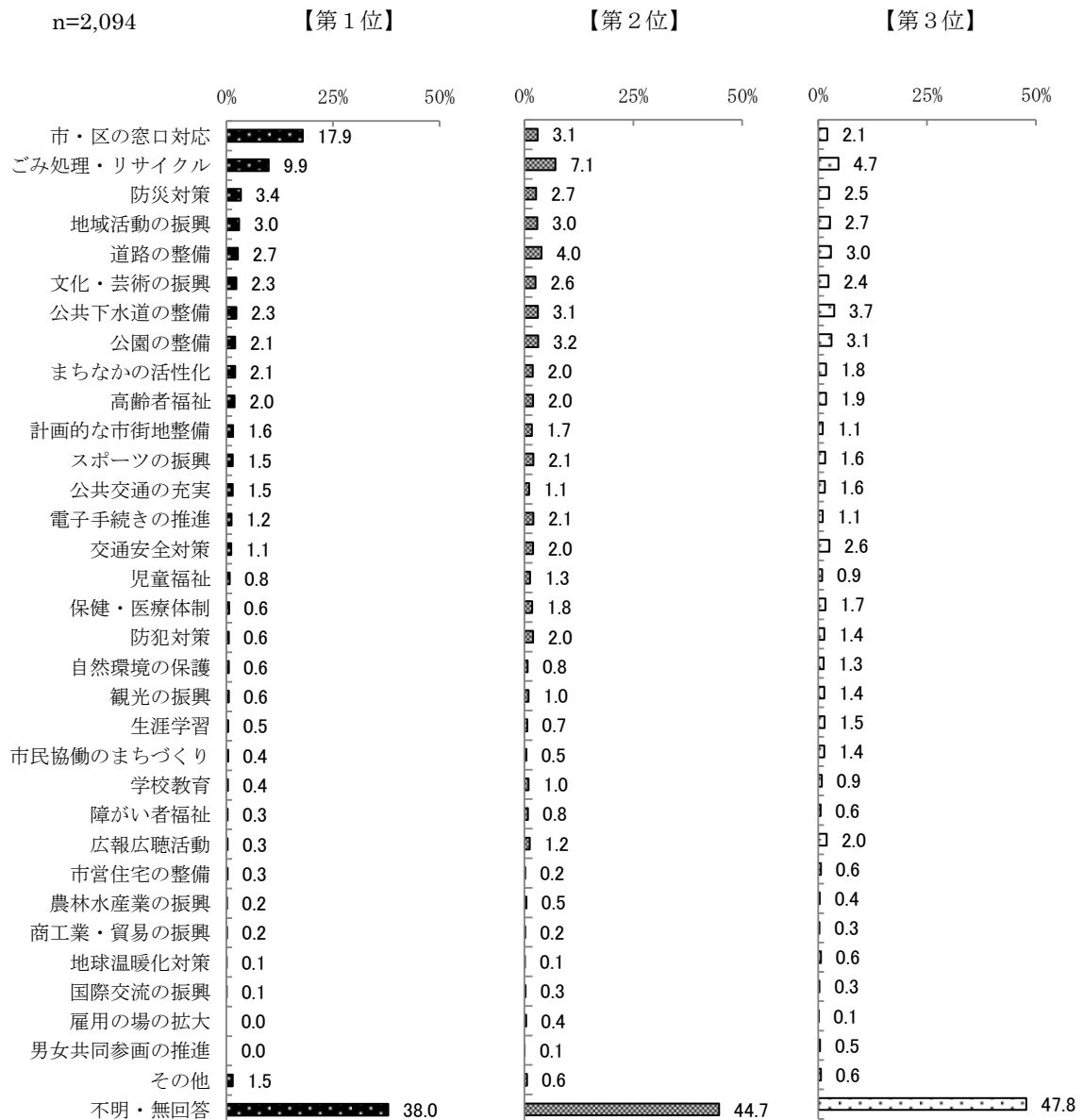
<性別、年齢別平均得点の上位5つ>

	男性	女性	20～29歳	30～39歳	40～49歳
1位	高齢者福祉 (0.53ポイント)	高齢者福祉 (0.56ポイント)	雇用の場の拡大 (0.42ポイント)	児童福祉 (0.50ポイント)	高齢者福祉 (0.42ポイント)
2位	保健・医療体制 (0.29ポイント)	雇用の場の拡大 (0.41ポイント)	まちなかの活性化 (0.41ポイント)	雇用の場の拡大 (0.36ポイント)	雇用の場の拡大 (0.40ポイント)
3位	雇用の場の拡大 (0.28ポイント)	保健・医療体制 (0.32ポイント)	児童福祉 (0.38ポイント)	学校教育 (0.35ポイント)	児童福祉 (0.40ポイント)
4位	公共交通の充実 (0.27ポイント)	児童福祉 (0.29ポイント)	観光の振興 (0.37ポイント)	観光の振興 (0.34ポイント)	保健・医療体制 (0.36ポイント)
5位	まちなかの活性化 (0.26ポイント)	まちなかの活性化 (0.29ポイント)	高齢者福祉 (0.30ポイント)	まちなかの活性化 (0.30ポイント)	公共交通の充実 (0.29ポイント)

	50～59歳	60～64歳	65～74歳	75歳以上
1位	高齢者福祉 (0.66ポイント)	高齢者福祉 (0.55ポイント)	高齢者福祉 (0.74ポイント)	高齢者福祉 (0.68ポイント)
2位	雇用の場の拡大 (0.52ポイント)	雇用の場の拡大 (0.34ポイント)	保健・医療体制 (0.38ポイント)	保健・医療体制 (0.27ポイント)
3位	保健・医療体制 (0.29ポイント)	まちなかの活性化 (0.29ポイント)	雇用の場の拡大 (0.29ポイント)	まちなかの活性化 (0.21ポイント)
4位	防災対策 (0.28ポイント)	保健・医療体制 (0.28ポイント)	まちなかの活性化 (0.28ポイント)	道路の整備 (0.18ポイント)
5位	防災対策 (0.27ポイント)	防犯対策 (0.25ポイント)	公共交通の充実 (0.23ポイント)	防災対策 (0.17ポイント)

(3) 区として良くなっているもの

問 34 新潟市は平成 19 年 4 月に政令市に移行したことにより、身近な行政サービスを行う 8 つの区役所を設置し、7 年が経過しました。
 市役所とあなたがお住まいの区の区役所が行っている施策や事業で、以前に比べて
 ③「区として良くなっているもの」
 を次の中からそれぞれ 1 位～3 位までを選んで、下の回答欄に番号（1～33）をご記入ください。（それぞれの順位欄に番号数字を記入してください）



— 「市・区の窓口対応」や「ごみ処理・リサイクル」への評価が高い —

【全体結果】

【第1位回答】の割合は、「市・区の窓口対応」(17.9%)が最も高い。以下、「ごみ処理・リサイクル」(9.9%)、「防災対策」(3.4%)、「地域活動の振興」(3.0%)、「道路の整備」(2.7%)と続いている。

【第2位回答】の割合は、「ごみ処理・リサイクル」(7.1%)が最も高い。以下、「道路の整備」(4.0%)、「公園の整備」(3.2%)、「市・区の窓口対応」「公共下水道の整備」(各3.1%)、「地域活動の振興」(3.0%)と続いている。

【第3位回答】の割合も、【第2位回答】と同じく「ごみ処理・リサイクル」(4.7%)が最も高い。以下、「公共下水道の整備」(3.7%)、「公園の整備」(3.1%)、「道路の整備」(3.0%)、「地域活動の振興」(2.7%)と続いている。

なお、「不明・無回答」の割合は、第1位が38.0%、第2位が44.7%、第3位が47.8%で、いずれの【回答順位】においても、その割合は高い。

前項(1)と同様に、【第1位回答】に3ポイント、【第2位回答】に2ポイント、【第3位回答】に1ポイントを与え、『区として良くなっているもの』の平均得点を算出した結果を次ページに掲載した。(図4-3参照)

平均得点が高いほど、「区として良くなっている」との評価が高い施策・事業である。

【平均得点】をみると、「市・区の窓口対応」(0.62ポイント)や「ごみ処理・リサイクル」(0.49ポイント)が高い。以下、「道路の整備」が0.19ポイント、「防災対策」「地域活動の振興」が各0.18ポイント、「公共下水道の整備」が0.17ポイントで続いている。

なお、性別、年齢別、区別平均得点の上位5つを次々頁以降に掲載した。(表4-3、4-4参照)

図 4-3 区として良くなっているもの<平均得点> (全体)

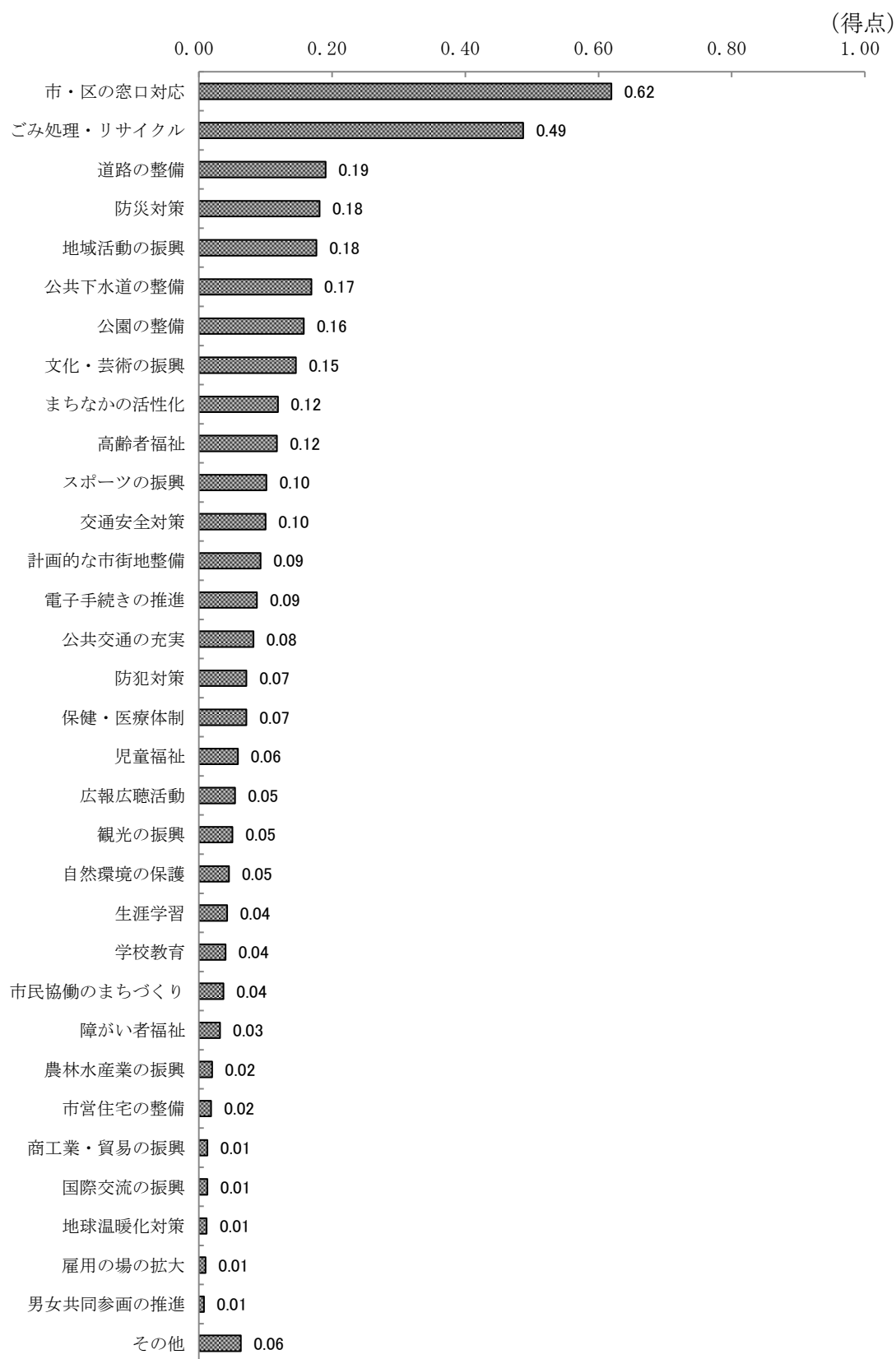


表 4-3 区として良くなっているもの
 <性別、年齢別平均得点の上位5つ>

	男 性	女 性	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳
1位	市・区の窓口対応 (0.69 ポイント)	市・区の窓口対応 (0.57 ポイント)	ごみ処理・リサイクル (0.45 ポイント)	市・区の窓口対応 (0.53 ポイント)	市・区の窓口対応 (0.70 ポイント)
2位	ごみ処理・リサイクル (0.45 ポイント)	ごみ処理・リサイクル (0.52 ポイント)	道路の整備 (0.43 ポイント)	ごみ処理・リサイクル (0.49 ポイント)	ごみ処理・リサイクル (0.58 ポイント)
3位	道路の整備 (0.21 ポイント)	地域活動の振興 (0.19 ポイント)	市・区の窓口対応 (0.41 ポイント)	防災対策 (0.27 ポイント)	防災対策 (0.23 ポイント)
4位	防災対策 (0.19 ポイント)	防災対策 (0.18 ポイント)	まちなかの活性化 (0.28 ポイント)	電子手続きの推進 (0.22 ポイント)	公共下水道の整備 (0.23 ポイント)
5位	公共下水道の整備 (0.19 ポイント)	道路の整備 (0.18 ポイント)	文化・芸術の振興 (0.24 ポイント)	地域活動の振興 (0.21 ポイント)	道路の整備 (0.22 ポイント)

	50～59 歳	60～64 歳	65～74 歳	75 歳以上
1位	市・区の窓口対応 (0.66 ポイント)	市・区の窓口対応 (0.73 ポイント)	市・区の窓口対応 (0.70 ポイント)	市・区の窓口対応 (0.47 ポイント)
2位	ごみ処理・リサイクル (0.52 ポイント)	ごみ処理・リサイクル (0.42 ポイント)	ごみ処理・リサイクル (0.54 ポイント)	ごみ処理・リサイクル (0.36 ポイント)
3位	文化・芸術の振興 (0.20 ポイント)	地域活動の振興 公共下水道の整備	公共下水道の整備 (0.20 ポイント)	道路の整備 (0.15 ポイント)
4位	公園の整備 道路の整備	(0.23 ポイント)	防災対策 公園の整備	公園の整備 (0.13 ポイント)
5位	(0.17 ポイント)	高齢者福祉 (0.20 ポイント)	(0.18 ポイント)	高齢者福祉 (0.12 ポイント)

表 4-4 区として良くなっているもの

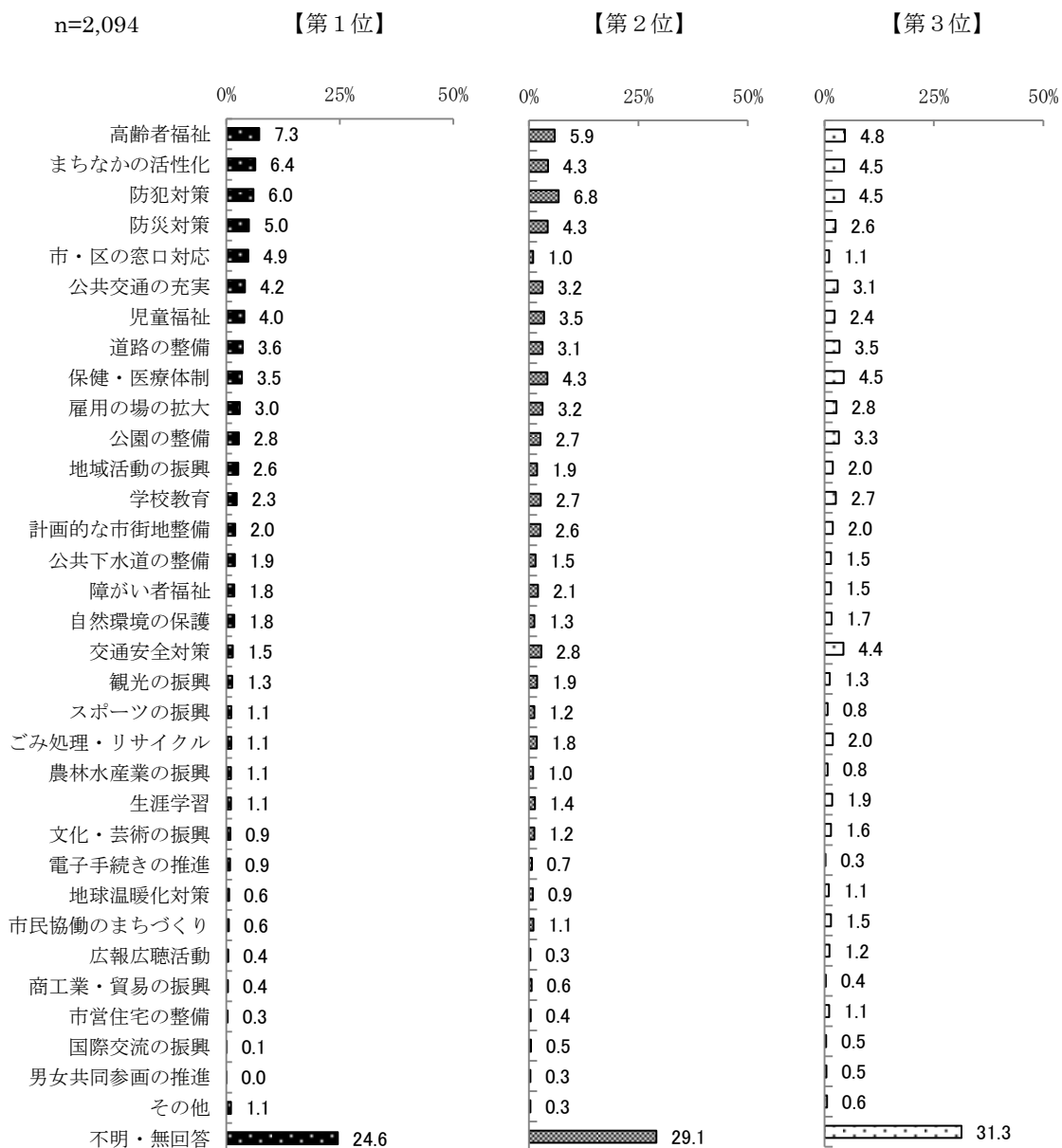
<区別平均得点の上位5つ>

	北区	東区	中央区	江南区
1位	市・区の窓口対応 (0.58 ポイント)	市・区の窓口対応 (0.80 ポイント)	ごみ処理・リサイクル (0.51 ポイント)	市・区の窓口対応 ごみ処理・リサイクル (0.46 ポイント)
2位	ごみ処理・リサイクル (0.42 ポイント)	ごみ処理・リサイクル (0.48 ポイント)	市・区の窓口対応 (0.51 ポイント)	
3位	地域活動の振興 (0.24 ポイント)	道路の整備 (0.22 ポイント)	道路の整備 (0.24 ポイント)	公園の整備 (0.30 ポイント)
4位	防災対策 (0.22 ポイント)	地域活動の振興 (0.20 ポイント)	防災対策 (0.20 ポイント)	公共交通の充実 (0.27 ポイント)
5位	公共下水道の整備 (0.19 ポイント)	防災対策 (0.17 ポイント)	まちなかの活性化 (0.18 ポイント)	文化・芸術の振興 (0.24 ポイント)

	秋葉区	南区	西区	西蒲区
1位	市・区の窓口対応 (0.61 ポイント)	市・区の窓口対応 (0.67 ポイント)	市・区の窓口対応 (0.76 ポイント)	ごみ処理・リサイクル (0.51 ポイント)
2位	ごみ処理・リサイクル (0.51 ポイント)	ごみ処理・リサイクル (0.41 ポイント)	ごみ処理・リサイクル (0.51 ポイント)	市・区の窓口対応 (0.35 ポイント)
3位	文化・芸術の振興 (0.38 ポイント)	道路の整備 (0.25 ポイント)	公共下水道の整備 (0.23 ポイント)	公共下水道の整備 (0.20 ポイント)
4位	公共下水道の整備 (0.23 ポイント)	地域活動の振興 防災対策 (0.18 ポイント)	道路の整備 (0.20 ポイント)	高齢者福祉 (0.16 ポイント)
5位	まちなかの活性化 (0.20 ポイント)		公園の整備 (0.18 ポイント)	地域活動の振興 (0.15 ポイント)

(4) 区として今後もっと力を入れてほしいもの

問 34 新潟市は平成 19 年 4 月に政令市に移行したことにより、身近な行政サービスを行う 8 つの区役所を設置し、7 年が経過しました。
 市役所とあなたがお住まいの区の区役所が行っている施策や事業で、以前に比べて
 ④「区として今後もっと力を入れてほしいもの」
 を次の中からそれぞれ 1 位～3 位までを選んで、下の回答欄に番号（1～33）をご記入ください。（それぞれの順位欄に番号数字を記入してください）



要望が最も高い施策・事業は「高齢者福祉」

【全体結果】

【第1位回答】の割合は、「高齢者福祉」(7.3%)が最も高い。以下、「まちなかの活性化」(6.4%)、「防犯対策」(6.0%)、「防災対策」(5.0%)、「市・区の窓口対応」(4.9%)、と続いている。

【第2位回答】の割合は、「防犯対策」(6.8%)が最も高い。以下、「高齢者福祉」(5.9%)、「まちなかの活性化」「防災対策」「保健・医療体制」(各4.3%)、「児童福祉」(3.5%)と続いている。

【第3位回答】の割合は、「高齢者福祉」(4.8%)が最も高い。以下、「まちなかの活性化」「防犯対策」「保健・医療体制」(各4.5%)、「交通安全対策」(4.4%)、「道路の整備」(3.5%)、「公園の整備」(3.3%)と続いている。

なお、「不明・無回答」の割合は、第1位が24.6%、第2位が29.1%、第3位が31.3%で、いずれの【回答順位】においても、その割合は高い。

前項(1)と同様に、【第1位回答】に3ポイント、【第2位回答】に2ポイント、【第3位回答】に1ポイントを与え、『区として今後もっと力を入れてほしいもの』の平均得点を算出した結果を次ページに掲載した。(図4-4参照)

平均得点が高いほど、「区として力を入れてほしい」との要望が高い施策・事業である。

【平均得点】をみると、「高齢者福祉」(0.38ポイント)が高い。以下、「防犯対策」が0.36ポイント、「まちなかの活性化」が0.32ポイント、「防災対策」が0.26ポイント、「保健・医療体制」が0.23ポイントで続いている。

なお、性別、年齢別、区別平均得点の上位5つを次々頁以降に掲載した。(表4-5、4-6参照)

図 4-4 区として今後もっと力を入れてほしいもの〈平均得点〉（全体）

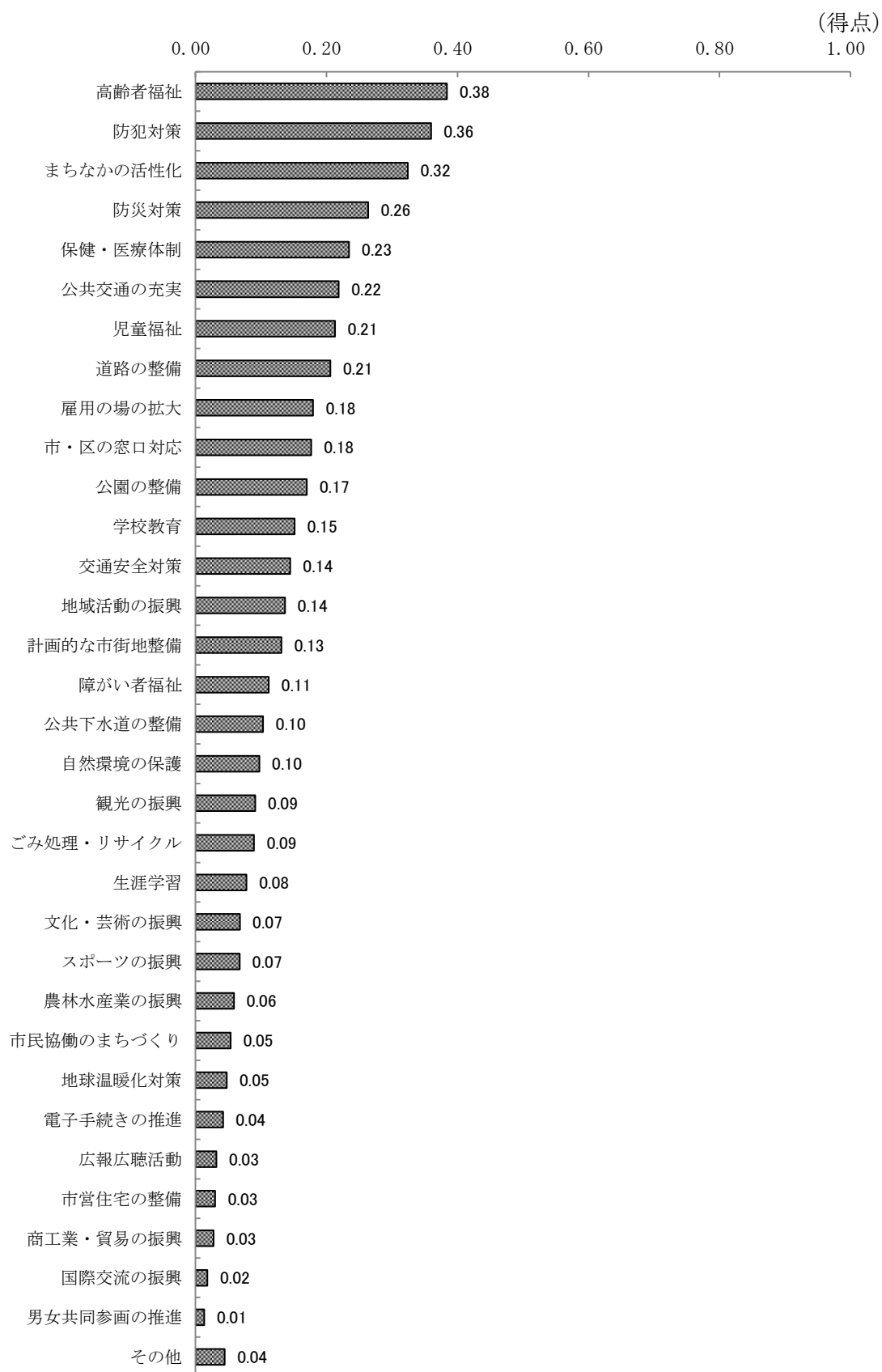


表 4-5 区として今後もっと力を入れてほしいもの

<性別、年齢別平均得点の上位5つ>

	男性	女性	20～29歳	30～39歳	40～49歳
1位	高齢者福祉 (0.36ポイント)	高齢者福祉 (0.40ポイント)	まちなかの活性化 公共交通の充実 (0.43ポイント)	児童福祉 (0.48ポイント)	防犯対策 (0.46ポイント)
2位	防犯対策 (0.33ポイント)	防犯対策 (0.38ポイント)		まちなかの活性化 (0.40ポイント)	高齢者福祉 (0.36ポイント)
3位	まちなかの活性化 (0.33ポイント)	まちなかの活性化 (0.32ポイント)	児童福祉 (0.34ポイント)	学校教育 (0.36ポイント)	児童福祉 (0.31ポイント)
4位	防災対策 (0.25ポイント)	防災対策 (0.28ポイント)	公園の整備 (0.26ポイント)	防犯対策 (0.33ポイント)	保健・医療体制 (0.30ポイント)
5位	公共交通の充実 (0.24ポイント)	保健・医療体制 (0.26ポイント)	市・区の窓口対応 (0.25ポイント)	公園の整備 (0.31ポイント)	学校教育 (0.29ポイント)

	50～59歳	60～64歳	65～74歳	75歳以上
1位	高齢者福祉 (0.48ポイント)	まちなかの活性化 (0.46ポイント)	高齢者福祉 (0.47ポイント)	高齢者福祉 (0.49ポイント)
2位	防犯対策 (0.41ポイント)	高齢者福祉 (0.39ポイント)	防犯対策 (0.34ポイント)	防犯対策 (0.28ポイント)
3位	公共交通の充実 (0.30ポイント)	防犯対策 (0.37ポイント)	まちなかの活性化 (0.33ポイント)	まちなかの活性化 (0.21ポイント)
4位	防災対策 (0.30ポイント)	防災対策 (0.35ポイント)	防災対策 (0.25ポイント)	防災対策 (0.20ポイント)
5位	保健・医療体制 (0.27ポイント)	雇用の場の拡大 道路の整備 (0.21ポイント)	保健・医療体制 (0.22ポイント)	保健・医療体制 (0.18ポイント)

表 4-6 区として今後もっと力を入れてほしいもの

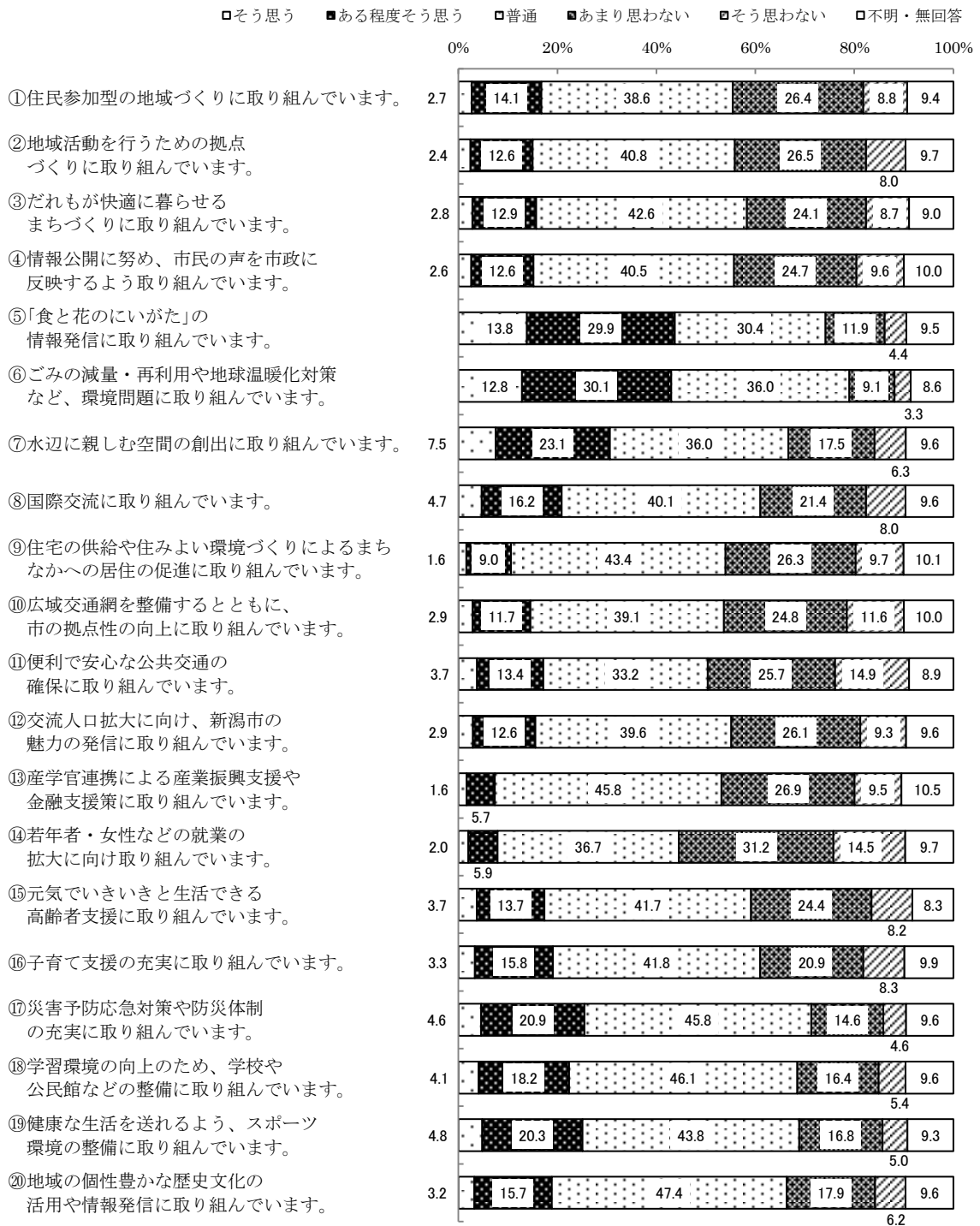
<区別平均得点の上位5つ>

	北区	東区	中央区	江南区
1位	高齢者福祉 (0.39 ポイント)	防犯対策 (0.49 ポイント)	まちなかの活性化 (0.48 ポイント)	公共交通の充実 (0.37 ポイント)
2位	まちなかの活性化 (0.32 ポイント)	高齢者福祉 (0.38 ポイント)	防犯対策 (0.41 ポイント)	防犯対策 (0.36 ポイント)
3位	防犯対策 (0.29 ポイント)	防災対策 (0.35 ポイント)	高齢者福祉 (0.36 ポイント)	高齢者福祉 (0.35 ポイント)
4位	公共交通の充実 (0.26 ポイント)	公共交通の充実 公園の整備 (0.24 ポイント)	防災対策 (0.29 ポイント)	まちなかの活性化 (0.33 ポイント)
5位	市・区の窓口対応 道路の整備 (0.23 ポイント)		児童福祉 (0.21 ポイント)	保健・医療体制 (0.29 ポイント)

	秋葉区	南区	西区	西蒲区
1位	高齢者福祉 (0.49 ポイント)	公共交通の充実 (0.42 ポイント)	高齢者福祉 (0.40 ポイント)	高齢者福祉 (0.34 ポイント)
2位	まちなかの活性化 (0.47 ポイント)	高齢者福祉 (0.33 ポイント)	防犯対策 (0.38 ポイント)	市・区の窓口対応 (0.32 ポイント)
3位	児童福祉 (0.35 ポイント)	まちなかの活性化 (0.32 ポイント)	防災対策 (0.31 ポイント)	道路の整備 (0.30 ポイント)
4位	保健・医療体制 (0.34 ポイント)	防犯対策 (0.29 ポイント)	保健・医療体制 (0.24 ポイント)	まちなかの活性化 (0.27 ポイント)
5位	雇用の場の拡大 (0.25 ポイント)	防災対策 保健・医療体制 (0.25 ポイント)	道路の整備 (0.24 ポイント)	児童福祉 (0.27 ポイント)

5. 市の取り組みに対する感想

問 35 政令市に移行した平成19年度に、「新・新潟市総合計画」をスタートして7年が経過しました。この計画に基づき進めているおもな取り組みについてお聞かせください。それぞれの項目ごとに番号を1つ選んで、その番号に○をつけてください。
(○はそれぞれ1つずつ)



「食と花のにいがた」の情報発信が高い評価を得ている

【全体結果】

『市の取り組み状況』への評価（感想）について、「そう思う」の割合は、「⑤「食と花のにいがた」の情報発信に取り組んでいます。」（13.8%）が最も高い。以下、「そう思う」の割合は、「⑥ごみの減量・再利用や地球温暖化対策など、環境問題に取り組んでいます。」（12.8%）、「⑦水辺に親しむ空間の創出に取り組んでいます。」（7.5%）の順で高くなっている。

一方、「そう思わない」の割合は、「⑪便利で安心な公共交通の確保に取り組んでいます。」（14.9%）が最も高い。以下、「⑭若年者・女性などの就業の拡大に向け取り組んでいます。」（14.5%）、「⑩広域交通網を整備するとともに、市の拠点性の向上に取り組んでいます。」（11.6%）、「⑨住宅の供給や住みよい環境づくりによるまちなかへの居住の促進に取り組んでいます。」（9.7%）、「④情報公開に努め、市民の声を市政に反映するよう取り組んでいます。」（9.6%）の順で高くなっている。

評価（感想）について、「そう思う」と「ある程度思う」を合わせた割合、及び、「そう思わない」と「あまり思わない」を合わせた割合の結果は次のとおりである。

「そう思う」と「ある程度思う」を合わせた割合についてみると、「⑤「食と花のにいがた」の情報発信に取り組んでいます。」（43.7%）の割合が最も高くなっている。以下、「⑥ごみの減量・再利用や地球温暖化対策など、環境問題に取り組んでいます。」（43.0%）、「⑦水辺に親しむ空間の創出に取り組んでいます。」（30.6%）と続き、3割以上となっている。

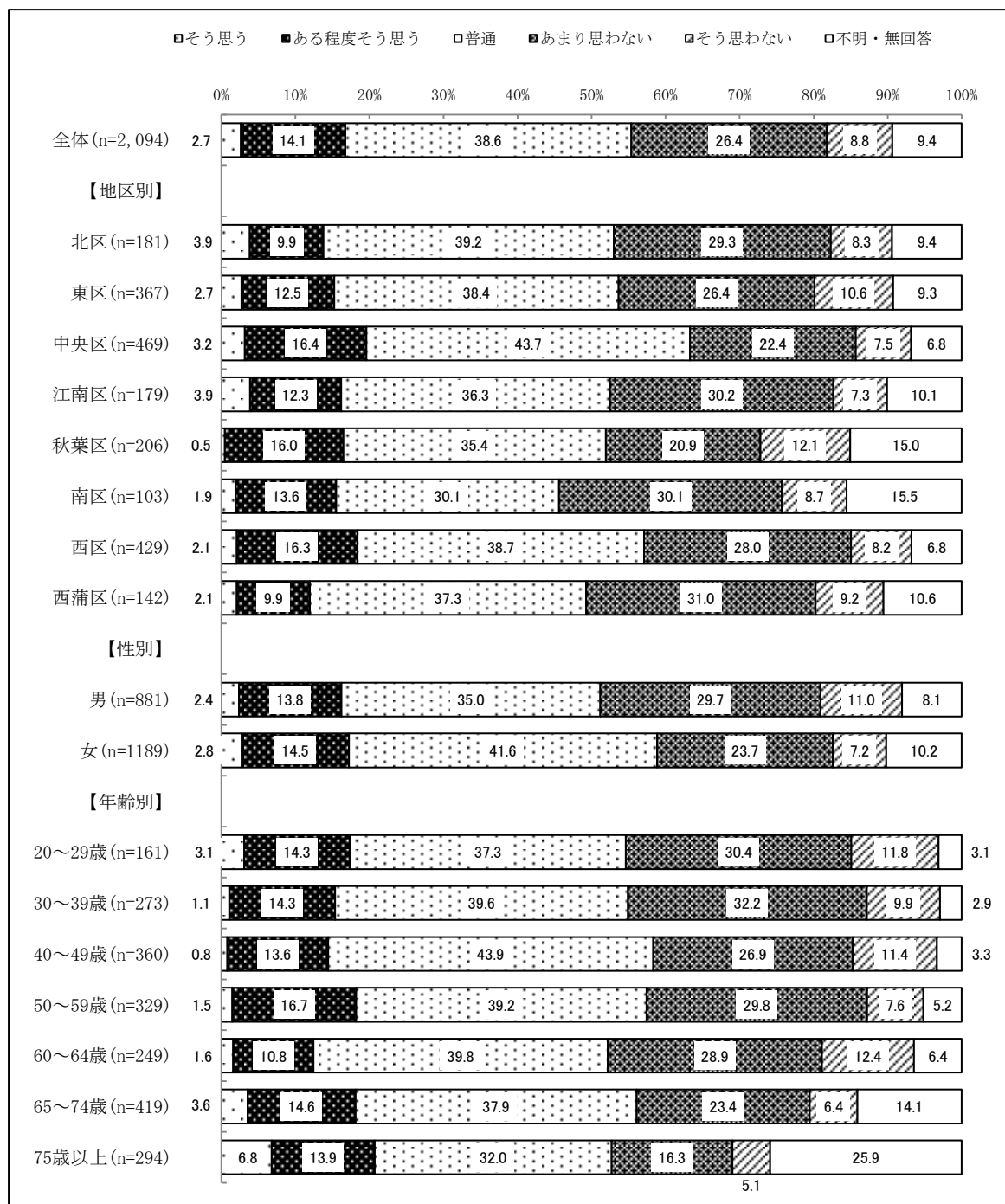
また、「⑰災害予防応急対策や防災体制の充実に取り組んでいます。」（25.5%）、「⑲健康な生活を送れるよう、スポーツ環境の整備に取り組んでいます。」（25.1%）、「⑱学習環境の向上のため、学校や公民館などの整備に取り組んでいます。」（22.3%）、「⑧国際交流に取り組んでいます。」（20.9%）が2割台で続いている。

一方、「そう思わない」と「あまり思わない」を合わせた割合についてみると、「⑭若年者・女性などの就業の拡大に向け取り組んでいます。」（45.7%）が最も高い。以下、「⑪便利で安心な公共交通の確保に取り組んでいます。」（40.7%）で4割、「⑩広域交通網を整備するとともに、市の拠点性の向上に取り組んでいます。」（36.4%）、「⑬産学官連携による産業振興支援や金融支援策に取り組んでいます。」（36.3%）、「⑨住宅の供給や住みよい環境づくりによるまちなかへの居住の促進に取り組んでいます。」（36.0%）が4割弱で続いている。

【属性別結果】

次ページ以降に取り組みごとの地区別・性別・年齢別の集計結果をまとめた。

①住民参加型の地域づくりに取り組んでいます。

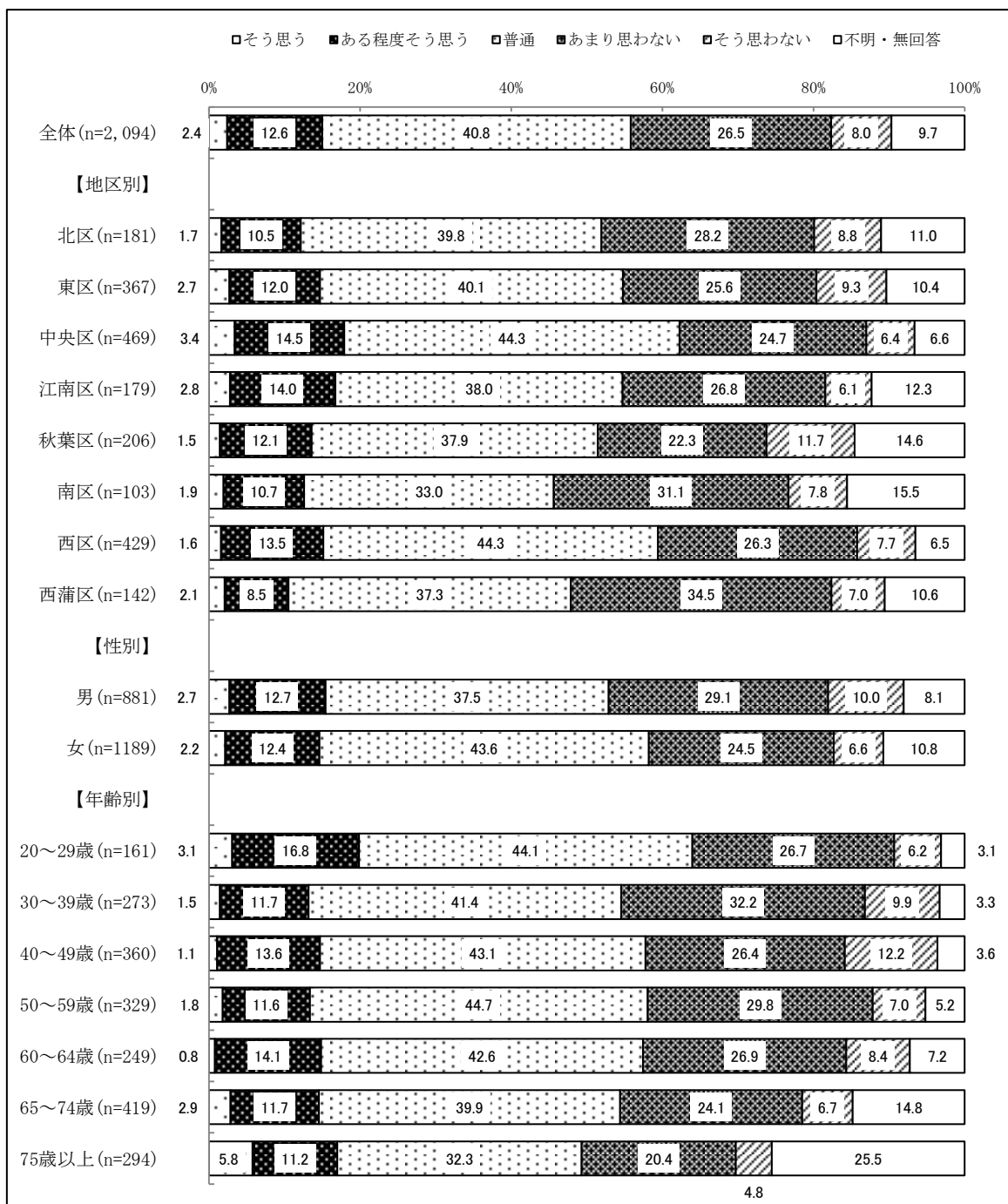


地区別・性別・年齢別のすべての属性において、「そう思わない」と「あまり思わない」を合わせた割合が、「そう思う」と「ある程度思う」を合わせた割合よりも高くなっている。

「そう思わない」と「あまり思わない」を合わせた割合についてみると、地区別では、西蒲区（40.1%）が最も高くなっている。性別では、男性（40.7%）が女性（31.0%）を上回り、年齢別では、20代（42.2%）と30代（42.1%）が高くなっている。

一方、「そう思う」と「ある程度思う」を合わせた割合については、75歳以上（20.7%）を除くすべての属性において2割未満となっている。

②地域活動を行うための拠点づくりに取り組んでいます。

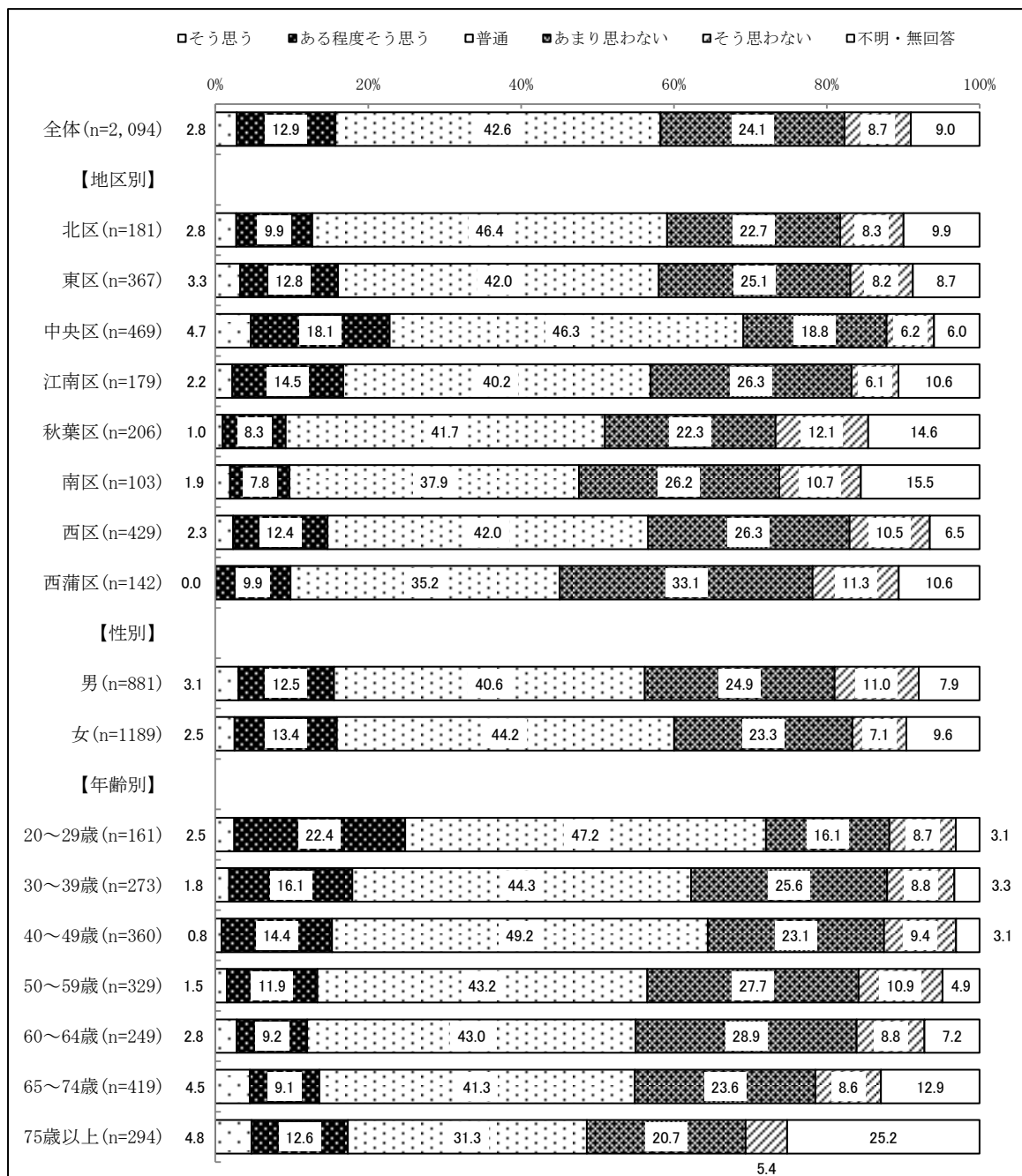


地区別・性別・年齢別のすべての属性において、「そう思わない」と「あまり思わない」を合わせた割合が、「そう思う」と「ある程度思う」を合わせた割合よりも高くなっている。

「そう思わない」と「あまり思わない」を合わせた割合についてみると、地区別では、西蒲区(41.5%)が高くなっている。性別は、男性がやや高く、年齢別は、30代(42.1%)が最も高くなっている。

一方、「そう思う」と「ある程度思う」を合わせた割合については、すべての属性において2割未満となっている。

③だれもが快適に暮らせるまちづくりに取り組んでいます。

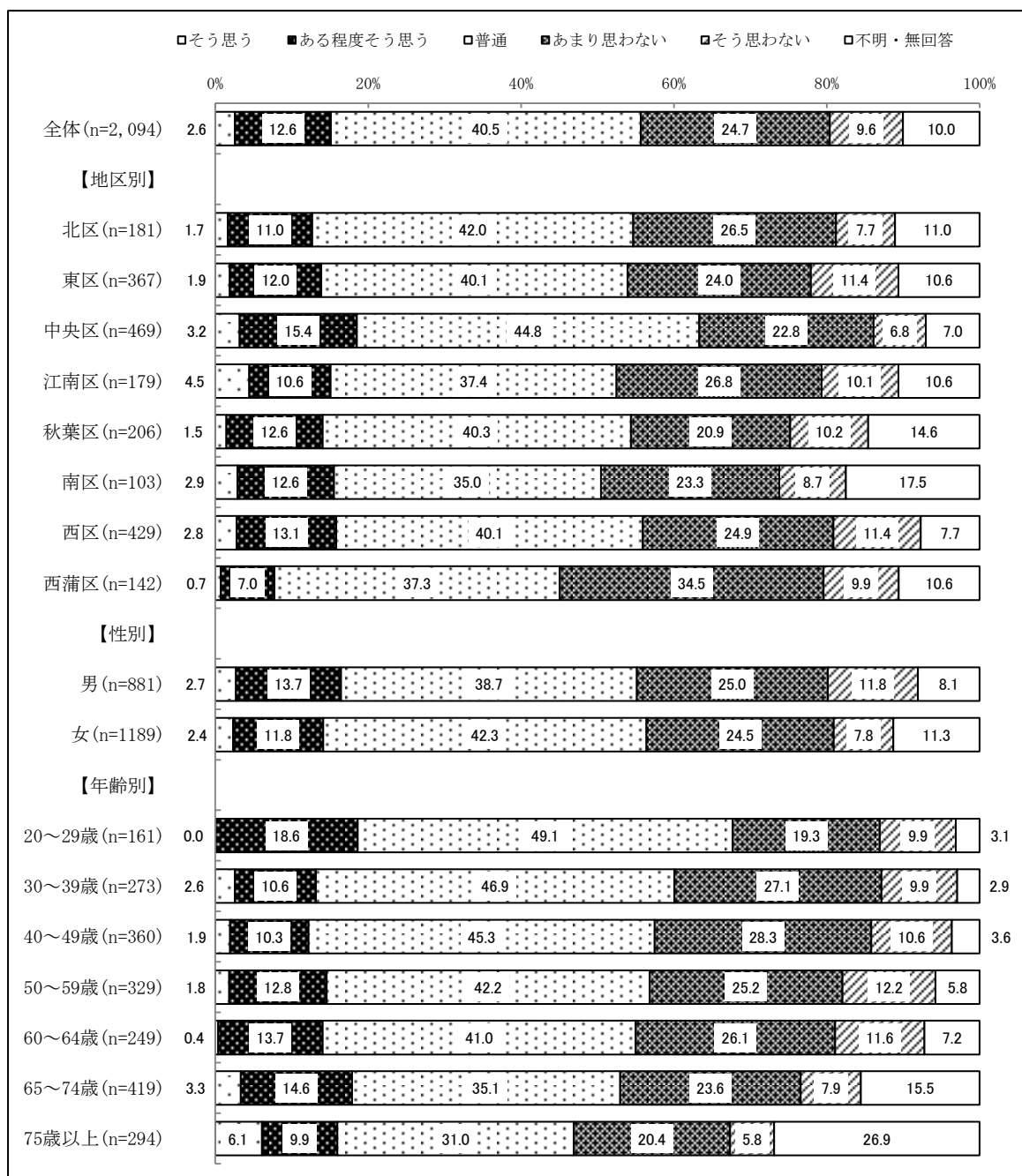


20代を除いた地区別・性別・年齢別のすべての属性において、「そう思わない」と「あまり思わない」を合わせた割合が、「そう思う」と「ある程度思う」を合わせた割合よりも高くなっている。

「そう思わない」と「あまり思わない」を合わせた割合についてみると、地区別は、西蒲区(44.4%)が最も高くなっている。性別は、男女差がみられない。年齢別は、50代(38.6%)が最も高くなっている。

一方、「そう思う」と「ある程度思う」を合わせた割合については、20代(24.8%)が比較的高くなっている。

④情報公開に努め、市民の声を市政に反映するよう取り組んでいます。

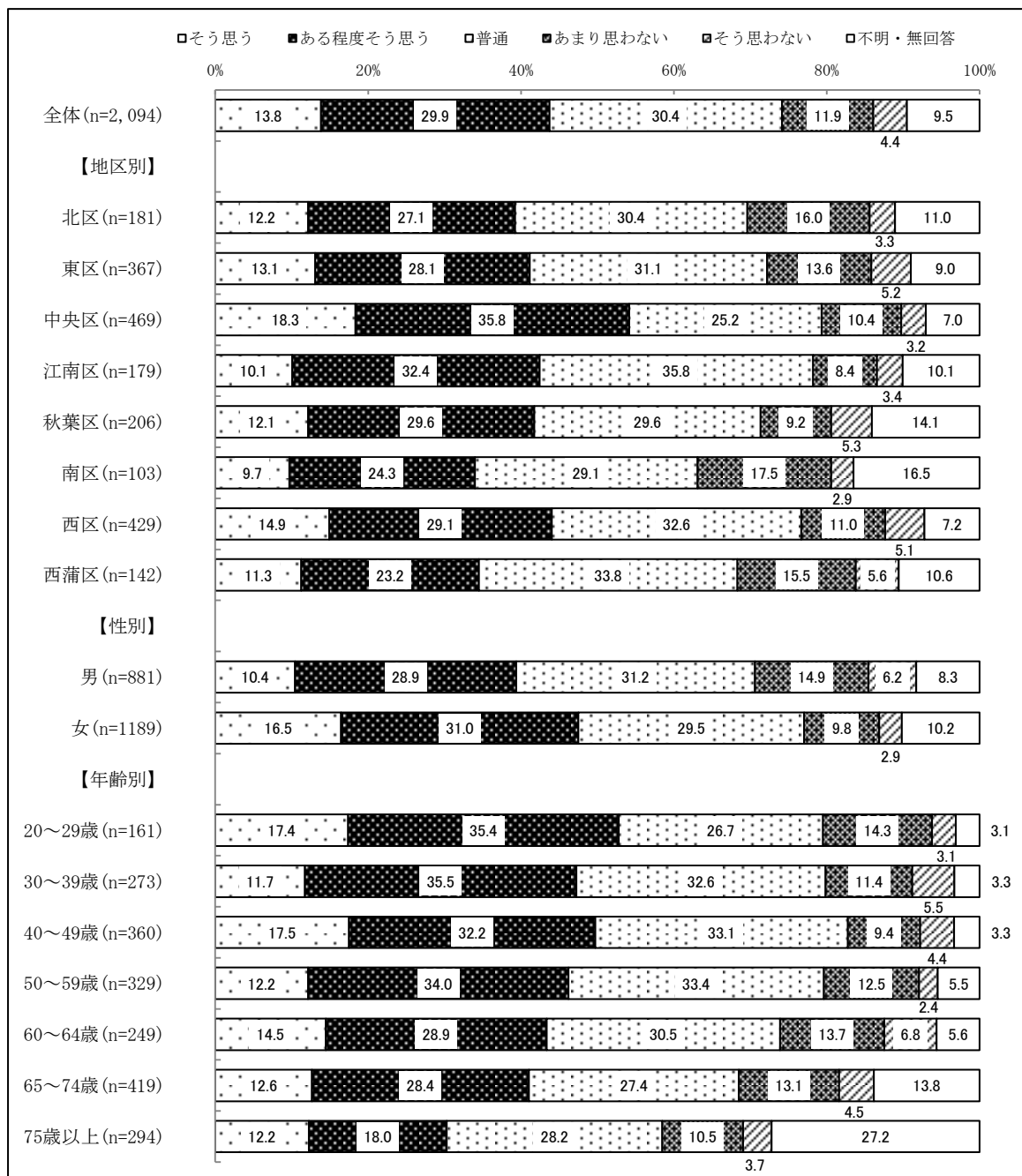


地区別・性別・年齢別のすべての属性において、「そう思わない」と「あまり思わない」を合わせた割合が、「そう思う」と「ある程度思う」を合わせた割合よりも高くなっている。

「そう思わない」と「あまり思わない」を合わせた割合についてみると、地区別は、西蒲区(44.4%)が最も高くなっている。性別は、男女差がみられない。年齢別は、40代(38.9%)が最も高くなっている。

一方、「そう思う」と「ある程度思う」を合わせた割合については、すべての属性において2割未満となっている。

⑤「食と花のにいがた」の情報発信に取り組んでいます。

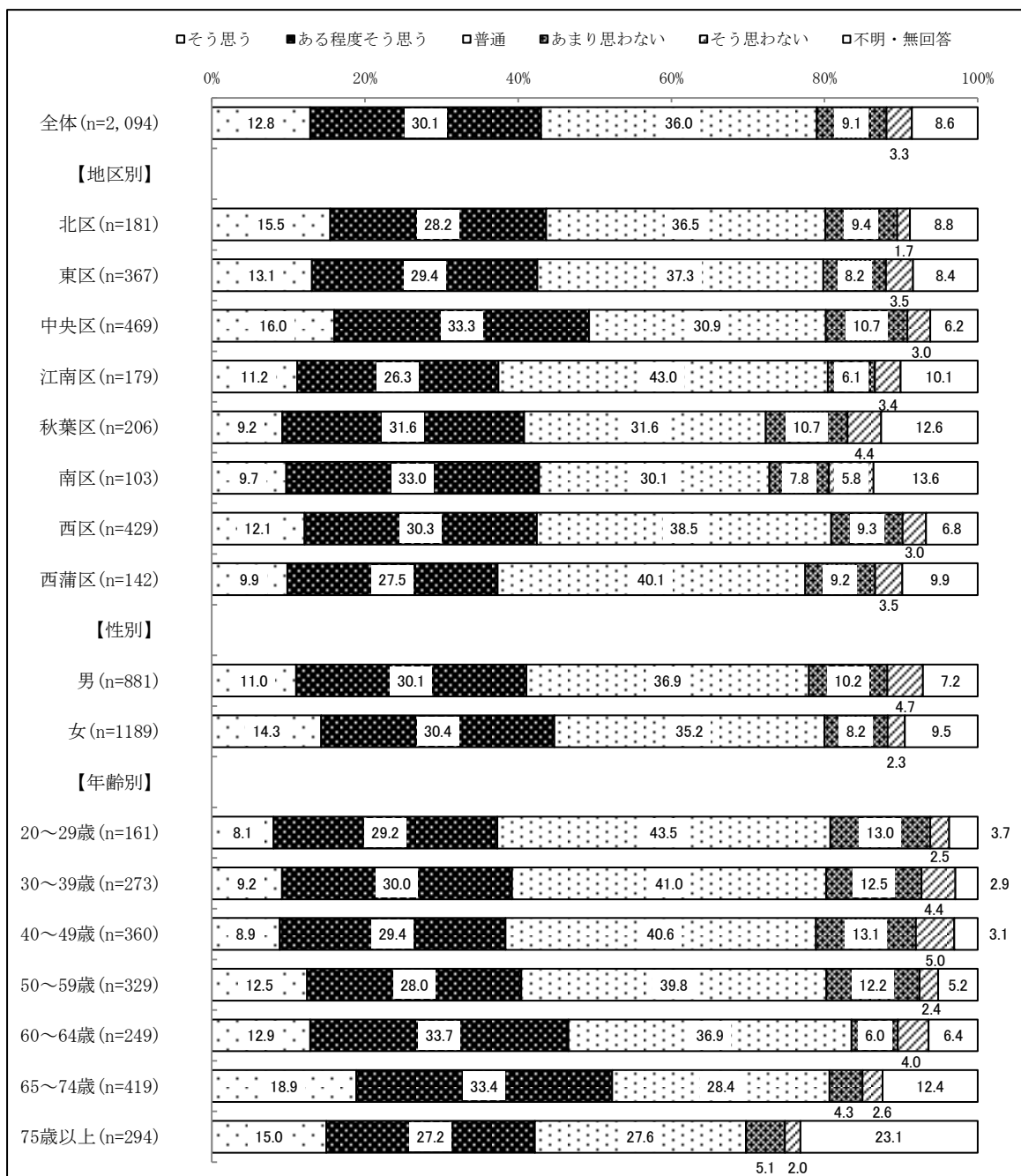


地区別・性別・年齢別のすべての属性において、「そう思う」と「ある程度思う」を合わせた割合が、「そう思わない」と「あまり思わない」を合わせた割合よりも高くなっている。

「そう思う」と「ある程度思う」を合わせた割合についてみると、地区別は、中央区(54.2%)が最も高くなっている。性別は、大きな男女差はみられない。年齢別は、20代(52.8%)が最も高くなっている。

一方、「そう思わない」と「あまり思わない」を合わせた割合については、西蒲区(21.1%)、南区(20.4%)、男性(21.1%)、60～64歳(20.5%)で比較的高くなっている。

⑥ごみの減量・再利用や地球温暖化対策など、環境問題に取り組んでいます。

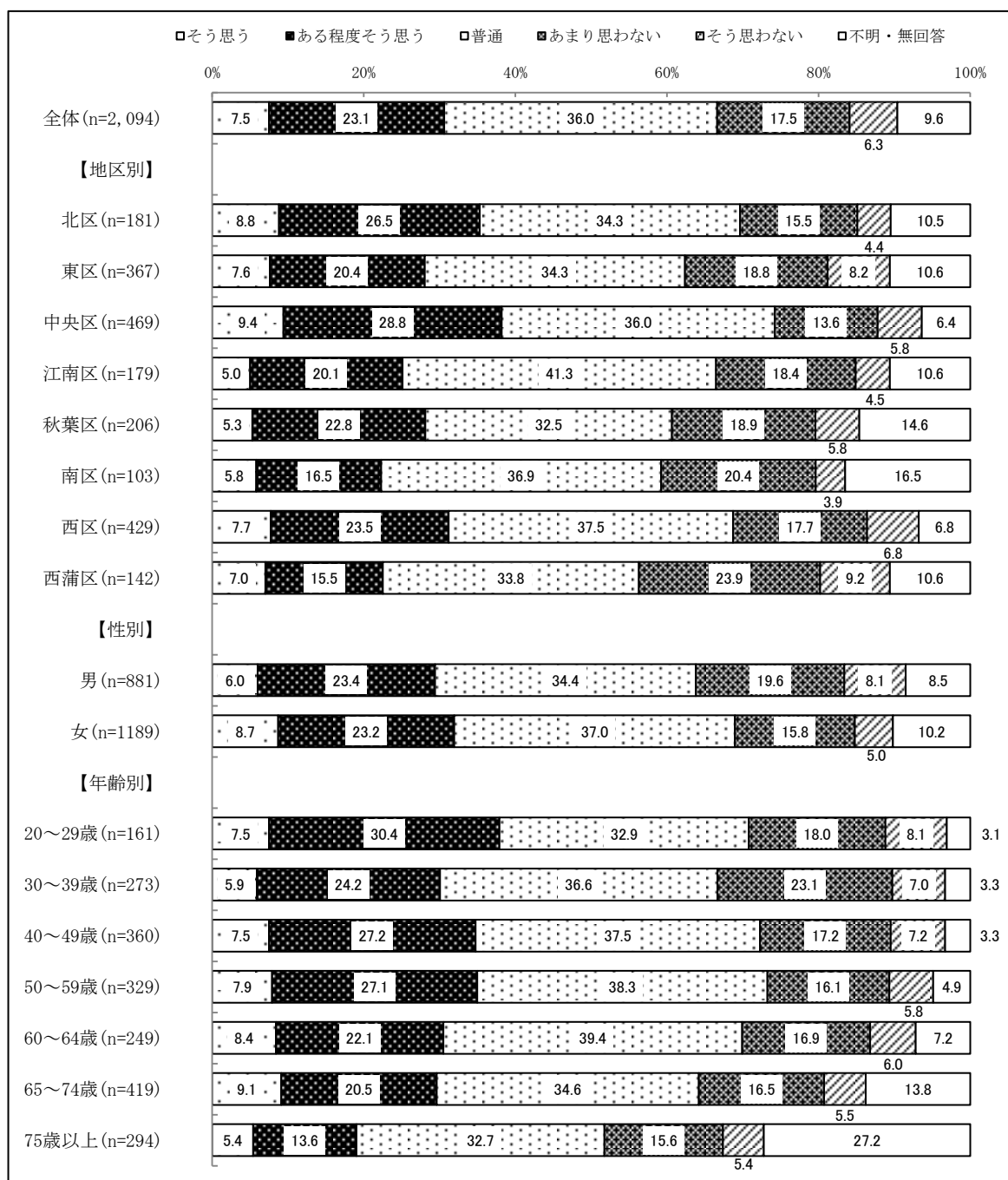


地区別・性別・年齢別のすべての属性において、「そう思う」と「ある程度思う」を合わせた割合が、「そう思わない」と「あまり思わない」を合わせた割合よりも高くなっている。

「そう思う」と「ある程度思う」を合わせた割合についてみると、地区別は、中央区(49.3%)が最も高くなっている。性別は、男女差がみられない。年齢別は、65～74歳(52.3%)が最も高くなっている。

一方、「そう思わない」と「あまり思わない」を合わせた割合については、40代(18.1%)で最も高くなっている。

⑦水辺に親しむ空間の創出に取り組んでいます。

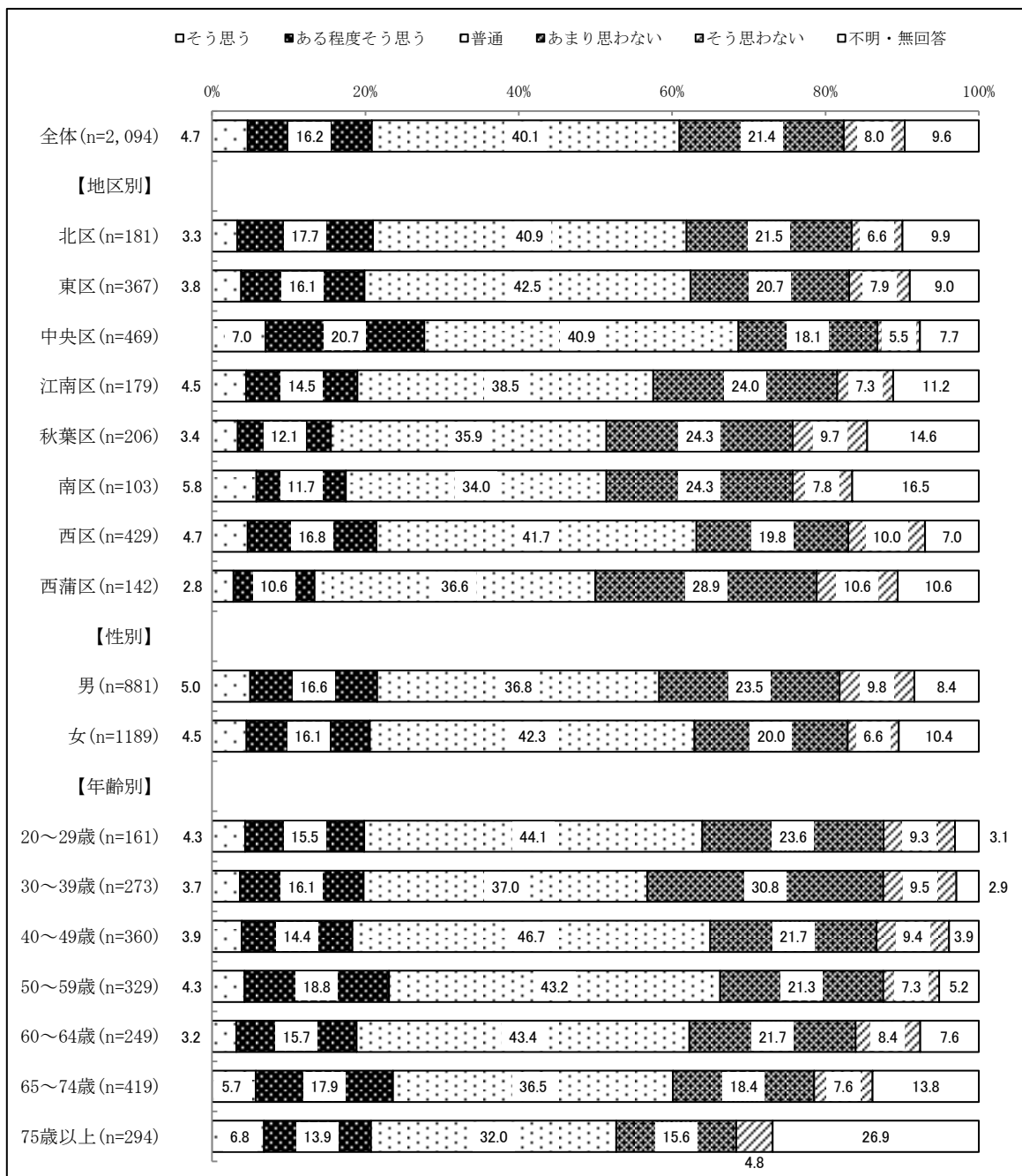


南区、西蒲区、30代、75歳以上を除く属性において、「そう思う」と「ある程度思う」を合わせた割合が、「そう思わない」と「あまり思わない」を合わせた割合よりも高くなっている。

「そう思う」と「ある程度思う」を合わせた割合についてみると、地区別は、中央区(38.2%)が最も高くなっている。性別は、男女差がみられない。年齢別は、20代(37.9%)が最も高くなっている。

一方、「そう思わない」と「あまり思わない」を合わせた割合については、西蒲区(33.1%)と30代(30.0%)が3割を超えている。

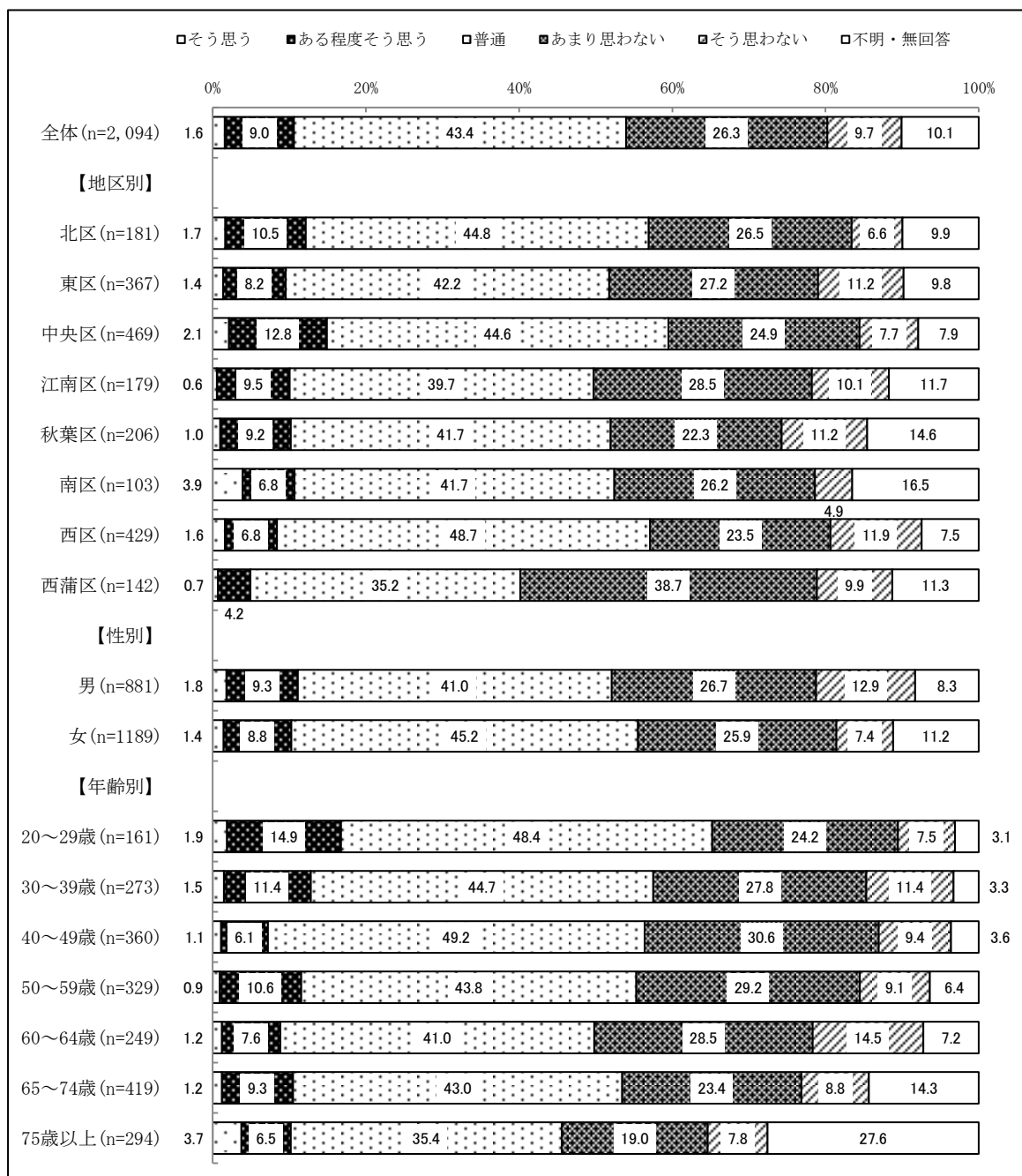
⑧国際交流に取り組んでいます。



中央区と75歳以上を除いた、地区別・性別・年齢別のすべての属性において、「そう思わない」と「あまり思わない」を合わせた割合が、「そう思う」と「ある程度思う」を合わせた割合よりも高くなっている。

「そう思わない」と「あまり思わない」を合わせた割合についてみると、地区別は、西蒲区(39.4%)が最も高くなっている。性別は、男女差がみられない。年齢別は、30代(40.3%)が最も高くなっている。

⑨住宅の供給や住みよい環境づくりによるまちなかへの居住の促進に取り組んでいます。

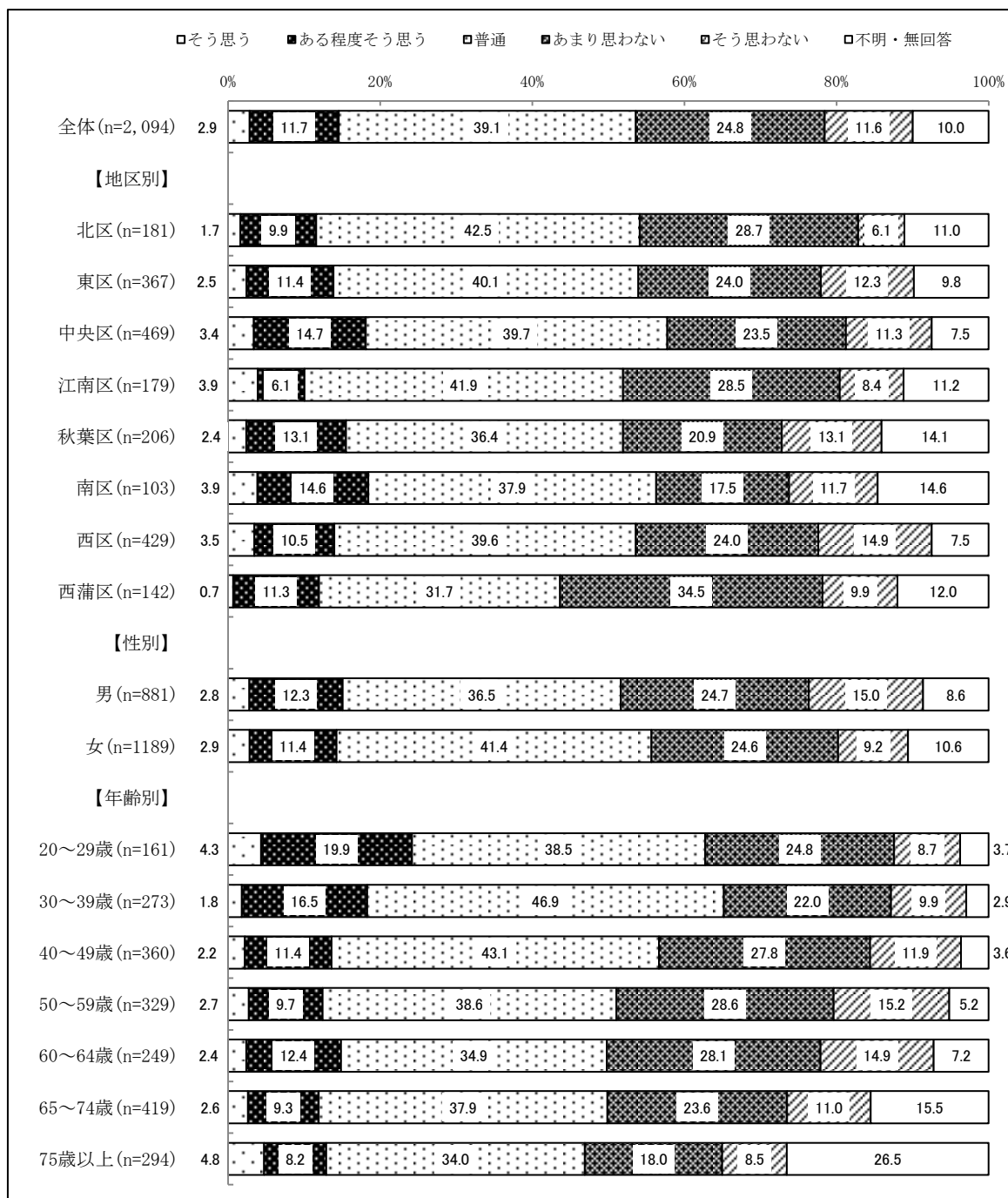


地区別・性別・年齢別のすべての属性において、「そう思わない」と「あまり思わない」を合わせた割合が、「そう思う」と「ある程度思う」を合わせた割合よりも高くなっている。

「そう思わない」と「あまり思わない」を合わせた割合についてみると、地区別は、西蒲区(48.6%)が最も高くなっている。性別は、男女差がみられない。年齢別は、40代(40.0%)と60～64歳(43.0%)が高くなっている。

一方、「そう思う」と「ある程度思う」を合わせた割合については、すべての属性において1割前後となっている。

⑩広域交通網を整備するとともに、市の拠点性の向上に取り組んでいます。

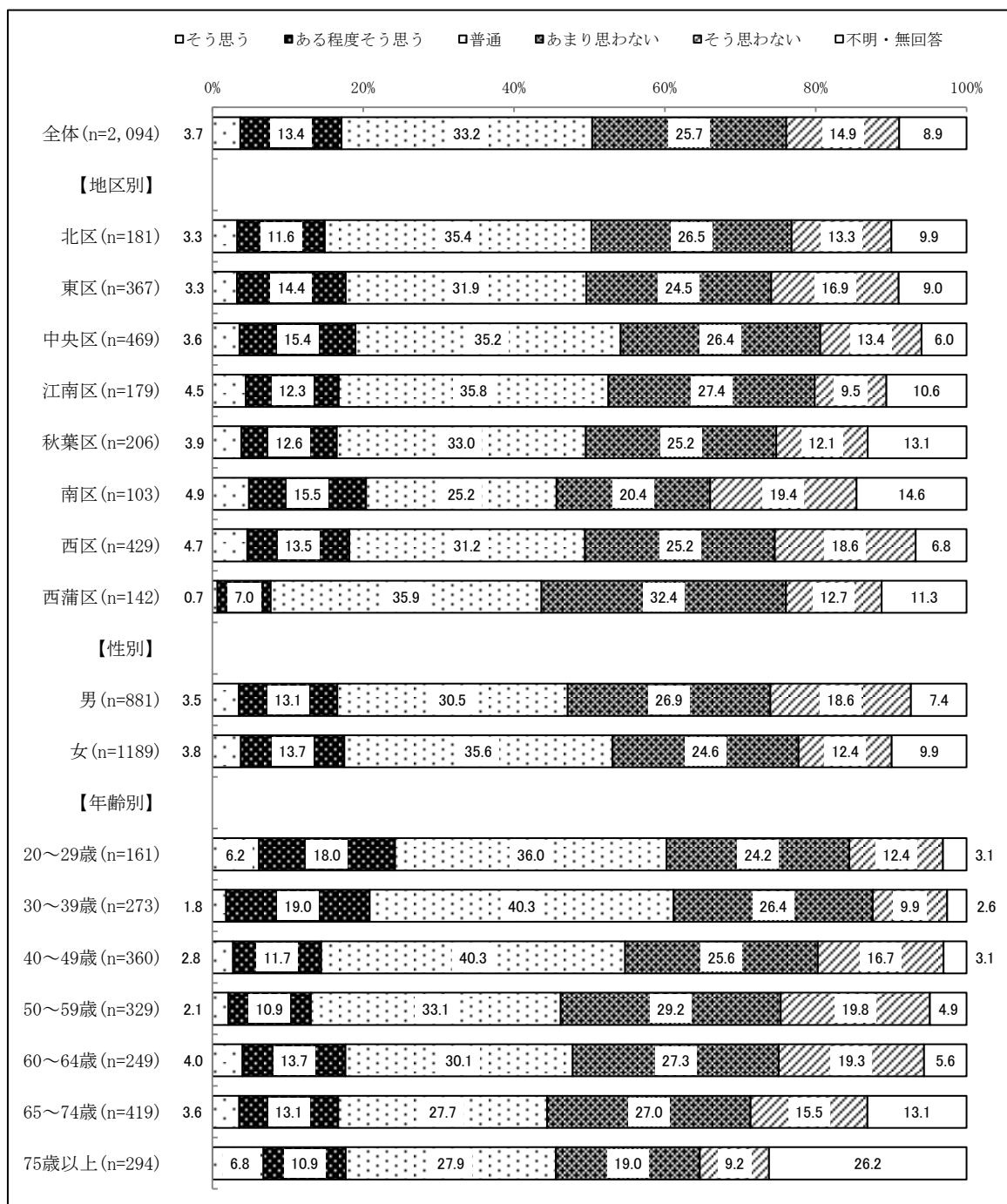


地区別・性別・年齢別のすべての属性において、「そう思わない」と「あまり思わない」を合わせた割合が、「そう思う」と「ある程度思う」を合わせた割合よりも高くなっている。

「そう思わない」と「あまり思わない」を合わせた割合についてみると、地区別は、西蒲区（44.4%）が最も高くなっている。性別は、男性（39.7%）の方が女性（33.7%）よりも高くなっている。年齢別は、50代（43.8%）と60～64歳（43.0%）が高くなっている。

一方、「そう思う」と「ある程度思う」を合わせた割合については、20代を除いた全ての属性において2割未満となっている。

⑪便利で安心な公共交通の確保に取り組んでいます。

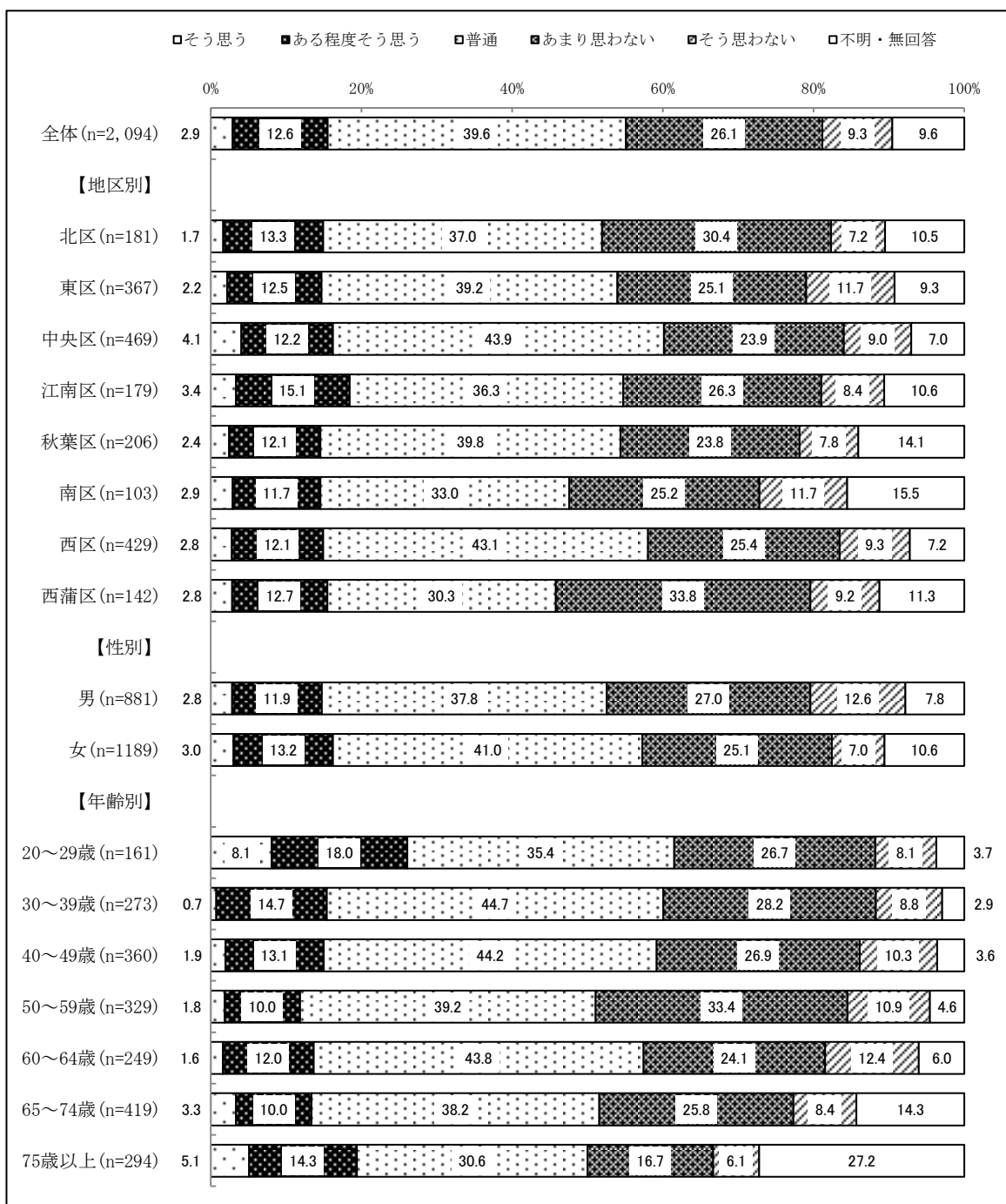


地区別・性別・年齢別のすべての属性において、「そう思わない」と「あまり思わない」を合わせた割合が、「そう思う」と「ある程度思う」を合わせた割合よりも高くなっている。

「そう思わない」と「あまり思わない」を合わせた割合についてみると、地区別は、西蒲区（45.1%）が最も高くなっている。性別は、男性（45.5%）の方が女性（37.0%）よりも高くなっている。年齢別は、50代（48.9%）が最も高くなっている。

一方、「そう思う」と「ある程度思う」を合わせた割合についてみると、20代（24.2%）が最も高くなっている。

⑫交流人口拡大に向け、新潟市の魅力の発信に取り組んでいます。

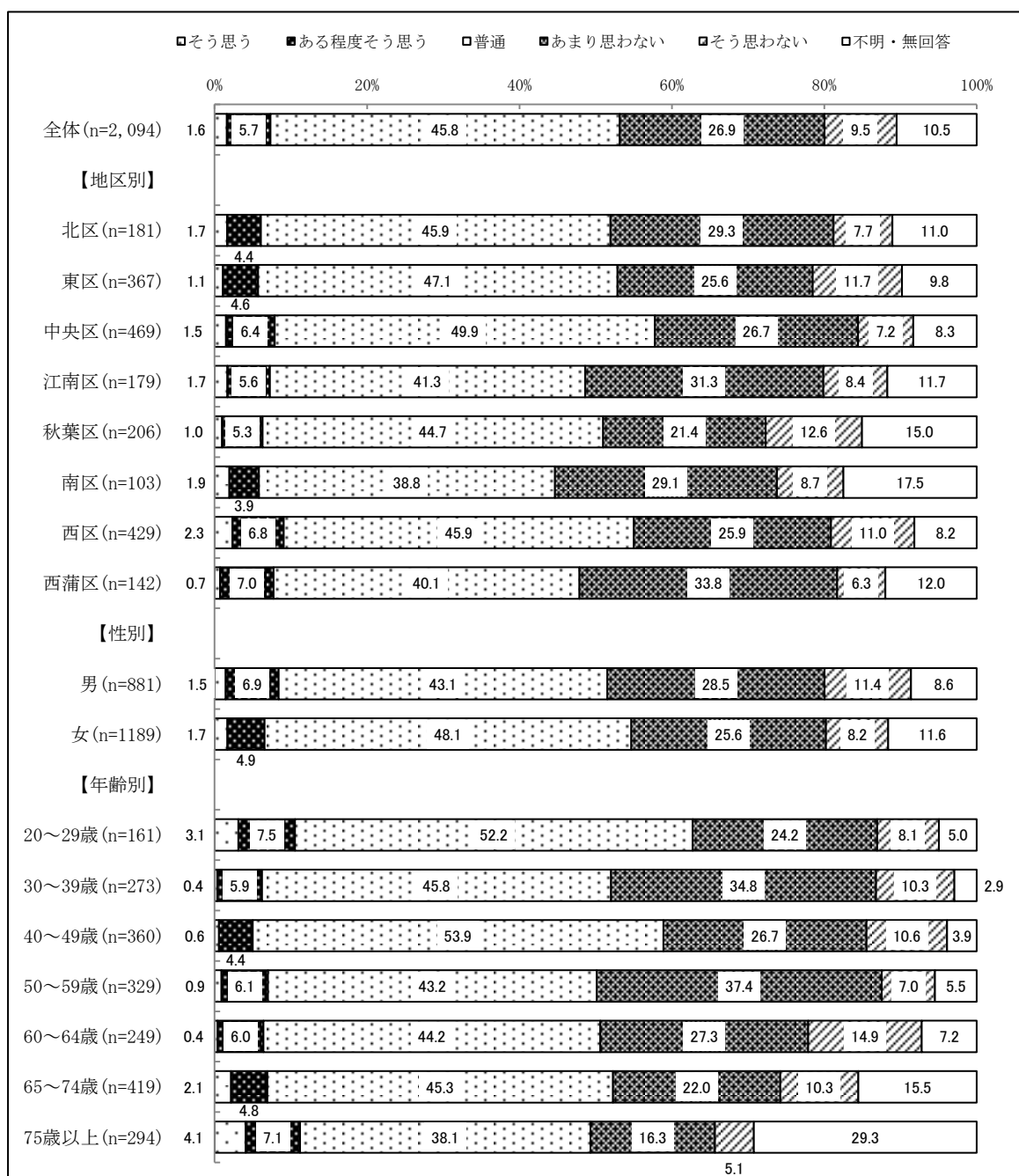


地区別・性別・年齢別のすべての属性において、「そう思わない」と「あまり思わない」を合わせた割合が、「そう思う」と「ある程度思う」を合わせた割合よりも高くなっている。

「そう思わない」と「あまり思わない」を合わせた割合についてみると、地区別は、西蒲区(43.0%)が最も高くなっている。性別は、男女差がみられない。年齢別は、50代(44.4%)が最も高くなっている。

一方、「そう思う」と「ある程度思う」を合わせた割合についてみると、20代(26.1%)を除く属性において2割未満となっている。

⑬産学官連携による産業振興支援や金融支援策に取り組んでいます。

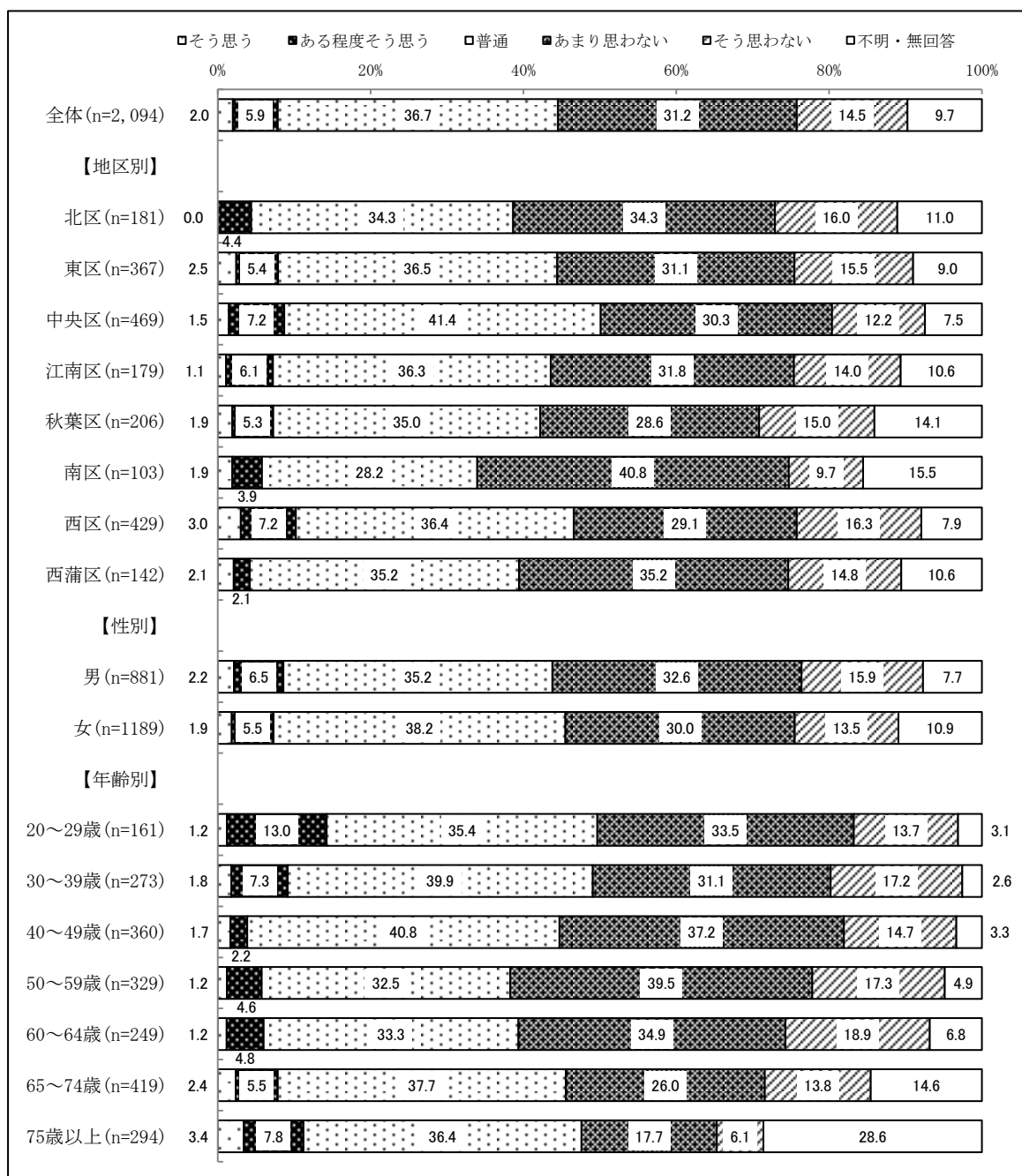


地区別・性別・年齢別のすべての属性において、「そう思わない」と「あまり思わない」を合わせた割合が、「そう思う」と「ある程度思う」を合わせた割合よりも高くなっている。

「そう思わない」と「あまり思わない」を合わせた割合についてみると、地区別は、西蒲区（40.1%）と江南区（39.7%）で高くなっている。性別は、男女差がみられない。年齢別は、30代（45.1%）が最も高くなっている。

一方、「そう思う」と「ある程度思う」を合わせた割合については、20代（10.6%）と75歳以上（11.2%）を除くすべての属性において1割未満となっている。

⑭若年者・女性などの就業の拡大に向け取り組んでいます。

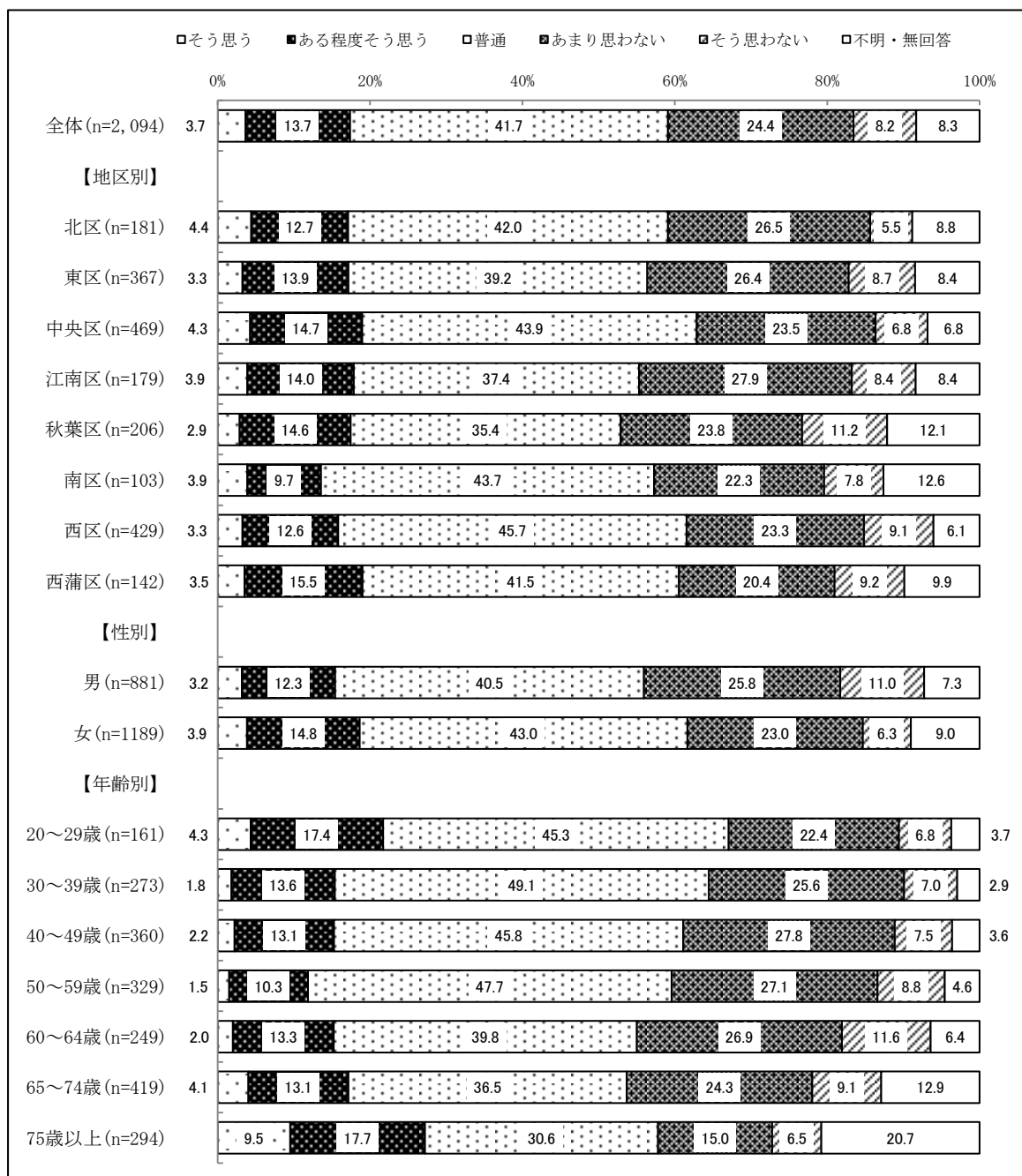


地区別・性別・年齢別のすべての属性において、「そう思わない」と「あまり思わない」を合わせた割合が、「そう思う」と「ある程度思う」を合わせた割合よりも高くなっている。

「そう思わない」と「あまり思わない」を合わせた割合についてみると、地区別は、南区 (50.5%)、北区 (50.3%)、西蒲区 (50.0%) が高くなっている。性別は、男女差がみられない。年齢別は、50代 (56.8%) が最も高くなっている。

一方、「そう思う」と「ある程度思う」を合わせた割合については、すべての属性において1割前後となっている。

⑮元気でいきいきと生活できる高齢者支援に取り組んでいます。

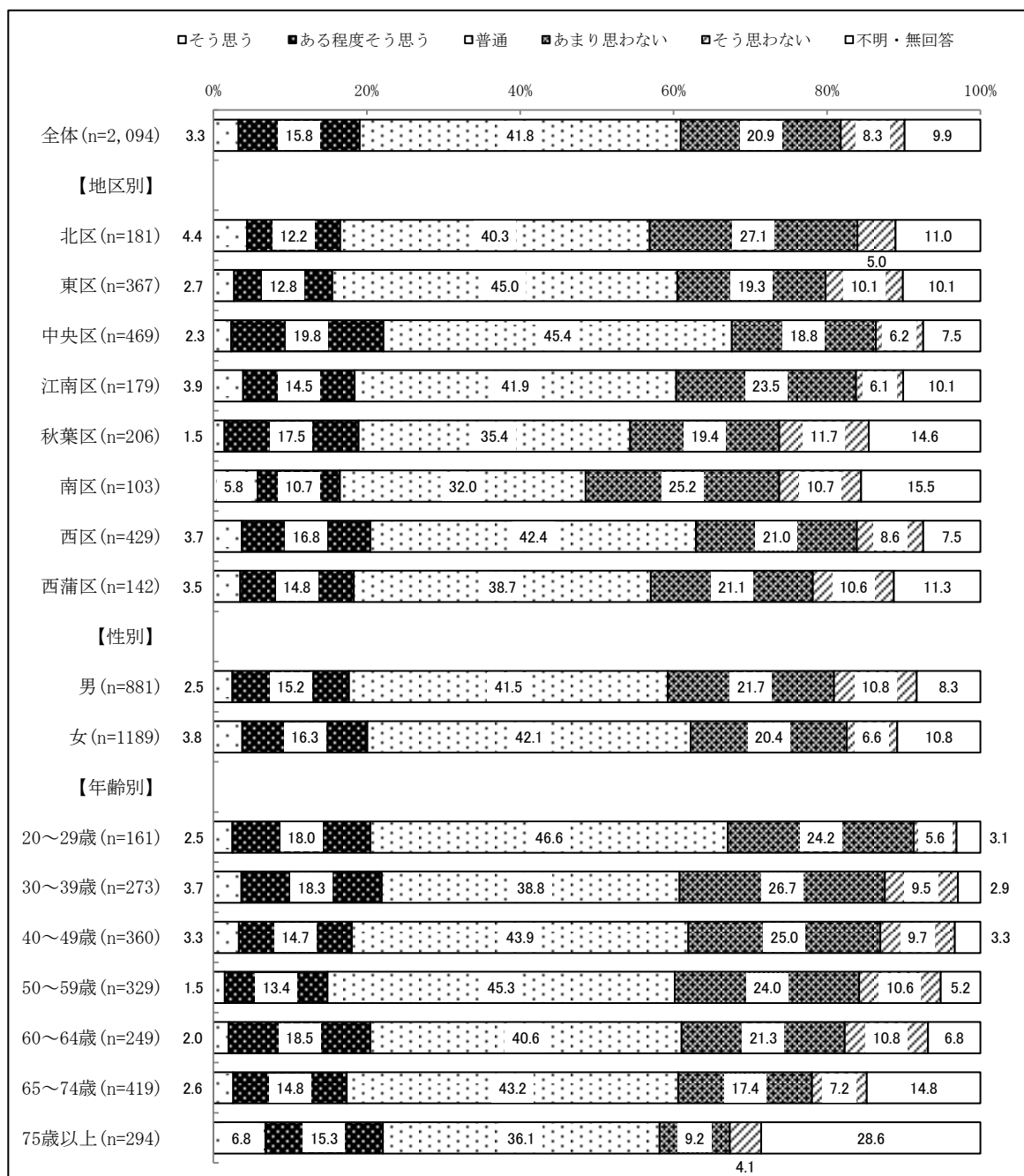


75歳以上を除く属性において、「そう思わない」と「あまり思わない」を合わせた割合が、「そう思う」と「ある程度思う」を合わせた割合よりも高くなっている。

「そう思わない」と「あまり思わない」を合わせた割合についてみると、地区別は、江南区（36.3%）が最も高くなっている。性別は、男性（36.8%）の方が女性（29.4%）よりも高くなっている。年齢別は、60～64歳（38.6%）が最も高くなっている。

一方、「そう思う」と「ある程度思う」を合わせた割合については、20代（21.7%）と75歳以上（27.2%）が2割を超えている。

⑩子育て支援の充実に取り組んでいます。

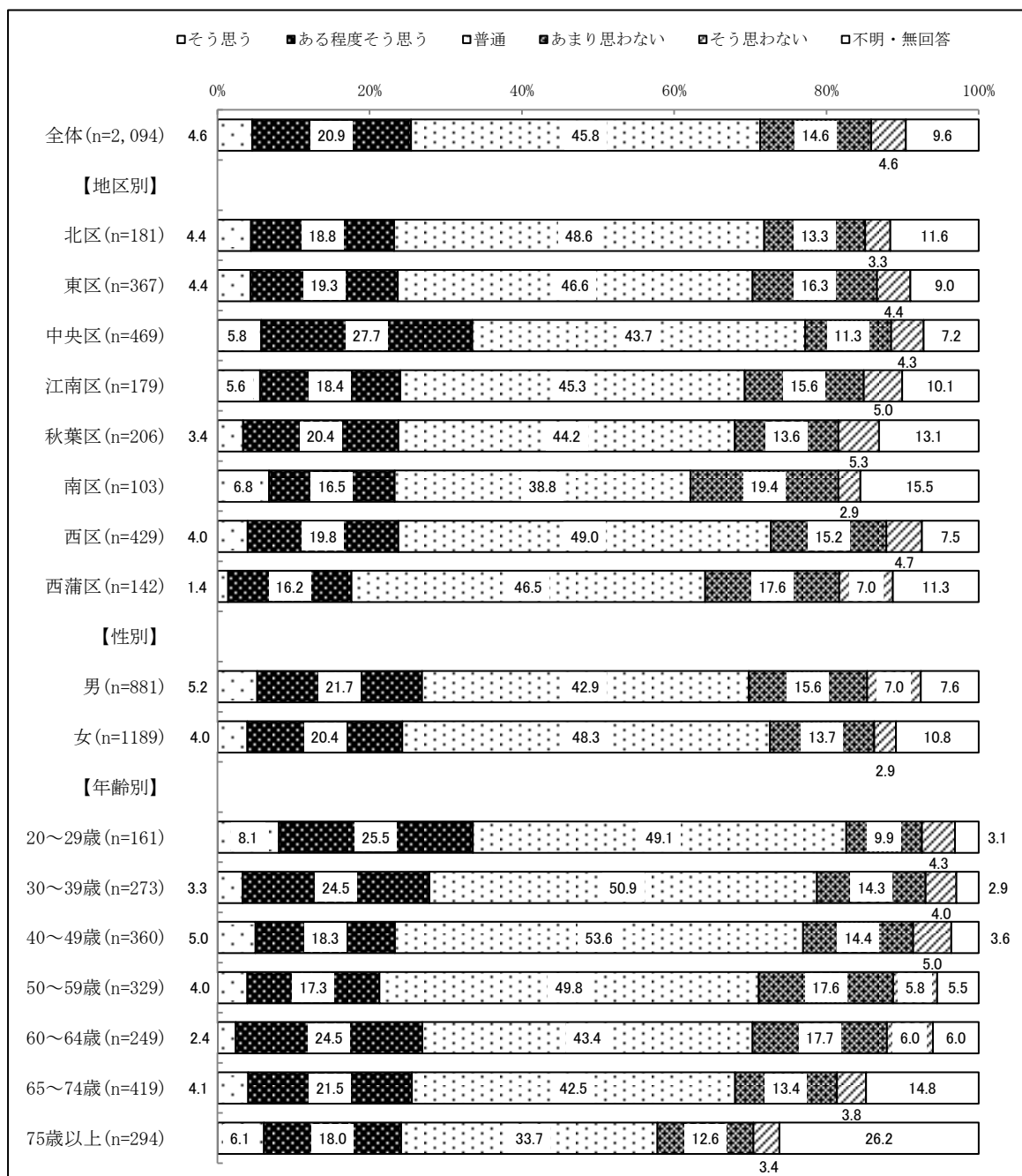


75歳以上を除く属性において、「そう思わない」と「あまり思わない」を合わせた割合が、「そう思う」と「ある程度思う」を合わせた割合よりも高くなっている。

「そう思わない」と「あまり思わない」を合わせた割合についてみると、地区別は、南区（35.9%）が最も高くなっている。性別は、男性（32.5%）の方が女性（26.9%）よりも高くなっている。年齢別は、30代（36.3%）が最も高くなっている。

一方、「そう思う」と「ある程度思う」を合わせた割合については、地区別は、中央区（22.2%）が最も高くなっている。年齢別は、75歳以上（22.1%）が最も高くなっている。

⑰災害予防応急対策や防災体制の充実に取り組んでいます。

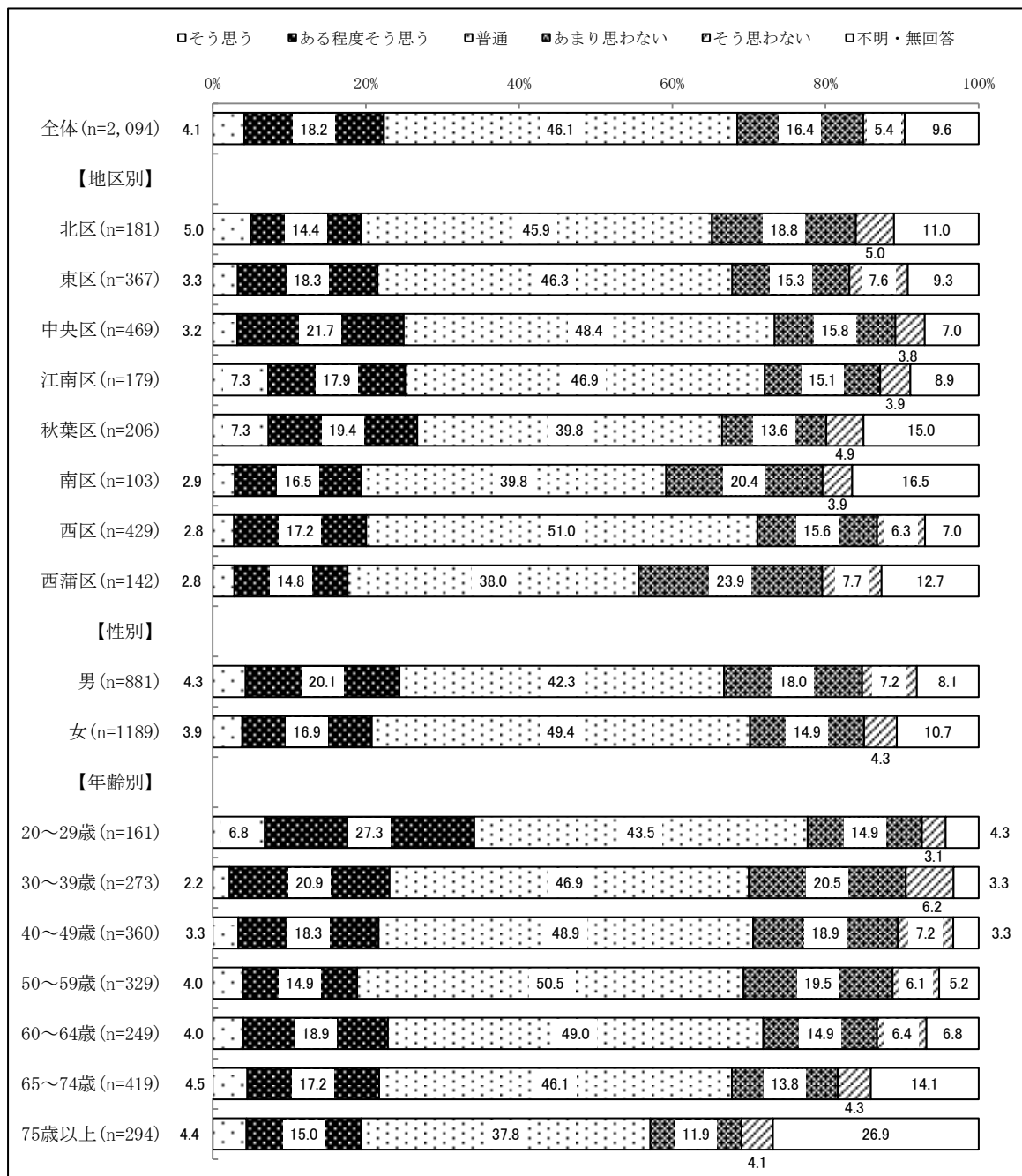


西蒲区、50代を除く属性において、「そう思う」と「ある程度思う」を合わせた割合が、「そう思わない」と「あまり思わない」を合わせた割合よりも高くなっている。

「そう思う」と「ある程度思う」を合わせた割合についてみると、地区別は、中央区(33.5%)が最も高くなっている。性別は、男女差がみられない。年齢別は、20代(33.5%)が最も高くなっている。

一方、「そう思わない」と「あまり思わない」を合わせた割合については、西蒲区(24.6%)、60～64歳(23.7%)、50代(23.4%)が高くなっている。

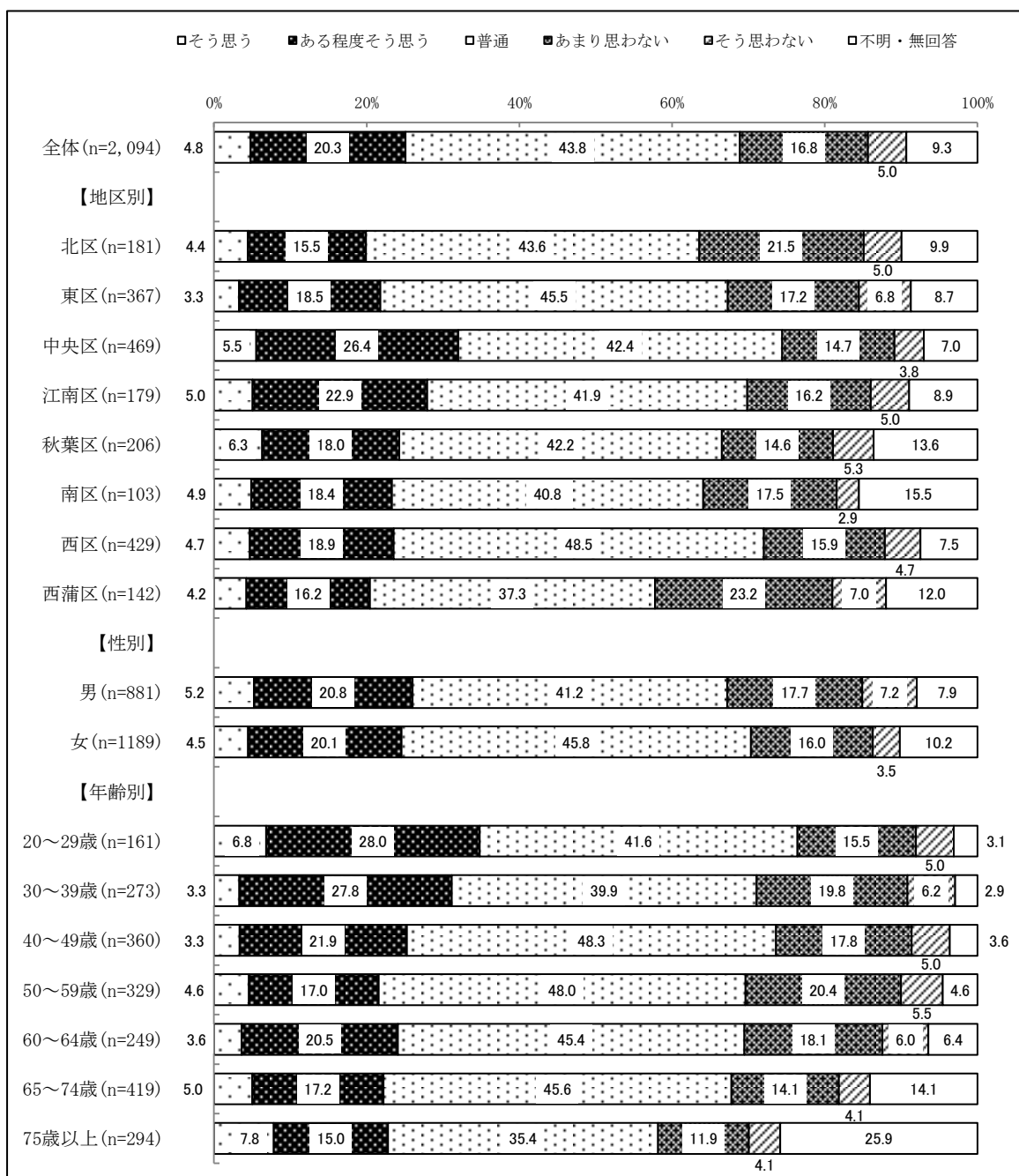
⑱学習環境の向上のため、学校や公民館などの整備に取り組んでいます。



「そう思わない」と「あまり思わない」を合わせた割合についてみると、地区別は、西蒲区(31.7%)が最も高くなっている。性別は、男女差がみられない。年齢別は、30代(26.7%)が最も高くなっている。

一方、「そう思う」と「ある程度思う」を合わせた割合については、地区別は、秋葉区(26.7%)、江南区(25.1)、中央区(24.9%)が高くなっている。年齢別は、20代で割合が高く、3割を超える。

⑱健康な生活を送れるよう、スポーツ環境の整備に取り組んでいます。

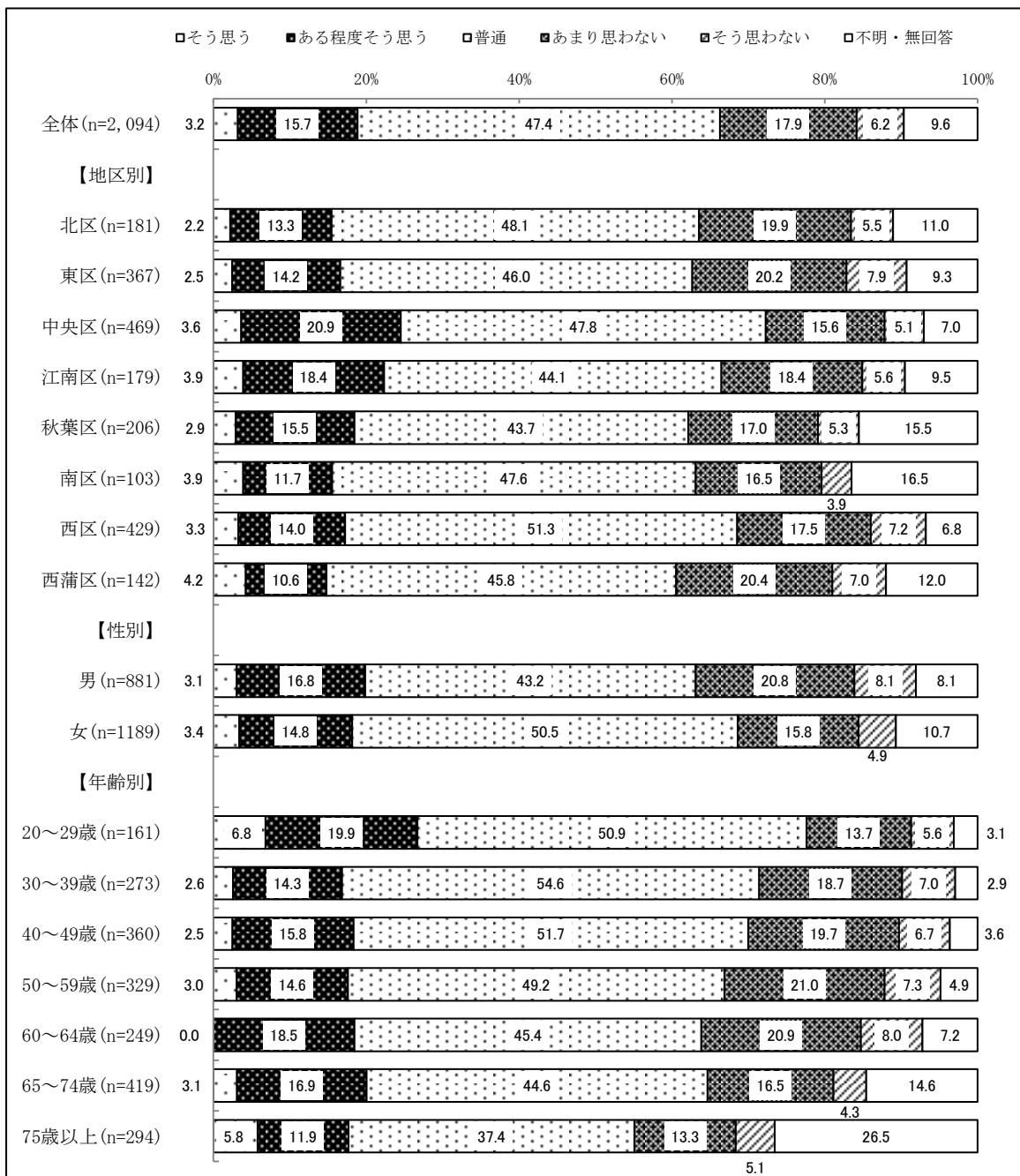


北区、東区、西蒲区、50代を除く属性において、「そう思わない」と「あまり思わない」を合わせた割合よりも、「そう思う」と「ある程度思う」を合わせた割合の方が高くなっている。

「そう思う」と「ある程度思う」を合わせた割合についてみると、地区別は、中央区(32.0%)が最も高くなっている。性別は、男女差がみられない。年齢別は、20代(34.8%)が最も高くなっている。

「そう思わない」と「あまり思わない」を合わせた割合についてみると、地区別は、西蒲区(30.3%)が最も高くなっている。年齢別は、30代(26.0%)が最も高くなっている。

⑳地域の個性豊かな歴史文化の活用



中央区と20代を除く属性において、「そう思わない」と「あまり思わない」を合わせた割合が、「そう思う」と「ある程度思う」を合わせた割合よりも高くなっている。

「そう思わない」と「あまり思わない」を合わせた割合についてみると、地区別は、東区（28.1%）が最も高くなっている。性別は、男性（28.8%）が女性（20.7%）よりも高い。年齢別は、60～64歳（28.9%）と50代（28.3%）が高くなっている。

一方、「そう思う」と「ある程度思う」を合わせた割合については、20代（26.7%）が高くなっている。

Ⅲ 調査票様式

平成26年度 第41回市政世論調査

「新潟市政に関する世論調査」ご協力をお願い

市民の皆さまには、日頃より市政に対してのご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

新潟市では、市民の皆さまが日常生活の中で市政に対しどのようなお考えやご要望をお持ちになっているかを伺い、市政の参考としていくために「市政世論調査」を実施しております。

この調査は、新潟市内にお住まいの満20歳以上の方の中から無作為に4,000人の方をお選びし、実施するもので、このたびあなた様をお願いすることになりました。

お伺いした内容はプライバシーに配慮し、コンピューターで統計的に処理しますので、個人のお名前、ご住所などが公表されることは絶対にございませぬ。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、この調査票にご記入のうえ、返信用封筒で **平成26年8月4日(月)まで** にご投函いただきますよう、ご協力のほどよろしくお願ひいたします。

平成26年7月18日

新潟市長 篠田 昭

ご記入にあたってのお願い

1. 回答は、**必ずあて名のご本人**がご記入ください。
(無記名ですので、氏名・住所の記入の必要はありません。)
2. 特にことわりのない限り、全ての質問にお答えください。
該当者にだけお答えいただく質問もあります。その場合は矢印で示してありますので、それに従ってお答えください。
3. 回答は、あてはまる項目の**番号に○**をつけてください。
「その他」を選んだ場合には具体的な内容をご記入ください。
4. 質問文の後に**(○は1つだけ)** **(○は3つまで)** などのことわり書きがあります。これはお答えいただく数を意味します。
5. この調査は、回答者を無作為で抽出しているため、あて名のご本人の様子がわかりません。万一、ご病気などでお答えいただけない場合は、回答の必要はございません。
6. 調査内容で不明な点などがございましたら、以下にお問い合わせください。
新潟市 市民生活部 広聴相談課 電話025-226-2094 (直通)

ご記入がおわりましたら…



◎ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒に入れて**平成26年8月4日(月)まで** ご投函ください。切手を貼る必要、お名前を記入する必要はありません。

【1 あなたご自身のことについてお聞きします。】

問1 あなたの性別は。(○は1つだけ)

1. 男	2. 女
------	------

問2 あなたの年齢は。(○は1つだけ)

1. 20～29歳	4. 50～59歳	7. 75歳以上
2. 30～39歳	5. 60～64歳	
3. 40～49歳	6. 65～74歳	

問3 あなたのご職業は何ですか。(○は1つだけ)

※複数の職業をお持ちの方は、おもなものを一つだけお選びください。

1. 事務職・管理職・公務員	6. 販売・サービス・保安職 (卸売業、小売業、宿泊業、飲食業を含む)
2. 農業・林業・漁業職	
3. 建設・輸送・労務職	7. その他 ※具体的な職業をご記入ください。 ()
4. 製造職	
5. 専門・技術職(医療・福祉職含む)	8. 無職(主婦、家事専業、学生を含む)

(問3で「1」～「6」と答えた方は問3-2へ、「7」「8」と答えた方は問4へ)

問3-2 問3でご職業が「1」～「6」の方にお聞きします。

あなたの雇用形態は次のうちどれですか。

(○は1つだけ)

1. 正規の社員・職員・従業員(役員を含む)
2. 自営業(家族従業者、家庭内職者を含む)
3. 契約社員・嘱託社員・労働者派遣事業所の派遣社員
4. パート・アルバイト
5. その他の有期雇用社員・職員・従業員
6. その他()

(問4へ)

(ここからはすべての方へ)

問4 あなたのお住まいは何区ですか。(〇は1つだけ)

1. 北区	3. 中央区	5. 秋葉区	7. 西区
2. 東区	4. 江南区	6. 南区	8. 西蒲区

問5 あなたは新潟市に通算して何年くらい住んでおられますか。(〇は1つだけ)

※合併前の市町村での居住年数も含めてお答えください。

1. 2年未満	3. 5～10年未満	5. 20年以上
2. 2～5年未満	4. 10～20年未満	

問6 あなたの世帯の家族構成は、次のうちどれにあたりますか。(〇は1つだけ)

1. 単身	4. 3世代世帯(親と子と孫)
2. 夫婦	5. その他
3. 2世代世帯(親と子)	()

問7 あなたの婚姻状況は、次のうちどれにあたりますか。

届出の有無に関わりなくお答えください。(〇は1つだけ)

1. 未婚	2. 配偶者あり	3. 配偶者なし(離別または死別)
-------	----------	-------------------

【2 災害への備えについてお聞きします。】

問8 あなたが日ごろから災害に備えて行っていることは何ですか。

(〇はいくつでも)

1. 食料品などの備蓄を準備している
2. 最寄りの避難場所を確認している
3. 避難場所までの安全な避難経路、避難方法を確認している
4. 家具の転倒防止など家屋内の安全対策を実施している
5. 家族や親しい人などと災害時に連絡を取る手段を決めている
6. 防災について家族で話し合いをしている
7. 防災訓練に参加している
8. その他 ()
9. 特に何もしていない

問13 あなたは地域の防災訓練に参加したことがありますか。

(○は1つだけ)

- | | |
|----------------|----------------------|
| 1. 毎回参加している | 4. 一度も参加していない |
| 2. おおむね参加している | 5. 訓練が行われていない |
| 3. ほとんど参加していない | 6. 訓練を行っているかどうかわからない |

(問13で「3」「4」(参加していない)と答えた方は問14へ、他の方は問15へ)

問14 地域の防災訓練に参加していないと答えた方にお聞きします。

あなたが、地域の防災訓練に参加しない理由はどれですか。

(○はいくつでも)

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1. 訓練の必要性を感じない | 4. 顔見知りがないなど、参加しにくい |
| 2. 訓練の内容が毎回変わり映えしない | 5. その他 |
| 3. 訓練に参加する時間がない | () |

(問15へ)

(ここからはすべての方へ)

問15 新潟市では6月16日13:03に、災害時にどういった伝達手段で災害情報を受け取れるか、市民の皆さまにご確認いただくため、情報伝達訓練を実施し、緊急速報メールや同報無線、緊急告知FMラジオなどで一斉に訓練放送しました。

あなたは6月16日に災害情報(訓練放送)を受け取りましたか。

(○は1つだけ)

- | | |
|----------|-------------|
| 1. 受け取った | 2. 受け取らなかった |
|----------|-------------|

(問15で「1」(受け取った)と答えた方は問16へ、
「2」(受け取らなかった)と答えた方は問17へ)

問16 災害情報(訓練放送)を受け取ったと答えた方にお聞きします。

あなたが、災害情報(訓練放送)を受け取った情報伝達手段は何でしたか。

(○はいくつでも)

- | | |
|---|------------------|
| 1. 緊急速報メール・エリアメール
(NTTドコモ、KDDI、ソフトバンク) | 4. 同報無線 |
| 2. にいがた防災メール | 5. ツイッター |
| 3. 緊急告知FMラジオ(FM新潟、FM新津) | 6. BSNデータ放送 |
| | 7. 新潟市緊急情報ホームページ |

(問17へ)

(ここからはすべての方へ)

問17 あなたが今後、災害への備えについて実施していきたいと思うことはありますか。

(○はいくつでも)

- | |
|--------------------------------|
| 1. 食料品などの備蓄を準備する |
| 2. 最寄りの避難場所を確認する |
| 3. 避難場所までの安全な避難経路、避難方法を確認する |
| 4. 家具の転倒防止など家屋内の安全対策を実施する |
| 5. 家族や親しい人などと災害時に連絡を取る手段を決めておく |
| 6. 防災について家族で話し合いをする |
| 7. 防災訓練への参加 |
| 8. その他 () |
| 9. 特にない |

【3 消費生活についてお聞きします。】

問18 あなたは、消費生活センターを知っていますか。

(○は1つだけ)

- | |
|-----------------------------|
| 1. 何をしているところか知っている |
| 2. 知っているが、何をしているところかよくわからない |
| 3. 知らない |
| 4. 相談や利用したことがある |

問19 あなたは、どのような消費者問題に関心がありますか。

(○はいくつでも)

- | | |
|----------------|-------------|
| 1. 商品・食品などの安全性 | 4. 資源・エネルギー |
| 2. 悪質・詐欺商法 | 5. 多重債務 |
| 3. インターネット・通信 | 6. その他 () |

問20 あなたは食品の安全性について、どんなことに不安を感じますか。

(○はいくつでも)

- | |
|---|
| 1. 偽装表示（産地、原材料、日付など） |
| 2. 食品の添加物（香料、着色料、保存料など） |
| 3. 農産物の残留農薬 |
| 4. 食肉への残留薬物（ホルモン剤など） |
| 5. 遺伝子組み換え食品 |
| 6. 食品に含まれるアレルギー性物質 |
| 7. 家畜伝染病（口蹄疫、鳥インフルエンザなど） |
| 8. 食中毒 |
| 9. 食料自給率 |
| 10. 健康食品 |
| 11. その他（ ） |
| 12. 特に不安を感じない |

問21 あなたは環境にやさしい買い物をしていますか。

(○はいくつでも)

- | |
|--|
| 1. 買い物にマイバックを利用している |
| 2. 買い物では簡易包装をお願いしている |
| 3. リサイクルを意識して買い物をしている |
| 4. 意識してエコ商品を購入するようにしている |
| 5. フェアトレードを知っており、その商品を購入するようにしている |
| 6. その他（ ） |

【フェアトレードとは】

発展途上国から先進国への輸出や企業間の取り引きをフェアに行い、お互いに支え合おうという貿易の仕組みです。公平貿易とも言います。

生産者が不当に安い価格で買い叩かれ、あるいは恒常的な低賃金労働者が発生することを防ぎ、また、乱開発という環境破壊を防ぐなど、国際的な貧困対策、環境保護を目的としています。食品や手工芸品、衣服などさまざまな製品があり、フェアトレード認証ラベルなどが貼ってあります。

(問22へ)

問22 あなたが最近1年間に購入した商品や利用したサービスについて、経済的または身体的な被害を受けたことや、何らかの不安を感じたことがありますか。
「商品」と「サービス」別に教えてください。(〇はいくつでも)

【商品】	【サービス】
1. 食品	1. 外食
2. 家電製品	2. 通信
3. 衣料品	3. 交通
4. 身の回りの品	4. 金融・保険
5. 電話・通信機器	5. 電気・ガス・水道
6. その他()	6. その他()
7. 被害や不安は、なかった	7. 被害や不安は、なかった

(問22の【商品】【サービス】のいずれかあるいは両方で、
「1～6」(被害や不安があった)と答えた方は問23へ
【商品】【サービス】の両方で、「7」(被害や不安は、なかった)と答えた方は問24へ

問23 商品や利用したサービスについて、経済的または身体的な被害を受けたことや、何らかの不安を感じたことがあると答えた方にお聞きします。
商品やサービスで被害を受けたり、不安を感じたとき、だれに相談しましたか。
(〇はいくつでも)

1. 家族	7. 消費生活センター
2. 友人	8. 地域包括支援センター
3. 職場の人	9. 警察
4. 民生委員	10. その他 ()
5. 自治会役員	
6. 区役所・市役所	11. だれにも相談していない

(ここからはすべての方へ)

問24 あなたは、消費生活の不安や被害解消のために、どのような対策が必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

1. ポスター・チラシによる啓発活動	5. 身近に相談できる体制づくり
2. 実際の相談を例にした出前講座など	6. TV・ラジオ・新聞などによる啓発活動
3. 警察による取り締まり	7. 学校教育現場での消費者教育
4. 国・県・市による行政指導	8. その他()

(問25へ)

問25 あなたは、消費生活の不安や被害解消のために、年代別にどのような啓発活動が必要だと思いますか。

(○はそれぞれ1つずつ)

	1 食の安全	2 金銭の計画的な 使い方	3 身近な物の 選び方・買い方	4 携帯電話・スマー トフォン・インタ ーネットの使い方	5 悪質商法と その対処方法
① 小学生	1	2	3	4	5
② 中学生	1	2	3	4	5
③ 高校生	1	2	3	4	5
④ 大学生	1	2	3	4	5
⑤ 成人(概ね20代~30代)	1	2	3	4	5
⑥ 成人(概ね40代~50代)	1	2	3	4	5
⑦ 高齢者	1	2	3	4	5

問26 あなたは、消費生活の安定や向上のために、市にどのような取り組みを期待していますか。

(○は2つまで)

<ol style="list-style-type: none"> 1. 消費者被害・トラブルなどについての情報提供の充実 2. 消費者被害の未然防止のための啓発活動の充実 3. 消費生活センターの相談体制の強化 4. 消費者が自立するための消費者教育の充実 5. 事業者への指導・取締りの強化 6. 市政への消費者の声の反映 7. 消費者団体の活発な活動の支援 8. その他 () 9. わからない

(問27へ)

問27 全国的に「特殊詐欺」と言われている問題が起きています。

なかでも、オレオレ詐欺や投資詐欺、不当請求・架空請求など悪質な詐欺の相談が多く寄せられています。あなたは、こうした悪質な詐欺について、どのように感じますか、あるいはどのような対応が必要だと思いますか。

(○は2つまで)

- | | |
|--------------------|------------------|
| 1. もっと詐欺対策の啓発をすべき | 4. だまされる方にも問題がある |
| 2. 警察が徹底的に取り締まるべき | 5. その他 () |
| 3. 不当利得は没収して、返還すべき | 6. わからない |

問28 全国的に高齢者が消費者被害に遭うことが多くなっています。

あなたは、高齢者の被害について、どのように感じますか、あるいはどのような対応が必要だと思いますか。

(○は2つまで)

- | | |
|--------------------|---------------|
| 1. もっと情報提供し、啓発をすべき | 5. 高齢者の居場所づくり |
| 2. 警察が徹底的に取り締まるべき | 6. 留守番電話機能の設置 |
| 3. 地域の見守り体制が必要 | 7. その他 () |
| 4. 成年後見制度の活用 | 8. わからない |

【成年後見制度とは】

認知症、知的障がい、精神障がいなどの理由で判断能力の不十分な方は、財産を管理したり、身のまわりの世話のために介護などのサービスや施設への入所に関する契約を結んだり、遺産分割などの法律行為を行うことが困難であったり、また、悪質商法などの被害に遭ったりする恐れがあります。このような判断能力の不十分な方を保護し、支援するのが成年後見制度です。家庭裁判所への申立により、家族や親族、専門家などから適任者を選任する「法定後見」と、本人の判断能力が十分なうちに、あらかじめ後見人となる人を選び契約をする「任意後見」があります。

【4 市政情報の入手方法についてお聞きします。】

問29 あなたは、新潟市の市政や暮らし、イベントなどに関する市政情報を十分に得ていますか。

(○は1つだけ)

- | | |
|------------|--------------|
| 1. 十分に得ている | 3. あまり得ていない |
| 2. 得ている | 4. まったく得ていない |

(問29で「1」「2」「3」(得ている、あまり得ていない)と答えた方は問30へ、
「4」(まったく得ていない)と答えた方は問31へ)

(ここからはすべての方へ)

問31 あなたは、市に関するどの分野の情報をより知りたいですか。

(○は3つまで)

1. 市政情報(市政の動向・予算)	11. ごみ・リサイクル
2. 住民票・戸籍・印鑑・パスポート	12. 消費生活や食の安全
3. 公共施設・公園	13. イベント
4. 医療・保健・福祉	14. 趣味・講座
5. 防災	15. 観光
6. 子育て	16. まちづくり・地域活動
7. 学校教育	17. 相談
8. 税金	18. その他
9. 保険・年金	()
10. 仕事	19. 特にない

問32 新潟市では、市の広報紙「市報にいがた」を新聞折り込みにより市内の各世帯に配布するとともに、新聞未購読世帯には、お申込みにより個別に郵送またはポストインによりお届けしています。

あなたはどの方法で「市報にいがた」を入手していますか。

(○は1つだけ)

1. 新聞折り込みにより届いている
2. 郵送またはポストインにより届いている
3. その他の方法により入手している
4. ホームページ版「市報にいがた」を読んでいる
5. 入手していない

問33 新潟市では現在「市報にいがた」を毎週発行していますが、今後、どのような頻度での発行が適当だと思いますか。

(1か月あたりのページ数・情報量は変わらないものとします。)

(○は1つだけ)

1. 毎週発行(現状どおり)
2. 毎月3回発行(10日ごとに発行)
3. 毎月2回発行(第1日曜日・第3日曜日)
4. 毎月1回発行
5. その他()

【5 市政全般と区政についてお聞きします。】

問34 新潟市は平成 19 年4月に政令市に移行したことにより、身近な行政サービスを行う8つの区役所を設置し、7年が経過しました。

市役所とあなたがお住まいの区の区役所が行っている施策や事業で、以前に比べて

- ①「新潟市として良くなっているもの」
- ②「新潟市として今後、もっと力を入れてほしいもの」
- ③「区として良くなっているもの」
- ④「区として今後もっと力を入れてほしいもの」を

次の中からそれぞれ1位～3位までを選んで、下の回答欄に番号（1～33）をご記入ください。（それぞれの順位欄に番号数字を記入してください）

1. 市・区の窓口対応	13. スポーツの振興	25. 交通安全対策
2. 電子手続きの推進	14. 文化・芸術の振興	26. 学校教育
3. 地域活動の振興	15. 農林水産業の振興	27. 生涯学習
4. 防災対策	16. 商工業・貿易の振興	28. 市営住宅の整備
5. 防犯対策	17. 雇用の場の拡大	29. 広報広聴活動
6. 児童福祉	18. 観光の振興	30. 国際交流の振興
7. 高齢者福祉	19. まちなかの活性化	31. 市民協働のまちづくり
8. 障がい者福祉	20. 公共交通の充実	32. 男女共同参画の推進
9. 保健・医療体制	21. 計画的な市街地整備	33. その他
10. ごみ処理・リサイクル	22. 公園の整備	()
11. 地球温暖化対策	23. 道路の整備	
12. 自然環境の保護	24. 公共下水道の整備	

回答欄 （1～33までの番号を記入してください）

	1位	2位	3位
① 新潟市として良くなっているもの			
② 新潟市として今後、もっと力を入れてほしいもの			
③ 区として良くなっているもの			
④ 区として今後もっと力を入れてほしいもの			

【6 市の取り組みについてお聞きします。】

問35 政令市に移行した平成19年度に、「新・新潟市総合計画」をスタートして7年が経過しました。この計画に基づき進めているおもな取り組みについてお聞かせください。それぞれの項目ごとに番号を1つ選んで、その番号に○をつけてください。

(○はそれぞれ1つずつ)

	1 そう 思う	2 ある 程度 思う	3 普 通	4 あ ま り 思 わ な い	5 そ う 思 わ な い
① 住民参加型の地域づくりに取り組んでいます。	1	2	3	4	5
② 地域活動を行うための拠点づくりに取り組んでいます。	1	2	3	4	5
③ だれもが快適に暮らせるまちづくりに取り組んでいます。	1	2	3	4	5
④ 情報公開に努め、市民の声を市政に反映するよう取り組んでいます。	1	2	3	4	5
⑤ 「食と花のにいがた」の情報発信に取り組んでいます。	1	2	3	4	5
⑥ ごみの減量・再利用や地球温暖化対策など、環境問題に取り組んでいます。	1	2	3	4	5
⑦ 水辺に親しむ空間の創出に取り組んでいます。	1	2	3	4	5
⑧ 国際交流に取り組んでいます。	1	2	3	4	5
⑨ 住宅の供給や住みよい環境づくりによるまちなかへの居住の促進に取り組んでいます。	1	2	3	4	5
⑩ 広域交通網を整備するとともに、市の拠点性の向上に取り組んでいます。	1	2	3	4	5
⑪ 便利で安心な公共交通の確保に取り組んでいます。	1	2	3	4	5
⑫ 交流人口拡大に向け、新潟市の魅力の発信に取り組んでいます。	1	2	3	4	5
⑬ 産学官連携による産業振興支援や金融支援策に取り組んでいます。	1	2	3	4	5
⑭ 若年者・女性などの就業の拡大に向け取り組んでいます。	1	2	3	4	5

	1 そう 思う	2 ある 程度 思う	3 普通	4 あまり 思わ ない	5 そう 思わ ない
⑮ 元気でいきいきと生活できる高齢者支援に取り組んでいます。	1	2	3	4	5
⑯ 子育て支援の充実に取り組んでいます。	1	2	3	4	5
⑰ 災害予防応急対策や防災体制の充実に取り組んでいます。	1	2	3	4	5
⑱ 学習環境の向上のため、学校や公民館などの整備に取り組んでいます。	1	2	3	4	5
⑲ 健康な生活を送れるよう、スポーツ環境の整備に取り組んでいます。	1	2	3	4	5
⑳ 地域の個性豊かな歴史文化の活用や情報発信に取り組んでいます。	1	2	3	4	5

ご協力ありがとうございました

ご記入がおわりましたら…



◎ご記入いただいた調査票は、お手数ですが、同封の返信用封筒に入れて
平成26年8月4日（月）までご投函ください。切手を貼る必要、お名前を
 記入する必要はありません。ご協力のほどよろしくお願いいたします。

平成 26 年度 第 41 回市政世論調査

発 行 平成 26 年 9 月

調査主体 新潟市市民生活部広聴相談課
新潟市中央区学校町通一番町 602 番地 1
電話 025-228-1000 (代表)

調査実施 株式会社スピードリサーチ
新潟市東区小金町 1 丁目 7-1
電話 025-270-3800